小学館版 少年少女 学習まんが

日本の歴史

監修/児玉幸多 学習院大学名誉教授

別2巻 史跡・資料館事典 ●日本史の舞台をたずねてみよう

決定版

〈口絵〉

●史跡クローズアップ・歴史パーク

首里城公園……1
吉野ケ里歴史公園……2
史跡広島城跡……2
妻籠宿本陣……2
科野の里歴史公園……3
足利学校……3
志波城古代公園……4
史跡根城の広場……4
三内丸山遺跡……4

別巻2巻にご協力いただいた方がた

●監修
児玉幸多（学習院大学名誉教授）

●構成
吉原健一郎（成城大学名誉教授）
有元修一（目白大学教授）

●執筆・協力
有元修一（目白大学教授）
猪熊兼勝（元京都橘大学教授）
朧谷　壽（同志社女子大学名誉教授）
勝部　昭（元島根県立博物館館長）
加藤　章（元盛岡大学学長）
兼康保明（滋賀民俗学会理事）
川崎文昭（常葉学園大学教育学部教授）
五島邦治（京都造形芸術大学客員教授）
小林謙一（元奈良文化財研究所）
薩日内良則（宮城県立塩釜女子高等学校教諭）
佐藤宥紹（釧路短期大学教授）
清水　尚（安土城考古博物館）
高瀬　保（元富山市郷土博物館館長）
田辺眞人（園田学園女子大学名誉教授）
橋詰　茂（香川西高等学校教諭）
長谷川伸三（茨城大学名誉教授）
藤岡大拙（元島根県立女子短期大学学長）
柚木俊一郎（甲賀の里忍術村創設者）
吉原健一郎（成城大学名誉教授）

高橋千劔破
西原和海

●考証
高田倭男（高田装束研究所所長）

●取材協力・写真掲載協力・資料提供
足利市役所広報課
青森県教育庁文化財保護課
(一財)沖縄美ら島財団
千曲市教育委員会　佐賀県教育委員会
八戸市博物館　広島城　南木曽町役場商工観光課
盛岡市教育委員会

●まんが
あおむら純
●地図
木川六秀　日本工房
●イラスト
金成理恵子　角　愼作　早坂のり子

●写真撮影・協力
桜映社　斎藤政秋　佐藤英世　ＪＴＢフォト
世界文化フォト　東北カラーエージェンシー
宮崎一雄　渡部まなぶ　小学館写真室
●装丁・レイアウト
功野真矢　佐野恒雄(ＣＳＪ)　篠原忠彦
成澤哲夫（ＮＥＤ）

●版下
大山デザイン　昭和ブライト　タナカデザイン

●編集協力
銀杏社　鈴木悦子　長谷川慎一　橋森紀夫
風人社

（五十音順・敬称略）

史跡クローズアップ

時空超えてよみがえる歴史舞台 歴史パーク

南から北まで、日本各地で遺跡や史跡の調査が進められています。発掘された遺跡・史跡はいろいろな資料をもとに、当時のようすを再現する目的で復元努力がなされています。

復元された建築物からは、当時の生活様式や社会のなりたちが伝わってきます。

琉球王国 首里城公園

沖縄県・那覇市

15世紀はじめに築城された首里城は、火災などでたびたび焼失しましたが、そのつど再建されました。しかし、第二次世界大戦ではほとんどの建物が破壊されてしまいました。現在、美しい建物の多くを次つぎと複元し、首里城公園として整備が進んでいます。とくに、首里城正殿は、琉球王朝の栄華を伝えています。

首里城正殿

弥生時代を体感できる
吉野ケ里歴史公園

佐賀県・神埼市、吉野ケ里町

全国で最大級の環壕集落遺跡です。1986年から始まった発掘調査は大きな反響をよびました。南北1km以上、東西400mの広い範囲を外堀で囲むという大きな遺跡です。銅剣やガラス製の管玉、首のない人骨などたくさん出土しました。

環壕集落ゾーンで古代生活を体験することもできます。

物見やぐらと竪穴住居

吉野ケ里全景

歴史の道 南木曽
妻籠宿本陣

長野県・木曽郡

中山道の宿駅です。1968年からの3年間で、宿場全体が昔の姿に復元保存されました。本陣は島崎藤村の母の生家で、1995年に復元されました。

毛利氏築城の城
史跡広島城跡

広島県・広島市

第二次世界大戦で、それまで残っていた表御門、多聞櫓の一部、太鼓櫓が焼失してしまいました。

1989年、広島城築城400年を記念して復元工事がはじまり、1994年までに二の丸が完成しました。

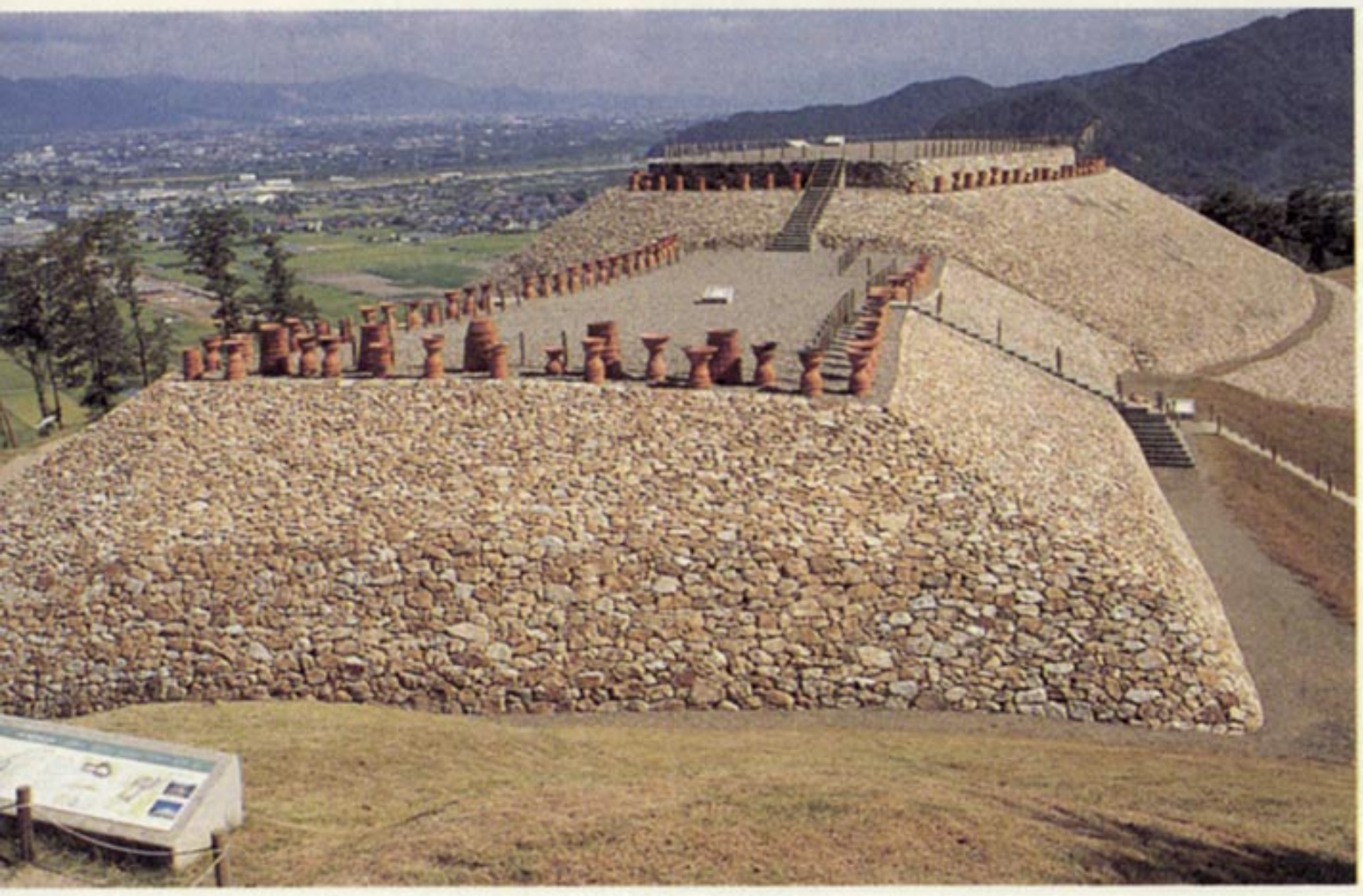
表御門　1992年に復元。

古墳時代の王の墓
科野の里歴史公園

長野県・千曲市

公園の中には「史跡森将軍塚古墳」や「科野のムラ」などがあります。森将軍塚古墳は今から約1600年前に造られた前方後円墳で、全長が約100mもあります。当時の王の墓と思われます。

科野のムラ　かやぶきの家や倉庫が復元され、畑などもあります。



古墳には石が積まれ、埴輪が並んでいます。また、古墳にある竪穴式石室は、日本最大級の大きさです。

日本最古の学校 足利学校

栃木県・足利市

鎌倉時代の初期に足利氏が一族の学問所として開設したという説が有力ですが、平安時代の初期に小野篁という人が創立したともいわれています。全国から集まった学生が儒学や易学、兵学、医学などを学びました。

復原された方丈
教室や学校の行事、客室として利用されました。

復原された足利学校全景

陸奥国最北端の古代城柵
志波城古代公園

岩手県・盛岡市

平安時代に朝廷の領土拡大政策で造られた城柵です。1976年から本格的な発掘調査が行われ、多くの役所の建物がみつかりました。復元された外郭南門は、高さ11.1mの大きさで、平城宮跡の朱雀門につぐ大きな門です。

入口広場

外郭南門

外郭南門の両側は、土を堅くしめて作った築地塀で、復元された長さは全国一。

南北朝時代の東北の城
史跡根城の広場

青森県・八戸市

「主殿」のほかに、馬をつないだ「中馬屋」、竪穴式の「納屋」などがあります。

根城は、1334年に南部氏によって築城されたと伝えられています。1978年から11年間、発掘調査が行われ、その後主殿、鍛冶工房などが復原され、当時の生活が復原展示されています。

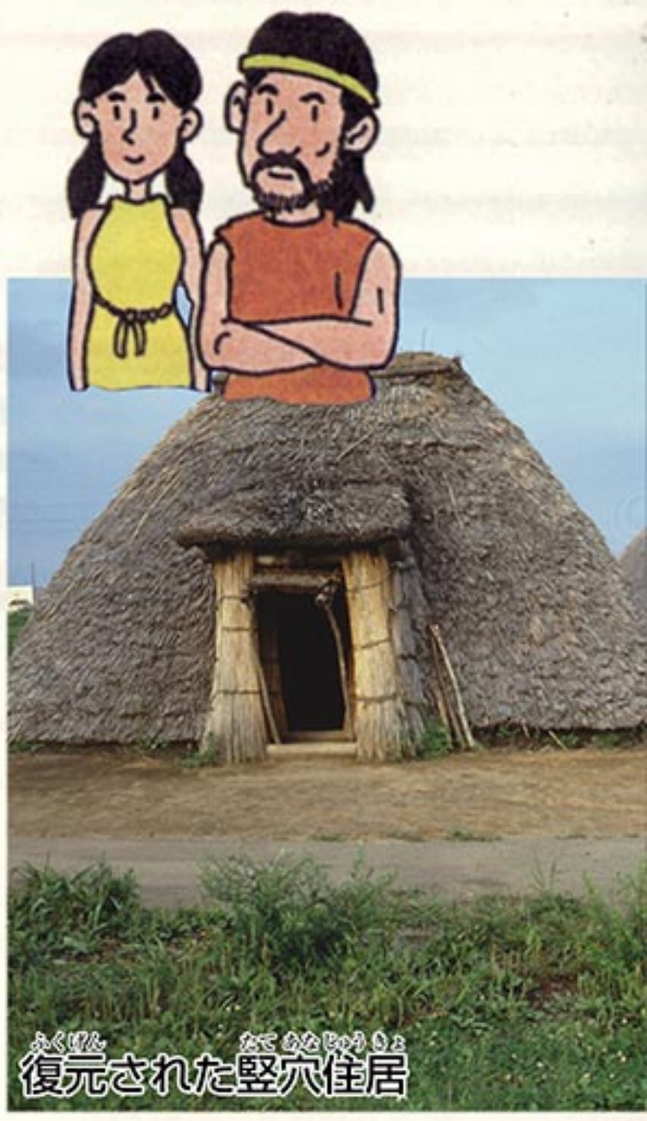
儀式などが行われた主殿

縄文の大集落
三内丸山遺跡

青森県・青森市

復元された大型掘立柱建物と大型竪穴住居

古くから知られている遺跡で、野球場を作る前の調査により、縄文時代大集落跡であることがわかり、保存されることになりました。竪穴住居、掘立柱建物跡、大人や子どもの墓など、縄文時代の暮らしがわかる貴重な遺構がたくさん見つかりました。今は、遺跡公園として、整備されています。



復元された竪穴住居

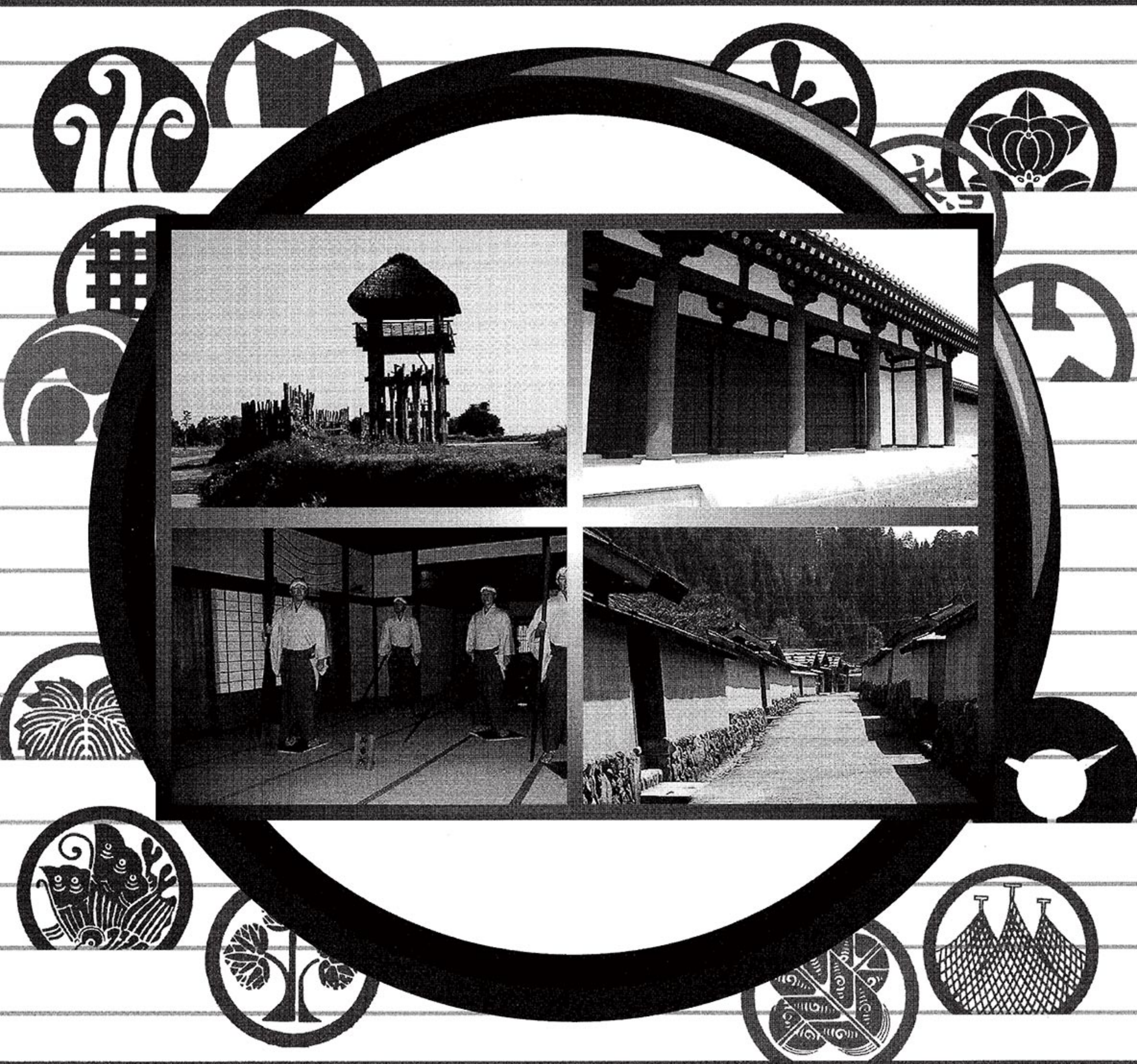
小学館版 少年少女 学習まんが

日本の歴史

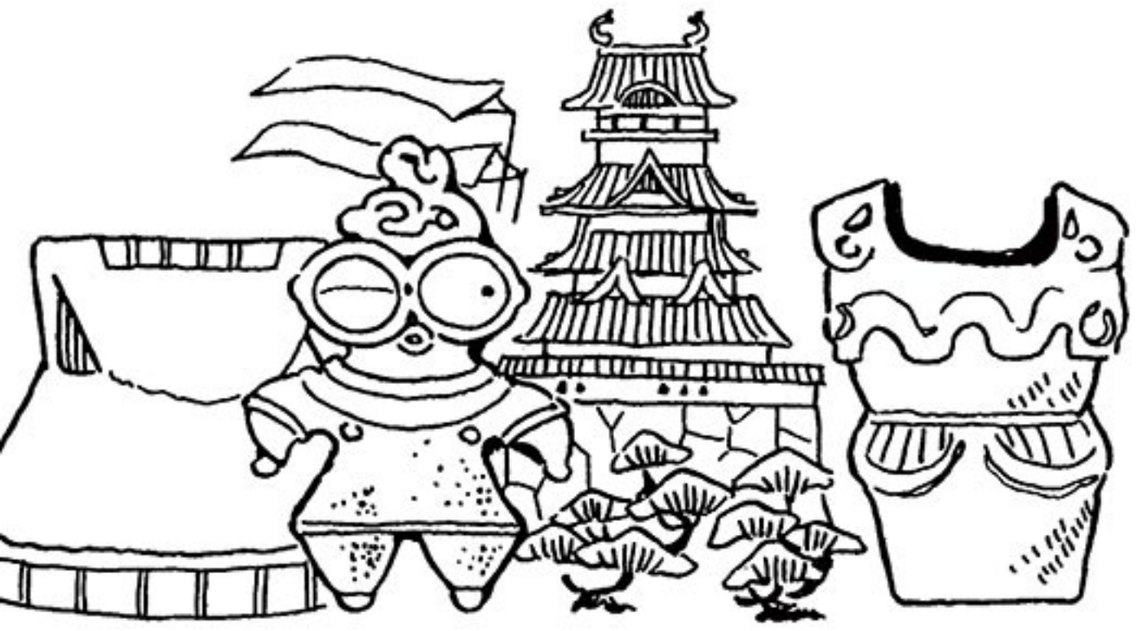
別2巻

史跡・資料館事典

●日本史の舞台をたずねてみよう



監修/児玉幸多



史跡・資料館事典 もくじ

●たずねてみよう史跡と資料館……8
●旧国名と現在の都道府県名の対照表……10

北海道地方

北海道地方の原始時代の遺跡……12
アイヌとオホーツク文化人……14
松前と江差……16
幕末の開港と箱館戦争……18
北海道の近代化、札幌と小樽……20
荒野の大地をひらく……23
北海道地方のおもな資料館と博物館……25

東北地方

東北地方の原始時代の遺跡と古墳……30
多賀城と古代の東北地方……32
奥州藤原氏の栄華・平泉……34
奥の細道をたずねて……36
東北地方の城と城下町……38
白虎隊をしのぶ会津若松……40
東北地方のおもな資料館と博物館……42

関東地方

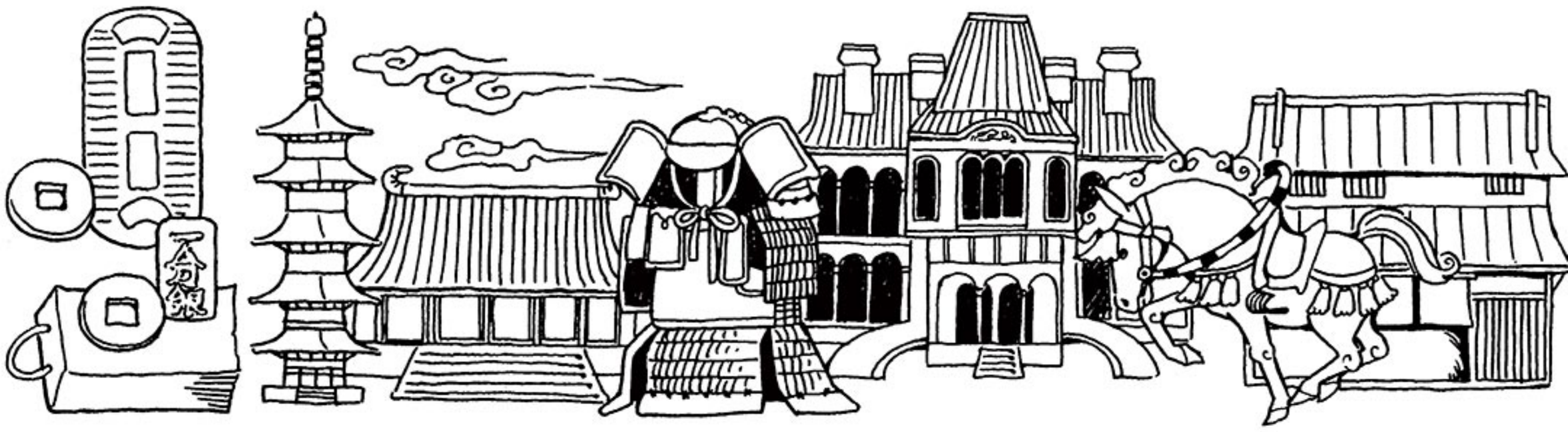
関東地方の原始時代の遺跡と古墳……46
武士政権の拠点・鎌倉……48
黄門さまの水戸……52
家康をまつる日光……53
東海道を西へ、小田原と箱根……54
江戸から東京へ……56
横浜港の発展……60
関東地方のおもな資料館と博物館……62

中部地方

中部地方の原始時代の遺跡と古墳……68
武田信玄と上杉謙信……70
天下統一をめざして……74
海道一の弓取り・家康……78
関ヶ原の戦い……80
大御所家康と駿府……82
飛騨・高山……84
木曽路を行く……85
城下町・金沢……86
中部地方のおもな資料館と博物館……88

近畿地方

近畿地方の原始時代の遺跡と古墳……96



南朝の夢・吉野山……99
比叡山と高野山……101
琵琶湖をめぐる古戦場……104
商人の町、大阪と堺……105
播州の城下町・姫路……107
忍者の里・伊賀上野……108
柳生の里……109
神宮の町・伊勢……110
港の町・神戸……111
近畿地方のおもな資料館と博物館……113

京都と

平安京のおもかげ……118
極楽の世界……122
北山から東山へ……124
安土桃山の文化……127
京都府のおもな資料館と博物館……129

飛鳥と奈良

飛鳥の里にねむる歴史の舞台……132
斑鳩の里の太子のおもかげ……134
いにしえの奈良の都……136
奈良県のおもな資料館と博物館……139

中国・四国地方

中国・四国地方の原始時代の遺跡と古墳……142
神話の国・出雲……144
源平の古戦場・瀬戸内海……146
城下町岡山と商人の町倉敷……150
毛利氏と長州の志士たち……152
龍馬のふるさと・高知……155
『坊っちゃん』の城下町・松山……156
ノー・モア広島……158
中国・四国地方のおもな資料館と博物館……160

九州地方

九州地方の原始時代の遺跡と古墳……166
防衛と外交の拠点・大宰府……169
ヨーロッパとの貿易港、平戸・長崎……172
西南戦争の舞台、鹿児島・熊本……176
琉球から沖縄へ……180
九州地方のおもな資料館と博物館……182

●さくいん……192
●写真・資料協力者一覧……193

たずねてみよう史跡と資料館

この本では、本巻の学習まんが「少年少女日本の歴史」全21巻に登場した歴史の舞台を中心に、全国の史跡と資料館をしょうかいしています。

史跡とは、歴史に登場する施設や事件のあった場所のことです。また、資料館や博物館では、文化財の展示やその解説をしています。史跡や文化財は、日本の歴史を知るための手がかりとなるたいせつなものです。国や都道府県・市町村がそのなかでもとくに重要なものであるとみとめたのは、「重要文化財」・「史跡」などの文化財として指定され、保護されています。

この本を参考に、史跡や資料館をぜひたずねてみてください。

原始時代や古代の遺跡

原始時代や古代の遺跡は、地面の下にうもれているものが多く、発掘されても調査がおわるとふたたびうめてしまいます。そのため、遺跡の場所に行っても、何ものこっていないということがほとんどです。しかし、遺跡からの出土品は、近くの資料館や博物館に展示されることが多く、また、とくに重要な遺跡は史跡公園などとして整備され、復元された建物がたっているところもあります。

寺や神社

寺や神社は、昔から多くの人びとの信仰をあつめてきました。境内や建物だけでなく、安置されている仏像などの宝物にも、昔のまんまのふんいきや文化がのこっています。

寺や神社をたずねるときは、いつごろ創建されたかをしらべておきましょう。建物の形や仏像の姿に、それぞれの時代の特徴を見ることができます。

城と城跡

城には、山城・平山城・平城などの種類があります。戦国時代につくられた山城は、守りがおもな目的で、周囲の地形をうまく利用してたてられています。また、平城は江戸時代に多くつくられ、現在の役所と同じような役割をはたしていました。城は、山城や平城にかぎらず、まず敵からまもることを考えてつくられています。城や城跡をたずねたら、堀や石垣、迷路のような通路などを注意して見てみましょう。天守閣や櫓は再建されたものもありますから、築城された年代をしらべておきましょう。天守閣の内部が資料館として公開されている城もあり、その城や、周辺地域の歴史を知るうえで参考になります。

町なみ

みなさんのすんでいる町や周辺の地域には、古い町なみや民家がのこっていませんか。倉敷や妻籠の町には、江戸時代にたてられた民家がたくさんのこっています。また、京都市街の地図を見ると、道路が東西南北に整然と走っていて、まるで碁盤の目のようです。京都の道すじは、平安京の昔からほとんどかわることなく今日にいたっています。

こうした古い町のたたずまいや建物からも、昔の人びとのくらしの様子を知ることができます。

資料館や博物館

資料館や博物館には、いろいろな種類がありますから、事前にどういうものが展示されているか下しらべをして行きましょう。館内では、ひととおり見てから自分の見たいものをじっくり見るようにするとよいでしょう。わからないことや疑問があれば、係の人に聞いてください。また、付近の史跡からの出土品などを展示している館では、見学の前とあとに、その史跡をたずねてみるとよいでしょう。

古戦場

昔の武将たちは、合戦のとき、せめやすくまもりやすい地形を考え、どこに陣をしくか、陣がまえはどうするかに苦心しました。たとえば、関ヶ原の合戦では、徳川軍と石田三成の軍がそれぞれむかいあった小高い丘の上に陣をしき、その間のせまい平地ではげしい戦いをくりひろげました。

古戦場をたずねるときには、前もって周辺の地形がどうなっているか、地図を広げて見てみましょう。また、できれば、それぞれの軍の陣がまえをしらべておくとよいでしょう。

史跡めぐり

史跡をたずねたとき、付近に別の史跡がないかをしらべてみましょう。関ヶ原古戦場は、史跡めぐりの遊歩道がとととのえられています。奈良の山の辺の道を歩くと古墳や古い寺院が点てんとのこっています。ハイキングをかねて、史跡めぐりをするのもよいでしょう。

旧国名と現在の都道府県名の対照表

旧国名	現在の都道府県名
（あ行）	
安芸国	広島県西半部
淡路国	兵庫県の一部
安房国	千葉県南部
阿波国	徳島県
伊賀国	三重県北西部
壱岐国	長崎県の一部
伊豆国	静岡県南部と伊豆諸島
和泉国	大阪府南部
出雲国	島根県東半部
伊勢国	三重県
因幡国	鳥取県東半部
伊予国	愛媛県
石見国	島根県西半部
越後国	新潟県
越前国	福井県北部
越中国	富山県
近江国	滋賀県
大隅国	鹿児県県大隅半島と奄美列島
隠岐国	島根県の一部
尾張国	愛知県西半部
（か行）	
甲斐国	山梨県
加賀国	石川県南部
上総国	千葉県中部
河内国	大阪府東部
紀伊国	和歌山県と三重県の一部
上野国	群馬県

旧国名	現在の都道府県名
（さ行）	
相模国	神奈川県
薩摩国	鹿児島県西半部
佐渡国	新潟県の一部
讃岐国	香川県
信濃国	長野県
志摩国	三重県の一部
下総国	千葉県北部と茨城県の一部
下野国	栃木県
周防国	山口県東南部
駿河国	静岡県中部
摂津国	大阪府の一部と兵庫県の一部
（た行）	
但馬国	兵庫県北部
丹後国	京都府北部
丹波国	京都府の一部と兵庫県の一部
筑後国	福岡県南西部
筑前国	福岡県
対馬国	長崎県の一部
出羽国	秋田県・山形県
遠江国	静岡県西半部
土佐国	高知県
（な行）	
長門国	山口県の一部
能登国	石川県北部
（は行）	
播磨国	兵庫県南部
肥後国	熊本県

旧国名	現在の都道府県名
肥前国	佐賀県・長崎県
備前国	岡山県東部
常陸国	茨城県
飛騨国	岐阜県北部
備中国	岡山県西部
日向国	宮崎県
備後国	広島県東部
豊前国	福岡県東半部と大分県北部
豊後国	大分県
伯耆国	鳥取県西半部
（ま行）	
三河国	愛知県東部
美濃国	岐阜県南部
美作国	岡山県北部
武蔵国	東京都・埼玉県と神奈川県東部
陸奥国	福島県・宮城県と岩手県・青森県
（や行）	
山城国	京都府中部・南部
大和国	奈良県
（ら行）	
琉球	沖縄県
（わ行）	
若狭国	福井県南西部

※昔の国名が現在のどの都道府県にあたるかを、五十音順にならべてあります。

北海道地方

北海道の開拓の歴史をしらべてみよう。
モヨロ貝塚
北網圏北見文化センター
ポー川史跡自然公園
旭川市博物館
春採台地竪穴群
小樽市総合博物館
旧北海道庁舎
帯広百年記念館
美々貝塚
北海道開拓記念館
二風谷アイヌ文化博物館
アイヌ民族博物館
アイヌの人たちの遺跡へも、行ってみたいですね。
古い商家の建物
五稜郭
函館の旧市街
松前城

北海道地方の原始時代の遺跡

本州で稲作と農耕による文化が広がっていたとき、北海道では植物の採集、鹿やクマの狩猟、海獣の狩り、サケ漁などによるくらしがつづいていました。気候が冷涼で農耕がうけ入れにくかっただけでなく、農耕の必要がないほど海・山・川にゆたかな資源があったのです。

そのため、本州で弥生文化がさかえ、鉄器がつかわれていたころ、北海道では、土器類のほかに、まだ石器をつかっていました。その後も、擦文式土器（木のへらでならしたはけ目と、くさび形の線のある土器）をつかい、簡単な農耕と自然採集が中心の擦文文化が鎌倉時代までつづきます。

■美々貝塚■

㊫千歳市美々
㊫JR千歳線美々駅下車、徒歩5分

美々川流域に広がる湿地帯を見おろす台地の先端部にある、縄文前期（約6千年前）の人びとののこした貝塚です。勇払原野をへだてて太平洋がのぞめますが、当時は貝塚のあるあたりがちょうど海岸線になっていたので、ここで貝や魚をとることができたのです。貝塚にはヤマトシジミやカキの貝がら、魚やけものの骨、こわれた石器や土器のかけらがすてられていました。

美々貝塚には、貝塚のしくみが観察できる展示室があります。貝や魚をとってくらしていた当時の人びとの生活やそのころの気候をしらべることができます。見学するときは、貝塚の近くにある市のリサイクルセンターに連絡してください。

●付近の史跡●　千歳空港の南側、美々川の支流にあたる美沢川流域に、1.5キロメートルにわたる**美沢川遺跡群**があります。7、8千年前から700年前までの長い間、いく世代もつづいたムラが、かさなりあっていたことがわかっています。空港拡張のため、やがて遺跡はけずられてしまいますが、発掘された遺物の一部は千歳市埋蔵文化財センターに展示されています。

▲美々貝塚の展示室

■ポー川史跡自然公園■

㊫標津郡標津町伊茶仁
㊫標津バスターミナルよりバス

標津湿原の伊茶仁川流域には、8千年前から700年前までの約2千戸の竪穴住居跡がありません。この遺跡群のなかの**カリカリウス遺跡**をたずねると、住居跡のくぼ地があり、形・数・配置などを観察できます。「伊茶仁」という地名は、アイヌ語でサケ

やマスの産卵穴のあるところという意味の「アチヤヌニ」から生まれたものです。ここにすんでいた人びとがサケやマスと深いかかわりをもっていたことをしめしているのでしょう。

遺跡群の入口に、**標津町歴史民俗資料館**があり、遺跡と湿原の案内役をはたしてくれます。敷地内には先史時代家屋の復元や開拓村があり、資料館の中には考古資料や歴史資料が展示されています。

■春採台地竪穴群■

㊫釧路市春湖台
㊫JR根室本線釧路駅よりバス、東中学校下車、徒歩3分

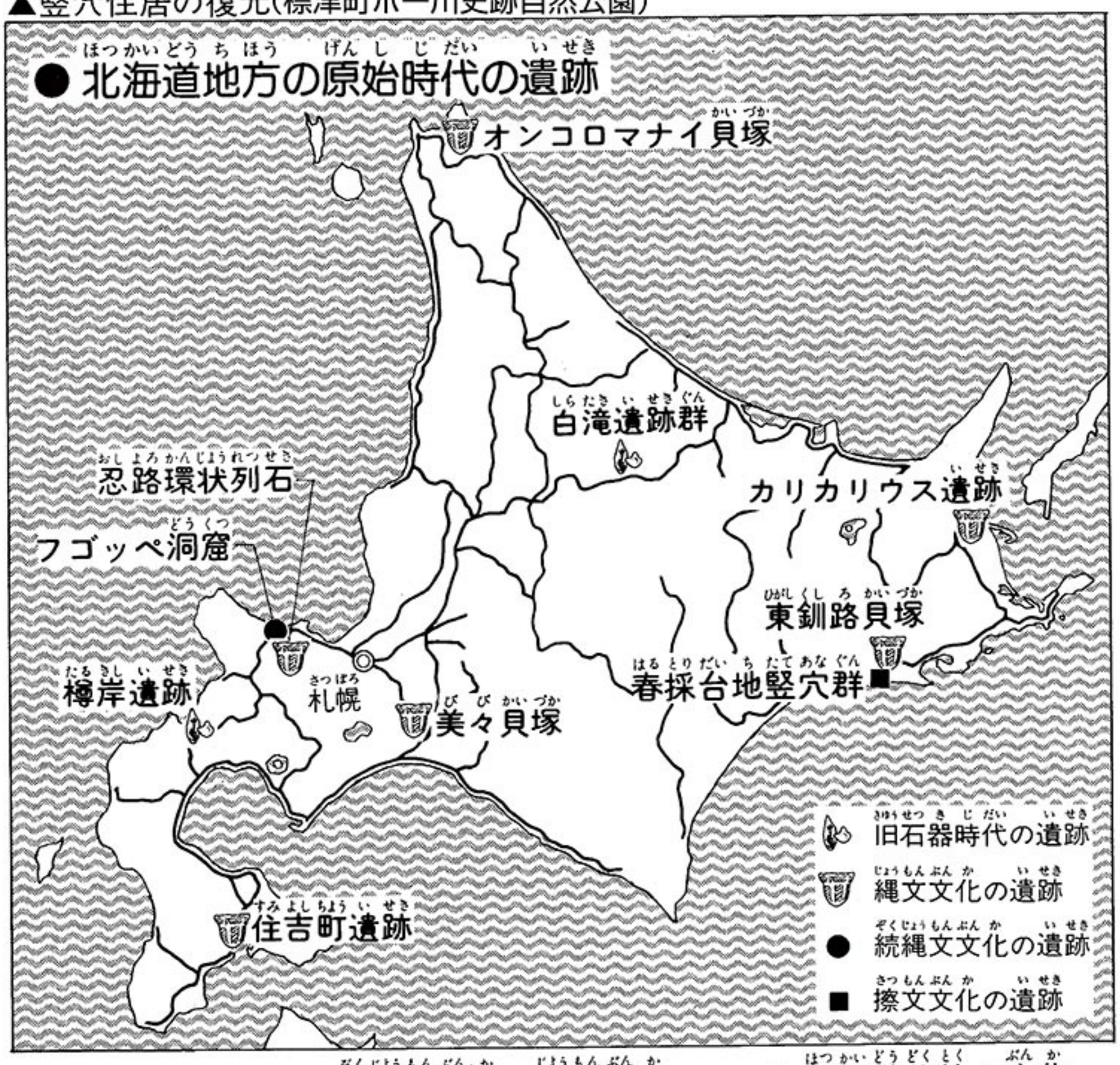
春採湖は、釧路市の市街の中にある湖で、4キロメートルほどの湖の周囲にたくさんの遺跡が発見されました。竪穴住居跡が集中する北側が、春採台地竪穴群として国の指定史跡になりました。いまから700年以上も昔の擦文時代の集落跡で、一辺が4～7メートルのほぼ四角の竪穴住居のあとです。この時代の住居跡は、かまどもついていて、暖をとるいろりと、炊事をするかまどを区別していたと考えられています。

●付近の史跡●

中世ヨーロッパの城のような建物が南東の方向に見えます。この建物は**釧路市立博物館**です。館内には、6千年前の貝塚として道内で最大の規模をもつ東釧路の貝塚の復元や、5～6千年前の人骨など、遺跡の宝庫にふさわしい展示が見られます。

湖岸にそって歩いて行くと、半島のようにつき出たところにアイヌの人びとのきずいた**チャランケチャシ**があります。2重の溝が3、4メートル間隔でほりめぐらされ、4軒の竪穴もものこっています。チャシは、祭り、または湖の見張り、話し合いの場所などにつかわれたと考えられています。

▲竪穴住居の復元(標津町ポー川史跡自然公園)



※続縄文文化…縄文文化につづく北海道独特の文化。狩漁がおもで、農耕は行われなかった。

アイヌとオホーツク文化人

江戸時代中ごろ、北海道には2万数千人のアイヌの人びとがいたといわれています。狩りや採集に山野をかけめぐり、神がみや英雄をほめたたえ、美しい人間の愛をうたいあげるユーカラなどの詩をつたえる、自然の香りゆたかな文化でした。

オホーツク海沿岸には、カラフト・千島などから北方の文化が入ってきていました。ニブヒ(ギリヤーク)、ウィルタ(オロッコ)などとよばれる独自の文化をもった民族がすんでいたのです。

ここでは、アイヌの文化や北方からつたわったオホーツク文化のあとをたずねてみましょう。

■二風谷アイヌ文化博物館■

所 沙流郡平取町二風谷
交 JR日高本線富川駅よりバス、博物館前下車

平取町は、山と森の美しい町です。ここには古くからアイヌ民族がすんでいました。今もいくつかのアイヌの集落があります。なかでも二風谷は有名で、木彫の民芸品その他の特産物を売る店などが街道にならんでいます。

二風谷アイヌ文化博物館は、アイヌの人びとの民族資料数千点が収蔵されている、アイヌ民族の生活を知るのに最適な博物館です。沙流川流域にすんでいた人びとの生活や生産・信仰のための用具がたくさんあり、なかでも10人乗りの日本一大きな丸木船にはおどろかされることでしょう。

この博物館は、前身の「資料館」を発展させたものです。博物館のまわりには、「チセ」とよばれる家が復元されていますので、当時の人びとのくらしの様子を知ることができます。

●付近の史跡●

博物館から10分ほど川ぞいにくだって行くと、旧マンロー邸があります。イギリス人ネイル・ゴードン・マンロー博士が一九三二年(昭和7)からくらした家で、医者として診療にあたるかたわら、アイヌ民族の研究をしていました。

平取の街の北はずれにある丘には義経神社があります。江戸幕府の蝦夷地調査の仕事をしていた近藤重蔵とアイヌとの関係をつたえる伝説の神社で、古くからアイヌの人たちに信仰されてきました。

▼チセをつくるアイヌの人びと ⇨第15巻54・55ページ

■アイヌ民族博物館■

㊫白老郡白老町若草町
㊥JR室蘭本線白老駅下車、徒歩10分

白老は、アイヌの人びとが古くから大規模なコタンをつくってきたところです。コタンとはアイヌの人びとのムラのことで、平均5～7戸の家があつまっていました。白老駅の北東のポロト湖のほとりにあるポロトコタンは、戦後になってつくられたコタンですが、「チセ」を復元し、アイヌ民族資料を保存するアイヌ民族博物館があります。

この「チセ」には、神への感謝をこめてまつる祭壇の「ヌサ」や、「クワ」とよばれる墓標などの資料をそなえています。博物館では、古いアイヌの人びとの生活をわかりやすく解説しています。動物の通り道にしかけた弓や、アイヌの人たちが着ていたアツシ織をおっている場面の展示もあります。ぜひよってみましょう。

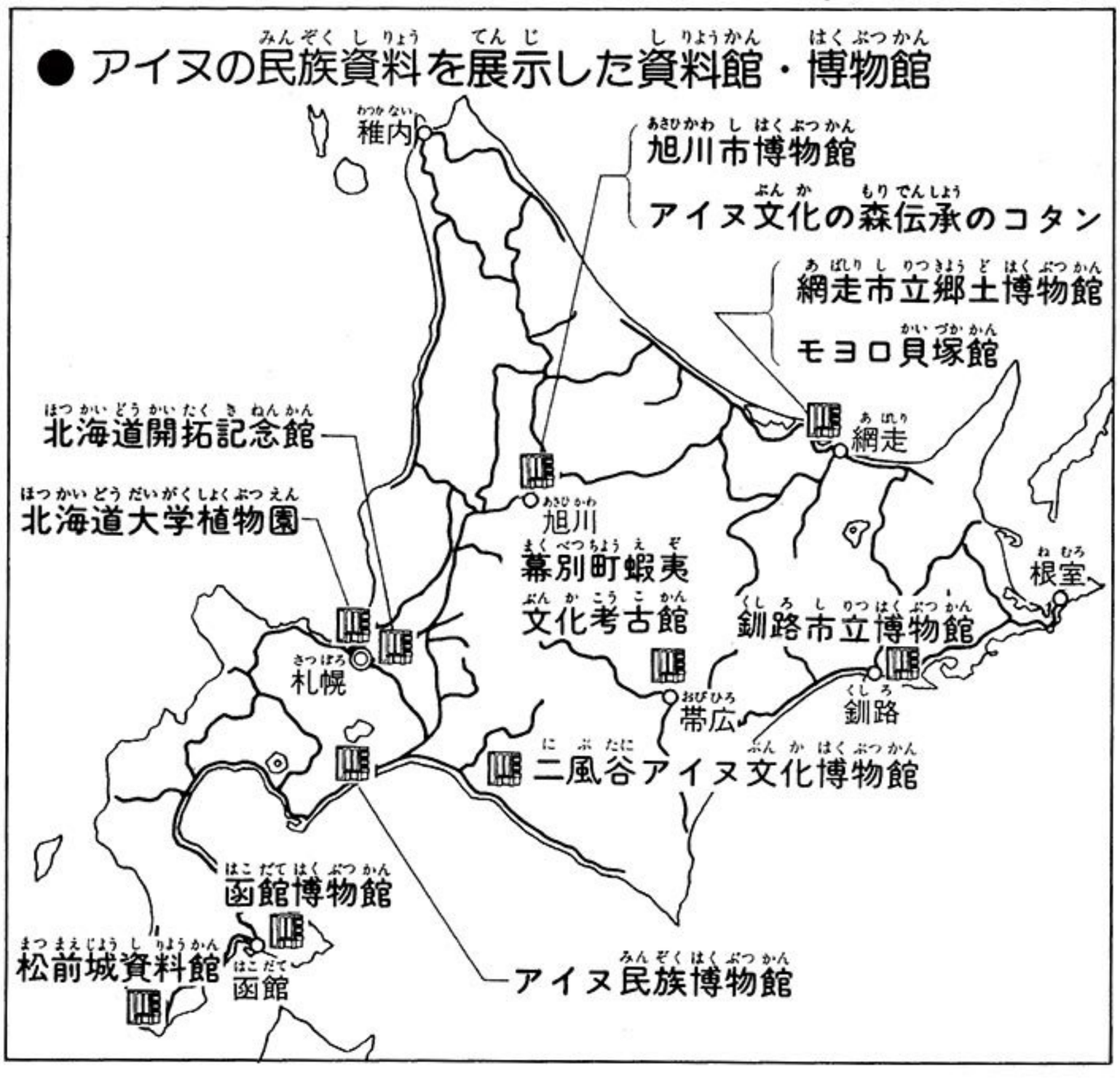
■モヨロ貝塚■

㊫網走市北一条東二丁目
㊥JR石北本線網走駅よりバス、モヨロ入口下車、徒歩5分

アイヌの文化がつくられる前の7世紀から13世紀ごろにかけて、千島やカラフトからこの地域にオホーツク文化がつたわってきました。このオホーツク文化があったことを最初にしめしたのがモヨロ貝塚です。このモヨロ貝塚は、網走川河口の左岸にあり、貝塚だけでなく、住居跡や墓などもあります。遺跡の中に網走市立郷土博物館の分館、**モヨロ貝塚館**があり、出土品を展示しています。

●付近の史跡●

網走市内の桂町には、**網走市立郷土博物館**の本館があります。また、網走は刑務所があることで有名です。明治時代の中ごろにできたもので、囚人たちは、釧路～網走、北見峠～網走の道路の建設などの重労働にあたりました。40キロメートルあまりの道を6か月たらずでつくるという、囚人たちの人権を無視した工事で、212人の囚人がぎせいになったといわれています。このいわゆる**囚人道路**は、石北本線にそって通っています。



松前と江差

江戸時代になると蝦夷地（現在の北海道）は、松前氏によって支配されました。松前氏は、室町時代に蝦夷地に入ってきた蠣崎氏にはじまる一族で、和人（日本人）とアイヌ民族との抗争のなかで、和人をまとめることに成功しました。その後、豊臣秀吉や徳川家康をたずね、蝦夷地支配の権限をみとめられました。

大名となった松前氏は、蝦夷地と本州との交易を独占することで利益をえていました。交易を箱館（現在の函館）・松前・江差の3港にかぎったため、この3港には商人があつまり、繁栄しました。ここでは、城下町松前と港町江差をたずねてみましょう。

1 松前

■松前城■

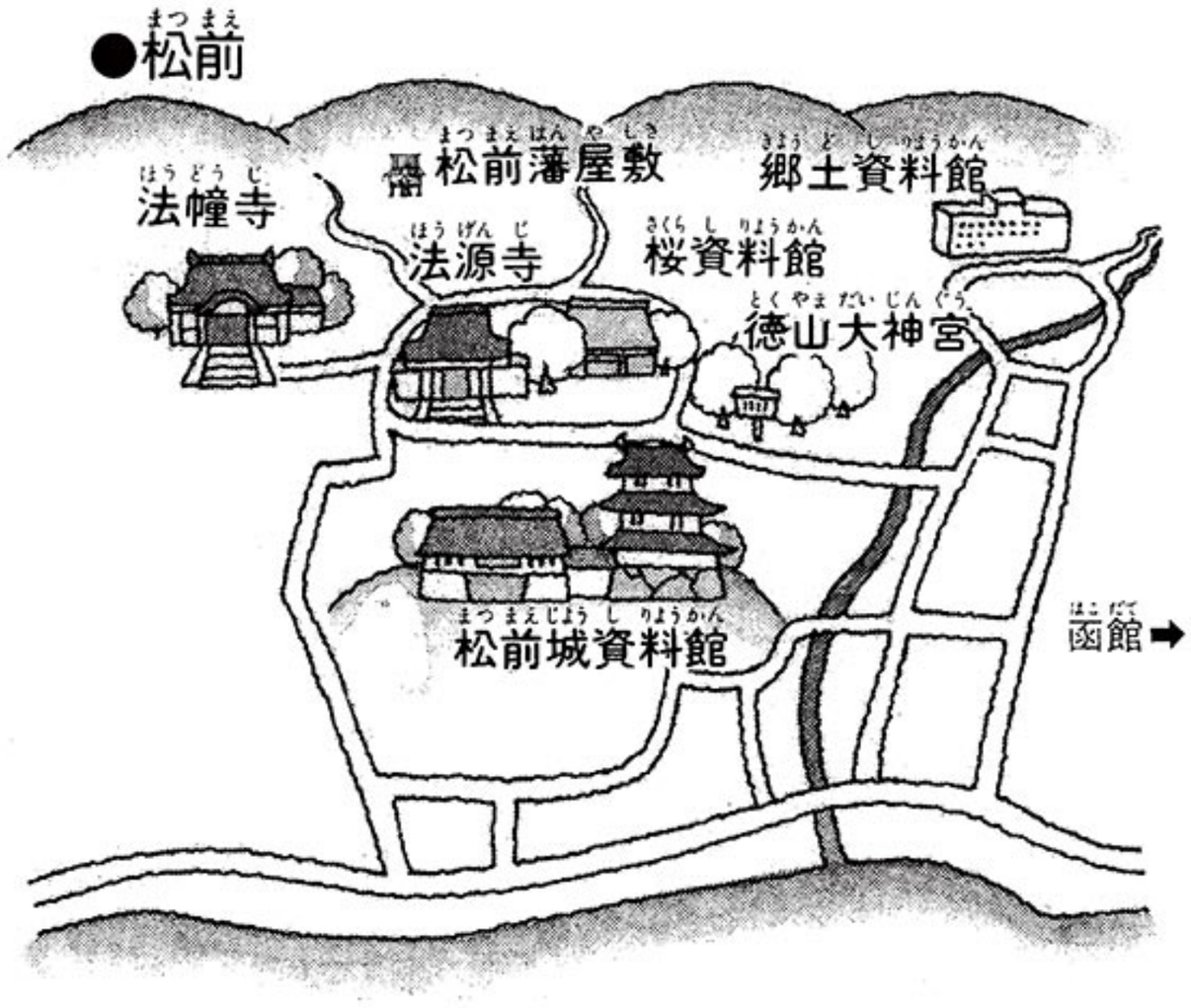
所 松前郡松前町
交 JR江差線木古内駅よりバス、松城下車

松前は、江戸時代に北海道・南千島・カラフトの一部を支配した松前氏の城下町で、福山とよばれていました。海にそった細長い町で、海岸ぞいが町人町、背後の高台が武家屋敷や寺町でした。

松前城の天守閣は焼失しましたが、本丸御門や城郭の石垣は築城当時のものです。現在鉄筋コンクリート造の本丸天守閣が復元されていて、内部は**松前城資料館**になっています。天守閣の北側にある旧松城小学校の玄関は、一六〇六年に築城された旧本丸表御殿玄関をうつしたものです。

●付近の史跡●

松前城の北側は**寺町**で、江戸時代前期からの古いお寺が5つのこっています。松前城から北東に徒歩15分ほど行くと**松前町郷土資料館**があり、城下町の庶民の生活をテーマにした展示が見られます。郷土資料館の手前に**徳山大神宮**という古い神社があり、その裏手の高台が**大館のあと**です。室町時代から大館はこの地方を支配した領主の居城で、松前城が完成する江戸時代初期まで、和人政権の本拠地でした。



◀松前城

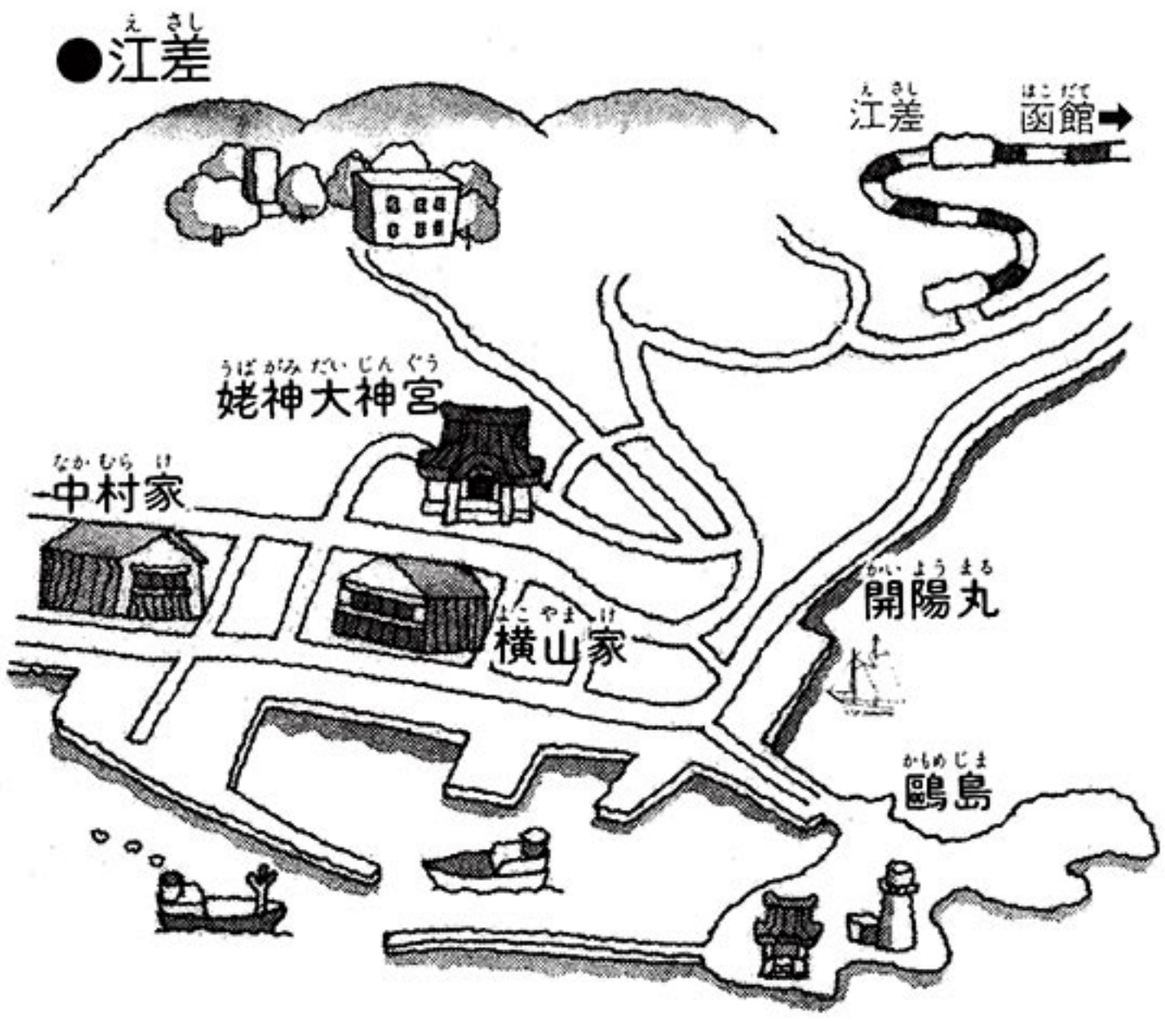
2 江差

■古い商家の建物■

所 桧山郡江差町
交 JR江差線江差駅下車、徒歩20分

江差は江戸時代、箱館・松前とならぶ交易港として繁栄したところです。とくに江差はニシンなどの漁場にめぐまれ、御用商人として活やくする近江商人（滋賀県出身の商人）の拠点として、海岸には数千戸の家屋や土蔵がたちならんでいました。また港には、北陸・関西方面から米や日用品をはこび、海産物を買いにきた北前船の帆柱が林のようにならぶ光景が見られました。

江差の有力商人は、店舗・住宅・船宿をかねた大きな家屋をたてました。たとえば**中村家**は、江戸時代のおわりごろにたてられたものです。また**横山家**は一八九三年（明治26）の建築ですが、江戸時代中ごろの様式を再現しています。ともに通りに面した主屋の後ろに、土蔵や木造の蔵が海岸線にまでつづいている点に特色があります。



■江差町郷土資料館■

所 桧山郡江差町
交 JR江差線江差駅下車、徒歩20分

江差の市街地裏手の高台に郷土資料館があります。おもな展示品は、問屋・北前船・ニシン漁や民謡の江差追分などの資料です。

江差港には、幕府軍艦開陽丸が復元されています。開陽丸はオランダで建造された軍艦で、一八六八年（明治1）海軍奉行榎本武揚は他の7せきとともに江戸湾（現在の東京湾）より脱走し、函館にのりこんできました。しかし、松前藩軍を追って江差に入港したところ、暴風のため沈没してしまいました。開陽丸の中には、海底から引き上げられた大砲などが展示されています。

▲横山家

幕末の開港と箱館戦争

江戸時代の箱館（現在の函館）は、松前藩が管理し、松前・江差とともに本州との交易港になっていました。幕末の開国によって、函館は外国との貿易をみとめられ、外国船の寄港地となり、たくさんの外国人が往来する国際的な町になりました。また、一八六八年（明治1）には、戊辰戦争にやぶれた榎本武揚らが、五稜郭を本拠として明治政府と交戦した箱館戦争の舞台ともなりました。

ここでは、函館の旧市街に、開港以降の西洋文明の導入のあとをたずねるとともに、五稜郭などで箱館戦争をしのびたいと思います。

（榎本武揚）

■函館の旧市街■

所 函館市元町・船見町
交 JR函館駅から市電末広町下車、徒歩10分・同市電函館ドック前下車、徒歩15分

今は廃止された青函連絡船で函館港に近づくと、まず目に入ってくるのが函館山でした。もともとは島だったものが砂州でむすばれたものです。頂上からの見はらしはとてもよく、特に函館の夜景は有名です。函館山のふもとの坂の街は、江戸時代からひらけた旧市街で、幕末開港以後の遺跡が多いところです。

◆**元町カトリック教会**　一八五九年箱館に来たフランス人宣教師カッションがたてましたが、現在のゴシック建築は、一九二四年（大正13）に再建されたものです。

◆**ハリストス正教会**　ロシア領事ゴスケウィッチが一八五九年にたてました。現在の建物は一九一六年（大正5）のもので、ビザンチン様式の丸屋根と鐘の音で有名です。

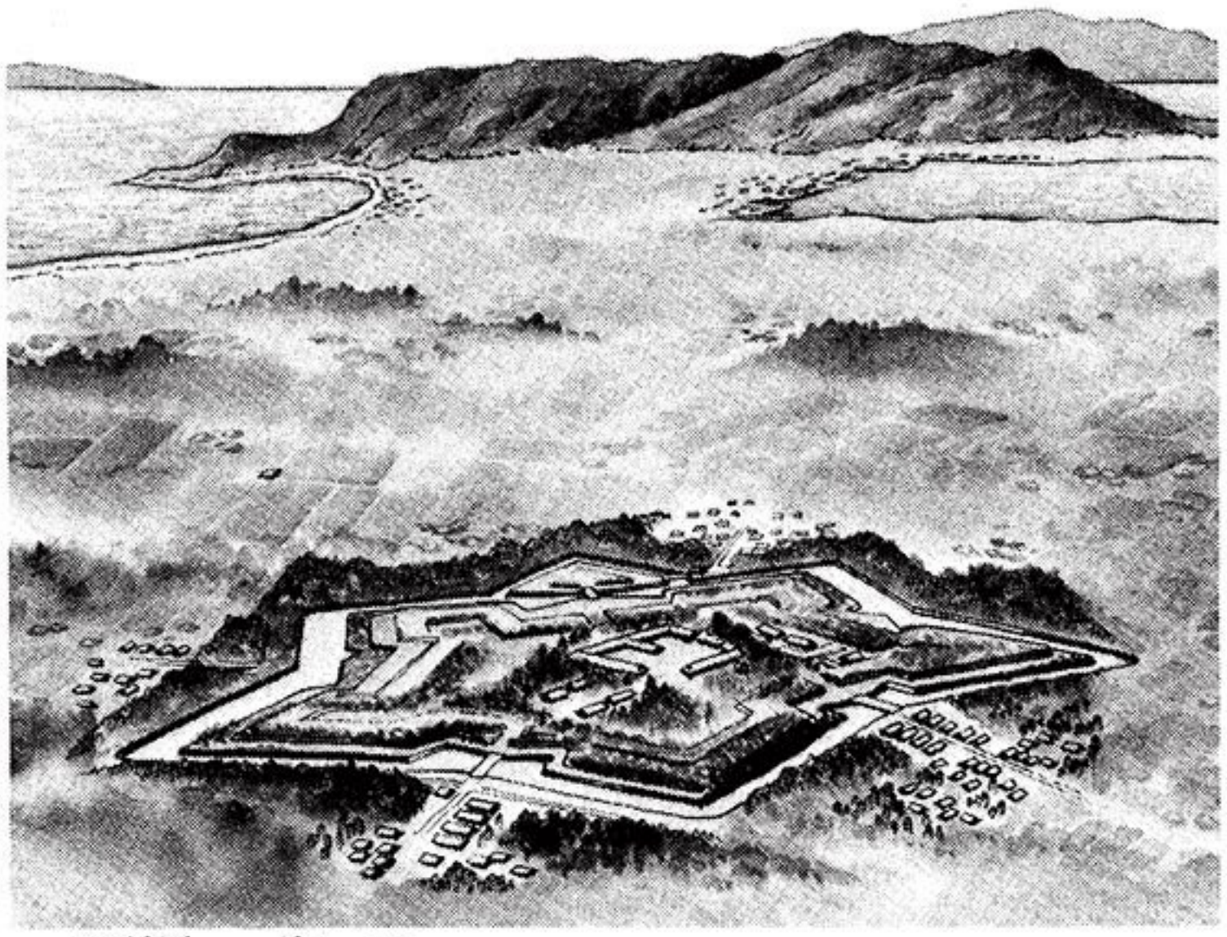
◆**旧函館区公会堂**　一九一〇年（明治43）にたてられた洋風木造2階建ての建物です。

▲ハリストス正教会

函館は、大正時代まで、札幌・小樽とならんで区制をとっていました。公会堂のすぐ下が江戸時代後期の箱館奉行所跡で、ここにたっている古い木造2階建ては、旧北海道庁函館支庁舎です。

◆**旧ロシア領事館**　現在の建物は一九一〇年（明治43）のものです。帝政ロシアのおもかげがしのばれる、エキゾチックな赤れんが造の2階建てです。

●**付近の史跡**●　以上のほかにもこの地域には古い寺院や歴史的な遺跡が多いので、標柱や説明板に気をつけてください。市電末広町駅の近くにある**旧金森洋物店**は、一八八〇年（明治13）にたてられた洋風と和風を合わせた様式の建物で、現在は市立函館博物館郷土資料館になっています。



▲五稜郭 ⇨第16巻136ページ

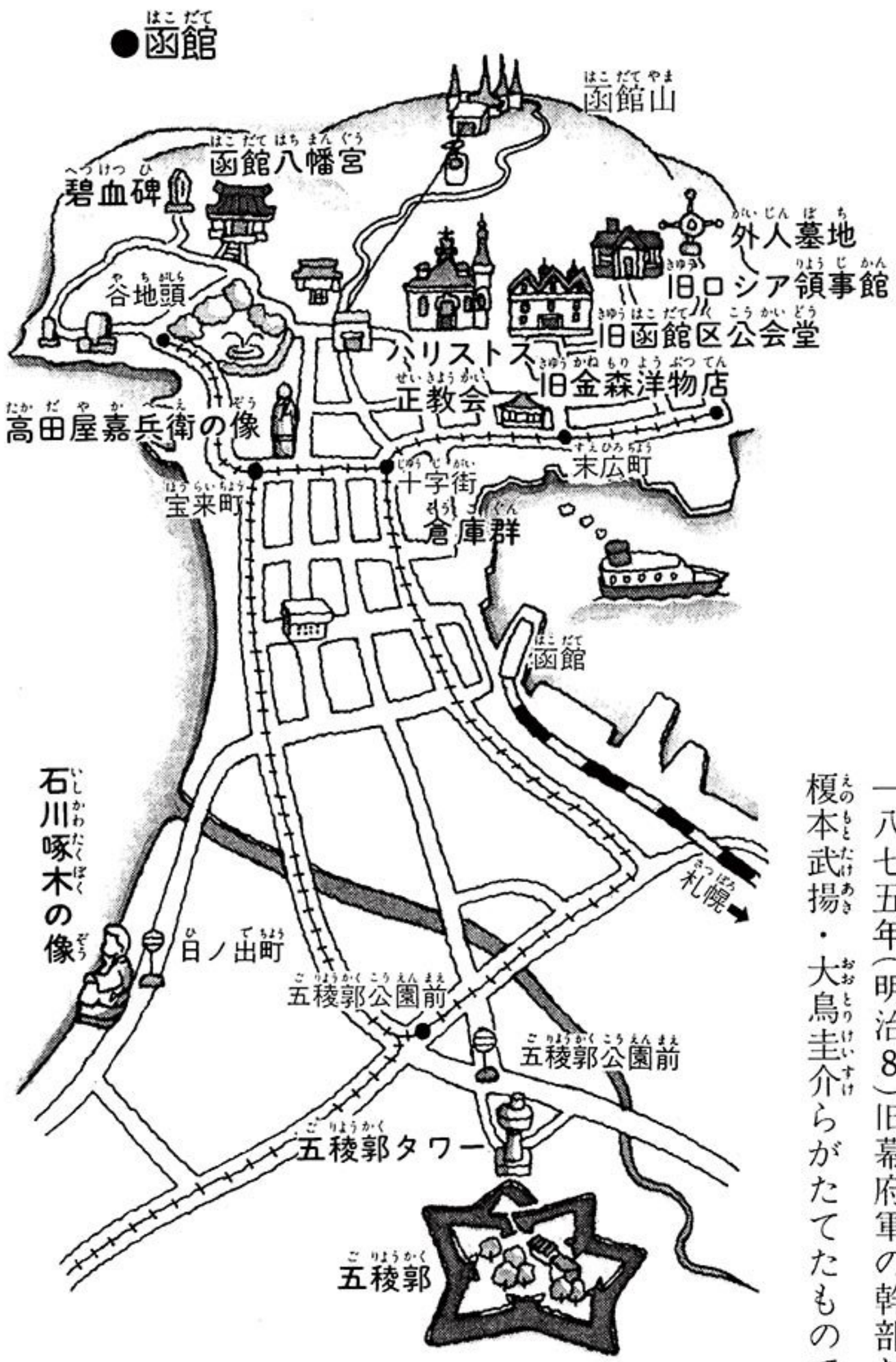
■五稜郭■

㊫函館市五稜郭町
㊋JR函館駅より市電五稜郭公園前下車、徒歩10分

五稜郭は、函館の開港後、幕府が警備を強化するために築造した日本最初の西洋式城郭です。堀と石垣で星形にかこまれています。一八六八年(明治1)10月、榎本武揚ら旧幕府軍がここを占領し、翌年5月、政府軍の猛攻撃で降伏したことで有名です。

郭内にある市立**函館博物館五稜郭分館**には、箱館戦争関係の資料や当時の大砲が展示されています。また五稜郭全体をながめるには、入口近くにある五稜郭タワーにのぼるとよく見わたせます。

●付近の史跡● 護国神社下の大通りに**高田屋嘉兵衛の銅像**がたっています。高田屋嘉兵衛は、江戸時代後期に活やくした豪商で、ロシアとの交渉や南千島の開発に功績がありました。市電の終点の谷地頭から徒歩10分で函館八幡宮に出ますが、その左後方の山かげに**碧血碑**があります。これは箱館戦争のときの旧幕府軍の戦死者慰霊碑で、一八七五年(明治8)旧幕府軍の幹部だった榎本武揚・大鳥圭介らがたてたものです。



北海道の近代化、札幌と小樽

箱館戦争がおわると、明治政府は北海道開拓使をもうけて、北海道の開拓をすすめました。西洋から技術者や教育者をまねいて鉱工業・農牧業を近代化しようとしました。

しかし、北海道の開拓を成功させるには、多くの勤勉な人びとが、農村にすみついて農業を発展させることが必要でした。

開拓の中心となったのは、屯田兵といって家族とともに北海道に移住してきた人びとです。

開拓がすすむなかで、札幌は北海道の行政の中心として発展し、小樽は港町として、また鉄道の起点として発展していきます。

1 札幌

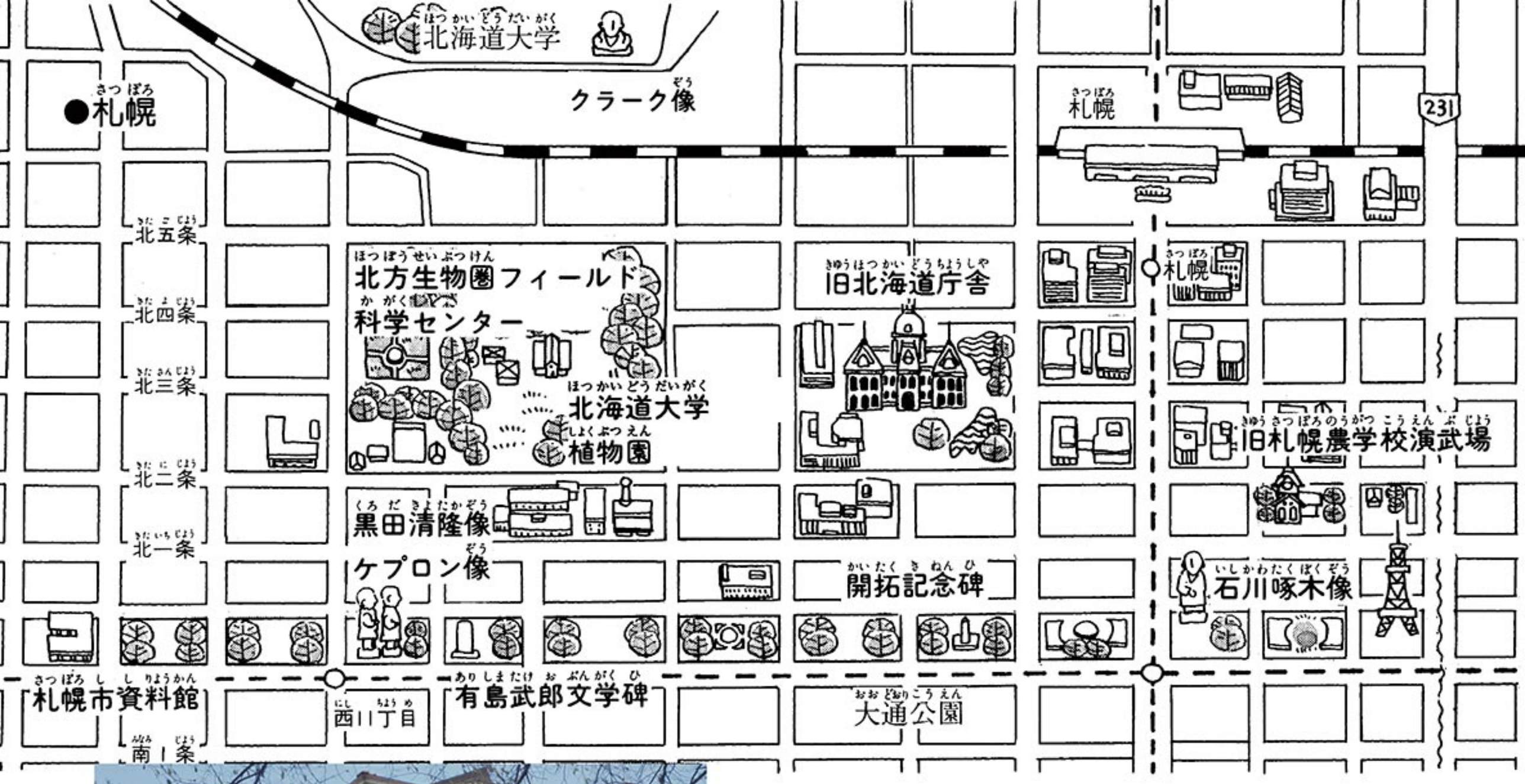
■北海道博物館■

所 札幌市厚別区厚別町

交 JR新札幌駅よりバス、記念館入口下車

北海道の歴史を知るために、札幌市郊外にある野幌森林公園をたずねてみましょう。ここは広大な天然林の公園で、北海道百年記念塔と開拓記念館がたてられています。開拓記念館のホールでは、十勝の忠類村で発見されたナウマンゾウの復元骨格が見学者を歓迎してくれます。開拓記念館の中心は常設展示室で、氷河期や旧石器時代から近代の開拓・産業・生活・文化まで、北海道の歴史が実物や模型・パネルなどでわかりやすく展示されています。その他特別展の企画や収蔵陳列室・体験学習室などの設備もあります。

また、開拓記念館のとなりに**北海道開拓の村**が開かれています。ここは開拓当時の建物や生活を復元し、保存しようとするもので、明治・大正時代の町なみや農・漁・山村の建物などが再現され、そのなかを馬車鉄道が往復しています。



■旧北海道庁舎■

㊫札幌市中央区北三条
㊋JR札幌駅下車、徒歩5分

札幌駅前から南へのびる駅前通りをしばらく歩くと、洋風れんが造2階建ての大きな建物と広い庭園が見えます。これが「赤れんが」とよばれる北海道庁旧本庁舎で、一八八八年（明治21）に完成し、現在、建築当時の姿に復元されています。この建物の裏手が開拓使札幌本庁舎跡になります。

駅前通りをはさんで東側には、札幌時計台で知られている**旧札幌農学校演武場**があります。ビルの谷間のこじんまりとした木造2階建てですが、一八七八年（明治11）北海道大学の前身、札幌農学校の屋内軍事教練場としてたてられたものです。

▲旧札幌農学校演武場

●付近の史跡●

時計台より少し南へ歩くと大通公園に出ます。幅が105メートル、東西約1.6キロメートルのグリーンベルトで、明治初年にすでに計画されていました。ここには**開拓記念碑**・有島武郎文学碑・黒田清隆（開拓使長官）とケプロン（アメリカ人で開拓使顧問）の銅像などがあります。

▲開拓使本庁舎（現在はない）⇨第17巻89ページ

2 小樽

■小樽市総合博物館■

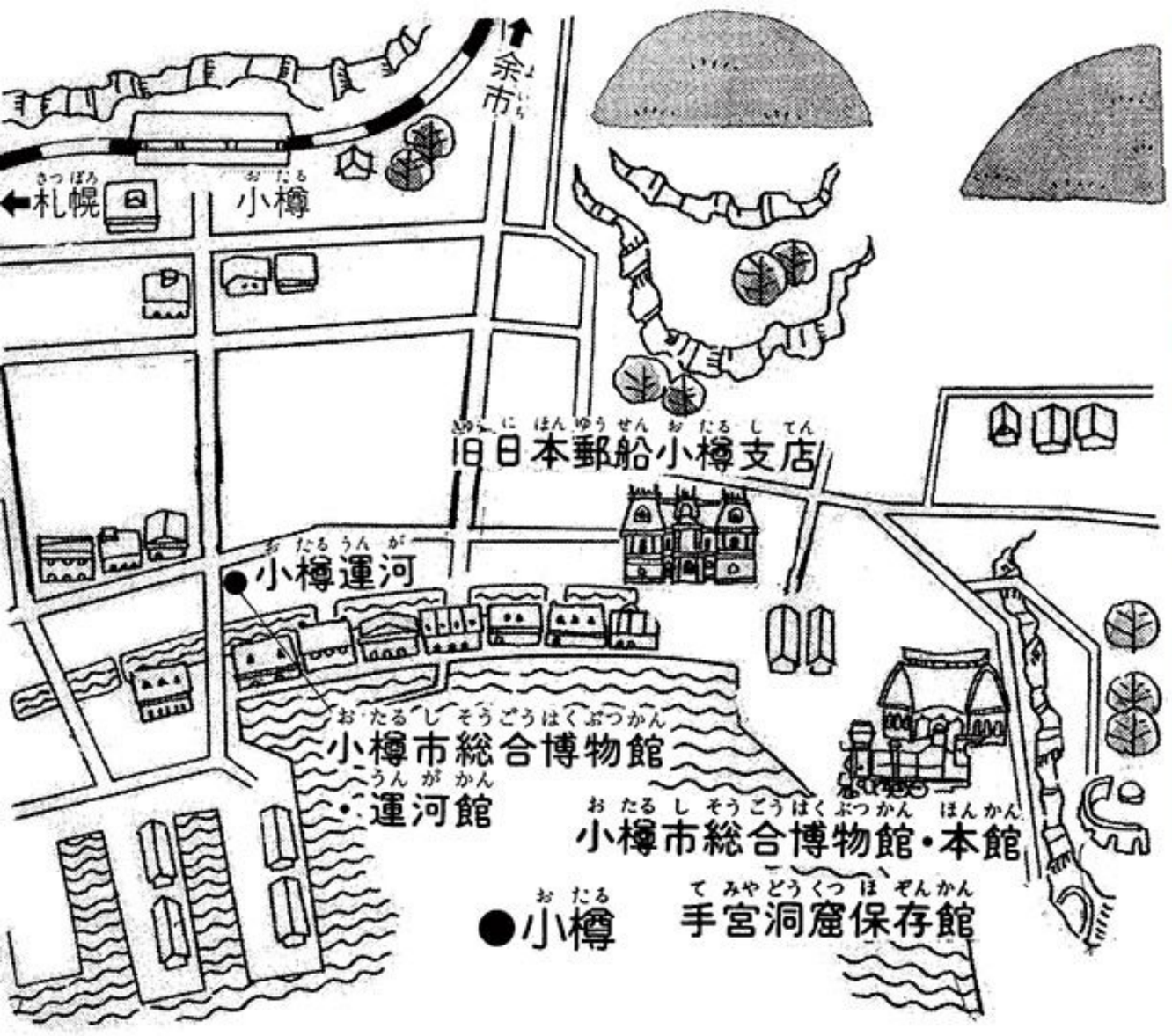
㊫小樽市手宮
㊋JR函館本線小樽駅よりバス、手宮下車

北海道で最初、日本で3番目の鉄道が一八八〇年(明治13)手宮～札幌間に開通し、一八八二年には幌内(現在三笠市)まで延長されました。これは開拓使が幌内炭鉱の石炭をつみ出すために建設したもので、客車も運行しました。手宮駅の前は小樽港で、貨車ではこばれてきた石炭はすぐ汽船につみこむことができました。手宮駅につくられたれんが造の機関車庫や転車台を生かして鉄道記念館がひらかれ、現在は総合博物館・本館となりました。

●見どころ● ここには当時の蒸気機関車「しづか号」や開拓使長官専用の客車などから最近のSLまでが保存されていて、鉄道ファンには見のがせません。

●付近の史跡● 総合博物館より先のがけの下に**手宮洞窟保存館**があります。これは先史時代の人びとが洞窟にのこした彫刻で、現在も調査がすすめられています。小樽駅から港の方へ向かうと、小樽運河にでます。その左角に**小樽市総合博物館・運河館**が入っている、旧小樽倉庫があります。屋根には、若狭瓦(福井県)製のシャチホコがあげられ、その風格は倉庫群を代表するものです。この倉庫群の正面を流れる小樽運河は、一九一四年(大正3)から10年かけてつくられたもので、弓型にカーブする運河にそって石造の倉庫群が並ぶ姿は、小樽が北海道の物資の集散地として繁栄した時代を、しのばせます。

現在この運河は、公園として生まれ変わり、多くの人びとに親しまれています。



▲小樽運河

荒野の大地をひらく

一八六九年(明治2)、蝦夷地の名は北海道とあらためられました。明治政府による北の守りと内陸の開拓がはじまったのです。移住者をむかえ、農産物や木材・石炭をつみ出し、そして北方防備のためにかかすことのできない鉄道・道路・港ができました。そして、百年ほどの間に北海道の大部分がひらかれました。この開拓の中で、冷害や食物不足になやんだ農民、トンネル工事や炭鉱など危険な作業にたずさわった囚人や鉱夫たちの多くのぎせいがあったことをわすれることはできません。

ここでは、明治時代以後の北海道の開拓のあゆみを追ってみましょう。

1 帯広

■帯広百年記念館■

所 帯広市緑ケ丘
交 JR帯広駅よりバス、緑ケ丘6丁目下車

帯広は、北海道の中でももっとも畑作のさかんなところで、広い畑がどこまでもつづき、畑の境に防風林がならんでいる景色が見られます。この帯広の開拓の祖といわれるのが依田勉三という人です。依田勉三は静岡県の伊豆の人で、一八八三年(明治16)に、帯広のオベリベリという所に入植しました。一九八二年(昭和57)は、入植からちょうど100年目にあたり、これを記念してたてられたのが帯広百年記念館です。記念館には、帯広の開拓の歴史がわかりやすく説明してあります。依田勉三らのつかった遺品ものこっています。

●付近の史跡● 記念館のある緑ケ丘公園には、十勝監獄跡があり、記念碑と石油庫が保存されています。帯広駅の北東部にあたる帯広神社前の中島公園には、依田勉三の銅像と「開拓のはじめは豚と一つ鍋」と書かれた句碑があり、開拓にいどんだ心意気をつたえています。中島公園の南東部にある水光園付近が、最初の入植地オベリベリにあたる所です。「帯広発祥の地」の碑は、銅像より500メートルほど札内橋へむかったところにあります。

2 旭川

■旭川市博物館■

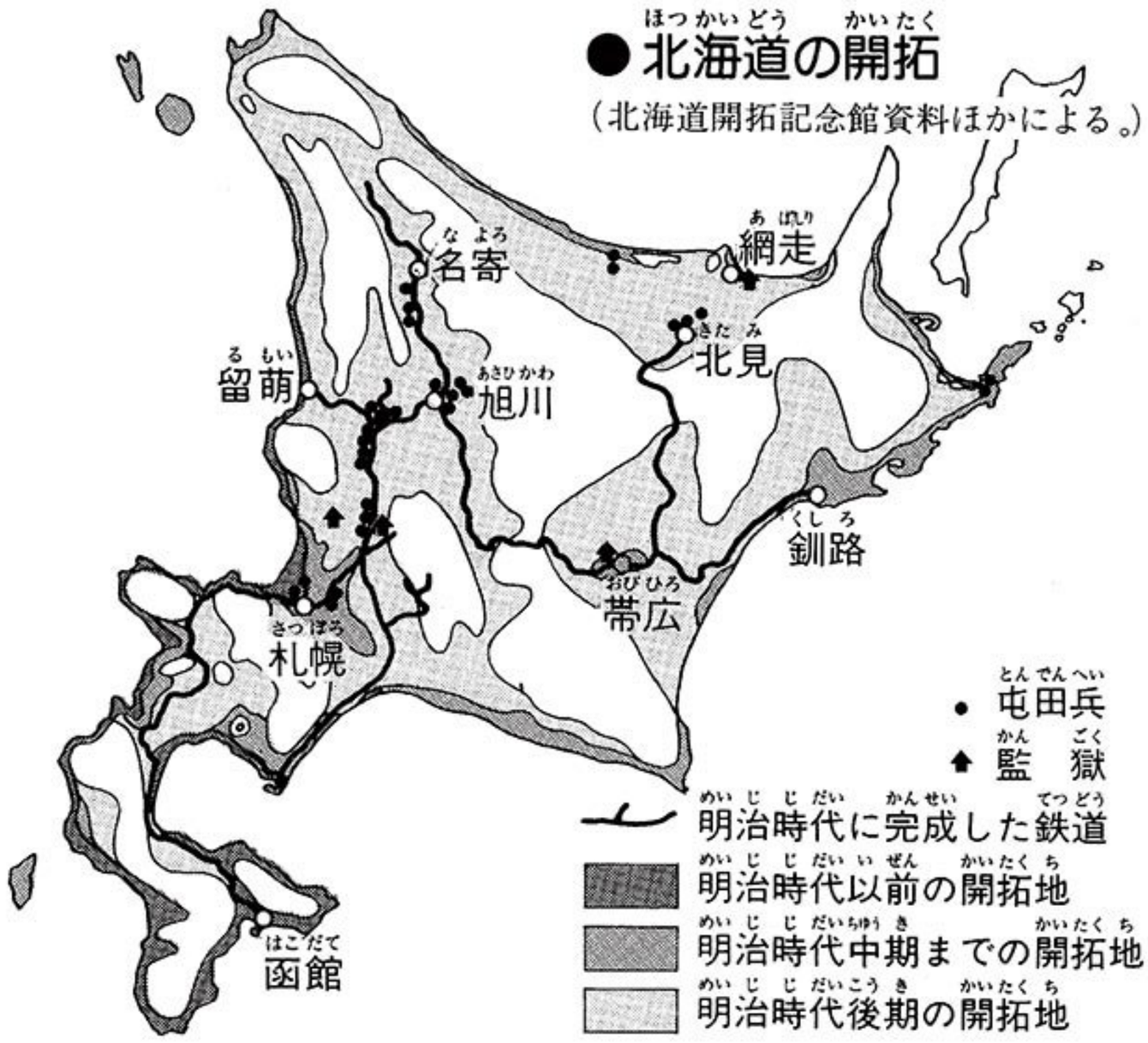
所 旭川市神楽3条
交 JR函館本線旭川駅よりバス、アリーナ前下車

▲旭川市彫刻美術館（旧旭川偕行社）

旭川は、一八九一年(明治24)から屯田兵が入植し、明治時代の後期になると1万人以上の兵士たちが配備される師団がおかれ、北方の防衛の中心地となりました。

市内四区にある旧旭川偕行社は、陸軍の将校たちが集会所としてつかっていた建物を復元したものです。白い西洋風の木造建築で、明治時代のふんいきをつたえ、現在は美術館として使われています。

博物館内には、考古資料やアイヌ、オホーツク文化関係の資料が展示され、一八九一年に入植した**永山屯田兵屋**が復元されています。内部には屯田兵がつかった生活用具などもおいてあります。



▲アイヌ文化の森伝承のコタン

●**付近の史跡**● 旭川市博物館の分館にあたる**アイヌ文化の森伝承のコタン**は、旭川駅からバスで20分ぐらいの上川郡鷹栖町にあります。「チセ」と資料館があり、資料館にはアイヌの人びとの工芸品、生活用具を展示しています。

3 北見

■北網圏北見文化センター■

(所)北見市公園町
(交)JR石北本線北見駅よりバス、文化センター前下車

北見市には、一八九七年(明治30)と翌一八九八年に400戸近い屯田兵が入植しました。同じころ、土佐から112戸の移民団が来て開拓をはじめました。かつてはハッカの町、現在はタマネギとビート畑にかこまれた地域です。

北見文化センターの1階に屯田兵屋の実物がうつされて展示されています。入植したときの木材をそのままつかったもので、たいへん貴重な資料です。そのほか、北見市内で発掘された考古資料が多数展示されています。

●**付近の史跡**● 北見市幸町にある**ピアソン記念館**は、大正時代のはじめ、北見にすみついてキリスト教の伝道と女性の地位向上や青少年の教育につくしたアメリカ人のピアソン夫妻を記念した資料館です。資料館の建物は、夫妻がすんでいた当時のままのこされたものです。

北海道地方のおもな資料館と博物館

北海道地方にあるおもな資料館と博物館をとりあげました。11月から4月にかけて休館するところが多いので、注意しましょう。

旭川市博物館

所 旭川市神楽3条

交 JR函館本線旭川駅よりバス、アリーナ前下車

旭川兵村記念館

所 旭川市東旭川南一条

交 JR石北本線東旭川駅下車、徒歩10分

網走市立郷土博物館

所 網走市桂町

交 JR釧網本線網走駅よりバス、東3丁目下車

海の館・広尾町郷土文化保存伝習館

所 広尾郡広尾町

交 JR根室本線帯広駅よりバス、シーサイドパーク下車

浦幌町立博物館

所 十勝郡浦幌町

交 JR根室本線浦幌駅下車、徒歩7分

江差町郷土資料館

所 桧山郡江差町

音楽堂や国際会議場もある複合施設、旭川大雪クリスタルホール内にある。展示は、北海道の原始時代、アイヌ文化、北方地域との交流、開拓時代などの資料が多い。分館の**アイヌ文化の森伝承のコタン**には、アイヌの家「チセ」が復元されている。

東旭川町開基70周年を記念して旭川神社の境内に開設された。明治時代に入植した屯田兵とその家族の生産や生活を物語る資料を展示している。

モヨロ貝塚の出土品を展示。アイヌのほかニブヒやウィルタなどの北方民族の資料が豊富で、比較してみることができる。また、巨大なトドのはく製や流氷のジオラマもある。分館の**モヨロ貝塚館**にある重層貝塚は、この館ならではの展示である。

シーサイドパーク広尾の敷地内にあり、十勝の水産と港の歴史がたどれる。江戸時代広尾にあった仙台藩陣屋の井戸枠、黄金道路工事のジオラマ、漁家の復元などを展示している。昭和60年に海洋博物館を併設。

考古資料の収集に特色があり、先史時代を知ることのできる博物館のひとつ。浦幌町は、土器を使う以前の石刃鏃文化や北海道北東部最古の竪穴住居跡など遺跡の宝庫である。

江戸時代、商業とニシン漁でさかえた町の歴史を中心に、商業・漁業・生活に関する資料を展示している。すぐそばに一八六八年(明治1)、六九年

㊐JR江差線江差駅下車、徒歩15分

小樽市総合博物館・運河館

㊞小樽市色内
㊐JR函館本線小樽駅より徒歩10分

帯広百年記念館

㊞帯広市緑ケ丘
㊐JR根室本線帯広駅よりバス、緑ケ丘6丁目下車

北網圏北見文化センター

㊞北見市公園町
㊐JR石北本線北見駅よりバス、文化センター前下車

釧路市立博物館

㊞釧路市春湖台
㊐JR根室本線釧路駅よりバス、市立病院前下車

斜里町立知床博物館

㊞斜里郡斜里町
㊐JR釧網本線知床斜里駅下車、徒歩20分

伊達市開拓記念館

㊞伊達市梅本町
㊐JR室蘭本線伊達紋別駅よりバス、開拓記念館前下車

の函館戦争の官軍戦死者の墓地がある。

建物は一八九三年（明治26）に小樽倉庫株式会社が建てた木骨石造の倉庫で、現在、小樽市指定歴史的建造物になっている。展示では、北海道開拓の中心港として発展してきた商都・小樽のあゆみが、復元された商店や、古い地図類、生活用品などでわかりやすく展示されている。

依田勉三らの入植を記念して開設。豆類、ジャガイモ、ビートを中心にした十勝の農業と人びとのくらしをテーマにしている。マンモスのジオラマが十勝地方の大地のなりたちを象徴している。

屯田兵屋の実物と、入植当時の関係資料がそろっている。壁は板1枚、窓にはすき間の見えるこの家で、氷点下30度の寒さにたえた苦労は想像をこえる。

春採公園の中にあり、釧路の自然と歴史のなりたちを展示している。大陸と地つづきであったことをしめすマンモスの骨格標本や、釧路の漁業史で最後の無動力船川崎船の展示が目を引く。湿原にまうタンチョウのジオラマにも注目したい。

秘境知床の自然と人間の歴史を展示している。縄文時代の墳墓からの出土品のほか、森林の動物がジオラマで再現され、大地をひらいて生きた人びとの道具がたくさんある。知床の自然のマルチスライドがすばらしい。

一八六九年（明治2）に宮城県より入植した仙台藩主伊達邦成と家臣による開拓の歴史を展示している。武士の生活や文化をしめす資料と開拓時代の農具や生活用具が多い。一八七二年（明治5）にたてられた開拓農家（旧三戸部家）も保存されている。

二風谷アイヌ文化博物館

所 沙流郡平取町二風谷
交 JR日高本線富川駅よりバス、博物館前下車

萱野茂氏らが長年収集したアイヌの民族資料数千点を展示していた「文化資料館」を発展的に受けつぎ、一九九一年（平成3）に開館。敷地内にはアイヌのチセ（家）が実物大で復元されている。

函館博物館

所 函館市青柳町
交 JR函館本線函館駅より市電、青柳町下車

一八七九年（明治12）日本最初の地方博物館として開館した。旧石器・土器時代の発掘品や、アイヌや北方民族の生活用具、室町時代の志苔館跡から発見された甕と古銭、江戸時代の画家の作品などが豊富である。

函館博物館郷土資料館

所 函館市末広町
交 JR函館本線函館駅より市電、末広町下車

一八八〇年（明治13）にたてられた金森洋物店を忠実に復元。和風の土蔵造と洋風のれんが造を合わせたモダンな防火構造だ。函館の住民の衣食住をしめす絵図・地図や各種の生活用品を展示している。

花田家番屋

所 留萌郡小平町
交 JR留萌駅よりバス、花田番屋下車

建物は一九〇五年（明治38）にたてられた現存最大のニシン番屋で、最盛期には約250人の漁民を収容したといわれる。国の重要文化財である。内部には、ニシン漁に関する漁具・加工用具・生活用品を展示している。

北海道開拓記念館

所 札幌市厚別区厚別町
交 JR千歳線・地下鉄東西線新札幌駅よりバス、記念館入口下車

一九七一年（昭和46）北海道百年記念事業として野幌森林公園内に開設された。原始から現在までの北海道の歴史を8つのテーマに分けて展示。年数回の特別展示のほか、深く研究したい人のための収蔵陳列室や体験学習室もある。

月形樺戸博物館

所 樺戸郡月形町
交 JR札沼線（学園都市線）石狩月形駅下車、徒歩5分

一八八六年（明治19）にたてられた樺戸集治監（刑務所）の庁舎を利用したもの。明治時代に受刑者に使用された鉄ぐさり・鉄丸や衣服などを展示している。月形町内には囚人たちがつくった道路や寺がのこっており、囚人墓地もある。

北海道大学植物園

一八八二年（明治15）に北海道開拓使博物場として設立され、一九六

㊫札幌市中央区北三条西八丁目
㊫JR函館本線札幌駅下車、徒歩10分

小樽市総合博物館

㊫小樽市手宮
㊫JR函館本線小樽駅よりバス、手宮下車

松前城資料館

㊫松前郡松前町
㊫JR江差線木古内駅よりバス、松城下車

松前町郷土資料館

㊫松前郡松前町
㊫JR江差線木古内駅よりバス、松城下車

夕張市石炭の歴史村

㊫夕張市高松
㊫JR石勝線夕張駅よりバス、社光下車

酪農と乳の歴史館

㊫札幌市東区苗穂町
㊫JR函館本線札幌駅よりバス、北六条東19丁目下車

よいち水産博物館

㊫余市郡余市町
㊫JR函館本線余市駅下車、徒歩20分

二年（昭和37）分館のアイヌ博物館（旧バチュラー博士邸）を移築した。動物資料やアイヌの民俗資料などの展示施設は、植物園の中にある。

一八八〇年（明治13）開通の北海道最初の鉄道（手宮～札幌間）の起点で、開通当時のれんが造りの機関庫に、機関車しづか号、大勝号などが保存されている。

日本最後の旧式築城の松前城天守閣を一九六一年（昭和36）に復元した建物。展示は道南アイヌの民族資料、松前屏風などの藩や城下町関係の資料、江戸時代の画家蠣崎波響の絵画などである。

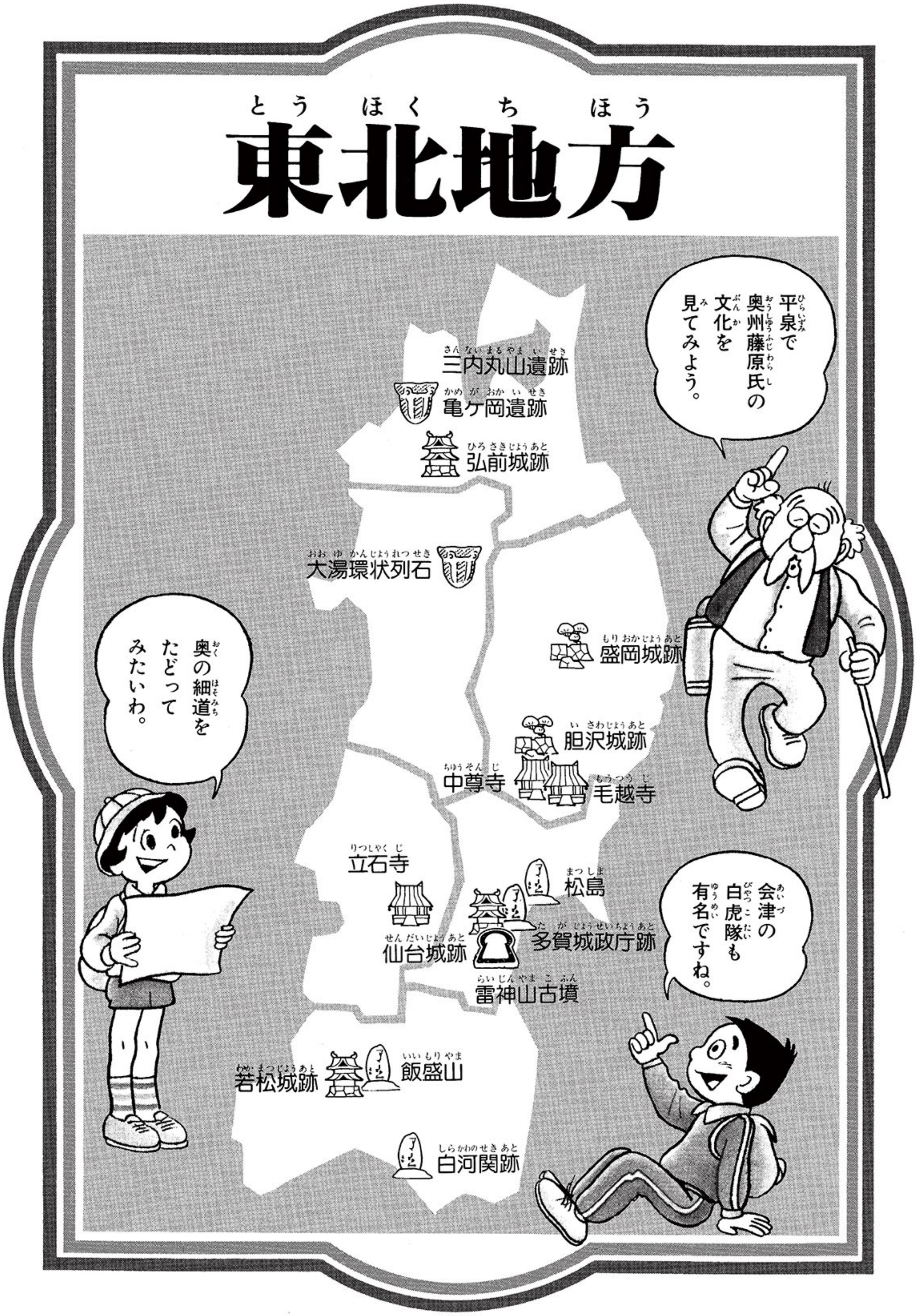
江戸時代、松前藩の城下町としてさかえた松前の歴史を中心に展示している。先史時代の資料、祭礼の山車、北前船の模型、ほぼ実物大に復元された漁家などが注目される。

北海道の代表的な炭鉱都市の総合博物館施設。石炭博物館（石炭の生成・発見・利用などの展示）、炭鉱生活館（旧夕張工業学校校舎を復元し、炭鉱の生活をしようかい）、石炭の大露頭、史跡夕張礦などからなり、炭鉱の歴史・生活のすべてがわかる。

一九七七年（昭和52）、雪印乳業創立50周年を記念して札幌工場の構内に開設した。酪農や牛乳・乳製品の歴史と現状をしようかいしている。バター・チーズ・アイスクリームなどの製造過程の展示が興味深い。見学には事前のもうしこみが必要。

ニシン漁関係の漁具・加工用具などの展示が充実しており、北前船の大型模型もある。なお近くの海岸に江戸時代の下ヨイチ運上家が復元されているので見学するとよい。

東北地方


平泉で奥州藤原氏の文化を見てみよう。
三内丸山遺跡
亀ケ岡遺跡
弘前城跡
大湯環状列石
盛岡城跡
奥の細道をたどってみたいわ。
胆沢城跡
中尊寺
毛越寺
立石寺
松島
会津の白虎隊も有名ですね。
仙台城跡
多賀城政庁跡
雷神山古墳
若松城跡
飯盛山
白河関跡

東北地方の原始時代の遺跡と古墳

東北地方には縄文時代の遺跡がたくさんのこっています。ところが、弥生式土器など稲作をしていたことをしめす遺物が発見されなかったため、最近まで東北地方には弥生文化がなかったと考えられていました。しかし、今では一番北の青森県からも弥生時代の遺跡が見つかり、宮城県や福島県では、近畿地方などとあまりちがわない時期に稲作が行われていたことがわかっています。

また、東北地方は、大和政権の支配がなかなかおよばなかったため古墳が少ない地方です。とくに古墳時代のはじめに多い前方後円墳は、青森・秋田県では発見されていません。

■亀ケ岡遺跡■

㊫青森県つがる市木造亀ケ岡
㊫JR五能線五所川原駅よりバス、亀ケ岡下車、徒歩5分

江戸時代のはじめに亀ケ岡の地に城をたてようとしたとき、たくさんの「瀬戸物」がほりだされた、という津軽藩の記録がのこっています。これが亀ケ岡遺跡の最初の発見です。「瀬戸物」とは土器のことだったのです。亀ケ岡遺跡から出土した土器は、縄文時代のおわりごろのもので、精巧な模様のえがかれた独特な土器で、亀ケ岡式土器と名づけられています。また、めがねをかけたような顔の土偶も有名です。

出土品の一部は、木造にある**亀ケ岡考古資料室**や、青森市の**青森県立郷土館**に展示されています。

■三内丸山遺跡■

三内丸山遺跡の所在地と交通
㊫青森県青森市三内丸山
㊫JR東北本線青森駅よりバス、三内丸山遺跡前下車

縄文時代前期から中期の集落跡や平安時代の集落跡などが見つかっています。第1巻の1～4ページを参照。

■大湯環状列石■

㊫秋田県鹿角市大湯
㊫JR花輪線十和田南駅よりバス、環状列石前下車

環状列石は、北海道や福岡県にもあり、原始時代の人びとが祭りの場所や墓地としてつかったと考えられていますが、はっきりしたことはわかりません。

大湯環状列石には、直径40メートルの野中堂遺跡と直径46メートルの万座遺跡の2つが道路をはさんでありません。遺跡からは縄文式土器が発見されました。環状列石は、無数の小さな石が内と外の2重の輪をえがくようにならべられています。この2重の

輪の間に「日時計」とよばれる石組があります。中央に大きな石をたて、周囲に石を放射状においたものです。出土品の収蔵庫がすぐ近くにあります。

■鱸沼遺跡■

角田市郷土資料館の所在地と交通

所 宮城県角田市角田

交 阿武隈急行角田駅下車、徒歩20分

鱸沼遺跡は、縄文時代・弥生時代の遺跡と古墳とからなる遺跡です。この遺跡から出土した弥生式土器に、米つぶやもみのあとが発見されました。また、石包丁・石鍬など弥生時代に稲作のためにつかったと思われる石器も出土しています。これらは、東北地方でも弥生時代のはじめから稲作をしていたことをしめす貴重な資料です。

鱸沼遺跡は小高い丘の上にありますが、現在は見学できません。遺跡の出土品は、**角田市郷土資料館**に展示してあります。

■雷神山古墳■

所 宮城県名取市植松

交 JR東北本線名取駅よりバス、愛島下車、徒歩20分

東北地方最大の前方後円墳です。長さは168メートル、高さは12メートルあります。5世紀ごろ、この地方を支配していた豪族の墓だったのでしょう。雷神山古墳の周囲には小さな円墳があります。これは近親や従者の墓か、殉死者の墓だろうと考えられています。

雷神山古墳は、まだじゅうぶんに調査されていないため、埴輪のかけらと、土器の一部が見つかっただけです。周辺は史跡公園として整備されていて、市民のいこいの場にもなっています。

多賀城と古代の東北地方

第4巻 第1章を見よう。

東北地方の太平洋側は陸奥国とよばれていました。陸奥国には大和朝廷の律令制度による支配に抵抗した、蝦夷とよばれる人びとがすんでいました。朝廷は、蝦夷をおさえ陸奥国を支配するため、奈良時代に、陸奥国の国府として多賀城をきずきます。蝦夷と朝廷の戦いは何度もくりかえされ、平安時代初期には、坂上田村麻呂を征夷大将軍として、大規模な蝦夷平定の軍隊がおくられました。こうして朝廷の支配は、だんだん北におよぶようになりました。

ここでは、多賀城や胆沢城など東北地方にのこる古代の城のあとをたずねてみましょう。

（坂上田村麻呂）

■多賀城政庁跡■

所 宮城県多賀城市

交 JR東北本線国府多賀城駅下車、徒歩10分

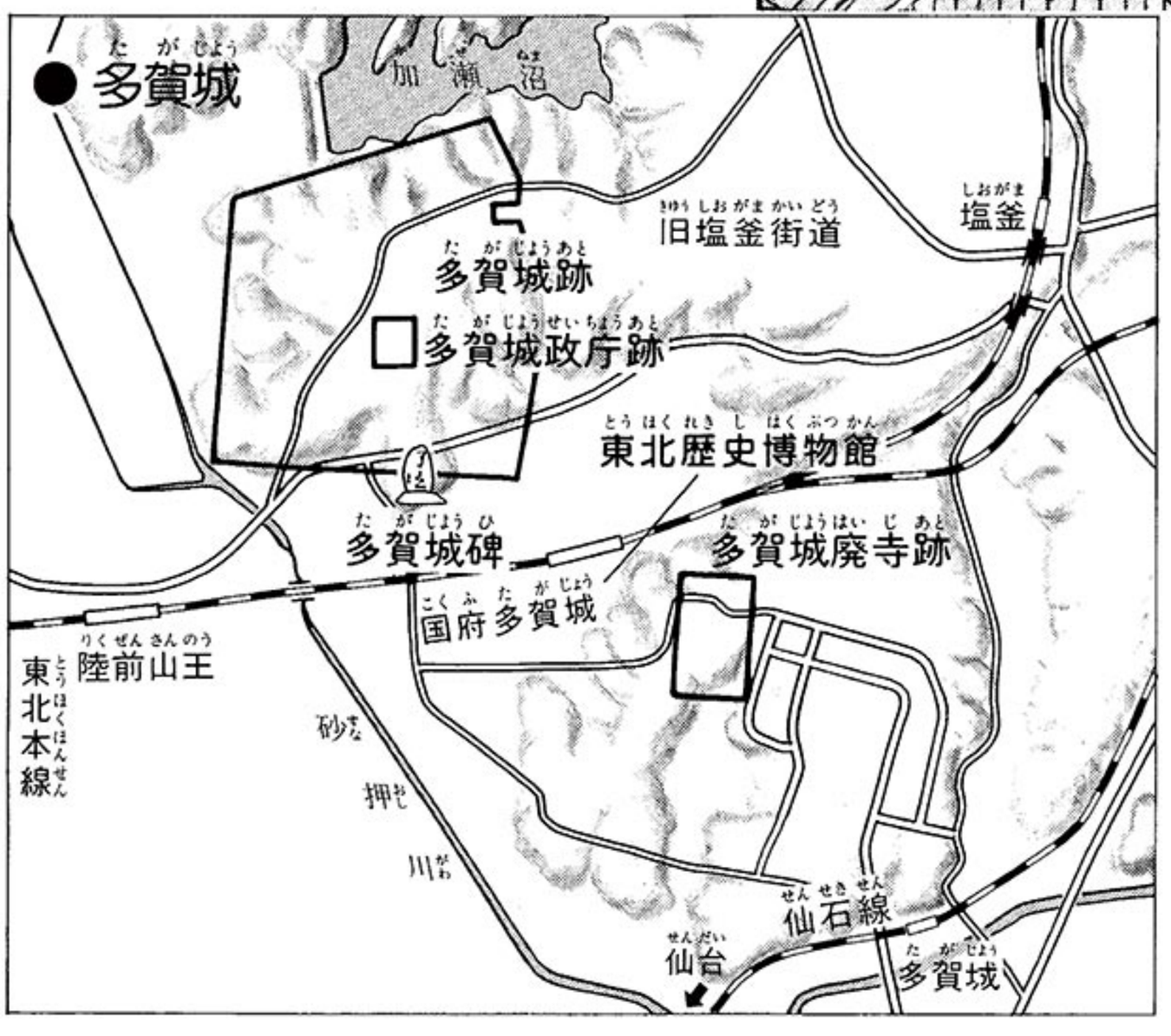
多賀城は、大和朝廷が陸奥国をおさめるための国府として、また、蝦夷とたたかうための軍事拠点（鎮守府）として設置した城郭です。丘陵の上にあり、広さは約1キロメートル四方で、周囲には築地というのついた土塀がめぐらされていました。多賀城の中央部には、100メートル四方の平らな土地に政庁がおかれていました。

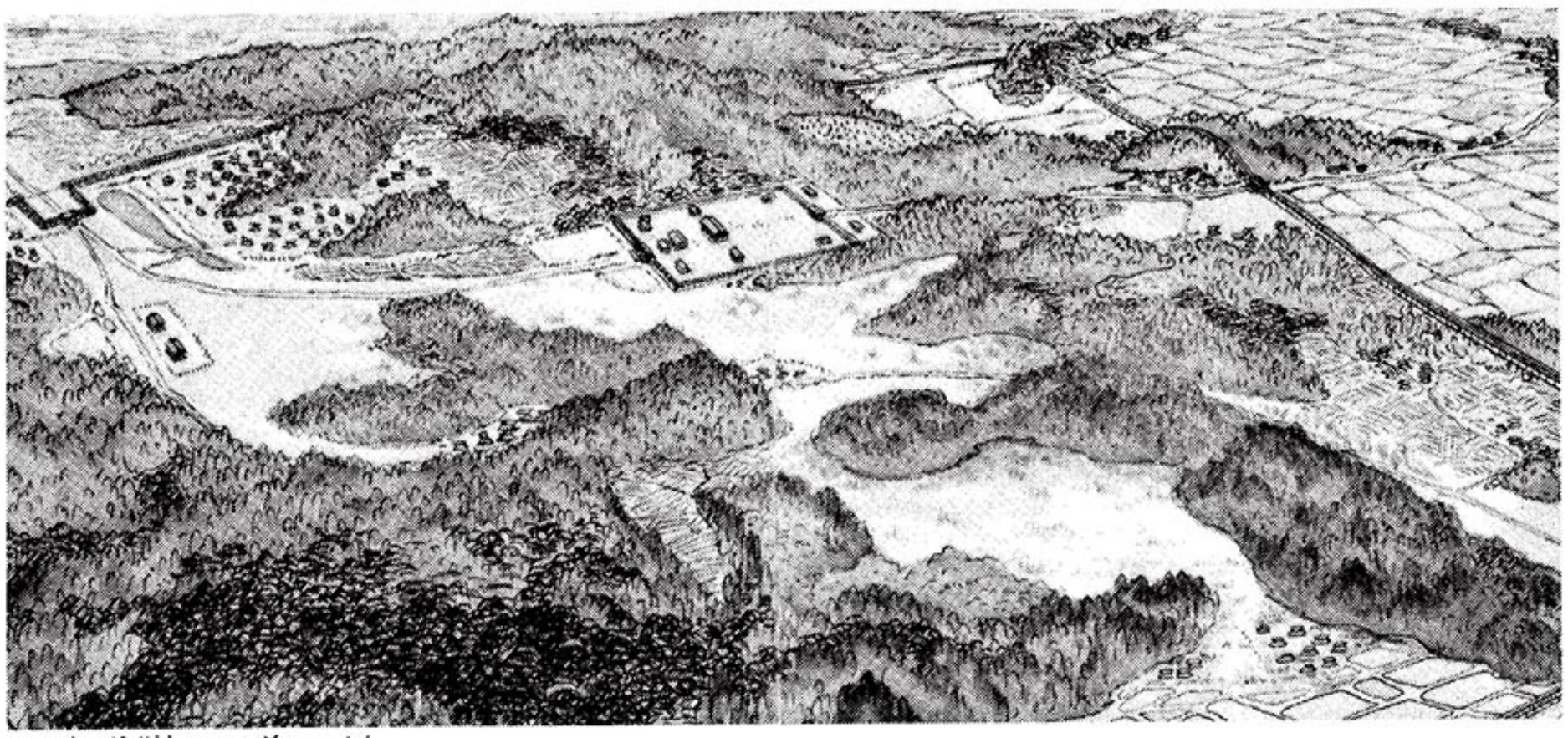
多賀城政庁跡からは、正殿や門・築地などのあとが発見され、しかも何度も改修されていたことがわかっています。現在、政庁跡は整備され、奈良時代の中ごろに修理されたときの礎石が復元されています。

●付近の史跡●

多賀城跡の南端の丘の上に多賀城碑がたっています。七六二年にたてられたという古い碑で、多賀城が七二四年に大野東人によって築城されたときざまれています。また、国府多賀城駅に隣接して東北歴史博物館がありません。この博物館

▲多賀城政庁跡





▲多賀城　⇨第4巻36・37ページ

には、多賀城の大きな模型や、多賀城跡からの出土品などが展示されています。多賀城跡と東北本線をはさんだ反対側の丘陵地には、**多賀城廃寺跡**があります。金堂・講堂・僧坊・三重塔などのあとが発見され、多賀城とほぼ同じころに建立されたものと考えられています。史跡公園として整備され、出土品の収蔵庫も見学できます。

▲多賀城碑

■胆沢城跡■

㊫岩手県奥州市水沢区佐倉河
㊋JR東北本線水沢駅よりバス、八幡神社前下車

平安時代のはじめに、坂上田村麻呂が蝦夷とたたかったとき、この胆沢城をきずいたといわれています。それまでは多賀城が陸奥国の国府と鎮守府の2つの役割をはたしていましたが、鎮守府はこの胆沢城につされました。

多賀城が丘陵地にあるのにたいして、胆沢城は平野にあります。そのため、鎮守府としての役割のほか東北地方の開拓のための基地としての役割もはたしていたと考えられています。

城跡のすぐとなりに**奥州市埋蔵文化調査センター**があり、出土品や史料を見ることができます。また、古代東北地方のリーダー、アテルイに関する展示もあります。

●付近の史跡●　水沢区には、3人の偉人の旧宅や記念館があります。江戸時代の蘭学者高野長英、明治から大正にかけての政治家、後藤新平と斎藤実の3人です。とくに**高野長英記念館**は、長英の直筆の書簡や遺品類が展示してあります。

奥州藤原氏の栄華・平泉

平安時代末期、平氏が全盛のころ、奥州では平泉に本拠をおいた奥州藤原氏が、中尊寺金色堂に見られるきらびやかな仏教文化をきずいて、中央の文化をしのぐほどの栄華をきわめていました。

奥州藤原氏の力は、平氏を滅亡させた源頼朝がおそれるほどでした。

兄頼朝に追われた源義経が藤原氏をたよって奥州ににげてきたのは、三代藤原秀衡のときです。ところが秀衡をついだ四代泰衡は、義経をころし、そのうえ頼朝にせめられ、家臣にころされてしまいます。

ここでは、奥州藤原氏の栄華をしのんで、平泉をたずねてみましょう。

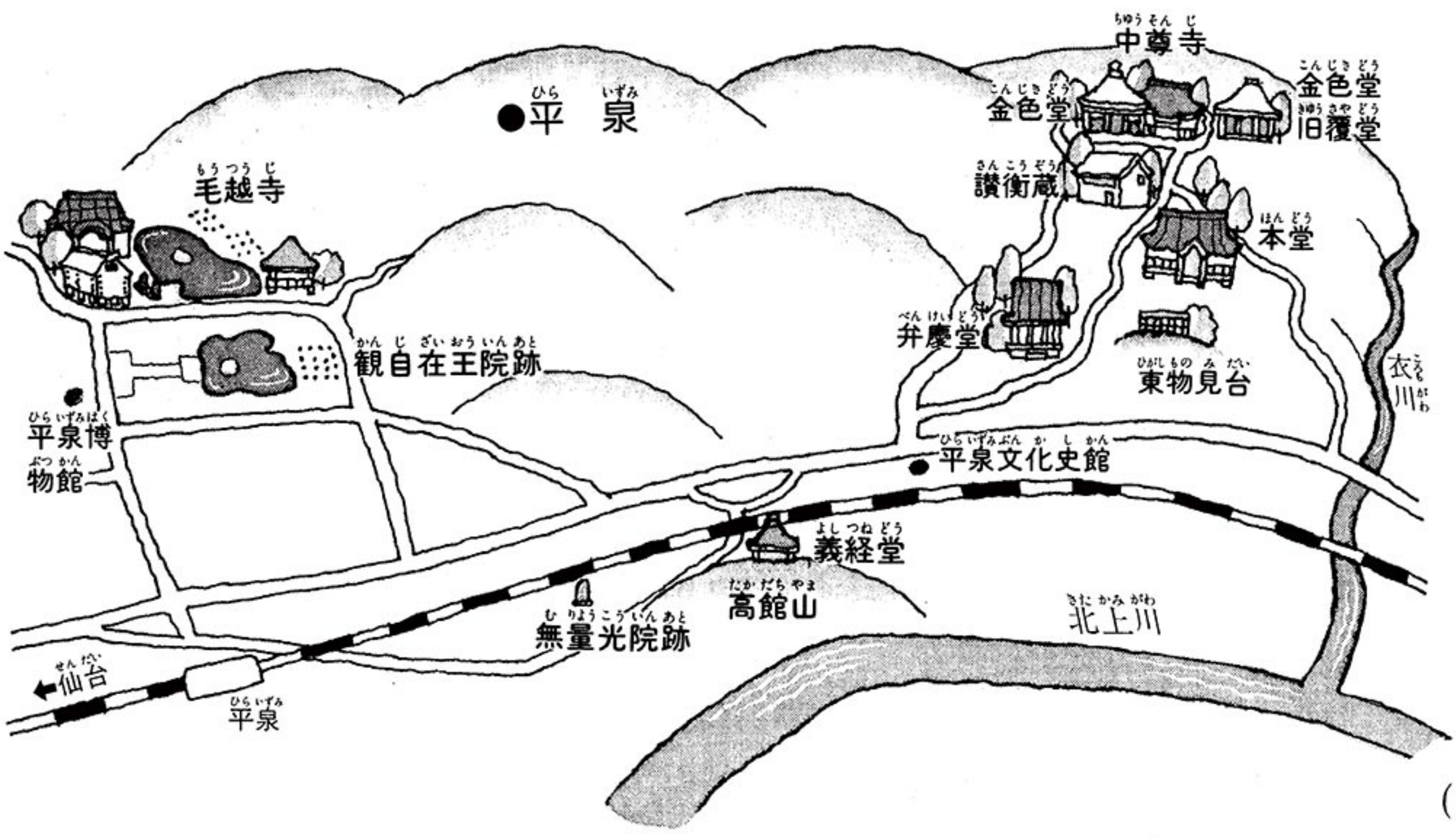
■中尊寺■

㊫岩手県西磐井郡平泉町
㊫JR東北本線平泉駅よりバス、中尊寺下車

中尊寺は、平安時代の初期に天台宗の円仁によってひらかれ、奥州藤原氏の初代藤原清衡のとき、40あまりの堂塔と300あまりの僧堂のある大寺院になったとつたえられます。

中尊寺は、関山という丘陵の全域をしめ、境内の入口から杉木立にかこまれた月見坂が寺の中へみちびいてくれます。参道をすすみ、右手の本坊の前を通りすぎると、大金堂跡の碑がある広場につきます。広場を中心に金色堂・経蔵・金色堂旧覆堂・讃衡蔵などへの道が分かれています。

中尊寺の中心はなんといっても金色堂です。金色堂は、清衡が一一〇九年から16年の歳月をかけて完成させたもので、堂全体に金ぱくがおされ、内部には螺鈿という貝がらをうすくして模様としたものや珠玉がちりばめられていました。室町時代のはじめの火事で全山がやけたとき、この金色堂



と経蔵の1階だけがやけのこったのです。現在、金色堂は、コンクリートの新しい覆堂につつまれ、さらにガラスで密閉され厳重に保存されています。本尊の阿弥陀如来像ほかの仏像や藤原氏三代の遺体が、金色堂の中に安置されています。

なお、金色堂のわきに「五月雨の降り残してや　光堂」という松尾芭蕉の句碑があります。

（藤原秀衡）

●見どころ●　金色堂のすぐ下にある讃衡蔵に、中尊寺にのこる文化財や美術品が3千点あまり収蔵されています。また、金色堂旧覆堂には、昔の金色堂の精巧な模型がおいてあります。

●付近の史跡●　中尊寺の入口の前の**平泉文化史館**には、奥州藤原氏全盛のころの平泉の様子を復元した模型などがあります。平泉駅の方向にもどると、左手に**高館山**が見えてきます。北上川にのぞむ義経の館のあったところで、山頂には江戸時代にたてられた**義経堂**があります。また、高館山から、さらに駅の方にすすむと、**無量光院跡**があります。

▲毛越寺庭園

■毛越寺■

㊫岩手県西磐井郡平泉町
㊫JR東北本線平泉駅下車、徒歩10分

毛越寺は、中尊寺と同じ円仁によってひらかれ、一一〇八年に藤原基衡が再建しました。その後三代秀衡が仏教文化の粋をあつめて発展させ、当時は、40あまりの堂塔と500あまりの僧堂がたち、寝殿造の建物と浄土庭園の美しさは、中尊寺をもしのぐほどだったといわれます。しかし、数度の火災にあい、現在は、池を中心にした広い庭園と建物の礎石に当時のおもかげをしのぶだけとなっています。

なお、表門をくぐるとすぐ左手に宝物館、右手には「夏草や　つわものどもが　夢の跡」という有名な芭蕉の句碑がたっています。

●付近の史跡●　毛越寺から平泉駅にもどる道の左手に、基衡のときの**観自在王院跡**があり、毛越寺のように池を中心にした浄土庭園のある大きな寺院であったことがわかっています。現在、発掘調査にもとづいて庭園が復元され、史跡公園として一般に公開されています。

奥の細道をたずねて

江戸時代の俳人松尾芭蕉は、門人の河合曽良とともに、古歌によまれた名所や旧跡をたずねて奥州・北陸を行脚しました。一六八九年3月27日に江戸をたってから、美濃国大垣にいたるまでの5か月間にわたる旅です。この旅の様子は、各地で書きつけたおぼえ書きをもとに、『奥の細道』という俳諧でつづった紀行文にまとめられました。『奥の細道』は、芭蕉の紀行文のなかでももっとも完成された作品といわれています。

今、芭蕉と曽良の歩いた道をたどると、芭蕉の句碑が各地にたてられています。ここでは、そのいくつかをたずねてみましょう。

白河関跡

所 福島県白河市旗宿
交 JR東北本線白河駅よりバス、旗宿下車

白河関は、東北の玄関口です。奈良時代に、鼠ケ関(山形県)・勿来関(福島県)とともに奥羽三関の一つとして設置されました。平安時代の中ごろには関所としての役割はおわりましたが、古くから歌によみこまれた有名なところです。芭蕉も『奥の細道』の行脚の目的地の一つとして白河関をあげていました。

白河関跡は、発掘調査で住居や柵のあとが発見され、この旗宿にあったことが確認されています。白河神社の境内や周辺に、白河城主だった松平定信がたてた「古関蹟碑」や歌碑とともに「奥の細道記念碑」がたっています。

●付近の史跡●

松平定信は、江戸時代中ごろの寛政の改革で知られています。白河でも名君として名をのこしています。白河駅南方にある南湖は、松平定信が貧民救済とかんがいのためにつくった湖で、湖畔に桜やカエデなどの木をうえて公園とし、庶民に開放しました。公園の北東には、定信をまつる南湖神社があります。

松島

所 宮城県宮城郡松島町
交 JR仙石線松島海岸駅下車

日本三景の一つといわれ、大小260におよぶ島からなる名勝地です。芭蕉も、松島にはいちばん行ってみたかったと『奥の細道』に書いています。松島海岸駅の南東にある、朱塗の渡月橋でむすばれた雄島には、芭蕉の句碑のほかたくさんの歌碑や中世の板碑がたっています。

遊覧船の発着する松島海岸の北側の月見崎に、観瀾亭があります。仙台藩代だいの藩主がここから松島の景色を見ました。敷地内に松島博物館があり、伊達氏の資料を展示しています。山側に入ると瑞巌寺があります。東北一の禅寺で、平安時代に創建され、荒廃していたものを伊達政宗が再建しました。本堂や廊下は国宝に指定されています。また、海岸にある五大堂は、坂上田村麻呂ゆかりのお堂とつたえられています。

■立石寺■

所 山形県山形市大字山寺
交 JR仙山線山寺駅下車、徒歩7分

「閑かさや　岩にしみ入る　蝉の声」という芭蕉の句が生まれたのが、この立石寺です。立石寺は、平安時代のはじめに創建された古い寺院です。山寺駅をおりると、正面にうっそうとした老樹におおわれた宝珠山全山が、そそり立っています。この宝珠山全山が、立石寺の境内です。杉や奇岩にかこまれた千段近くの石段が、山門から奥の院までつづき、石段の両側には堂や句碑がたっています。

●見どころ●　芭蕉の句碑は、山門の前を右手にすすんだ根本中堂の左脇にたっています。また、根本中堂のとなりの秘宝館に、古い仏像が展示されています。夏、セミしぐれの中を奥の院につづく石段をのぼると、芭蕉の句がよくわかることでしょう。

▼平泉毛越寺の芭蕉句碑。左の低い碑が芭蕉の真筆をきざんだもの。右は新しい句碑。

▼白河関跡

（芭蕉と曾良）

東北地方の城と城下町

豊臣秀吉は、一五九〇年に東北一の戦国大名伊達氏を支配下に入れて、全国ですすめていた検地を実施します。この検地によって、それまで中央の政治のえいきょうをあまりうけなかった東北地方も、全国一律の支配のなかに組みこまれたのです。これをうけついだ徳川幕府は、東北地方の大名をつぎつぎに入れかえました。

東北地方の城には、江戸時代になって新しくつくられたものが多く見られます。ほかの地方では、戦国時代から安土桃山時代の城が多いのにくらべて、大きな特徴です。

ここでは、東北地方のおもな城と城下町をたずねてみましょう。

■弘前城跡■

㊫青森県弘前市下白銀町
㊫JR奥羽本線弘前駅下車、徒歩15分

弘前城跡には一八一〇年に再建された3層の天守閣があります。ちょっとかわった天守閣で、表側から見ると破風という屋根のかざりがあるりっぱな城ですが、裏側から見ると破風がなく、のっぺりした感じをうけます。江戸時代になると、幕府が一国一城令を出すなど、大名の城づくりにきびしい規制をしたために、弘前城のような略式の天守閣も多かったのです。

弘前城は津軽藩主の居城で、一六一一年にきずかれました。3重の堀にかこまれた大きな城で、最初は5層の天守閣でした。今の天守閣は再建されたものですが、追手門や東門などは築城当時のままのこっています。城跡は弘前公園として整備され、桜の名所です。また、**弘前市立博物館**や植物園もあり、おとずれる人がたえません。

●付近の史跡● 弘前市には、城下町のなごりをとどめる美しい町なみがのこっています。また、明治時代にたてられた洋風建築の建物も見られます。城跡にも近い**青森銀行記念館**は、明治時代の後期にたてられた木造2階建てのどうどうとした洋館です。

■盛岡城跡■

㊫岩手県盛岡市内丸
㊫JR東北本線盛岡駅下車、徒歩20分

盛岡城は南部藩主の居城でした。一六〇〇年前後にたてられましたが、築城のとき、たびたび北上川の水害になやまされ、川筋を改修したとつたえられます。はじめは不来方城とよばれていましたが、後に盛岡城

とあらためられました。天守閣はたてられず、3層の櫓をたてて天守のかわりにしていました。現在はその櫓もなく、石垣と堀跡がのこるだけです。

●付近の史跡● 盛岡市本宮に、原敬の生家と**原敬記念館**があります。原敬は、南部藩の家老の家に生まれ、大正時代に平民としてはじめての内閣総理大臣になったことで知られる人です。また、盛岡から青森方面へ向かった渋民の地は明治時代の詩人石川啄木のふるさとです。渋民駅から徒歩30分のところに**石川啄木記念館**があります。

■仙台城（青葉城）跡■

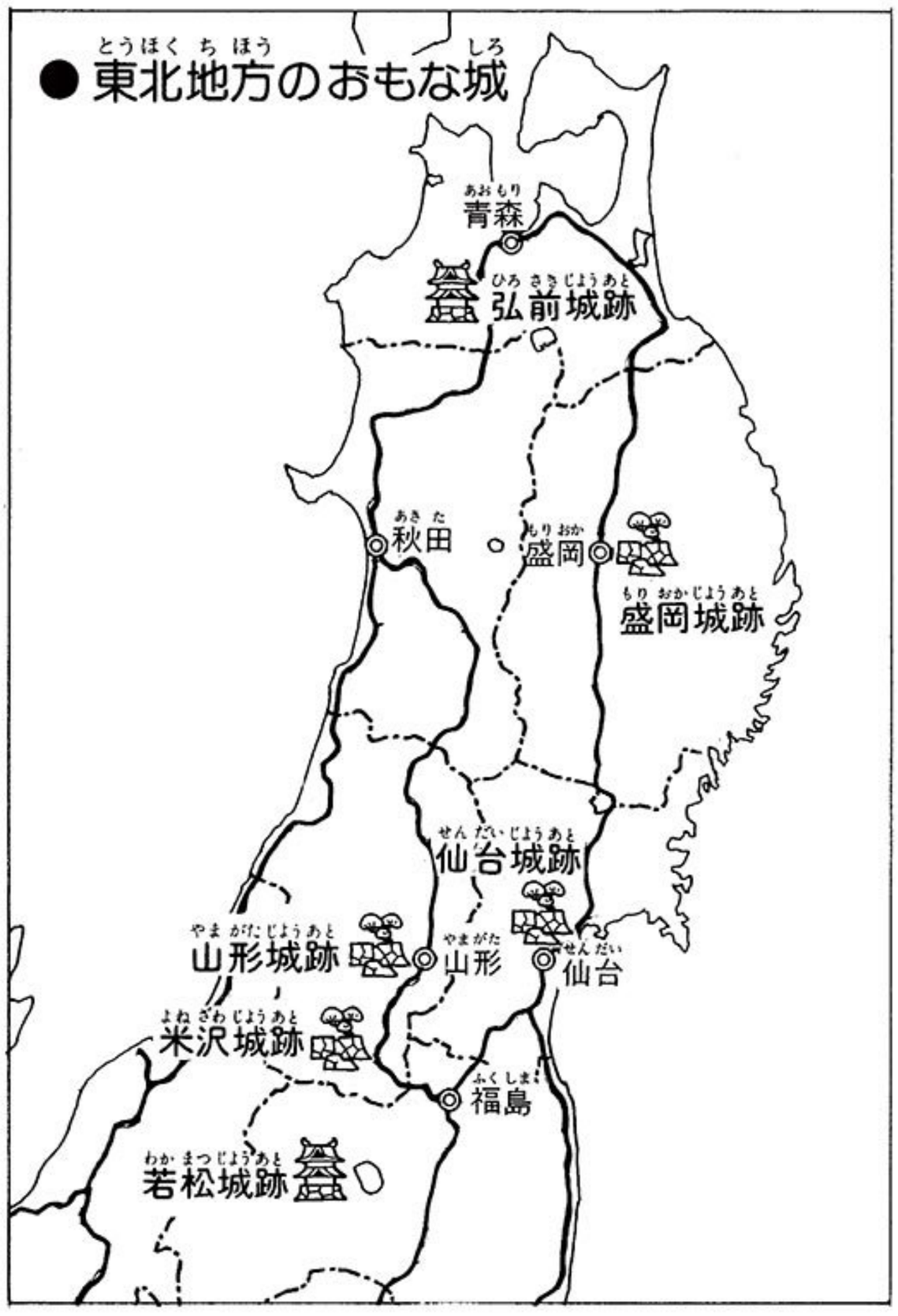
㊫宮城県仙台市青葉山
㊫JR東北本線仙台駅よりバス、仙台城跡南下車

江戸時代のはじめに、伊達氏の居城としてきずかれた城です。伊達氏は、東北地方の半分近くを支配していた戦国大名でした。江戸時代になっても、現在の宮城県のほぼ全域をおさめる大名として君臨しました。

仙台城は、仙台市街の西部にある青葉山丘陵にありました。南は深い峡谷、東は広瀬川にのぞむ断崖という天然の要害の地でした。天守閣はなく、東西、南北とも200メートルをこえる大きな館をたてて政庁にしました。現在は、建物もすべて消失し、復元した櫓や石垣などがのこるだけですが、伊達政宗の像や、詩碑、神社があり、青葉山公園として市民に親しまれています。山上からは仙台市街を一望できます。

三の丸跡にある**仙台市博物館**には、伊達氏ゆかりの美術品などが展示されています。

●付近の史跡● 伊達政宗の廟所（墓地）は、城跡から広瀬川をへだてたところにあります。**瑞鳳殿**とよばれ、再建された本殿や拝殿と資料館があります。



白虎隊をしのぶ会津若松

第16巻第4章を見よう。

一八六八年4月に徳川幕府が新政府に江戸城をあけわたしたあとも、旧幕府軍の新政府にたいする抵抗があいつぎました。東北地方の各藩は、会津藩を中心に同盟して新政府とたたかいました。

新政府軍は会津若松にせめ入り、会津軍は若松城にこもってはげしい戦いをくりかえしましたが、1か月あまりで降伏しました。この会津戦争に、会津藩の16・17歳の少年たちが白虎隊を編成してくわわり、悲劇的な最期をとげたことはよく知られています。

ここでは、会津戦争や白虎隊をしのんで会津若松をたずねましょう。

（白虎隊士）

■若松城（鶴ケ城）跡■

所 福島県会津若松市追手町
交 JR磐越西線会津若松駅よりバス、鶴ケ城北口下車

若松城が最初にきずかれたのは室町時代のはじめで、安土桃山時代に大改造され、7層の天守閣と複雑なしくみをもつ大規模な城になりました。その間、若松城の城主は何回もかわり、最後の城主となったのが、徳川二代将軍と血縁の保科氏です。保科氏は、後に松平と姓をあらため、幕末まで会津を支配しました。

一八六八年の戊辰戦争のとき、会津藩は1か月間も城にこもって、新政府の軍隊とたたかいました。会津藩が降伏した数年後に、天守閣や櫓はとりこわされました。現在の天守閣は、近年になって復元されたものです。内部は、郷土歴史資料館として、戊辰戦争のときの資料や郷土の文化財が展示されています。

●付近の史跡● 城跡の北東に、**会津松平氏庭園**があります。もとは薬草をさいばいしていたため、「御薬園」ともよばれています。市街の東、東山温泉へのとちゅうにある**会津武家屋敷**では、歴史資料館や復元された家老屋敷を見学できます。

▼白虎隊の最期 ⇨第16巻132・133ページ

■飯盛山■

所 福島県会津若松市一箕町
交 JR磐越西線会津若松駅よりバス、飯盛山下車

会津若松市街の北東にある飯盛山は、白虎隊の悲劇の地として知られています。

一八六八年8月23日、新政府軍にやぶれて退却のとちゅう、150メートルもの用水用

のトンネルをくぐりぬけ飯盛山にたどりつきます。このとき、もえあがる城下を見て、若松城がやけおちたものと見まちがえた19名の隊士たちは、全員自決してしまいます。この話は、戊辰戦争の悲劇の象徴として語りつがれてきました。

自決した19名の隊士と、戦死した31名の隊士の墓が飯盛山の中腹にならんでいます。また、山麓に**白虎隊記念館**もあり、白虎隊関係の資料が見学できます。

●付近の史跡●

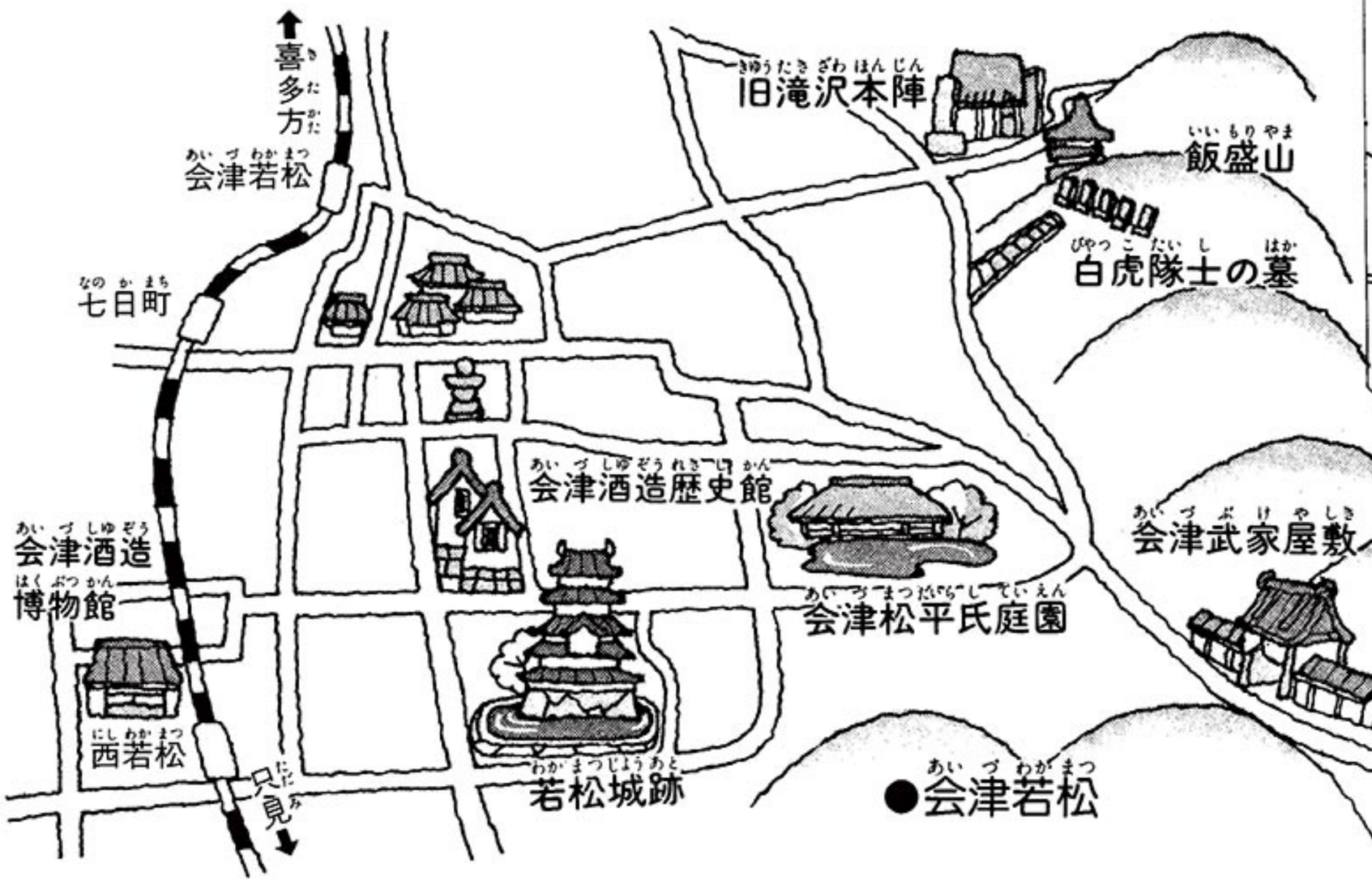
飯盛山からも近い滝沢は旧街道ぞいの宿場だったところで、**旧滝沢本陣**の横山家があります。ここは、戊辰戦争のときには会津藩の本営になり、弾や刀のあとがのこっています。

▲若松城址と会津藩公行列

▲白虎隊士の墓

●足をのばして●

会津地方には、多くの民俗資料が保存されています。猪苗代湖のほとりにある**会津民俗館**は、会津の代表的な民家の曲屋造の農家を移築して民俗館としたところで、内部には、会津地方の仕事着や寝具がたくさんならべてあります。そのとなりは、世界的な伝染病の学者野口英世の生家と**野口英世記念館**です。また、南会津町には、会津の山村の生活用具をあつめた**奥会津博物館**があり、収蔵品や展示品の多くが国の重要有形民俗文化財に指定されています。会津若松の北にある喜多方市は、会津北部の中心地で江戸時代には、酒・みそ・しょう油などの産業が発達していたところです。



東北地方のおもな資料館と博物館

東北地方にあるおもな資料館と博物館をとりあげました。休館日は、各館ごとにことなりますので、事前にしらべておきましょう。

青森県

青森県立郷土館

所 青森市本町

交 JR青森駅下車、徒歩20分

八戸市博物館

所 八戸市根城

交 JR八戸駅よりバス、根城下車

弘前市立博物館

所 弘前市下白銀町

交 JR弘前駅よりバス、市役所前下車

岩手県

岩手県立農業科学博物館

所 北上市飯豊

交 JR北上駅よりバス、農業研究センター前下車

北上市立博物館

所 北上市立花

交 JR東北本線北上駅よりバス、展勝地下車

青森県の歴史・自然・民俗、そして未来についてのコーナーをもうけて展示している。考古資料をあつめた風韻堂コレクションのなかには、有名な遮光器土偶もある。県特産のリンゴの歴史資料も見学できる。

八戸を中心に、考古・民俗・歴史にかんする資料を収蔵、展示している。考古資料は、是川遺跡や一王寺塚遺跡からの出土品が見られる。また、農漁村の民俗資料も豊富である。

弘前城跡につくられた弘前公園の園内にある博物館。津軽地方の歴史・考古・民俗などの資料を収蔵・展示している。弘前城史料館（弘前城天守閣内部）も、あわせて見学してみるとよい。

「農業れきし館」では、凶作や飢饉に苦しめられた農業の歴史や、農機具や生活用具の移り変わりから農村生活を知ることができる。また「農業かがく館」では、現在の農業についてクイズやパズルで楽しく学べる。

北上市周辺の考古・歴史・自然をふくむ総合博物館。北上川流域には石器時代から数百年前までの遺跡があり、そこからの出土品や館跡などの資料を見学できる。江戸時代の民家も移築されている。

中尊寺讃衡蔵

㊫西磐井郡平泉町
㊥JR東北本線平泉駅よりバス、中尊寺下車

奥州藤原氏三代によって保護され、繁栄した中尊寺の宝物類を収蔵・展示している。藤原文化の粋をあつめた書画・工芸・彫刻などのほか、藤原三代の棺や副葬品も見学できる。

宮城県

仙台市博物館

㊫仙台市川内三の丸跡
㊥JR仙台駅よりバス、博物館前下車

伊達家ゆかりの美術・工芸・歴史資料を中心に、支倉常長関係資料、林子平関係資料などを収蔵・展示している。

東北歴史博物館

㊫多賀城市高崎
㊥JR東北本線国府多賀城駅下車

東北地方全域の歴史・考古・民俗資料を展示している。多賀城や松島周辺の貝塚からの出土品、とくに骨角器にはすぐれたものが多い。資料館とともに、近くにある多賀城跡も見学するとよい。

地底の森ミュージアム

㊫仙台市太白区長町南
㊥JR長町駅下車、徒歩20分

旧石器時代の富沢遺跡を中心とした博物館。発掘調査で見つかった約2万年前のたき火のあとや樹木群を、そのままの状態で展示している。また野外には氷河期時代の植物を植え、当時の森を再現している。

秋田県

雪国民俗館

㊫秋田市下北手
㊥JR秋田駅よりバス、ノースアジア大学前下車

ノースアジア大学キャンパス内にあり、秋田を中心とした東北の民俗資料を収蔵・展示している。箱形のくりぬき船(大沼のきっつ)をはじめ、雪国の衣・食・住の生活を知るための資料が数多く見学できる。

秋田県立博物館

㊫秋田市金足鳥崎字後山
㊥JR奥羽本線追分駅下車、徒歩20分

秋田県の考古・歴史・民俗・生物・地質などをふくむ総合博物館。展示室では、地質時代から現代にいたる秋田のおいたちを立体的に見学できるようになっている。分館は江戸時代の民家を移築したものである。

角館町樺細工伝承館

㊫仙北市角館町表町

生活用具などの民俗資料を収蔵・展示している。角館では江戸時代に身分の低い武士がはじめたという樺細工(山桜の皮をつかった工芸品)が

㊐JR田沢湖線角館駅下車、徒歩20分

山形県

致道博物館

㊝鶴岡市家中新町
㊐JR羽越本線鶴岡駅よりバス、致道博物館前下車

出羽三山歴史博物館

㊝鶴岡市羽黒町
㊐JR羽越本線鶴岡駅よりバス、羽黒山頂下車

山形県立博物館

㊝山形市霞城町
㊐JR山形駅下車、徒歩15分

福島県

会津武家屋敷

㊝会津若松市東山町
㊐JR磐越西線会津若松駅よりバス、会津武家屋敷前下車

奥会津博物館

㊝南会津郡南会津町
㊐会津鉄道会津田島駅下車、徒歩15分

若松城天守閣郷土博物館

㊝会津若松市追手町
㊐JR磐越西線会津若松駅よりバス、鶴ケ城北口下車

つくられており、その製作工程も見学できる。

旧庄内藩主酒井氏邸内にある博物館で、敷地内には旧藩主御隠殿、旧鶴岡警察署庁舎、旧渋谷家住宅などが移築され、それぞれの内部で展示を行っている。また、民俗資料展示館・民具の蔵では庄内地方のばんどり、木製酒器、仕事着、くりもののコレクションが見学できる。

「出羽三山」とは、月山・湯殿山・羽黒山の総称で、古くから修験道がさかえた。出羽三山神社の宝物をはじめ、修験道関係の資料・仏像・銅鏡などを収蔵・展示している。

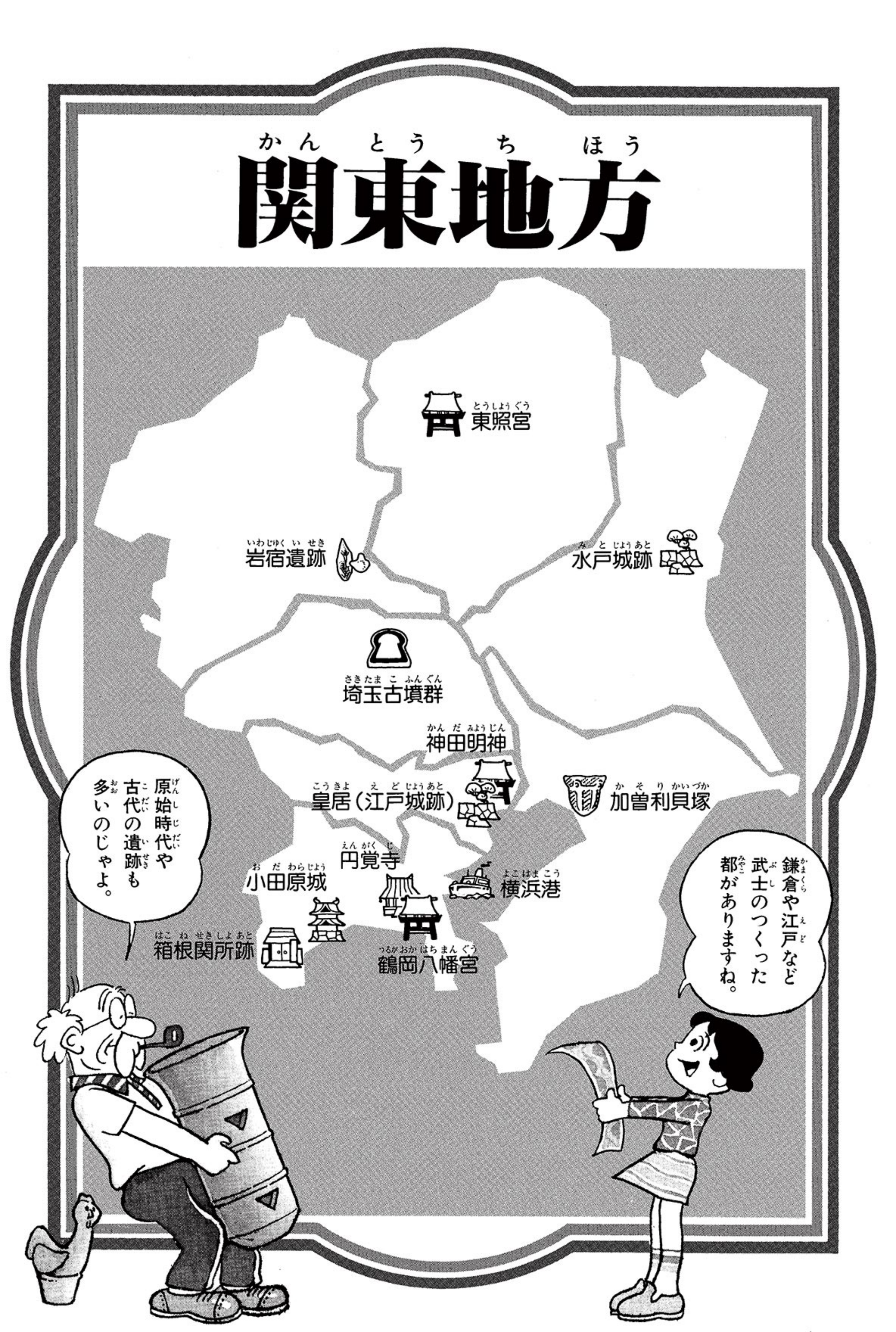
考古・民俗・動物・植物・地質にかんする資料をあつめた総合博物館。山形の歴史にかんする展示は、最上川、出羽三山、米づくりのテーマをもうけ、写真やジオラマによってわかりやすく解説している。

復元された家老屋敷を中心に、中畑陣屋、白河藩精米所、嶺南庵茶室などが移築・復元されている。歴史資料館では、会津の歴史と、仏教文化、武家文化の資料、会津周辺からの出土品などの資料を見学できる。

博物館の建物は、一八八五年(明治18)にたてられた南会津郡役所を移築したもので、内部には、地元の民俗研究家の収集した民俗資料が多数展示されている。

鉄筋コンクリート造5階建ての天守閣を再現した建物。考古資料、歴代領主にかんする資料、戊辰戦争・白虎隊関係資料を各階に配置・展示している。走り長屋では、民俗関係資料が見学できる。

関東地方


東照宮
岩宿遺跡
水戸城跡
埼玉古墳群
神田明神
皇居（江戸城跡）
加曽利貝塚
円覚寺
小田原城
横浜港
箱根関所跡
鶴岡八幡宮
原始時代や古代の遺跡も多いのじゃよ。
鎌倉や江戸など武士のつくった都がありますね。

関東地方の原始時代の遺跡と古墳

関東地方で人間が生活をはじめたのは、今から約10万年前ころと考えられています。

関東地方の縄文時代には、海岸線が現在よりずいぶん内陸側にありました。これは縄文時代の貝塚の分布でもわかります。弥生時代の遺跡は、縄文時代の遺跡にくらべると少なく、時期も短かっただろうと考えられます。その後、大和政権が支配したため、関東地方には大きな古墳が数多く分布しています。

ここでは、関東地方の原始時代の遺跡と古墳をたずねてみましょう。

■岩宿遺跡■

所 群馬県みどり市笠懸町
交 JR両毛線岩宿駅下車、徒歩10分

日本には旧石器文化はない、というそれまでの学説をくつがえし、日本にも縄文時代以前の文化が存在することを初めて証明したことで有名な岩宿遺跡の発見（一九四六年）は、歴史上重大な事件でした。この日本列島の人類史最初の時代を私たちは、「岩宿（旧石器）時代」とよびます。

槍先形石器を発見した地層は、現在は岩宿ドームとして保護されていて、見学することができます。

岩宿遺跡で発見された石器は、東京の明治大学にありますが、高崎市にある**群馬県立歴史博物館**では精密な複製をつくり展示しているほか、旧石器時代の生活の様子も復元されています。また、岩宿遺跡のすぐ近くに**岩宿文化資料館**があります。この資料館は岩宿時代の再現模型があるほかに、岩宿人のくらしぶりが体験学習できる広場があるので、ぜひ行ってみましょう。

■加曽利貝塚■

所 千葉県千葉市若葉区桜木町
交 JR総武線千葉駅よりバス、桜木町下車

縄文時代の前期には、今の埼玉県や茨城県まで海が入りこんでいました。当時の海岸線の近くには、食糧にした貝のからをすてたあとみられる貝塚があります。加曽利貝塚は日本でもっとも大きい貝塚（東西170メートル、南北300メートル）です。

貝塚へ行ってみると、その広さにおどろきます。当時の人びとにとって、貝類がたいせつな食糧であったことがよくわかります。貝塚全体は公園化してよく保存されていて、貝塚の形やムラの配置などがわかるようになっています。

▲さきたま古墳公園

●見どころ● 敷地内に**加曽利貝塚博物館**があり、出土品などが展示されています。貝塚の学習をするためにはぜひとも行ってみましょう。

■埼玉古墳群■

㊫埼玉県行田市埼玉
㊋JR高崎線吹上駅よりバス、産業道路下車

関東地方は、全国でも大型古墳の多い地方です。埼玉古墳群はその代表例で、115文字の銘文をもつ鉄剣が発見された稲荷山古墳も、この古墳群の中にあります。埼玉古墳群は、国の史跡に指定されており、**さきたま古墳公園（さきたま風土記の丘）**になっています。古墳の築造は5世紀後半から6世紀といわれています。

古墳群は9基の大型古墳からなっています。公園内は遊歩道がつくられているので、ゆっくりと古墳の見学ができます。県立**さきたま史跡の博物館**には、鉄剣をはじめとする出土品の数かずが展示されています。

●見どころ● 鉄剣の出土した稲荷山古墳は、発掘調査のあとも、そのまま保存されているため、遺体を埋葬した部分を見ることができます。

●付近の史跡● 古墳群のなかには、一五九〇年に豊臣秀吉の命をうけた石田三成が忍城を水攻めにしたさいにきずいた**石田堤**の一部がのこっています。また、江戸時代の忍藩主松平家の墓所もあります。古墳群東端には式内社の**前玉神社**や奈良時代の瓦が出土した**盛徳寺跡**があります。

■観音山古墳■

㊫群馬県高崎市綿貫町
㊋JR高崎線高崎駅よりバス、岩鼻下車

6世紀から7世紀前半につくられた、東日本の中心地域、上毛野国の代表的な前方後円墳といわれ、須恵器、土師器、鉄器などが出土しています。観音山古墳は国の史跡に指定されており、出土品などは、近くの**県立歴史博物館**で見ることができます。

武士政権の拠点・鎌倉

源頼朝が幕府をひらいた鎌倉は、三方を山に、一方を海にかこまれており、まもりやすくせめにくい地形をしています。頼朝は、この地に源氏ゆかりの鶴岡八幡宮を中心として町づくりをすすめました。

当時の町の様子は、最近の発掘調査によりだんだんにわかってきています。室町時代にも足利基氏やその子孫が鎌倉府をおいて関東を支配しましたが、一四三八年の永享の乱のあとは、政治とは関係がなくなりました。

現在の鎌倉は、住宅地として発展していますが、道すじや古い寺でらに当時のおもかげをのこしています。

（源頼朝）

■鎌倉への道■

三方を山にかこまれた鎌倉へは、峠をこえて行かなければなりませんでした。そこで北条泰時は、山を切りくずして道を整備しました。これが巨福呂坂や朝比奈峠の道です。江戸時代には「切通し」とよばれました。東側から名越切通、朝比奈切通、巨福呂坂切通、亀ケ谷切通、化粧坂切通、大仏坂切通、極楽寺坂切通の七か所です。これらの切通しを通ると、道はすべて鶴岡八幡宮へむかいます。現在の切通しには、朝比奈切通など、昔のおもかげをのこしているところもあります。

▲朝比奈切通

■鶴岡八幡宮■

所 神奈川県鎌倉市雪ノ下
交 JR横須賀線鎌倉駅下車、徒歩10分

鎌倉の中心は、源氏の守護神である八幡神をまつった鶴岡八幡宮です。この神社は頼朝の先祖の源頼義が海岸近くの由比鶴岡に造営したものを、頼朝が鎌倉を本拠とするにあたって、現在の地にうつしたものです。頼朝は、鶴岡八幡宮を京都の内裏にみたてて鎌倉の中心としました。

正面の大鳥居から境内に入ると広い池（源平池）があり、太鼓橋がかかっています。参道をすすみ、毎年9月16日の流鏑馬が行われる馬場を横切ると、若宮に出ます。さらに石段をのぼると本宮があります。ここからは鎌倉の町がよく見えます。この石段で、三代将軍実朝が暗殺さ

れたとつたえられます。現在ある八幡宮の建物は、神社の宝物類を展示している宝物殿のそばの丸山稲荷社だけが室町時代の建築で、ほかはすべて江戸時代に再建されたものです。

境内の東側には**鎌倉国宝館**があり、鎌倉の古社寺につたわる文化財を展示しています。

●付近の史跡●　鶴岡八幡宮正面からまっすぐ南にのびる道は若宮大路とよばれ、京都の朱雀大路にあたるメインストリートです。この若宮大路を八幡宮から海へむかって歩くと、二の鳥居までの道路の中央に**段葛**とよばれる石積みの堤が続いており、鎌倉時代のおもかげをのこしています。この二の鳥居の手前左側の宇都宮稲荷社あたりが、**宇都宮辻子幕府跡**です。ここは、頼朝のつくった大蔵幕府を四代将軍九条頼経がうつしたものです。さらに北へすすむと**若宮幕府跡**で、一二三六年から鎌倉幕府滅亡まで幕府がおかれた場所といわれています。

■鎌倉大仏■

㊫神奈川県鎌倉市長谷
㊋JR横須賀線鎌倉駅よりバス、大仏前下車

鎌倉では、「鎌倉大仏」として親しまれている高徳院阿弥陀如来坐像を見おとすことはできません。像の高さ11メートル、奈良東大寺の大仏につぐ大きさです。一二五二年に鋳造をはじめたことがわかっています。当初は大仏殿がありましたが、一四九五年の津波により破損してしまい再建されていません。この大仏は、ただ大きいというだけでなく、鎌倉時代の彫刻としても優秀な作品です。

●見どころ●　大仏は内部が空洞になっているため、中に入ることができます。鋳造の方法などを考えながら見学しましょう。

▼鎌倉大仏

●付近の史跡●

鎌倉大仏の南には、観音信仰のさかんな**長谷寺**があります。ここの本尊である十一面観音菩薩の立像は木彫で、高さ9メートルもあります。この長谷寺は七三六年創建とつたえられ、鎌倉でももっとも古い寺の一つです。本尊の観音像は奈良の長谷寺の本尊と同じ木で、つくられたという伝説があります。境内からは、鎌倉の海岸が一望できます。長谷寺の北には、カイドウの花で有名な日蓮宗の**光則寺**があり、日蓮の高弟日朗が幽閉されたとつたわる土牢があります。長谷駅から江ノ島電鉄にのり極楽寺駅でおりると、目の前に真言律宗の**極楽寺**があります。極楽寺は、一二五九年、北条重時が律宗の僧忍性を開山として建立した寺です。忍性は、庶民への医療や道路の修築などの社会事業につくした僧侶として有名です。境内裏山には忍性の墓とつたわる五輪塔があります。

■円覚寺と建長寺■

円覚寺 ㊫ 神奈川県鎌倉市山ノ内
㊫ JR横須賀線北鎌倉駅下車、徒歩3分

建長寺 ㊫ 神奈川県鎌倉市山ノ内
㊫ JR横須賀線北鎌倉駅下車、徒歩20分

鎌倉には、大きな寺がたくさんあります。とくに、幕府の保護のもとに発展した鎌倉五山の禅宗寺院が有名です。JR横須賀線の北鎌倉駅から鎌倉方面へ少し歩くと、左手に見えるのが円覚寺です。円覚寺は執権北条時宗により、一二八二年に完成しました。開山は、中国の宋の禅僧無学祖元（仏光国師）です。一方、円覚寺から鎌倉市街へ通じる道を20分ほど歩くと、左手に建長寺があります。建長寺は、執権北条時頼により円覚寺より早く一二五三年に完成しました。開山は、やはり中国の宋より来日した禅僧蘭溪道隆（大覚禅師）です。

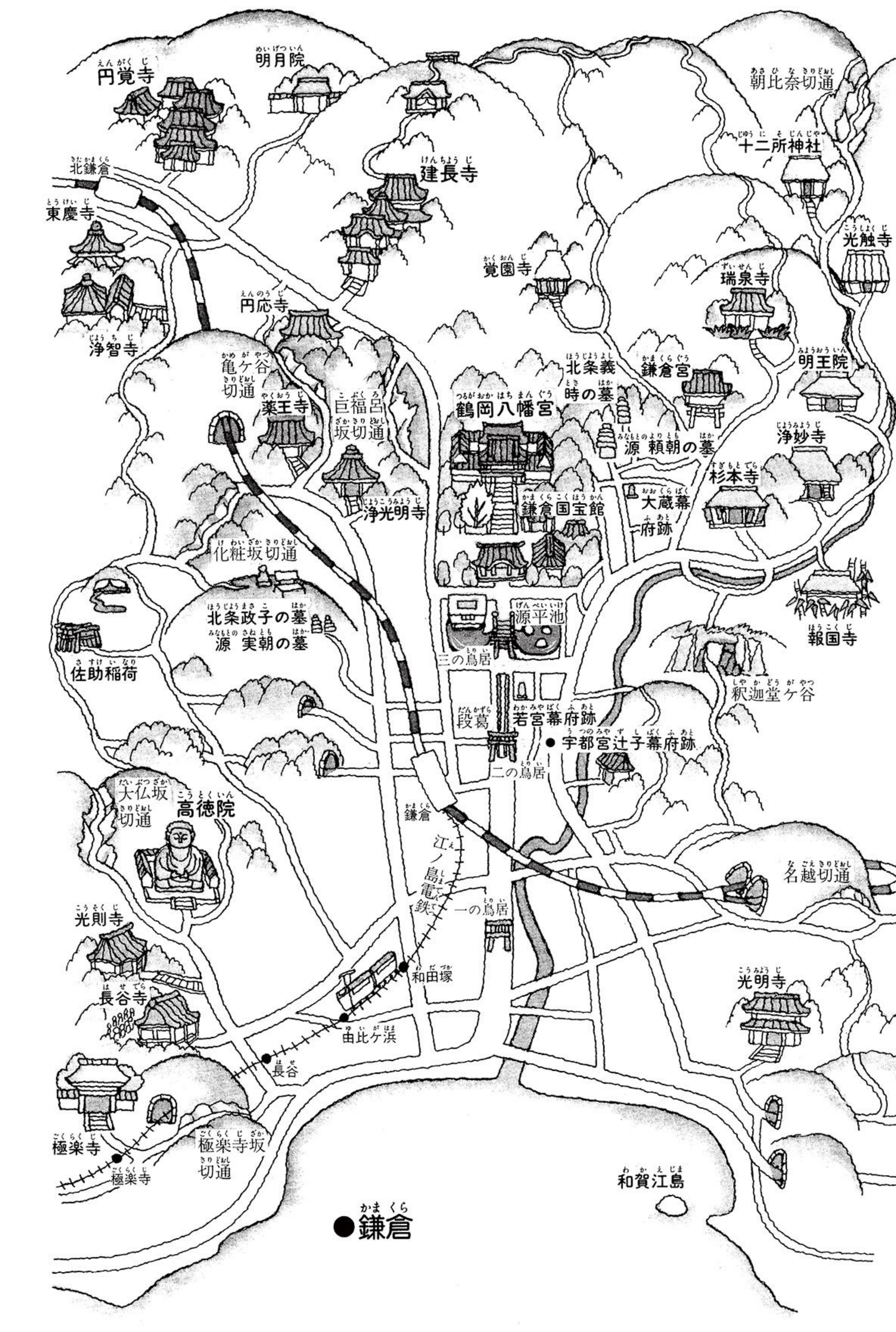
●見どころ●

円覚寺、建長寺ともに戦乱や火災、また関東大震災などのため、創建当時の建物はのこっていません。しかし、緑の多い広大な境内は、禅宗寺院特有のふんいきをかもしだしています。これらの禅宗寺院の特色は、三門、仏殿（本堂）、法堂（講堂）、方丈などのおもな建物が一直線にならび、左右対称となっていることです。円覚寺や建長寺も、そのような配置となっています。建物では、円覚寺の舎利殿が禅宗建築の特色をもっともよくのこしているものとして有名ですが、禅の修行の場とされているために公開されていません。横浜にある**神奈川県立歴史博物館**に行くと、実物大の内部模型が見られます。

▲建長寺

●付近の史跡●

円覚寺と建長寺の周辺には、ほかにもたくさんの寺があります。「駆込寺」として有名な**東慶寺**、五山第4位の**浄智寺**、アジサイの花で知られる**明月院**、閻魔十王の像をまつる**円応寺**などが、古都鎌倉のおもかげをのこしています。


円覚寺
明月院
朝比奈切通
十二所神社
北鎌倉
建長寺
東慶寺
光触寺
覚園寺
瑞泉寺
円応寺
浄智寺
明王院
北条義時の墓
鎌倉宮
亀ケ谷切通
薬王寺
巨福呂坂切通
鶴岡八幡宮
浄妙寺
源頼朝の墓
杉本寺
浄光明寺
鎌倉国宝館
大蔵幕府跡
化粧坂切通
北条政子の墓
源実朝の墓
源平池
報国寺
佐助稲荷
三の鳥居
釈迦堂ケ谷
段葛
若宮幕府跡
宇都宮辻子幕府跡
二の鳥居
大仏坂切通
高徳院
鎌倉
江ノ島電鉄
名越切通
一の鳥居
光則寺
和田塚
光明寺
長谷寺
由比ケ浜
長谷
極楽寺
極楽寺坂切通
極楽寺
和賀江島
鎌倉

黄門さまの水戸

茨城県の県庁所在地水戸市は、江戸時代に黄門さまで有名な水戸徳川家の城下町として発展した町です。関東地方では数少ない本格的な城下町であったため史跡も多く、歴史上重要な舞台ともなります。黄門さま、つまり徳川光圀の『大日本史』編さん事業や、幕末の思想に大きなえいきようをあたえた水戸学など、学問のさかんなところでもありました。

ここでは、水戸市に、水戸徳川家の史跡をたずねてみましょう。

■水戸城跡■

㊫茨城県水戸市三の丸
㊫JR常磐線水戸駅下車、徒歩5分

水戸の中心は水戸城跡です。水戸城は、鎌倉時代はじめに馬場資幹が館をつくって以来、江戸氏、佐竹氏が本拠とした場所で、一六〇九年家康の子頼房が入城してから整備されました。しかし現在は、城全体はとりこわされてなく、わずかに大手門跡と空堀におもかげをのこすのみで、城跡の敷地には学校と県庁などの官庁がたっています。城関係の遺構としては、三の丸跡に藩校の**弘道館**の建物が一部のこっています。弘道館は、第九代藩主斉昭が藤田東湖や会沢正志斎などの学者の意見により創設した学校です。幕末にさかんとなる水戸学とよばれた学問は、この弘道館を中心として発達しました。

●見どころ● 弘道館の正門、正庁、至善堂が見学できます。内部には、水戸藩の歴史にかんする資料や水戸学の学者たちの資料が展示されています。

■偕楽園（常磐公園）■

㊫茨城県水戸市常磐町
㊫JR常磐線水戸駅よりバス、偕楽園下車

日本三名園の一つとして名高い偕楽園は、藩主斉昭が「衆と偕に楽しむ場」として開設したもので、約11万500平方メートルの敷地に3千本におよぶ梅と杉がうえられ、好文亭、奥御殿などの建物があります。今でも昔のままに保存され、春の梅のシーズンには梅の名所としてにぎわいます。

●見どころ● 偕楽園は江戸時代の大名のつくった庭園がそのまま保存されている例として貴重です。好文亭や奥御殿などは公開されています。

●付近の史跡● 公園の東側には一八七三年（明治6）に、藩主光圀（義公）、斉昭（烈公）をまつるために設立された**常磐神社**があります。公園の北側には県の設置した**茨城県立歴史館**があり、茨城県の考古・歴史・民俗の展示が見られます。

家康をまつる日光

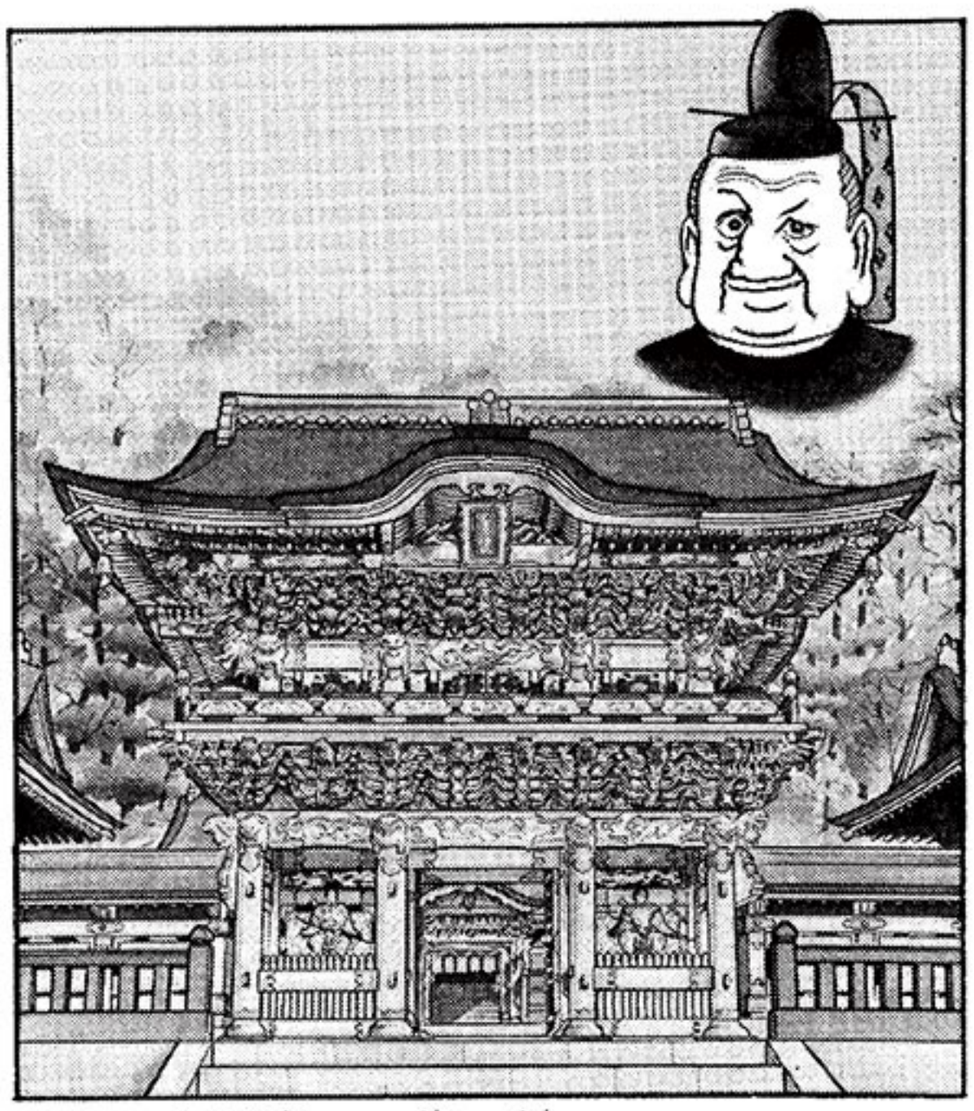
日光は、古代から男体山を中心とした山岳仏教の霊場としてさかえた地で、奈良時代に勝道上人がひらいたとつたえられています。

日光が歴史上とくに有名となったのは、一六一七年に徳川家康の廟所となってからです。家康をまつる東照宮を中心とした日光は、世界遺産に指定され、自然と史跡にめぐまれた観光地として、四季を通じて観光客のたえない名所となっています。

（徳川秀忠）

■東照宮■

所 栃木県日光市山内
交 JR日光駅または東武日光駅よりバス、神橋下車徒歩15分



▲東照宮　⇨第12巻75ページ

東照宮は、徳川家康没後、天海僧正の発案によりつくられた家康をまつる神社です。家康は、一六一六年になくなり、当初静岡県の久能山にほうむられましたが、翌年日光にうつされました。

●見どころ●　東照宮の表門にあたる陽明門は、別名「日暮の門」といわれ、白・黒・金を基調とした色彩には目をみはります。日が暮れるまで見とれてしまうほどすばらしいという意味です。ほかに、本地堂、拝殿、本殿など多くの建物があります。

●付近の史跡●　東照宮の手前の**輪王寺**は、奈良時代にひらかれたとつたえられる古い寺で、東照宮ができるとともに、その管理をする寺となり発展しました。明治以後、神仏分離により東照宮とわかれ、現在はべつべつになっています。東照宮の宝物殿をすぎると**二荒山神社**があります。七八二年に男体山頂をきわめた勝道上人がつくった神社です。ここを西へ行くと、三代将軍家光をまつった**大猷院**へ出ます。さらに、いろは坂をのぼると中禅寺湖へ出、男体山を間近に見ることができます。一方、東照宮から駅の方へもどると、東照宮とともに発展した門前町がひらけています。

▲二荒山神社

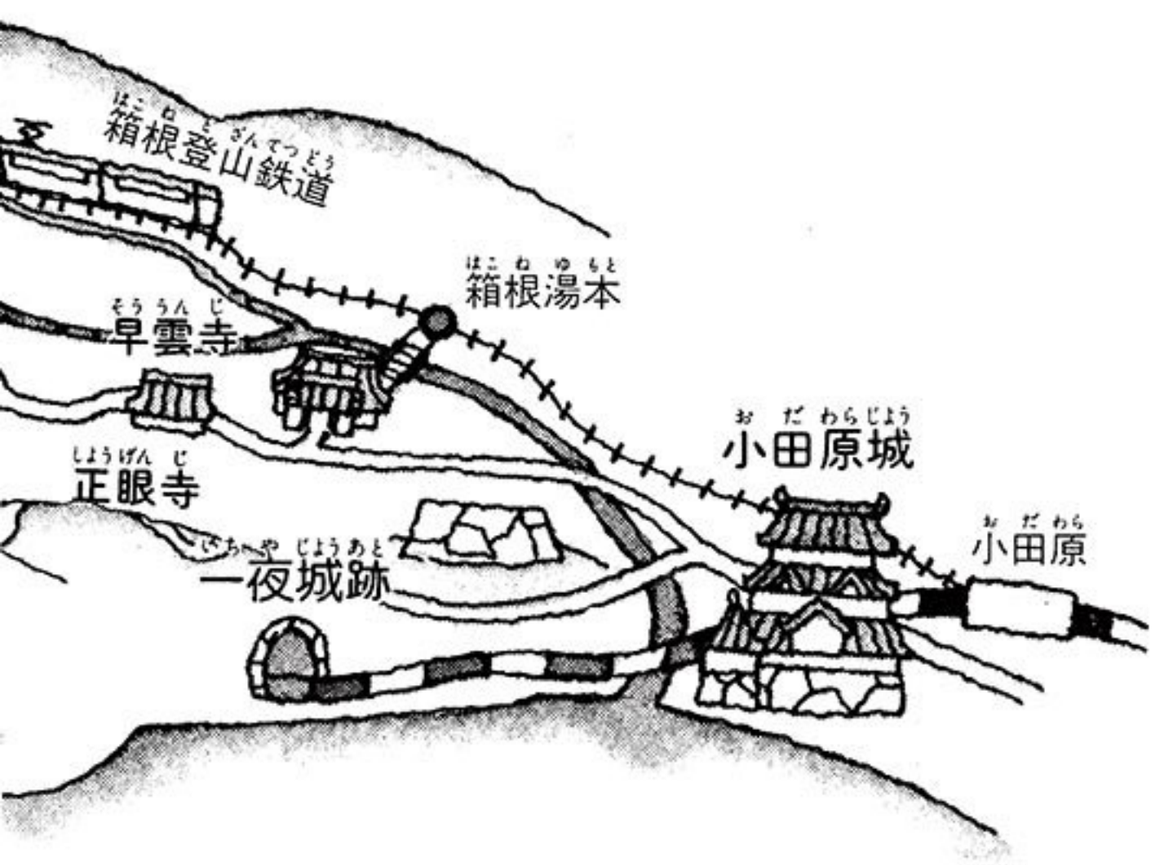
東海道を西へ、小田原と箱根

東海道は、江戸の日本橋から、品川、藤沢などの宿場をへて、最初の城下町小田原へ入ります。小田原は、戦国時代に関東の大半を支配下におさめた後北条氏が本拠とした地で、江戸時代に小田原城がきずかれました。江戸時代に入っても、小田原城は江戸の西方の守りとして重要な城でした。

小田原を出て西へむかうと、東海道最大の難所といわれた箱根の山道に入ります。箱根には関所がおかれ、すべての通行の人びとがしらべられました。

ここでは、小田原から箱根までの旧東海道を歩きながら、当時の旅の様子をふりかえってみましょう。

●箱根旧街道



■小田原城■

㊐神奈川県小田原市城内
㊋JR東海道本線小田原駅下車、徒歩10分

小田原は、鎌倉時代に土肥一族の小早川氏が館をかまえるなど、古くから重要な土地でした。戦国時代になると北条早雲が伊豆から進出し、大森氏を追い出して居城としました。この後、後北条氏の本拠地として城が整備されるとともに、城下町も発展しました。一五九〇年、豊臣秀吉の15万の大軍により小田原城は落城し後北条氏は滅亡しました。江戸時代に入ると小田原城は少し規模が縮小されました。天守閣は明治時代はじめにとりこわされましたが、昭和になって宝永年間の模型をもとに再建されました。

●見どころ●

関東一といわれる3層5階の天守閣には、小田原城にかんする資料が展示されています。また、最上階から見る富士山や箱根の山やま、相模湾のながめなどは雄大です。

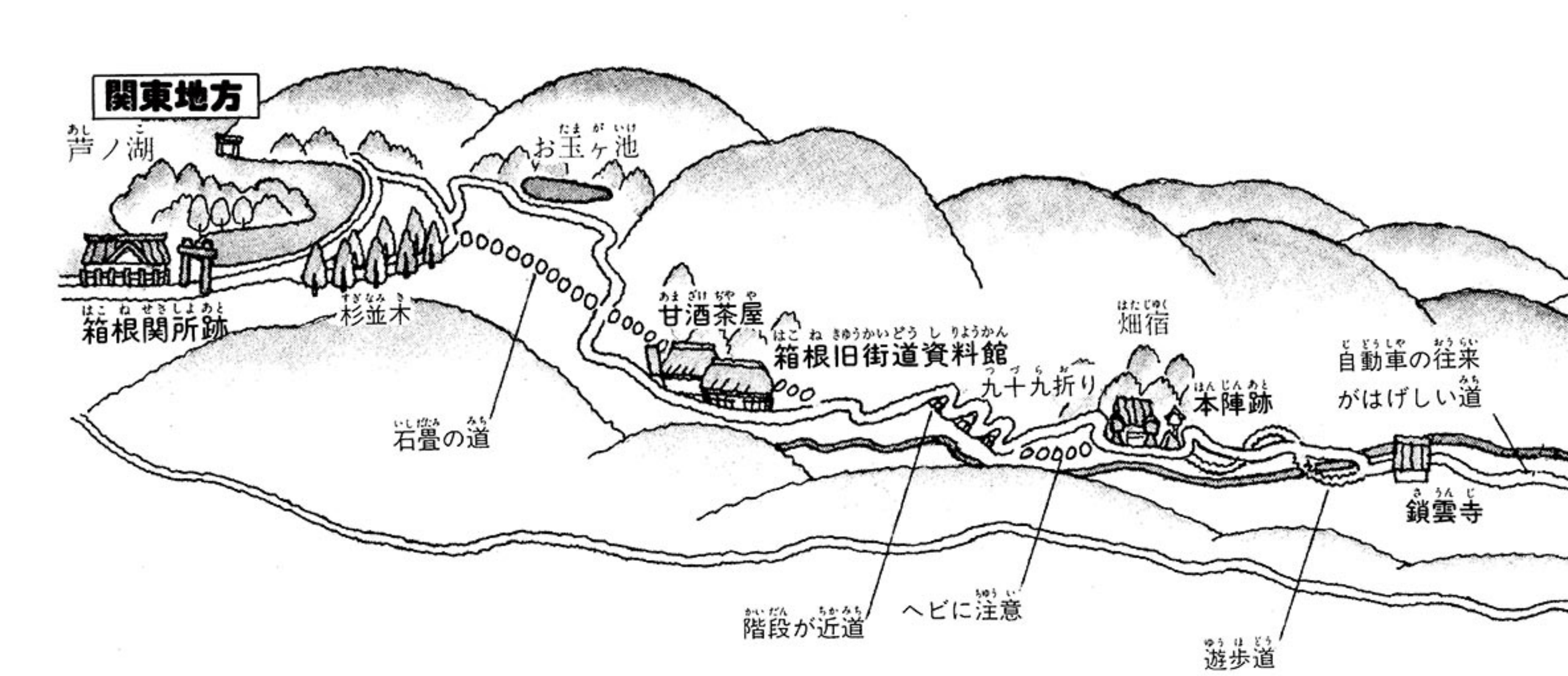
●付近の史跡●

小田原城の西方にある石垣山は、豊臣秀吉が小田原城をせめたとききずいたといわれる**一夜城跡**です。ここにのぼると、小田原城や町の様子がよくわかります。

■箱根関所跡■

㊐神奈川県足柄下郡箱根町
㊋JR東海道本線小田原駅よりバス、箱根町下車

東海道最大の難所といわれる箱根には、関所がもうけられていました。箱根関所跡は、芦ノ湖畔の旧東海道にあり、関所の建物が復元されています。当時は道の湖畔側にたっていましたが、復元された建物は山側にあります。建物の中には、役人や、女性



のとりしらべにあたった人見女の人形がおいてあり、きびしかったとりしらべの様子を再現してあります。

関所のとなりには、江戸時代に関所の番頭をつとめた須田家の資料などを展示した**箱根関所資料館**があります。

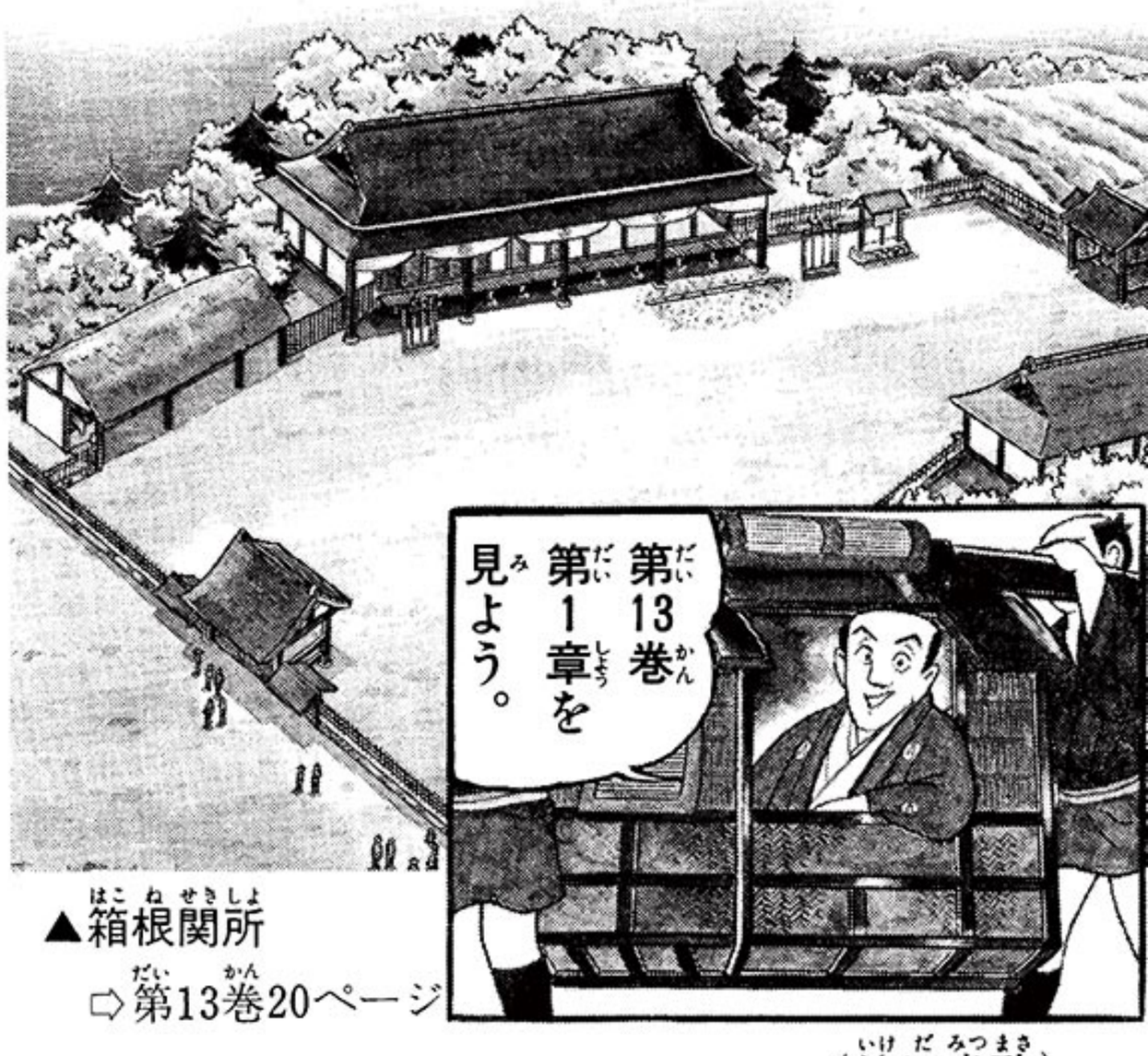
■箱根旧街道■

㊫神奈川県足柄下郡箱根町
㊋JR東海道本線小田原駅よりバス、元箱根下車

箱根関所跡から元箱根にかけての道は、江戸時代からの杉並木が姿をとどめています。元箱根から芦ノ湖のながめを背にして先へすすむと、旧東海道の石畳の道が、九十九折りまでつづいています。古くなって危険なところは修理されてきましたが、江戸時代からのこる所も数か所あります。道はけわしく、うっそうとした山やまにとりかこまれ、難所といわれたわけがよくわかります。

とちゅうの畑中の集落に、江戸時代からつづいている甘酒茶屋という茶店があり、となりに古い農家を移築した**箱根旧街道資料館**があります。九十九折りをこすと宿場としてさかえた畑宿の集落があります。

▲箱根旧街道



▲箱根関所

⇨第13巻20ページ

（池田光政）

江戸から東京へ

江戸の町は、徳川家康が幕府をひらくまでは、さびしい武蔵野の一部にすぎませんでした。江戸幕府ができると、全国の人びとがあつまり、またたく間に日本一の大都市となります。江戸城を中心に武家屋敷がつくられ、町人たちは、街道ぞいや下町にすんでいました。

明治維新をむかえると、江戸は東京とよばれます。近代国家の首都となった東京は、江戸のなごりをとどめながらも、西洋の文明のえいきょうをうけて大きくかわりました。

ここでは、首都東京の中に、江戸時代から明治維新のころまでのおもかげを追ってみましょう。

■皇居（江戸城跡）■

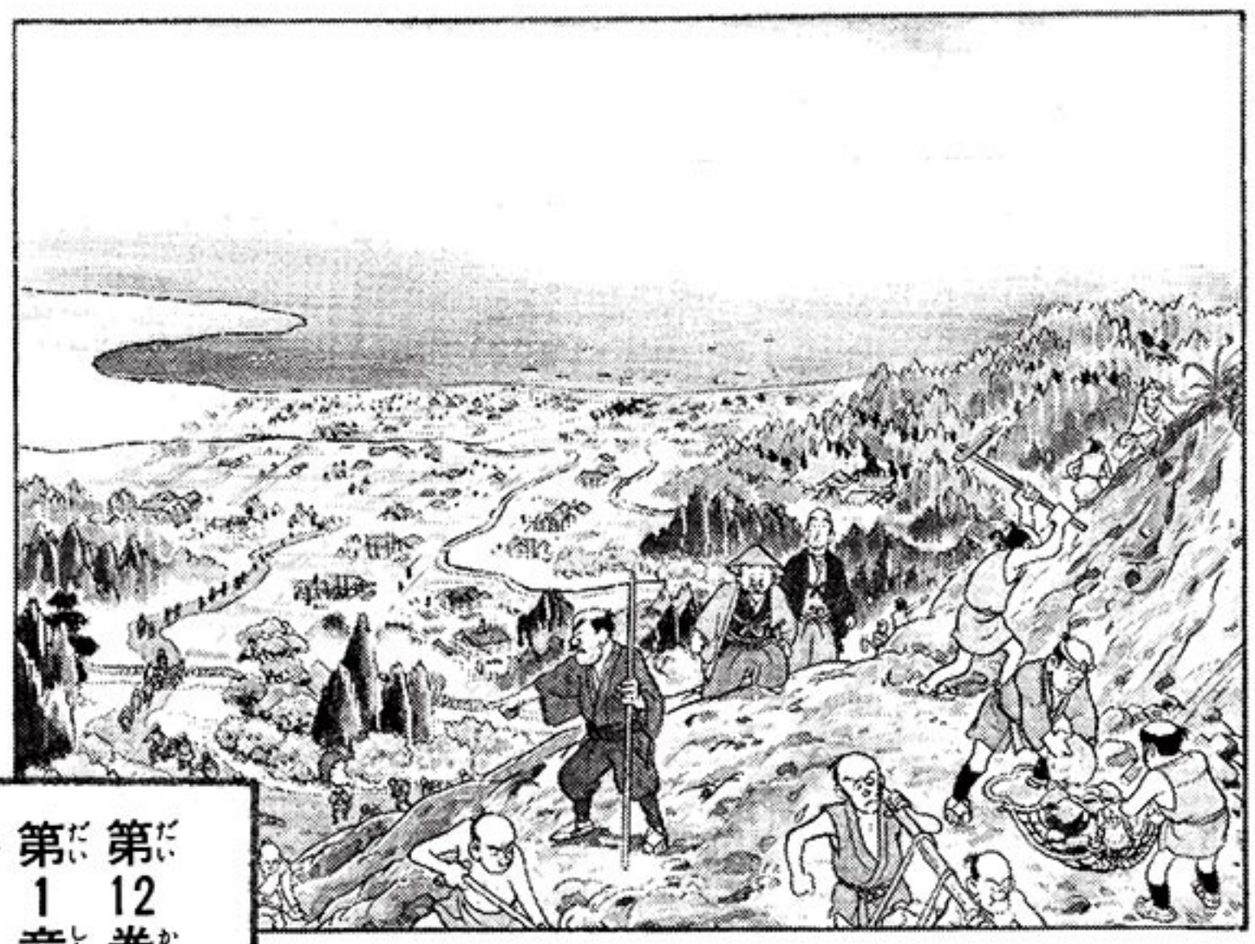
㊫東京都千代田区千代田
㊫JR東京駅より徒歩10分

現在の皇居が、江戸時代に江戸城だったところです。江戸城は、一四五七年に太田道灌によってきずかれ、一時、後北条氏が支配し、一五九〇年に徳川家康が入って、一五九〇年に徳川家康が入って、5層の天守閣をきずくなどの大改築をしました。三代将軍家光のとき、堀もふくめて完成しましたが、江戸時代の火事で天守閣をうしない、以後は天守閣のないままです。

明治維新により、天皇にあけわたされ、皇居となっています。

現在の皇居は旧西の丸にあり、見学はできませんが、旧本丸や旧北の丸が公開されています。大手門から入って旧本丸（東御苑）に行くと、城門や櫓があり、奥に天守閣跡の石垣を見ることができます。大手門から南へまわると、井伊直弼が暗殺された外桜田門があります。旧北の丸は、現在は北の丸公園になっていて、旧近衛師団司令部の建物がのこっています。

▲皇居の江戸城天守閣跡



▲神田山の切りくずし　⇨第12巻36ページ

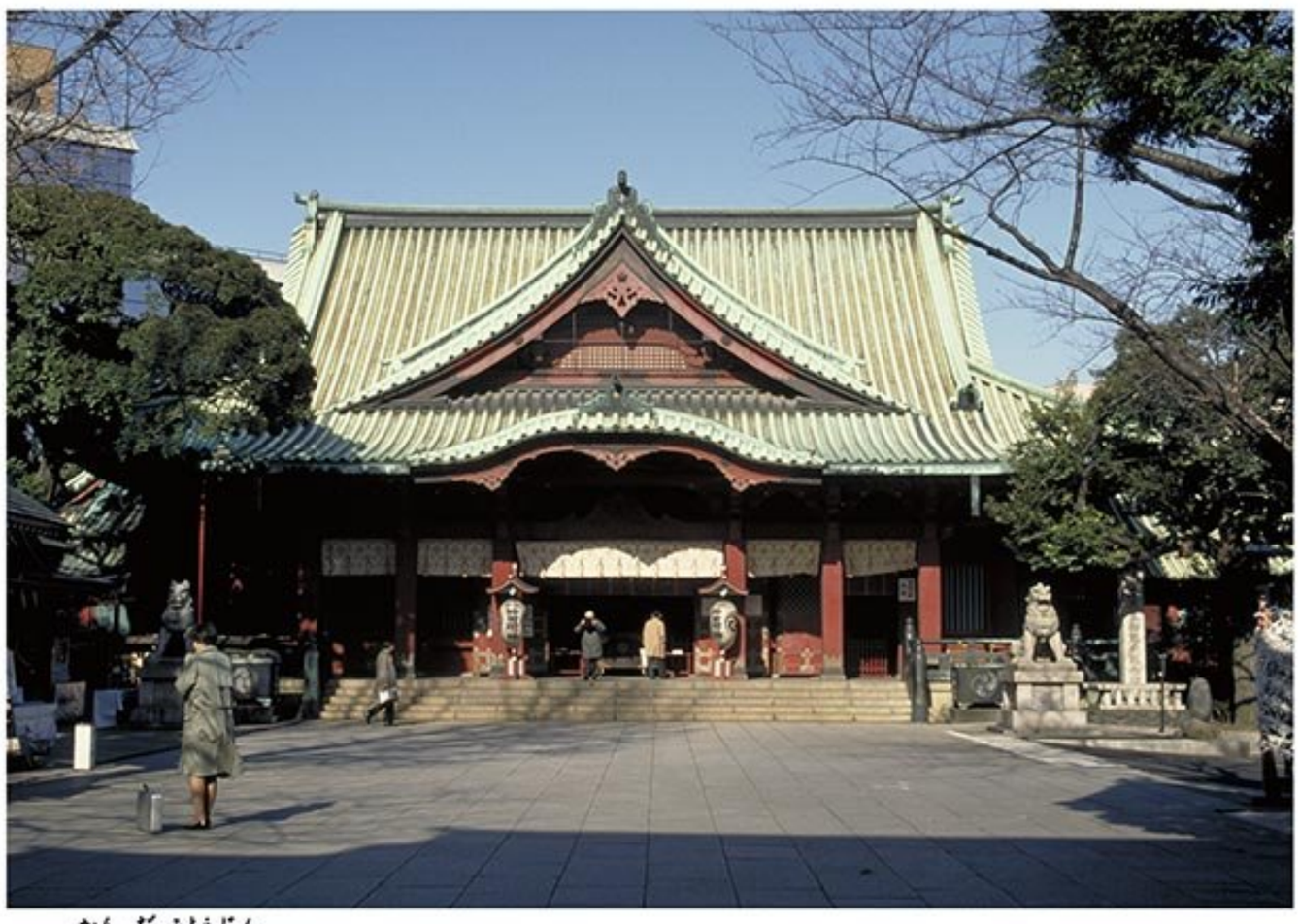
（徳川家康）

■神田明神■

所 東京都千代田区外神田
交 JR中央線御茶ノ水駅下車、徒歩5分

神田は、江戸の下町の中心部です。この神田明神は、奈良時代にはじまるといわれる古い神社で、江戸時代のはじめに江戸城の工事のため大手町から駿河台にうつされ、さらに一六一六年、現在の地にうつされたものです。以来、江戸っ子の守り神の一つとして親しまれてきました。

この神社では、1年おきの5月に、大きな獅子頭をはじめ、たくさんの御輿がねり歩く「神田祭」が行われます。この祭りは江戸時代から祭り好きの江戸っ子たちの人気をあつめていた、たいへんにぎやかなお祭りです。機会があれば、ぜひ一度見に行ってみましょう。


▲神田明神

（十返舎一九）

●付近の史跡●

神田明神から北にむかって歩いて行くと、梅祭で有名な湯島天神のある湯島、そして上野の森に出られます。上野公園は、西郷隆盛の銅像でよく知られています。公園の一番奥にある**寛永寺**は、京都の比叡山にならって江戸城をまもるため、徳川家につかえた天海僧正によってひらかれた寺です。墓地には、徳川家代だいの将軍の墓があります。現在、上野公園には、美術館や博物館などの文化施設がたちならんでいます。

■浅草寺■

所 東京都台東区浅草
交 地下鉄銀座線浅草駅下車

江戸の町人たちに「浅草の観音さま」と親しまれたお寺で、この観音像は隅田川で漁師のあみにかかったとつたえられています。境内には、南側の雷門から入るとよいでしょう。雷門から本堂にむかう仲見世通りにみやげ物屋がつづき、境内には、室町時代の建築といわれる六角堂や、江戸時代の二天門があります。また、浅草神社も境内の中にあります。5月の三社祭、7月の四万六千日という縁日、12月の羽子板市など、江戸時代からつづく祭りや縁日の日には、たくさんの人があつまります。

●付近の史跡●

浅草寺の境内を北へぬけて、言問通を右へまがり、しばらく行くと隅田川ぞいに出ます。両岸が**隅田公園**ですが、まっすぐに言問橋をわたって墨田区向島側の公園に行ってみましょう。ここは、八代将軍徳川吉宗が桜を植えさせ、江戸の町人たちが花見に来た場所です。

隅田公園から北に行くと、白鬚橋の近くに**向島百花園**があります。また、南に行け

ば、花火で有名だった両国橋のそばに**回向院**があります。

また、JR両国駅前の国技館のとなりに**江戸東京博物館**があります。ここには江戸時代の日本橋はもちろん、城下町や町人街、長屋などが復元して展示してあります。一見の価値があるので、ぜひ行ってみましょう。

両国橋から隅田川ぞいを下って行くと、新大橋の近くに、芭蕉が住んで弟子たちと俳句をのこした芭蕉庵の跡があり、ここに**芭蕉記念館**がたっています。さらにくだると下町の長屋住居や町人文化などを再現した**深川江戸資料館**があります。

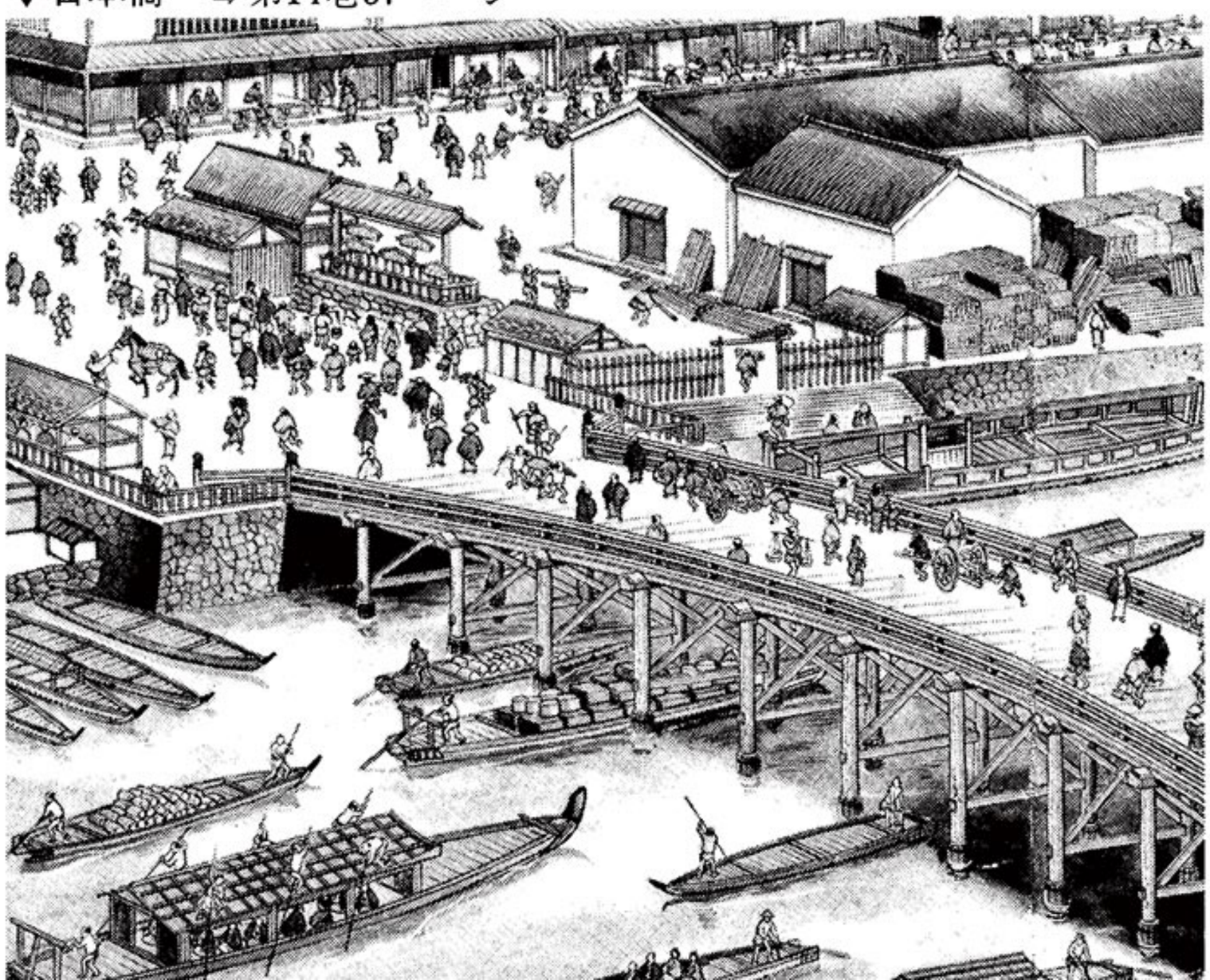
■日本橋・銀座・築地■

㊫東京都中央区日本橋・銀座・築地
㊌地下鉄銀座線日本橋駅下車

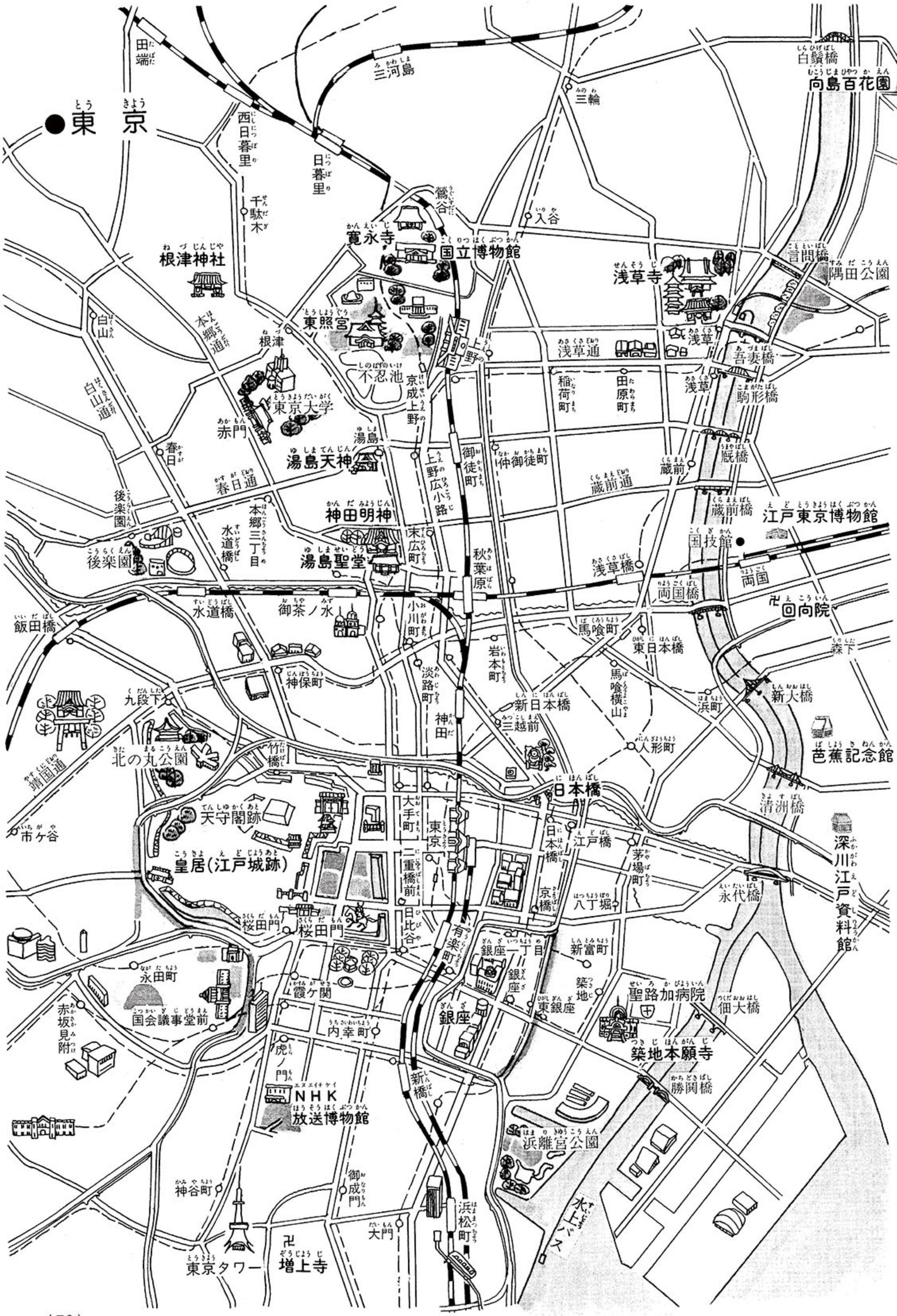
日本橋は、江戸の城下町をつくったときに、江戸城の東部をうめたてて橋をかけたもので、当時は木橋で50メートルあまりもありました。東海道や中山道などの起点とされ、江戸のなかでもっともにぎやかな所でした。今の橋は一九一一年建造で、ルネッサンス風の外観をしています。日本橋は今も一級国道の起点となっており、橋の中央に「日本国道路元標」がうめられています。

日本橋から南にまっすぐ通っている道が日本橋通で、京橋から銀座へとつづいています。江戸時代に銀貨をつくっていた場所が銀座で、銀座発祥地の碑が通りにたっています。明治時代になると文明開化のシンボルとして、ガス灯がたち、れんが造の商店がならぶ街となりました。

▼日本橋　⇨第14巻37ページ



銀座の東側一帯が築地です。築地は、明治時代初期の外国人の居留地になり、アメリカ公使館をはじめ外国人たちがすんでいた場所です。聖路加病院の東側が、その場所にあたります。聖路加病院の前に、**蘭学の泉の碑**があります。前野良沢や杉田玄白が『解体新書』を完成した場所です。ここは、福沢諭吉が洋学を教える塾をつくった、慶應義塾発祥の地でもあります。


東京
田端
西日暮里
日暮里
三河島
三輪
白鬚橋
向島百花園
千駄木
鶯谷
入谷
寛永寺
国立博物館
根津神社
言問橋
隅田公園
浅草寺
白山
本郷通
根津
東照宮
上野
浅草通
浅草
吾妻橋
不忍池
京成上野
稲荷町
田原町
駒形橋
白山通
東京大学
赤門
湯島
湯島天神
上野広小路
御徒町
仲御徒町
厩橋
春日
春日通
蔵前通
蔵前
蔵前橋
江戸東京博物館
後楽園
本郷三丁目
神田明神
末広町
国技館
水道橋
湯島聖堂
秋葉原
浅草橋
両国
両国橋
回向院
飯田橋
御茶ノ水
小川町
馬喰町
東日本橋
森下
岩本町
淡路町
神保町
馬喰横山
新大橋
九段下
新日本橋
浜町
神田
三越前
人形町
芭蕉記念館
北の丸公園
竹橋
靖国通
日本橋
清洲橋
天守閣跡
大手町
東京
江戸橋
市ケ谷
皇居(江戸城跡)
二重橋前
日本橋
茅場町
深川江戸資料館
京橋
八丁堀
永代橋
桜田門
桜田門
日比谷
有楽町
銀座一丁目
新富町
永田町
霞ケ関
銀座
築地
聖路加病院
佃大橋
国会議事堂前
東銀座
赤坂見附
内幸町
築地本願寺
虎ノ門
新橋
勝鬨橋
NHK
放送博物館
浜離宮公園
御成門
神谷町
浜松町
水上バス
大門
東京タワー
増上寺

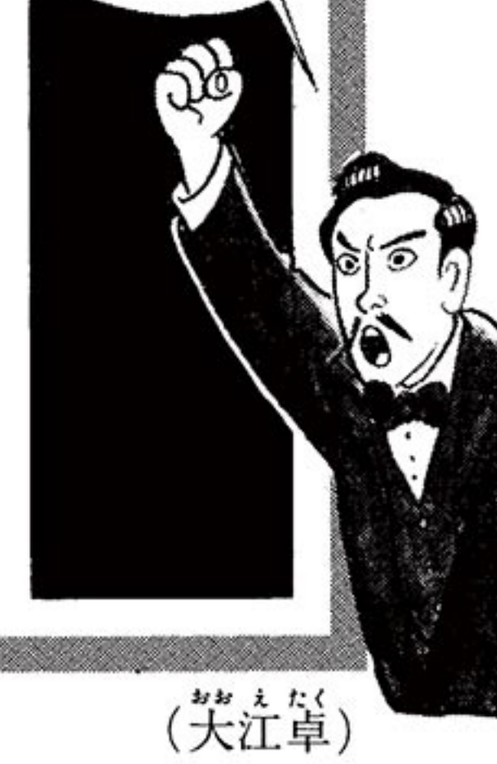
横浜港の発展

第17巻
第2章を
見よう。

幕末の開港以来、日本の表玄関として発展した横浜は、今も異国情緒ゆたかな町です。

開港前の横浜は、海に面したほんの小さな漁村でしたが、開港とともに波止場や運上所がつくられ、にわかに町がつくられていきました。また、西洋文明の窓口となっただけに、日本で最初の鉄道がつくられたり、ガス灯がともされるなど、もっとも近代的な町となりました。

現在の横浜は大都市となっていますが、大桟橋や山下公園など横浜港周辺や、鉄道発祥の地である桜木町駅の周辺を見学しながら、開港当時をしのんでみましょう。



（大江卓）

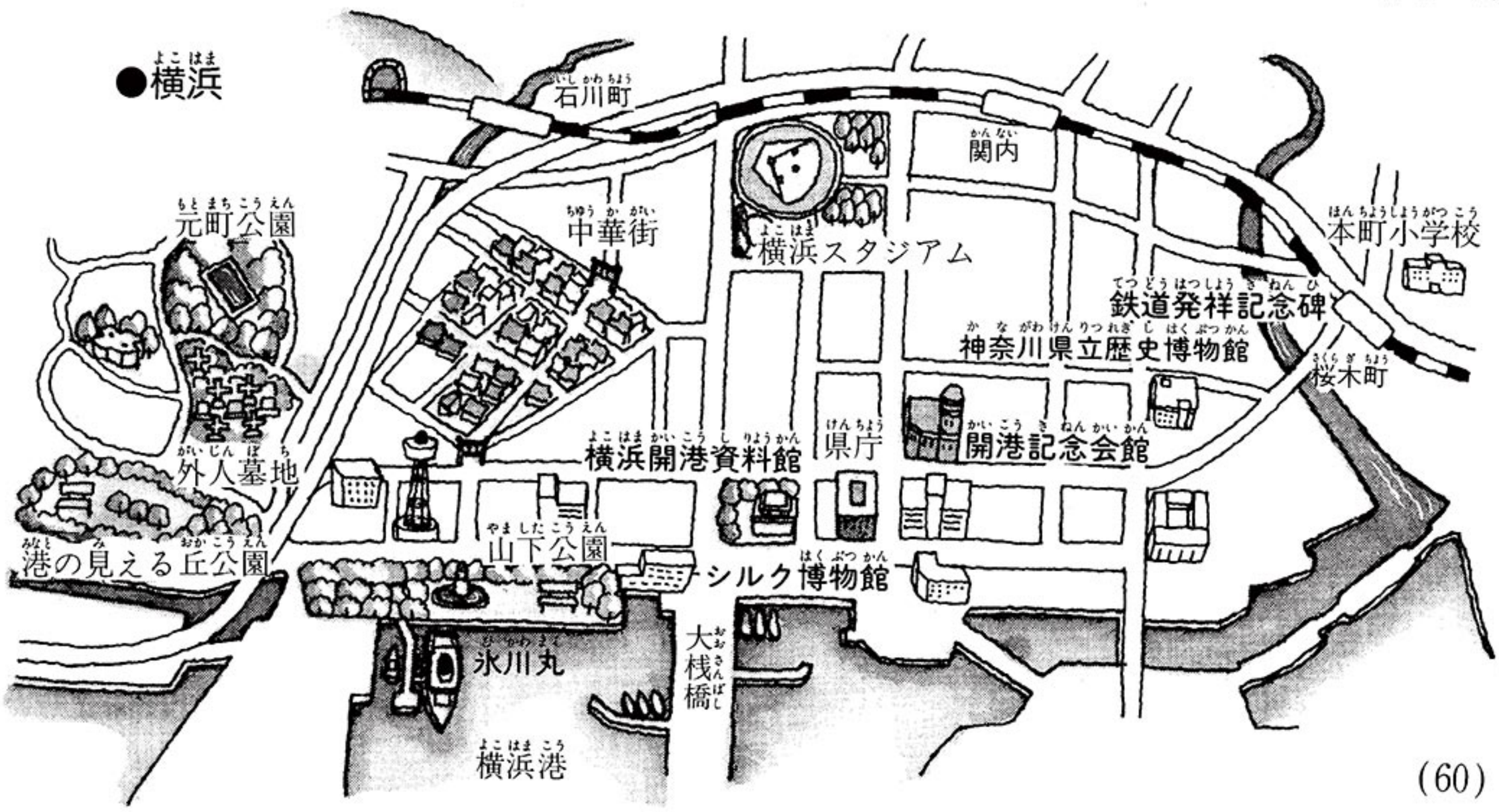
■横浜港■

㊫神奈川県横浜市中区
㊫JR根岸線桜木町・関内・石川町駅下車

横浜の港は、一八五九年（安政6）の開港直後すぐに西波止場（メリケン波止場）が、また5年後には東波止場（フランス波止場）が完成しました。西波止場は現在の大桟橋のあたり、東波止場は山下公園となっています。明治時代には、増加する旅客船や貿易船のため、拡張され防波堤もきずかれました。大正時代には、関東大震災により大きな打撃をうけましたが、みごとに復興され、近代的な港に生まれかわりました。戦後は、飛行機の発達などにより旅客船の入港はへりましたが、貨物船は現在でもたくさん出入りしています。

●見どころ●　大桟橋を中心とした港には多くの外国船が見られます。海の見える公園としてよく知られている山下公園は、大桟橋のすぐ近くにあります。この海岸に、日本の代表的な旅客船であった**氷川丸**が固定されており、一般に公開されています。

●横浜



▲横浜港

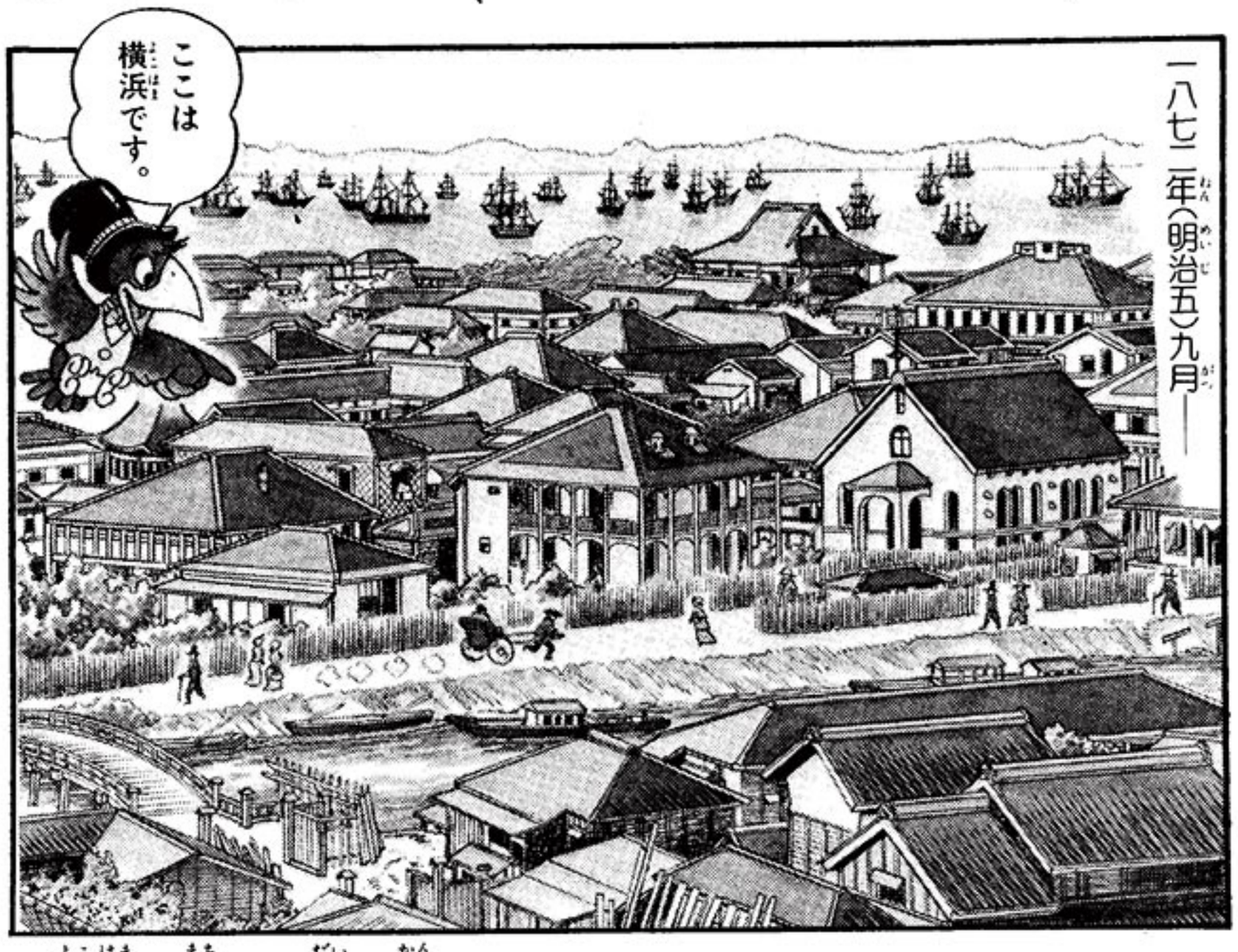
●付近の史跡●　海を背にして大桟橋の左手にはシルクセンターがあります。これは、かつて横浜港からつみだされた代表的な輸出品であった絹にちなんでたてられたもので、**シルク博物館**が併設され、蚕糸関係の資料が展示されています。シルク博物館と道をへだてた所に**横浜開港資料館**があります。また、神奈川県庁の敷地には、**神奈川運上所跡**の石碑があります。運上所は今の税関にあたる役所ですが、港関係の行政、刑事、外交などもあつかいました。近くには、明治時代に日本文化のしょうかいにつとめた岡倉天心生誕の地を記念する碑があります。

■鉄道発祥記念碑■

㊫神奈川県横浜市中区桜木町
㊋JR根岸線桜木町駅下車

現在の桜木町駅は、明治5年に日本ではじめて汽車の走った新橋・横浜間の鉄道の横浜駅にあたります。それを記念して桜木町駅前には鉄道発祥記念碑がたっています。この記念碑は、鉄道開業当時のレールを柱にして、当時の横浜駅風景や列車時刻表、乗車心得などがほりこまれている3枚の鉄板でつくられています。また、駅の改札口には、この鉄道の開通に大きな役割をはたした初代鉄道建築技師長エドモンド＝モレルの肖像があります。かれはイギリス人で、鉄道ばかりでなく、日本の近代的な土木技術の進歩に貢献しましたが、29歳でなくなりました。

●付近の史跡●　駅の北西の本町小学校のわきに**ガス灯碑**があります。ここは、明治4年に高島嘉右衛門という人が、日本で最初のガス会社をおこした場所です。翌年には、県庁前に第1号のガス灯がともされました。駅からまっすぐに港の方へ行くと右手に**神奈川県立歴史博物館**があります。建物は旧横浜正金銀行の建物で、どっしりとした石造です。内部では、神奈川県の歴史や民俗の展示が行われていますから、ぜひ見学してみましょう。



▲横浜の町　⇨第17巻54ページ

関東地方のおもな資料館と博物館

関東地方にあるおもな資料館と博物館をとりあげました。休館日は、各館ごとにことなりますので、事前にしらべておきましょう。

茨城県

茨城県立歴史館

所 水戸市緑町
交 JR常磐線水戸駅よりバス、偕楽園入口下車

茨城県の古美術・考古・民俗などの資料を展示している。構内は、明治時代の洋式建築の旧水海道小学校校舎や、江戸時代中ごろの民家を移築した歴史公園になっている。

義烈館

所 水戸市常磐町
交 JR常磐線水戸駅よりバス、偕楽園入口下車

水戸藩主徳川光圀をまつった常磐神社にある。光圀と徳川斉昭の遺品を中心として展示。水戸藩がつくった『大日本史』の草稿なども見られる。

弘道館

所 水戸市三の丸
交 JR常磐線水戸駅下車、徒歩5分

水戸藩の藩校だったところで、正門・正庁・至善堂が当時のままのこっており、国の特別史跡に指定されている。水戸藩主や水戸藩の学芸関係の資料を見学できる。

栃木県

栃木県立博物館

所 宇都宮市睦町
交 JR東北本線宇都宮駅よりバス、中央公園博物館前下車

栃木県の自然・考古・歴史・民俗・古美術の総合博物館。歴史展示は原始時代から近代までの栃木県のあゆみを、復元模型などをつかってわかりやすく展示している。原始時代のコーナーでは、貝塚の復元なども見学できる。

日光東照宮宝物館

所 日光市山内

東照宮は徳川家康をまつる神社で、徳川家代だいの将軍によってまもられてきた。宝物館では、刀剣類、工芸品、書画など徳川幕府ゆかりの

交 JR日光線日光駅よりバス、西参道下車

日光二荒山神社宝物館

所 日光市中宮祠
交 JR日光線日光駅よりバス、二荒山神社前下車

品のほか、諸大名から奉納された宝物も見ることができる。

二荒山は男体山の別名で古くから神の山として信仰をあつめてきた。この二荒山神社に奉納された170あまりの刀剣類や、男体山の山頂から出土した1万点にのぼる遺物を収蔵、展示している。

群馬県

群馬県立歴史博物館

所 高崎市綿貫町
交 JR高崎線高崎駅よりバス、群馬の森下車

明治百年記念事業として県立公園群馬の森に建設された。高崎市観音山古墳をはじめ、県内の遺跡からの出土品を多数展示している。また民俗資料のなかでは、小正月のつくりもののコレクションが有名である。

岩宿遺跡の発掘調査の様子や、旧石器時代当時の地形や環境をパネルや模型で再現。また全国から収集した旧石器時代の資料を中心に展示してある。とくにユニークなのは、岩宿時代のくらしぶりが体験学習できる広場と世界各地の代表的な復元住居があること。

高崎市周辺の農耕、養蚕関係の民具を収蔵・展示している。また民俗資料館としてはめずらしい200冊あまりの教科書類の資料も展示されている。一度は見学してみたい。

岩宿文化資料館

所 群馬県みどり市笠懸町
交 JR両毛線岩宿駅下車、徒歩約10分

高崎市歴史民俗資料館

所 高崎市上滝町
交 JR高崎線高崎駅よりバス、慈眼寺裏下車

埼玉県

蔵造り資料館

所 川越市幸町
交 JR川越駅よりバス、一番街下車

交通の要地としてさかえた川越には、蔵造の町なみがのこされており、この資料館の建物は、明治26年にたてられたものである。蔵造の構造や技法が見学できる。町方の生活資料もあわせて展示している。

埼玉県の歴史を中心とした総合博物館。原始時代から近代までの埼玉県の歴史を、中世の板碑をはじめとして多くの資料で展開している。古美術資料や民俗資料も歴史展示といっしょに見学できる。

埼玉県立歴史と民俗の博物館

所 さいたま市大宮区高鼻町
交 東武野田線大宮公園駅下車、徒歩5分

さきたま史跡の博物館

㊫行田市埼玉
㊥JR高崎線吹上駅よりバス、産業道路下車

鉄道博物館

㊫さいたま市大宮区大成町
㊥埼玉新都市交通鉄道博物館駅下車

千葉県

伊能忠敬記念館

㊫香取市佐原
㊥JR成田線佐原駅下車、徒歩10分

国立歴史民俗博物館

㊫佐倉市城内町
㊥京成電鉄佐倉駅下車、徒歩15分

芝山古墳・はにわ博物館

㊫山武郡芝山町
㊥JR松尾駅よりバス、芝山仁王尊下車

千葉県立中央博物館

㊫千葉市中央区青葉町
㊥JR千葉駅よりバス、中央博物館下車

千葉市加曽利貝塚博物館

㊫千葉市若葉区桜木町
㊥JR総武本線千葉駅よりバス、桜木

さきたま古墳公園につくられた博物館。丸墓山、稲荷山などの埼玉古墳群とその周辺から出土した鏡、鉄剣などの考古資料を展示している。また、埼玉県北部の民家をうつし、生活用具、養蚕関係の資料も見学できる。

明治時代初期から現代まで続く、日本の鉄道技術の歴史が紹介されている。実物車両が36両も展示されているほか、総延長千400mもの日本最大の鉄道ジオラマ、運転シミュレータ、運転体験教室もある。

伊能忠敬は、江戸時代に全国各地を測量して、当時としてはおどろくほど正確な地図をたくさんのこしている。記念館では、忠敬の著書、測量図、日記、測量関係の遺品を展示している。

佐倉城跡にたてられた国立の博物館。展示は、原始時代から時代順に配置され、各時代の生活を大がかりな模型や複製品で解説してある。室町時代の京都の町なみの復元模型や、古墳の模型などは興味深い。

芝山古墳群を中心とした出土品などを収蔵、展示している。なかでも殿塚、姫塚から出土した埴輪は、技術的にもすぐれ、保存の状態も非常に良いので、見学におとずれる人が多い。

房総の自然と歴史に関する総合博物館。先土器時代から現代までの房総の歴史を各時代ごとに展示したり、農業などで人びとが自然とどう関わって暮らしてきたかを紹介している。

日本最大といわれる加曽利貝塚と、その周辺の住居跡からの出土品を展示している。とくに、東京湾沿岸の貝塚の分布や、千葉県下の貝塚については豊富な資料がそろっている。野外では竪穴式住居群や貝層断面

町下車、徒歩15分

房総のむら

所 印旛郡栄町竜角寺
交 JR成田線安食駅よりバス、房総のむら下車

東京都

お札と切手の博物館

所 北区王子
交 JR王子駅下車、徒歩5分

NHK放送博物館

所 港区愛宕
交 地下鉄日比谷線神谷町駅下車

江戸東京博物館

所 墨田区横網
交 JR総武線両国駅下車、徒歩3分

物流博物館

所 港区高輪
所 JR品川駅下車、徒歩7分

深川江戸資料館

所 江東区白河
交 地下鉄半蔵門線清澄白河駅下車、徒歩3分

逓信総合博物館

所 千代田区大手町

を見学することができる。

風土記の丘資料館では、県内の遺跡から出土した考古資料を展示している。江戸時代の商家の町並み、農村、武家屋敷を実物大で再現したエリアでは、浮世絵や竹細工づくりなどさまざまな体験ができる。

大蔵省印刷局の事業をしょうかいする目的でつくられた記念館。紙・お札・切手・印刷方式の見本などのコーナー別に展示されている。また、映画のコーナーもあり、印刷局の仕事をわかりやすくしょうかいしている。

日本ではじめてラジオ放送が行われた愛宕山にある。ラジオ、テレビの歴史を、写真・録音・機器類をつかってわかりやすく展示している。放送開始当時の放送機や、ドラマの台本などの資料も見学できる。

江戸・東京の歴史や文化を知るうえで重要な実物資料や複製資料、大型模型を展示したユニークなデザインの博物館。分館として小金井市の都立公園内に重要な建物を移築・復元した**江戸東京たてもの園**がある。

江戸時代から昭和までの物流のあゆみを紹介する博物館。人力や馬に頼っていた江戸時代から、鉄道が開通した明治さらに自動車道が発展する昭和へと、商品を運ぶ方法がどう変わっていったかがわかる。

約150年前の深川佐賀町のたたずまいを実物大で復元し、江戸深川の下町の様子と町人のくらしを豊かに再現している。また、四季の年中行事を再現した模型や、庶民の生活用具などが展示されている。

国際通信、電信電話、郵便、宇宙通信、放送などを、コーナー別に展示している。模型や実物をつかっているので見学者にはわかりやすい。

交 JR東京駅下車、徒歩10分

東京国立博物館

所 台東区上野公園
交 JR上野駅、鶯谷駅下車、徒歩10分

神奈川県

神奈川県立歴史博物館

所 横浜市中区南仲通
交 JR根岸線桜木町駅下車、徒歩5分

鎌倉国宝館

所 鎌倉市雪ノ下
交 JR横須賀線鎌倉駅下車、徒歩15分

日本民家園

所 川崎市多摩区枡形
交 小田急線向ケ丘遊園駅下車、徒歩15分

箱根関所資料館

所 足柄下郡箱根町
交 JR東海道本線小田原駅よりバス、箱根町下車

横須賀市自然・人文博物館

所 横須賀市深田台
交 京浜急行横須賀中央駅下車、徒歩10分

このほか、世界各国の切手や昔の交通にかんする資料も収蔵している。

収蔵品は十数万点にのぼるといわれるが、常設展示は本館（日本の美術工芸）、表慶館（東洋諸地域の美術・工芸・考古）、平成館（日本の考古遺物）、法隆寺宝物館（法隆寺献納宝物）、資料館で行われている。

考古・歴史・民俗・古美術の人文系総合博物館。幕末の開港関係資料の特別展示も行われている。また、6千点にものぼる浮世絵のコレクションもある。

展示品の中心は鎌倉・宝町時代の文化財で、その多くは鎌倉にある寺院、神社から寄託された宝物類である。

全国各地にのこされた古い民家をあつめた野外博物館。その土地の風土や気候に合わせてつくられた民家が、広い園内に配置され、建物の内部には、たくさんの民具が展示されている。

箱根の関所は、江戸時代を通じて「入り鉄砲に出女」をふせぐ、もっとも重要な関所であった。資料館では、関所手形、鑑札、駕籠などの関所関係の資料のほか、宿場・本陣にかんする資料も展示している。

三浦半島の考古、民俗、歴史資料を展示している。とくに三浦半島の漁労関係用具は、国の重要民俗文化財に指定されている。また、ペリー来航や横須賀開港の資料もある。

中部地方

信玄や謙信、
信長や家康が
活やくした
ところじゃ。
古戦場や城跡に
行ってみよう。
春日山城跡
野尻湖発掘地
金沢城跡
川中島古戦場
江戸村
五箇山
高山陣屋跡
武田氏館跡
一乗谷朝倉氏館跡
恵林寺
妻籠宿
岐阜城
関ケ原古戦場
桶狭間古戦場
久能山東照宮
清洲城跡
登呂遺跡
岡崎城跡
浜松城跡

中部地方の原始時代の遺跡と古墳

中部地方は、旧石器時代の遺跡の宝庫です。愛知県豊橋市牛川町、静岡県浜松市の三ケ日町、同じく浜松市の浜北区などから旧石器時代の人骨が発見されました。また、長野県と新潟県の境近くの野尻湖は、この時代の人びとがナウマンゾウやオオツノジカの狩りをしていたことがわかる貴重な遺跡です。

縄文時代・弥生時代の遺跡や古墳はさらに多く、全国に知られている登呂遺跡も弥生時代のものです。

ここでは、野尻湖発掘地や登呂遺跡ほか、中部地方の原始時代の遺跡をたずねて、大昔の人びとの生活の様子を見てみましょう。

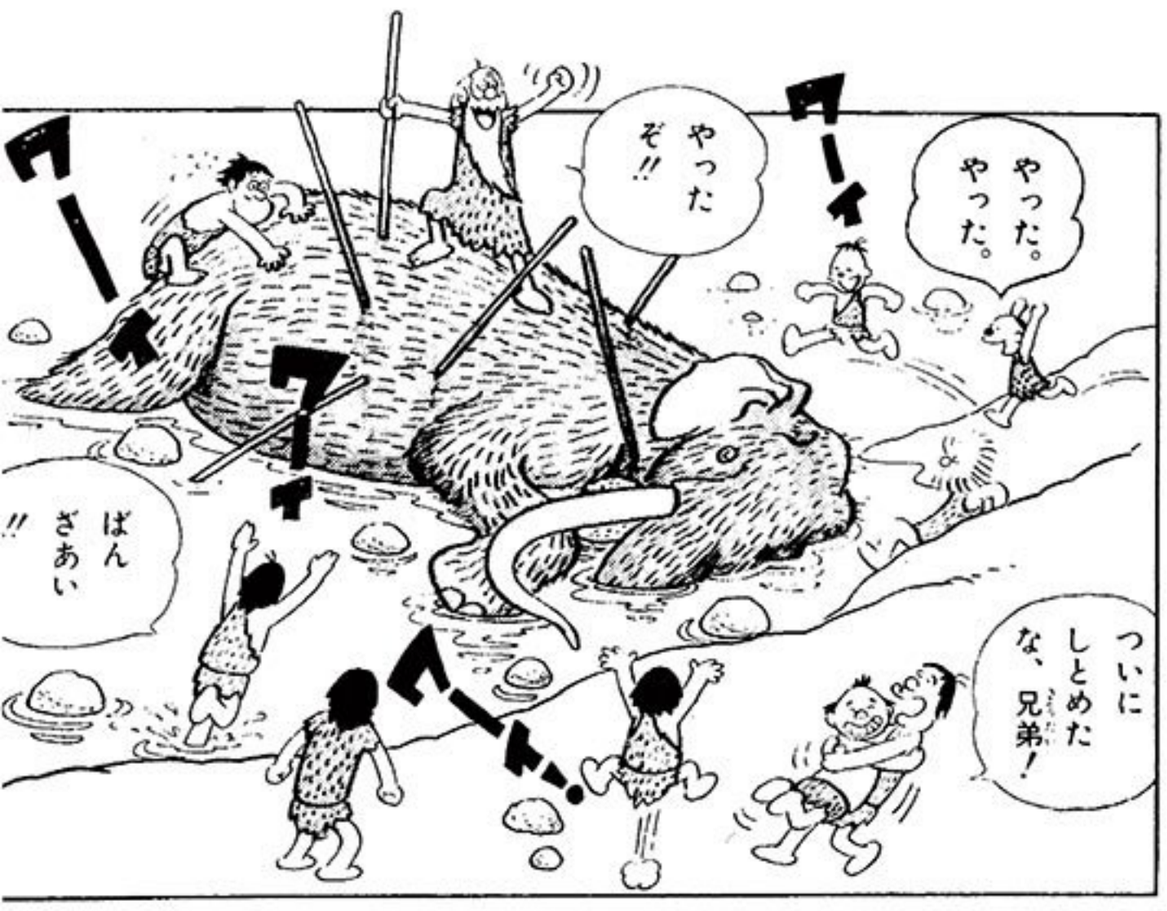
■野尻湖発掘地■

㊫長野県上水内郡信濃町
㊫JR信越線黒姫駅よりバス、野尻湖下車

一九四八年(昭和23)、長野・新潟の県境に近い野尻湖の岸辺近くからナウマンゾウの臼歯が見つかりました。それ以来、子どもから一般市民まで参加した発掘調査が何回も行われてきました。その結果、ここは約2万年前の旧石器時代の人びとが、狩りをしてつかまえた動物を解体した場所と考えられています。出土したナウマンゾウやオオツノジカの骨、石器などの一部は、近くにある**野尻湖ナウマンゾウ博物館**に展示されているので、ぜひ見てみましょう。

発掘調査は、3年おきの3月から4月に行われます。参加したい人は、次のところにもうしこんでください。

〒390-8621松本市旭3の1の1
信州大学理学部地質学教室2・3年研究室気付
野尻湖発掘調査団松本事務局



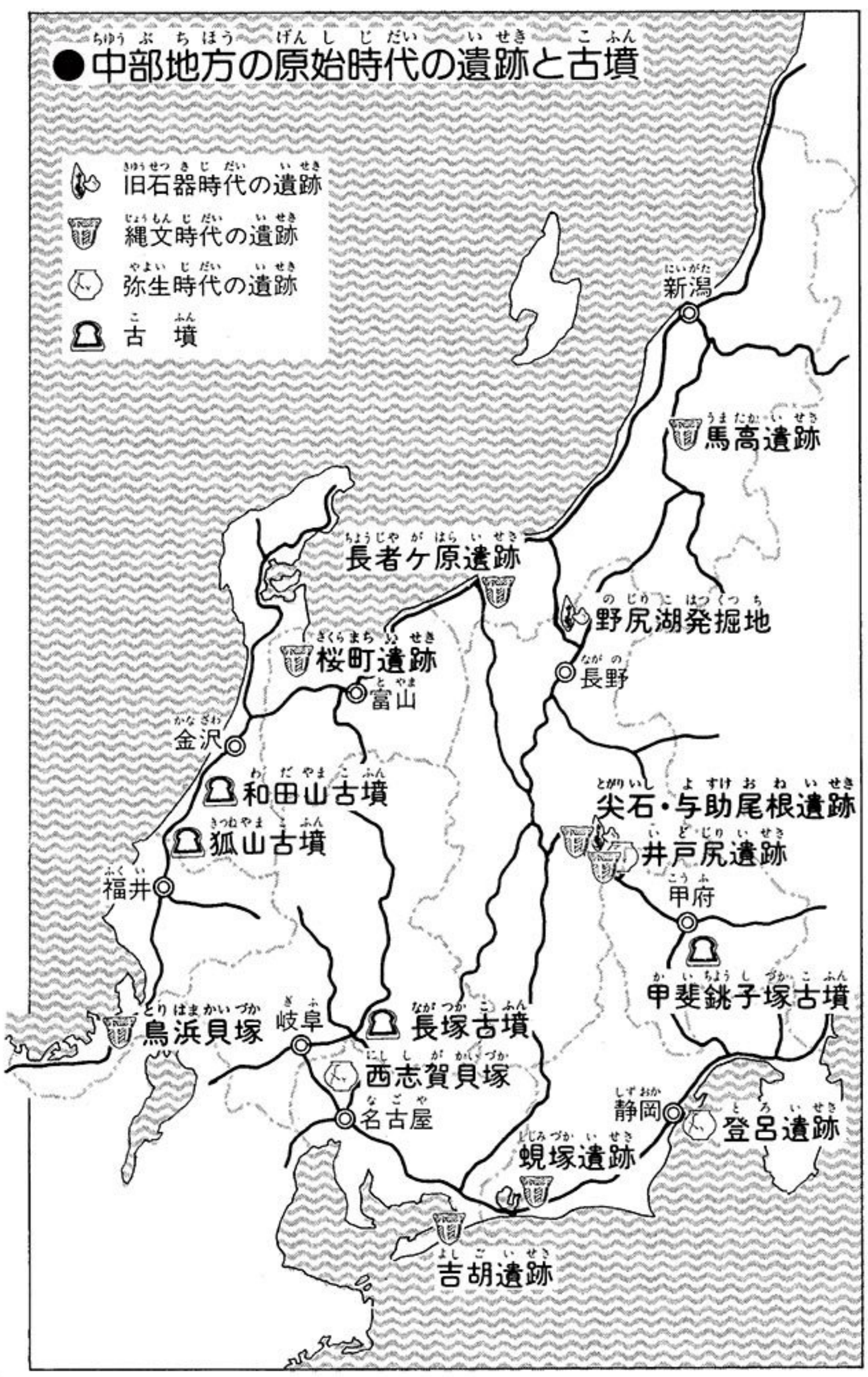
▲ナウマンゾウのかりうど

■尖石・与助尾根遺跡■

㊫長野県茅野市豊平
㊫JR中央本線茅野駅よりバス、考古館前下車

八ケ岳のふもと、標高約千メートルの丘にある縄文時代中期の遺跡です。遺跡の地に尖石とよばれる三角錐状の巨石があります。海岸地方に大集落ができたころ、貝や魚などの海産物を入手できない高地においても大集落が発達したことがわかる遺跡として貴重です。竪穴が33、炉跡が38発見され、馬蹄形に集落がつくられたことがわかります。

土器や石器もたくさん発見されましたが、顔の形をしたとってのある土器やおなかのふくらんだ土偶も発掘されました。**尖石縄文考古館**の展示をぜひ見てみましょう。



■吉胡遺跡■

㊫愛知県田原市吉胡町
㊫豊鉄三河田原駅よりバス、吉胡下車、徒歩10分

縄文時代後期の遺跡で、300体をこえる人骨が出土して話題となりました。

手足をきゅうくつにおりまげた姿勢で埋葬された屈葬や幼児をほうむった甕棺などが発見され、縄文時代の人たちの骨格や埋葬法を知るうえでの貴重な遺跡です。

吉胡遺跡は現在、史跡公園として整備され、公園内にある**吉胡貝塚資料館**で、発掘された遺物を見ることができます。

■登呂遺跡■

㊫静岡県静岡市駿河区登呂
㊫JR東海道本線静岡駅よりバス、登呂遺跡前下車

登呂遺跡は、弥生時代後期の遺跡で、水田で米づくりをする人びとの生活の様子がよくわかるたいへん重要な遺跡です。

住居跡は12戸あり、各住居の広さはあまり差がありません。中央にいろりがあり、4本の柱をたてて垂木の屋根組をし、茅でふいた竪穴式の住居で、5戸が復元されています。高床式ではしごやねずみ返しがついている倉庫の復元も2戸あります。また、住居の南側の一段低くなったところには、水田跡が広がっています。あぜの両側にくいや板をうちこんであぜ道をまもった様子もよくわかります。

遺跡の敷地内に**登呂博物館**があります。登呂遺跡で発掘された、石器、骨角器、土器、金属器、ガラスなどの遺物が展示されています。また、静岡市周辺で発掘された縄文、弥生時代の遺物や、原始時代から現代までの米づくりにつかわれた農具も展示されています。

武田信玄と上杉謙信

中部地方を代表する戦国大名に武田信玄と上杉謙信がいます。

信玄は、父信虎を追放して甲斐国の領主となり、信濃国に進出してその大半をおさめ、さらに東海地方にすすんで京都にせめのぼろうとした戦国大名です。一方謙信は、兄晴景をしりぞけ、越後国をおさめて関東に進出し、やがて北陸地方に兵をすすめて天下をうかがいました。この2人は、北信濃の支配をめぐって何度もはげしく川中島でたたかいましたが、勝負がつきませんでした。

ここでは、両雄のふるさとである甲斐、越後と川中島古戦場をたずねてみましょう。

（武田信玄）

1 信玄のふるさと

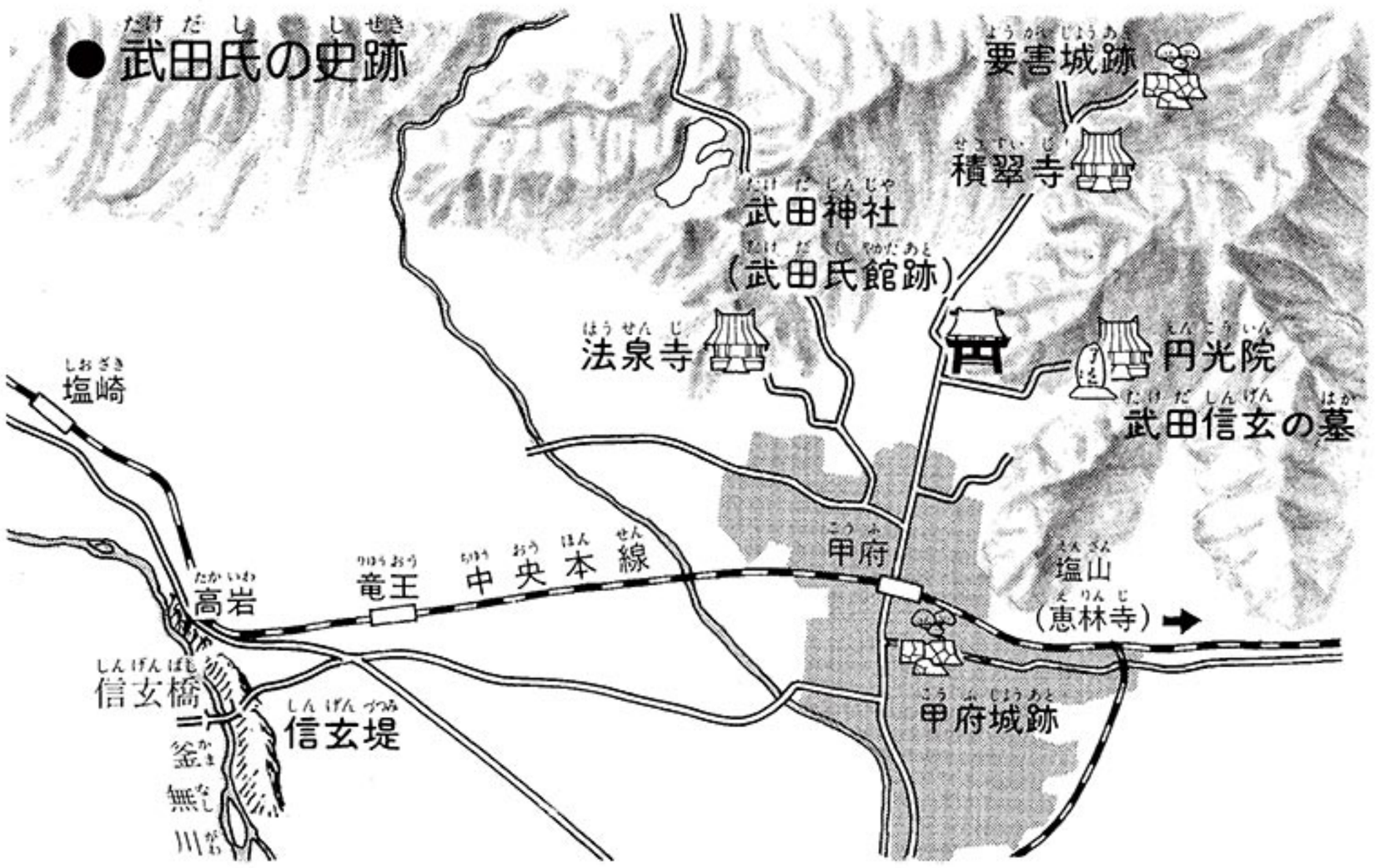
■武田氏館跡■

所 山梨県甲府市古府中町武田神社境内
交 JR中央本線甲府駅よりバス、武田神社下車

「躑躅崎の館」の名で知られる武田信玄の館跡です。信玄の父信虎によってきずかれ、信虎・信玄・勝頼の3代60余年間にわたって甲斐武田氏の本拠地となりました。現在、館跡には信玄をまつる武田神社がたてられています。神社をかこむ大きな池は堀跡です。また、館をかこんでいた土塁のあとも、ほとんどのこされています。

●見どころ● 境内の宝物殿には、武田家につたわる刀やよろいが展示されています。ここを見学したら、神社の裏側に回ってみましょう。わずかにのこる古い石垣とおいしげる樹木が、天下をのぞんではたせずに死んだ武田信玄の夢のあとをつたえています。

●付近の史跡● 武田氏館跡からバスで北へ約10分ほど行ったところに、積翠寺という小さなお寺があります。信玄はこの寺で



（上杉謙信）

生まれたとつたえられ、信玄公産湯の井戸などがのこされています。積翠寺の裏手の要害山は、躑躅崎の館の守りの城としてきずかれた要害城の跡です。このほか甲府市内には、武田氏ゆかりの寺院や史跡がたくさんありますからたずねてみましょう。また、となりの竜王町には、甲府盆地を水害からまもるために、信玄が釜無川の東岸にきずいた信玄堤の一部がのこっています。

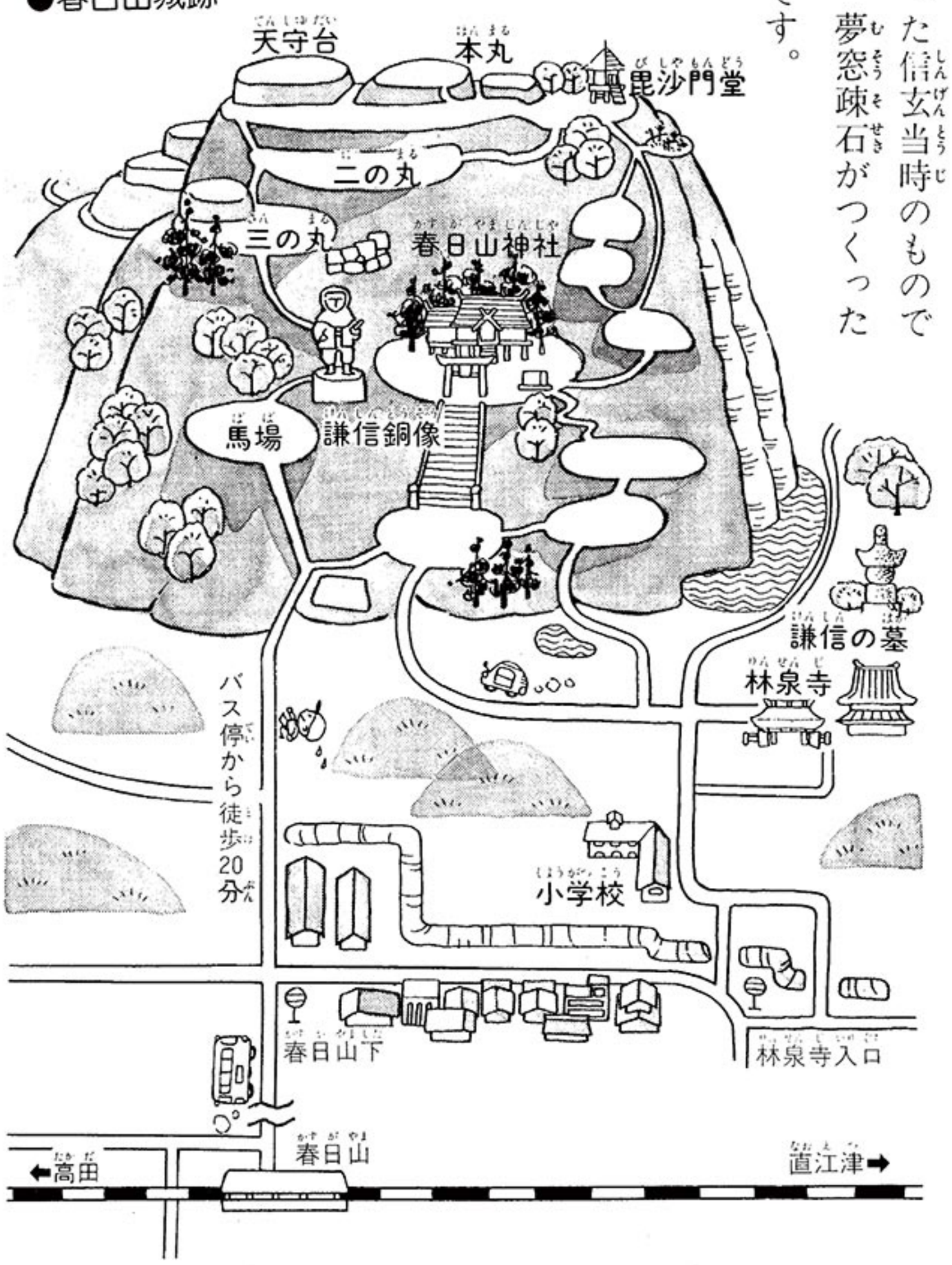
■恵林寺■

㊫山梨県甲州市小屋敷
㊫JR中央本線塩山駅より、恵林寺前下車

武田信玄の菩提寺です。南北朝時代のころ夢窓疎石によってひらかれた古いお寺ですが、永禄年間に信玄が快川和尚をまねいて復興し、菩提寺としました。武田氏滅亡後、織田信長の軍にやかれましたが、その心頭を滅却すれば火も自ずから涼し」といって百余名の僧とともにやけ死んだ話は有名です。その後、寺は徳川家康によって再興されました。境内にある宝物館には、信玄の遺品など武田氏関係の寺宝が展示されています。また境内の奥のほうに信玄の墓があります。

●見どころ●　赤門（四脚門）は、信長軍の焼き討ちでやけのこった信玄当時のものです。本堂裏の庭園は、夢窓疎石がつくったといわれる美しい庭です。

●春日山城跡



2 謙信のふるさと

■春日山城跡■

㊫新潟県上越市中屋敷
㊫JR信越本線直江津駅よりバス、春日山下下車、徒歩約20分

上杉謙信の居城として知られる戦国時代の山城跡です。ここに最初に城をきずいたのは平安時代のおわりごろで、源義家だといういい伝えがありますが、はっきりしません。戦国時代になって、謙信の父長尾為

景が居城として整備し、さらに謙信が大拡張して、壮大な山城を完成しました。

標高180メートルの春日山全体が城跡です。中腹から山上にかけて、たくさんの空堀や土塁、曲輪のあとがのこされています。また本丸跡と天守台跡のある頂上からは、高田平野が一望でき、日本海もよく見えます。

●見どころ● 本丸跡の西に、直径が10メートル近く、深さも10メートル以上ある巨大な井戸がのこされています。山城にとって水源の確保は、とても重要なことだったのです。ほかに、門のあとや土塁、空堀のあとなどを見学して、まもりやすくせめにくい山城の様子をたしかめてみましょう。

●付近の史跡● 春日山の東の山麓にある林泉寺は、長尾家(後の上杉家)歴代の菩提寺です。謙信が少年時代この寺でそだてられた話は有名です。境内には謙信の墓や川中島戦死者の供養塔などがあります。また宝物館には、謙信自筆の額や自作の木像など、多くの遺品が展示されています。

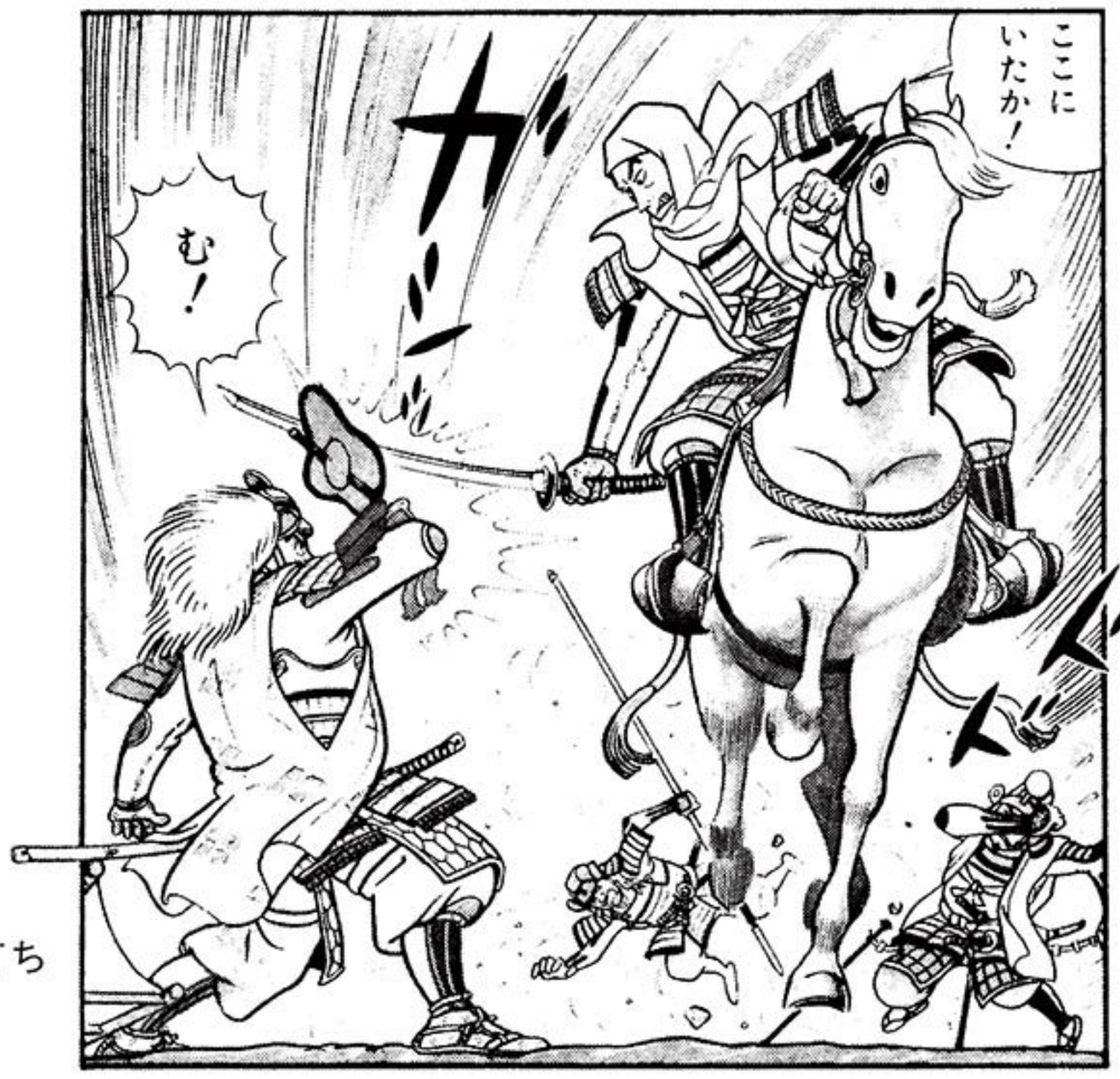
3 川中島の戦い

■川中島古戦場■

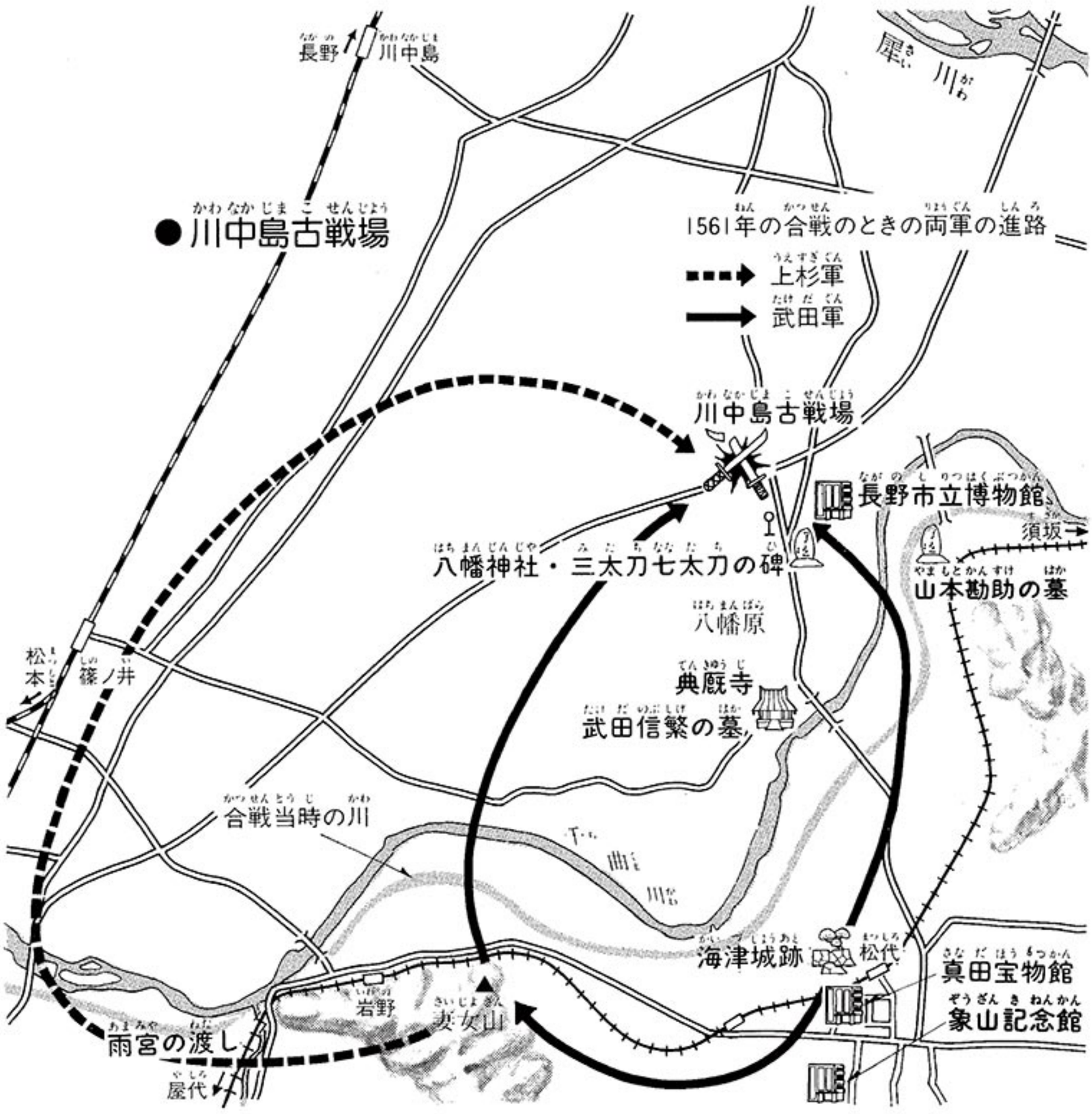
㊫長野県長野市川中島町
㊫JR信越本線長野駅よりバス、川中島古戦場下車

川中島というのは、千曲川と犀川の合流地点のあたり、この2つの川にはさまれた一帯をいいます。長野盆地のほぼ中央にあたります。上杉謙信と武田信玄は、北信濃の支配をめぐって、何度もこの川中島でたたかいました。とくに、一五六一年の合戦は有名で、ふつう川中島の戦いというと、この合戦をさします。

川中島のほぼ中央、八幡神社のある小さな森が、決戦当日、信玄が本陣をしいた所といわれています。この付近一帯が八幡原で、激戦地となった所です。神社の境内には、謙信と信玄の一騎打ちの場面を再現した銅像や、謙信が3度切りつけ、それをうけた信玄の軍配に7か所の傷跡がのこったという話にもとづく「三太刀七太刀の碑」などがあります。



▶信玄と謙信の一騎打ち
⇨第10巻102ページ



●見どころ●

八幡神社本殿の前に、まるい穴のあいた「執念の石」とよばれる石があります。信玄の家来の原大隅守が、謙信をつきそこねたくやしさのあまり、槍でつらぬいた石だといわれます。もちろん後につくられた話ですが、古戦場にはよくこうした伝説の遺物がのこされています。なお、神社のすぐ近くの**長野市立博物館**には、川中島の戦いのコーナーもありますので、ぜひ見学してみましょう。

●付近の史跡●

千曲川の南岸にそびえる標高546メートルの**妻女山**は、決戦のはじまるまで謙信の陣がしかれていた所です。ここからは川中島がよく見わたせます。決戦夜、謙信軍がひそかに女山をおりてわたった**雨宮の渡し**」は、長野前鉄雨宮駅のすぐ北のあたりで、大きな碑がたてられています。後世、頼山陽が「鞭声粛々夜河を過る」とうたった有名な場面の所ですが、かつてこをながれていた千曲川は、400年の間に流れを変えて、今は500メートルほど北をながれています。八幡神社の南1.5キロメートルの千曲川ぞいにたつ**典厩寺**は、川中島の戦いで戦死した信玄の弟武田信繁と、ほかの戦死者をとむらうためにたてられたお寺です。境内にある**川中島合戦記念館**には、関係資料が展示されています。

松代駅の西方にある**海津城**（松代城）**跡**は、信玄が北信濃攻略の前進基地として、また謙信の攻撃にそなえて、山本勘助に命じてきずかせたといわれる城のあとです。川中島の戦いのとき、この城が信玄の本拠地となりました。現在、城跡には多くの石垣がのこり、天守台跡からは川中島一帯をながめることができます。しかし、現在の遺構は、ほとんど江戸時代の松代藩のときのものです。

このほかに、川中島周辺には、川中島の戦いに関係のある史跡が、まだたくさんあります。しらべてたずねてみましょう。

▲海津城（松代城）跡

天下統一をめざして

織田信長は一五三四年、戦国時代のまっただなかに生まれました。やがて信長は、すぐれた行動力とすんだ考え方で時代の流れをかえていきます。

尾張国内の統一に成功した信長は一五六〇年、当時もっとも勢力の大きかった今川義元を桶狭間の戦いでほろぼし、いちやく注目される存在となりました。以後、ちゃくちゃくと勢力を広げ、斎藤龍興をやぶって美濃に進出し、さらに近江の浅井長政、越前の朝倉義景、甲斐の武田勝頼をほろぼして天下を統一します。

ここでは、信長の戦いのあとを、名古屋、岐阜、福井にたずねましょう。

第10巻 第4章を見よう。

（織田信長）

1 名古屋周辺

■清洲城跡■

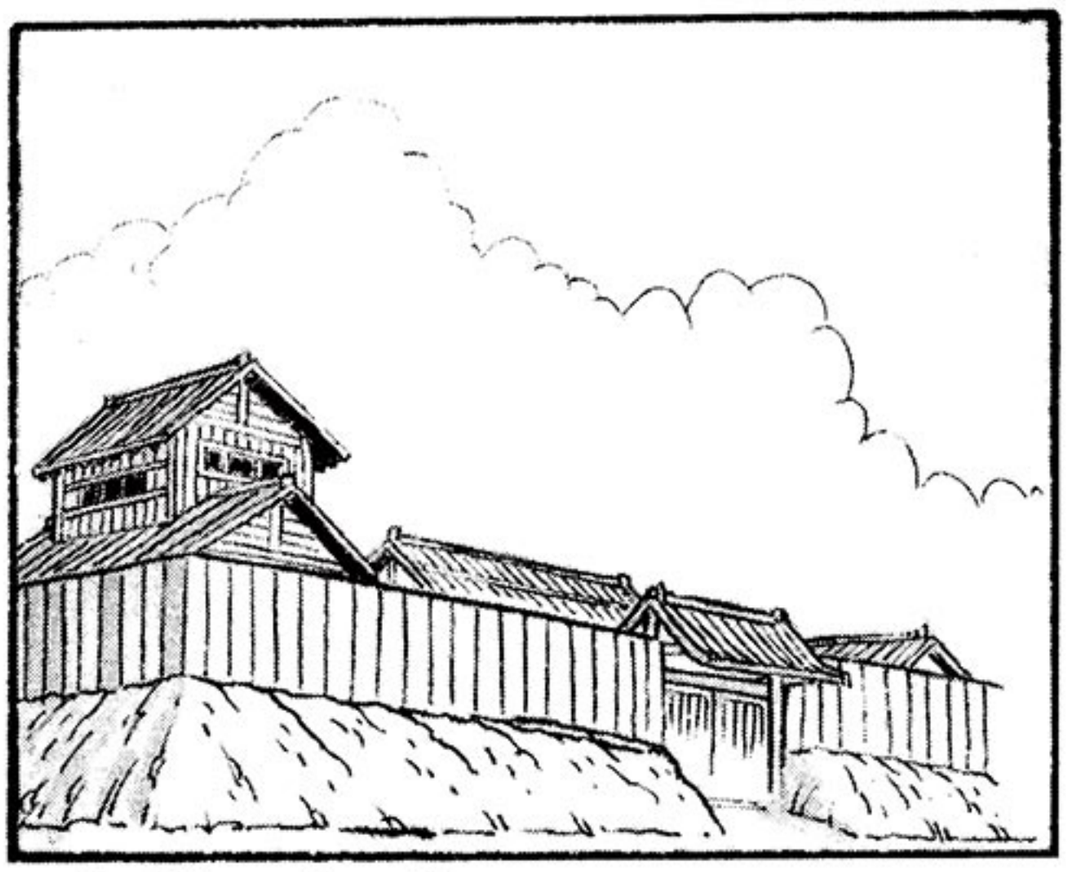
所 愛知県清須市
交 JR東海道本線清洲駅下車、徒歩約15分

織田信長のわかき日の居城跡です。信長はこの城から桶狭間へ出陣して今川義元をうち、天下統一への第一歩をしるしました。

現在、城跡は、東海道本線と新幹線によって二分され、かつての名城のおもかげはありません。線路の北側の小さな丘が天守台のあとで、石段の上に城跡の石碑がたてられています。また南側は清洲公園になっています。ここには信長の桶狭間出陣の姿をあらわした銅像がたてられています。なお近くに模擬天守閣が建てられています。

●付近の史跡● 清洲城跡の南およそ15キロメートル、名古屋市にある**熱田神宮**は、桶狭間の戦いのとき、清洲城を出陣した信長が、兵をととのえ戦勝を祈願した所です。境内には、戦いに勝った後、信長が寄進したという古い築地塀がのこされ、「信長塀」とよばれています。なお、熱田神宮は、三種の神器の一つ「草薙剣」をまつる古い神社で、宝物館にはたくさんの刀剣類が展示されています。

国の特別史跡に指定されている**名古屋城跡**は名古屋市のシンボルですが、名古屋城二の丸庭園近くに「那古野城跡」とほられた自然石の碑がたてられています。那古野城は、今川義元がきずき、後に信長の父織田信秀が居城とした城で、信長はここで生まれました。その居城のあとに、徳川家康によってたてられたのが、現在に見る名古屋城というわけです。信長当時の遺構はまっ



▲清洲城 ⇨第10巻116ページ

たくのこされていませんが、日本有数の名城ですので、ゆっくり見学してみましょう。なお、天守閣内部は博物館になっていて、名古屋城の歴史を知ることができます。

■桶狭間古戦場■

㊫愛知県豊明市栄町
㊋名鉄中京競馬場前駅下車、徒歩10分

織田信長が、今川義元をうった桶狭間の戦いの地とつたえられる所です。現在は小さな史跡公園になっています。公園内には、今川義元の墓や戦死者の墓碑があります。公園のとなりにある高徳院は、義元と家臣をまつるお寺で、桶狭間合戦の遺品などを展示しています。

また、すぐ近くの名古屋市緑区有松町桶狭間の地も、古くから桶狭間古戦場の地とつたえられていて、近くの長福寺には戦死者の供養塔がたてられています。どちらがほんとうの古戦場なのか、いまだにわかっていません。

●付近の史跡●

古戦場伝説地の周辺には、桶狭間の戦いに関係のある砦跡がいくつかあります。信長軍に最後まで抵抗した**鳴海城跡**（根古屋城跡）は、名古屋市緑区鳴海町にあります。同じく緑区大高町の**大高城跡**は、戦いのとき徳川家康がまもっていました。大高城跡の近くにある**丸根砦跡**と**鷲津砦跡**は、どちらも信長方の砦跡です。桶狭間をたずねたついでに、これら戦国の砦跡をたずね歩いてみましょう。

▲名古屋城

2 岐阜

■岐阜城■

所 岐阜県岐阜市金華山天守閣
交 岐阜駅より市電・バス岐阜公園前下車、ロープウエー3分

岐阜市は、東西と北の三方を山にかこまれ、南に濃尾平野が広がる要衝地です。長良川に面したけわしい金華山の山頂に、斎藤氏が居城としてきずいた稲葉山城は、信長の数度の攻撃にもなかなかおちませんでした。一五六七年、ようやく稲葉山城をおとした信長は、当時井之口とよばれていた町の名を岐阜、稲葉山城を岐阜城とあらためました。岐阜は「天下のもととなる町」という意味があります。以後、信長は安土城をきずいてうつるまでの10年間、この岐阜の地を本拠として、天下統一の事業をすすめていきます。

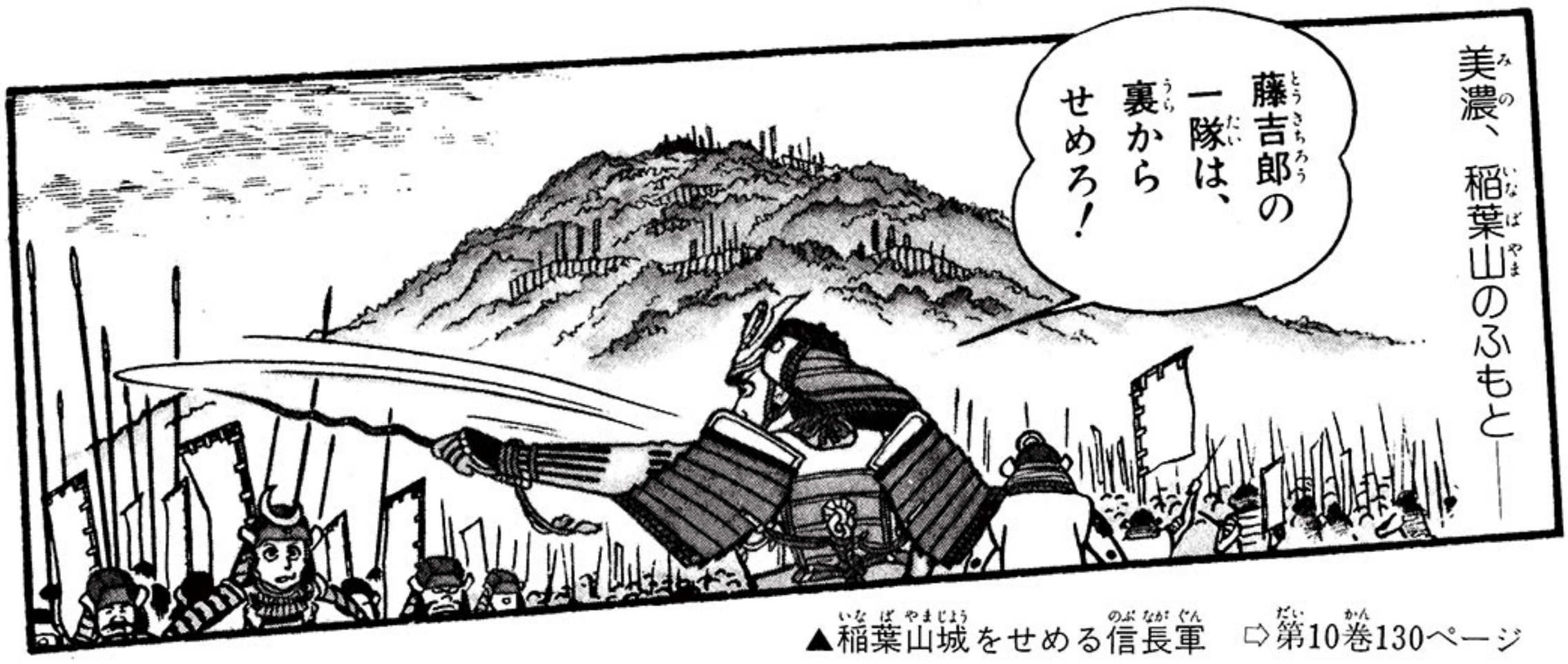
▲岐阜城

金華山には、ロープウエーでのぼれます。一九五六年（昭和31）にたてられた山頂の模擬天守閣までは、さらに馬の背のような尾根道をたどらなければなりません。難攻不落の城であったことがうかがわれます。山頂からのながめはすばらしく、遠く養老、鈴鹿の山なみがのぞめます。

●付近の史跡●

信長が美濃攻略のためにきずいたのが**小牧山城**です。小牧山は、愛知県小牧市にある海抜86メートルの小さな丘で、北西の方向に金華山が見えます。ここは小牧・長久手の合戦で徳川家康の本陣にもなりました。

秀吉のエピソードでよく知られている**墨俣城跡**は、岐阜県大垣市墨俣町の長良河畔にあります。夜のやみにまぎれ、上流から木材をながし、おおぜいの地侍をつかって工事を分担させ、ごく短期間のうちにきずいてしまったので、墨俣一夜城ともよばれています。現在は長良川の河道となっており、碑が水城を思わせるようにたっています。最近模擬天守閣も建てられました。



▲稲葉山城をせめる信長軍 ⇨第10巻130ページ

3 福井

一乗谷朝倉館跡

所 福井県福井市城戸ノ内町
交 JR北陸本線福井駅よりバス、朝倉館前下車

岐阜城を拠点として東海地方をせいした織田信長は、一五六八年には京都にまで兵をすすめました。足利将軍の権威をたてなおすためという名目で京都に入り、信長の勢力はいちだんと大きくなりました。そして、近江や北陸で信長と敵対していた浅井・朝倉氏や比叡山をせめほろぼしました。

一乗谷朝倉館跡は、一五七三年に信長にやかれるまでの100年間にわたって、朝倉氏が本拠としていた所です。福井市の南東、一乗谷川の谷間にあり、南北2キロメートルにまたがる大きな遺跡が発掘されています。南北の両端に高さ4メートルの土塁がつくられています。この内部の中央東より前三方が土塁と堀でかこまれ、後方の山も空堀でかためられた朝倉館跡があり、りっぱな庭園・湯殿跡も見られます。裏の山には一乗谷城跡があります。館の前方には川をへだてて広い道路にそって、一部の武家屋敷が復元されています。甕・茶わん・げた・将棋のこま・人形などが発掘され、人びとのくらし方まで明らかになってきました。出土品は**朝倉氏遺跡資料館**にあります。

●付近の史跡●

越前を平定した信長は柴田勝家に越前の支配をまかせました。勝家は北ノ庄(福井の古い名)に9層の天守閣をもつ北ノ庄城をつくりました。柴田勝家はのちに豊臣秀吉と対立してやぶれ、天守閣に火をはなち、なくなりました。城跡に勝家をまつる**柴田神社**があります。

福井から京福電鉄永平寺線にのれば、鎌倉時代に道元がひらいた**永平寺**につきます。樹齢600年といわれる杉木立にかこまれ、荘厳なふんいきがただよっています。総棟数70あまりが、山の斜面を利用して整然とならんでいます。境内面積33万平方メートルで、全国の末寺から修行僧があつまって座禅をし、修行をつんでいます。

福井市の南西部の**足羽山**には大小30あまりの古墳があります。舟形石棺・家形石棺が発掘され、石棺の中から出た人骨・鏡・玉・武器は、**福井市立郷土歴史博物館**に陳列されています。

海道一の弓取り・家康

徳川家康は、一五四二年、三河国岡崎に生まれました。父は岡崎城主松平広忠です。しかし、松平氏の勢力が弱かったため、家康は6歳のときから12年間も今川義元の人質として駿府（静岡市）でくらさなければなりませんでした。家康の活やくがはじまるのは、桶狭間の戦いで今川義元が織田信長にうたれてからです。自由の身となった家康は岡崎城に帰って信長と同盟をむすび、やがて三河国・遠江国を平定して「海道一の弓取り」といわれるようになります。

ここでは、青年時代の家康を追って、岡崎と浜松をたずねてみましょう。

（徳川家康）

1 岡崎

■岡崎城跡■

所 愛知県岡崎市康生町
交 名鉄名古屋本線東岡崎駅下車、徒歩15分

岡崎城は、矢作川と菅生川が合流する台地の先端にたてられた要害の城でした。一五〇〇年代のはじめに松平氏が居城とし、家康は、この城の二の丸で生まれたといわれます。家康は、6歳で今川家の人質となり、岡崎に帰ったのは20歳のときでした。

▲岡崎城模擬天守閣

現在は、城跡が岡崎公園になっています。本丸にたつ3層の天守閣は、復元されたもので、内部は歴史資料館になっています。また、二の丸跡には、**三河武士のやかた家康館**があるので見学してみましょう。そのほか公園内には、家康産湯の井戸跡などがあり、家康の銅像もたてられています。

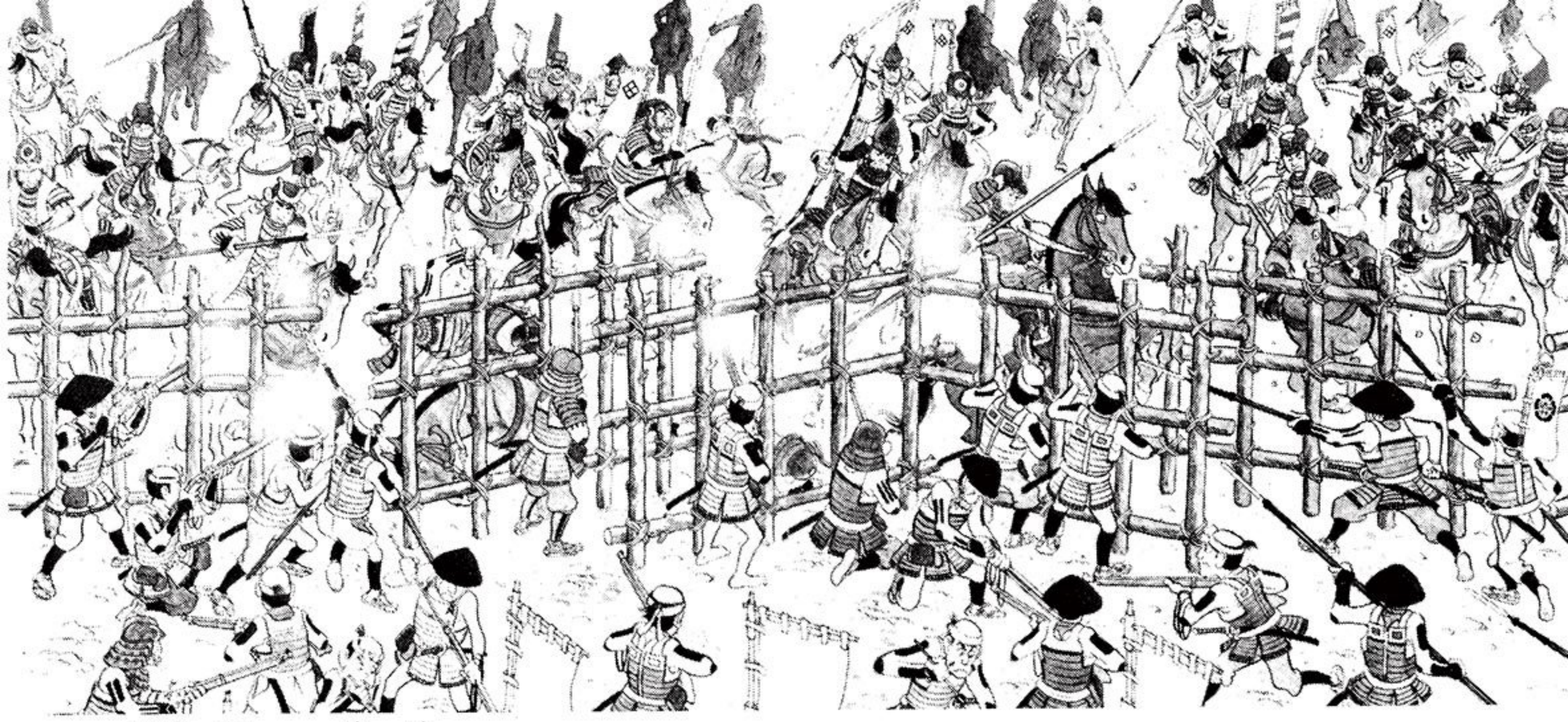
●付近の史跡● 岡崎市には、松平氏八代の墓と家康の墓碑がある**大樹寺**をはじめ、家康や松平氏ゆかりの寺や神社がたくさんあります。市の東はずれの**滝山東照宮**は日本三大東照宮（家康をまつる神社）の一つで、三代将軍家光がたてたものです。

2 浜松

■浜松城跡■

所 静岡県浜松市中区元城町
交 JR東海道本線浜松駅よりバス、市役所前下車

遠江を平定した家康は、武田信玄の遠江侵入をふせぐため、一五七〇年に浜松城をきずき、みずからここにうつりました。浜松時代の家康は、東海の戦国大名としておしもおされもせぬ勢力になったので、出世城ともよばれます。城郭は、東西450メートル、



▲長篠の戦い　⇨第11巻44・45ページ

南北500メートルにもおよぶ大きなものでした。現在城跡は公園になっていて、一部に井戸や石垣など築城当時のおもかげものこっています。天守閣は再建されたもので、内部は博物館になっています。

●付近の史跡●　浜松城の北西1キロメートルほどのところに、**犀ケ崖**という場所があります。現在は家がたてこんでいますが、昔は東西にのびる深い谷でした。三方ケ原の戦いのとき、ここで家康と武田信玄がたたかい、武田軍は大混乱し、犀ケ崖に多数の人たちがおちたといわれます。古戦場の碑がのこっています。

●足をのばして●　長篠の戦いで、織田信長、徳川家康の連合軍と武田勝頼軍がたたかった**設楽原古戦場**が愛知県新城市にあります。連吾川という小さな川をはさんで、南北に田園地帯が広がり、すぐ東と西には丘陵がかさなり合ってせまっています。一五七五年に、ここで行われた戦いで、信長が新兵器の鉄砲を大量につかって、戦国最強といわれた武田騎馬隊をやぶった話は有名です。

竹広のあたりが、もっとも戦いのはげしかったところで、石碑や供養塔がたてられています。このほかにも、古戦場のあちこちに、墓碑や供養塔、両軍の大将や武将の陣跡の碑などがありますので、さがしてみましょう。西側の丘陵地には、家康の本陣跡や物見塚跡などもあります。また信玄台地とよばれる東側の丘陵上には、信玄塚があります。この塚は、戦いで戦死したおおぜいの兵士をうめたところです。

長篠の戦いの前哨戦の戦場となった**長篠城跡**は、設楽原の寒狭川と宇連川の合流地点の断崖上にあります。城跡には「長篠城趾史跡保存館」がたてられていて、戦いの遺品などがたくさん展示されています。

関ケ原の戦い

織田信長・豊臣秀吉の登場によって、ようやく戦国時代に終止符がうたれ天下が統一されましたが、秀吉が死ぬとふたたび緊迫した情勢となりました。最大の実力者となった徳川家康と、その台頭をはばもうとする石田三成が対立し、ついに全国の大名を二分する関ケ原の戦いとなるのです。

家康方の東軍と三成方の西軍、合わせて16万とも20万ともいわれる大軍が、関ケ原で天下分け目の戦いをくりひろげました。

この戦いに勝った家康は、その後まもなく江戸幕府をひらき、徳川政権の基礎をかためていきます。

■関ケ原古戦場■

所 岐阜県不破郡関ケ原町
交 JR東海道本線関ケ原駅下車、徒歩10分

関ケ原は、大垣市の西方にある、伊吹と鈴鹿の山地にかこまれた小さな盆地です。

この関ケ原全体が、家康を総大将とする東軍と、石田三成の西軍との天下分け目の戦いがくりひろげられた古戦場です。

一六〇〇年九月十五日朝、合戦の火ぶたが切られました。一進一退のはげしい攻防をくりかえし、正午近くなっても勝敗はきまりませんでしたが、西軍の小早川秀秋が東軍にねがえったのをきっかけに、西軍はみるみる総くずれになっていきました。午後2時すぎには西軍は敗走して、天下分け目の合戦は家康方の完勝となりました。

◆**陣所跡**　徳川家康が本陣をおいた桃配山は、関ケ原駅の東約1.2キロメートル、東海道本線にそう国道のすぐ上にあります。石田三成の陣地は笹尾山で、駅の北西約1.5キロメートルにある見はらしのよい丘で、関ケ原を横切る東海自然歩道が、ちょうど笹

▼関ケ原の戦い　⇨第11巻134・135ページ

(石田三成)

尾山の頂上を通っています。小早川秀秋が陣をしいたのは、関ケ原の南にある松尾山です。松尾山からどっとふもとの西軍大谷吉継をせめました。吉継はわずかの兵で奮戦しましたが戦死しました。それぞれの地に陣所跡の碑があります。このほか各武将たちの陣地跡には石標がたてられています。

◆**東首塚・西首塚**　天下分け目の合戦で激戦のくりひろげられたのは、笹尾山付近です。「史跡関ケ原古戦場・決戦地」の碑がたっています。近くに家康が部将の首実検を行った場所があります。

戦死者は東首塚と西首塚の2か所にほうむられました。東首塚は関ケ原駅の北西500メートル、円塚です。西首塚は駅の西500メートル、小さな塚で、前に観音堂があります。

●**付近の史跡**●　西首塚と国道をへだてた所に、**不破関跡**とつたえられる所があります。伊勢の鈴鹿関、越前の愛発関とともに古代におかれた三関の一つで、ここ関ケ原が交通の要地であることをしめしています。

東首塚の北側に、**関ケ原町歴史民俗資料館**があります。関ケ原の戦いの様子と史跡の位置が、パネルや立体模型でたいへんわかりやすく説明してあります。ぜひよってみましょう。

大御所家康と駿府

関ケ原の戦いに勝った徳川家康は、一六〇三年に征夷大将軍になり、江戸幕府をひらきました。そして、まもなく将軍職を子の秀忠にゆずり、駿府（静岡市）に隠居しました。しかし、大御所として幕府の実権をにぎったまま、西国になおのこる豊臣氏の勢力をおさえるため全力をそそぎ、大坂の陣で、豊臣氏をほろぼすことに成功しました。そして、徳川政権の大きな心配の種をとりのぞいた翌一六一六年、波乱にみちた75年の生涯をとじました。

ここでは、家康晩年の駿府をたずねましょう。

（徳川家康）

■駿府城跡■

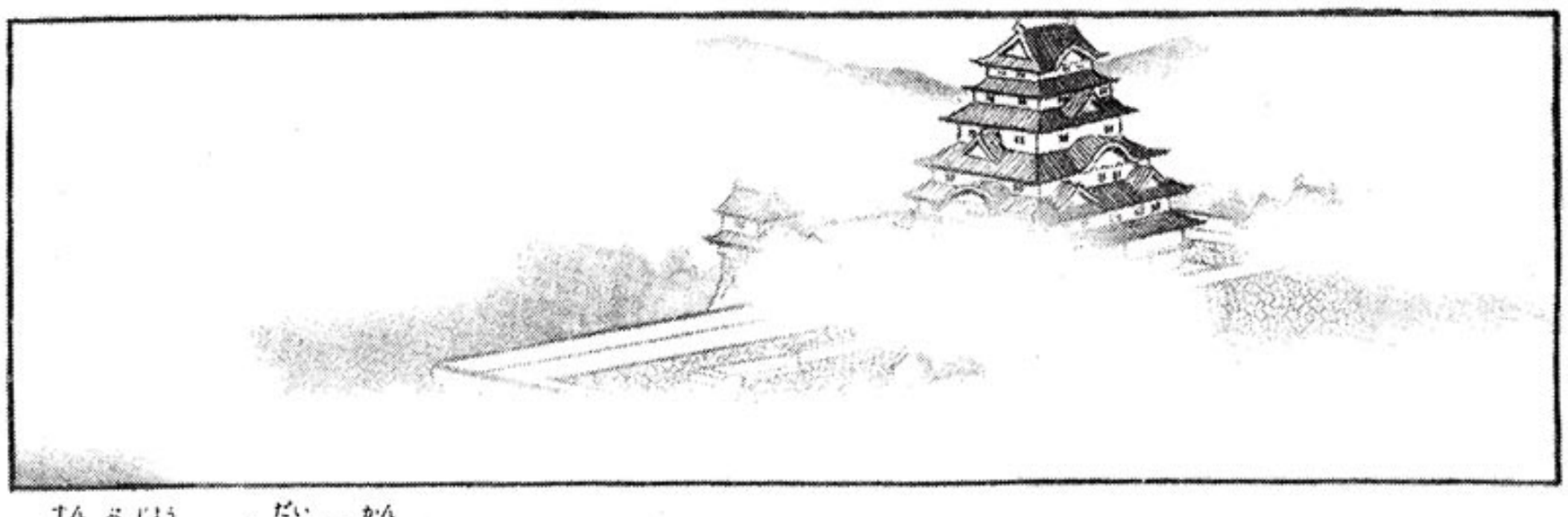
所 静岡県静岡市駿府公園
交 JR東海道本線静岡駅下車、徒歩10分

駿府城築城は、家康の隠退後計画され、一六〇七年から中国・近畿・東海の諸大名のお手伝普請によって翌年完成しました。3重の堀にかこまれ、7層の天主閣をもつ大きな城でした。

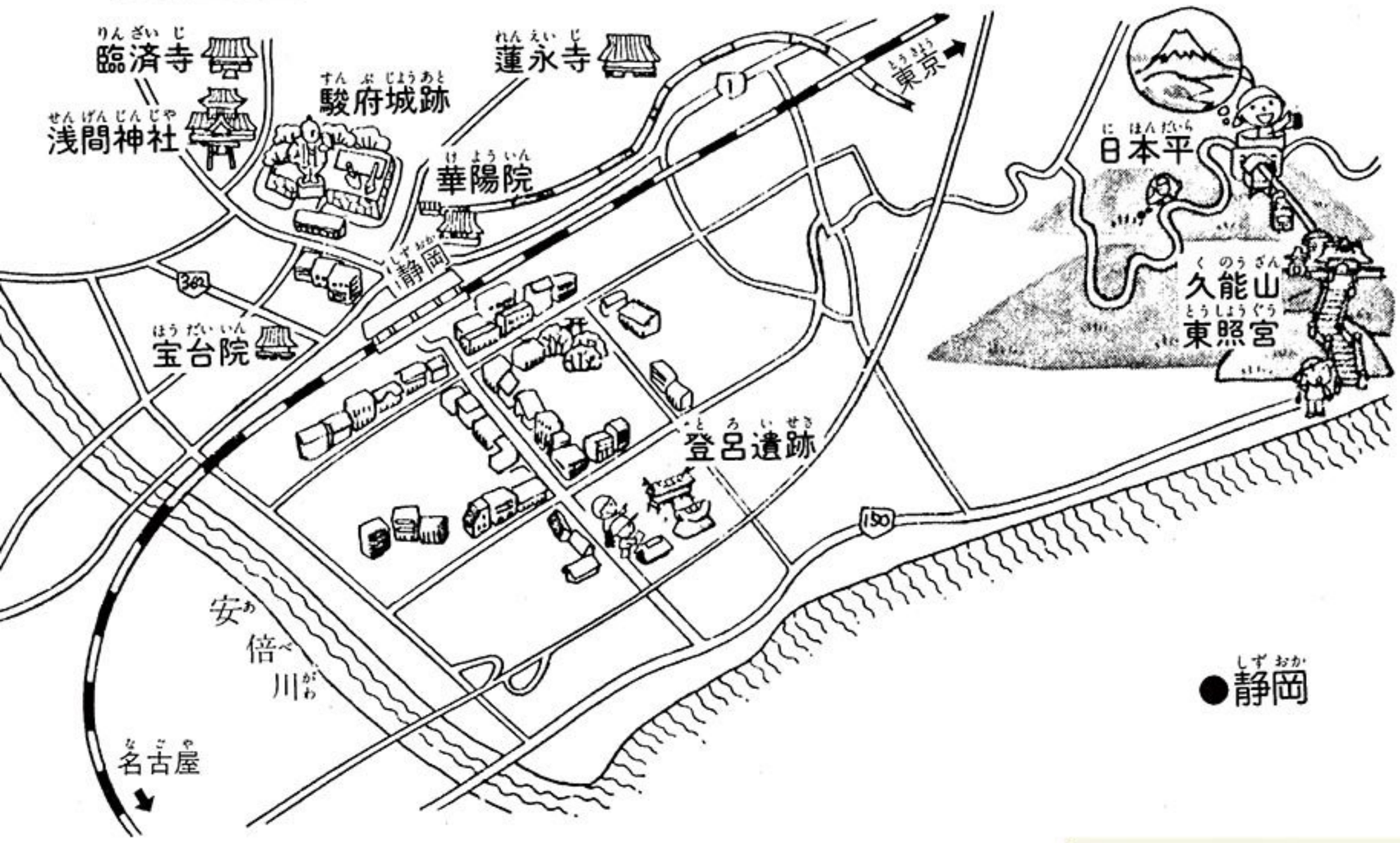
現在は天守閣もなく、内堀はうめられて、城跡は駿府公園となっていますが、城門や櫓などが復元されています。公園内には天守閣跡に鷹狩り姿の家康の銅像がたち、秋にはお手植えのミカンがたくさんの実をつけます。

●見どころ● 一九八二年、本丸跡付近から、今川氏時代の館跡・庭園跡が発掘されました。家康が幼時を人質としておくった地であることを思いながら駿府城跡を見てみましょう。

●付近の史跡● 家康が人質時代に学んだ**臨済寺**は市内大岩にあり、「手習いの間」ものこされています。駿府城の大手門を出てたすぐ近くには、十五代将軍徳川慶喜が一時すんだ**駿府代官屋敷跡**があります。駿府城跡を出て北へ行けば三代将軍家光造営の**浅間神社**があり、ここには山田長政が奉納した軍船の絵があります。そのほか、市内には家康の祖母をまつる**華陽院**、秀忠の母をまつる**宝台院**、頼宣（紀


▲駿府城

⇨第12巻44ページ



伊徳川家の祖）・頼房（水戸徳川家の祖）の母をまつる蓮永寺などもあります。

なお、静岡駅の南2キロメートルのところに登呂遺跡があります。登呂遺跡については、この本の69ページを見てください。

▲浅間神社

■久能山東照宮■

㊐静岡県静岡市根古屋
㊋JR東海道本線静岡駅よりバス、久能山下下車

徳川家康は臨終のとき、自分の遺骸を久能山におさめ、一周忌がすんだら日光にまつるようにいいのこしました。神となって徳川政権の安泰を見まもろうとしたのです。死後、朝廷より「東照大権現」の神号をおくられ、久能山東照宮が造営されました。

社殿は、日光東照宮、滝山東照宮（岡崎市）とともに、三大東照宮の一つに数えられています。本殿の裏手にはりっぱな霊廟がたてられています。

久能山東照宮は駿河湾に面したけわしい山頂にあります。山下から一一五九段のつづら折りの石段を"いちいちごくろうさん"とのぼると東照宮につきます。山門をぬけると博物館です。ここには家康愛用のスペイン製の時計をはじめ、数かずの遺品、徳川家代だいの将軍のよろいかぶとなどが展示されています。

東照宮からのながめはすばらしく、眼下の白波たつ駿河湾をへだてて遠く太平洋をのぞめます。家康が死後もなお、永久に徳川家や天下の安泰をねがった気持ちがわかる気がします。

飛騨・高山

飛騨国は、岐阜県の北半分をしめる山国です。人びとは山間のわずかな平地にすんでいました。しかし高山は、奈良時代に国分寺が建立されたように、早くから中央の文化が入ってきていました。

江戸時代になると、幕府が飛騨の豊富な木材をめあてに天領とし、高山はその政治・経済の中心になりました。各地から商人があつまり、ごうかな高山祭に見られるような町人文化が発達しました。

■高山陣屋跡■

㊫岐阜県高山市八軒町
㊫JR高山線高山駅下車、徒歩10分

江戸幕府は元禄時代に飛騨を天領とし、高山に陣屋をつくりました。陣屋とは、代官などが居住した屋敷のことで、当時全国に40か所あまりの陣屋がありましたが、もとのままの姿を現在までのこしているのは高山陣屋だけです。いかめしい形の御門をくぐり、玄関にあがると、右側に御役所・御用場が、左側に吟味所と白洲があります。白洲は石がしきつめてあり、罪人をとりしらべた所です。奥には、広間や庭園がつづき、庭園の左手には、高山城からうつした年貢米をおさめる日本最古の御蔵が8つならんでいます。

●付近の史跡●

高山の町には今も古い商家がならぶ町筋があります。**日下部家・吉島家**は、民芸館として公開されています。外見は、白壁や格子の質素なものですが、天井や柱などの組み合わせはみごとです。また、市街南西の松倉山のふもとにある**飛騨民俗村**には、飛騨地方各地の古い民家が移築保存され、生活用具も展示されています。

飛騨の山奥に白川村という合掌造の民家で知られる静かな村があります。高山からはバスでとちゅうの乗りかえをふくめ約2時間半もかかる所ですが、雪深い山のくらしのなかから生まれた独特の家屋は貴重なものです。

白川村は、御母衣ダムの建設で湖底にしずみました。御母衣にのこっている**旧遠山家住宅**は、ダム建設の前に移築したもので、村営の民俗館になっています。同じく合掌造の家屋で知られる、富山県の**五箇山**とともに、世界遺産に指定されています。

◀高山陣屋跡

▼合掌造の家(白川村)

木曽路を行く

中山道のうち、木曽11宿を通るところを木曽路といいます。街道として整備される以前は、両側から山がせまる深い谷の道で、たいへんな難所でした。

江戸時代になると、東海道とともに整備され、宿場もおかれてにぎわうようになります。中山道は、東海道のように川留めになることがなかったので、このんで通る人も多かったのです。また、長野の善光寺参りの道としてもにぎわいました。

■妻籠宿■

㊫長野県木曽郡南木曽町吾妻
㊫JR中央本線南木曽駅よりバス、妻籠下車

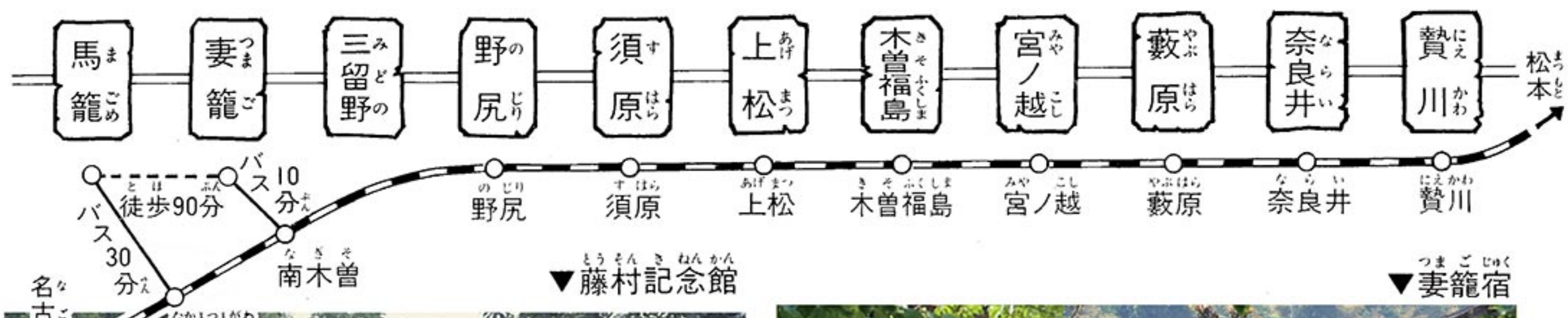
中山道は、明治時代になると、東海道の繁栄にくらべて、さびれた裏街道になりましたが、木曽路には古い町なみや、宿駅の姿、一里塚、道祖神などがたくさんのこされています。

妻籠は、11の宿駅のうちでももっとも江戸時代の姿がのこされていました。一九六八年(昭和43)、妻籠の人びとは、その姿をより長く保存するため、家や町なみをできるだけ昔の宿場の姿にもどし、今後はかってに修理しないことをきめました。

町の表通りにたっていた電柱は裏通りにうつされ、自動車の通行も規制されました。高札場が復元され、番所や本陣の跡地は公園として整備されました。

また、脇本陣は、町営の奥谷郷土館となり、宿駅の資料などが展示されています。

●付近の史跡●　隣村の馬籠にある**本陣島崎家**は、島崎藤村(明治時代の文学者)の生家です。島崎家は火災でやけましたが、**藤村記念館**がつくられ、藤村の原稿や島崎家につたわる資料が展示されています。



▼藤村記念館

▼妻籠宿

城下町・金沢

金沢市は、金沢城を中心とした城下町です。ここは昔、加賀国金沢郷とよばれたところで、戦国時代に浄土真宗の門徒が尾山御坊とよばれる道場をひらいて、加賀一向一揆の中心地となります。

一五八三年、織田信長の家臣だった前田利家がここにうつってからは、前田氏の本拠となりました。利家は金沢城をつくり、城下町を整備しました。江戸時代になると、前田氏は加賀・越中・能登3国の百万石を支配する日本一の大名になります。京都などから学者や工芸人をまねいて文化がさかえ、京都・江戸・大坂の三都にくらべられる大都市となりました。

■金沢城跡■

㊫石川県金沢市丸の内
㊫JR北陸本線金沢駅よりバス、兼六園下下車

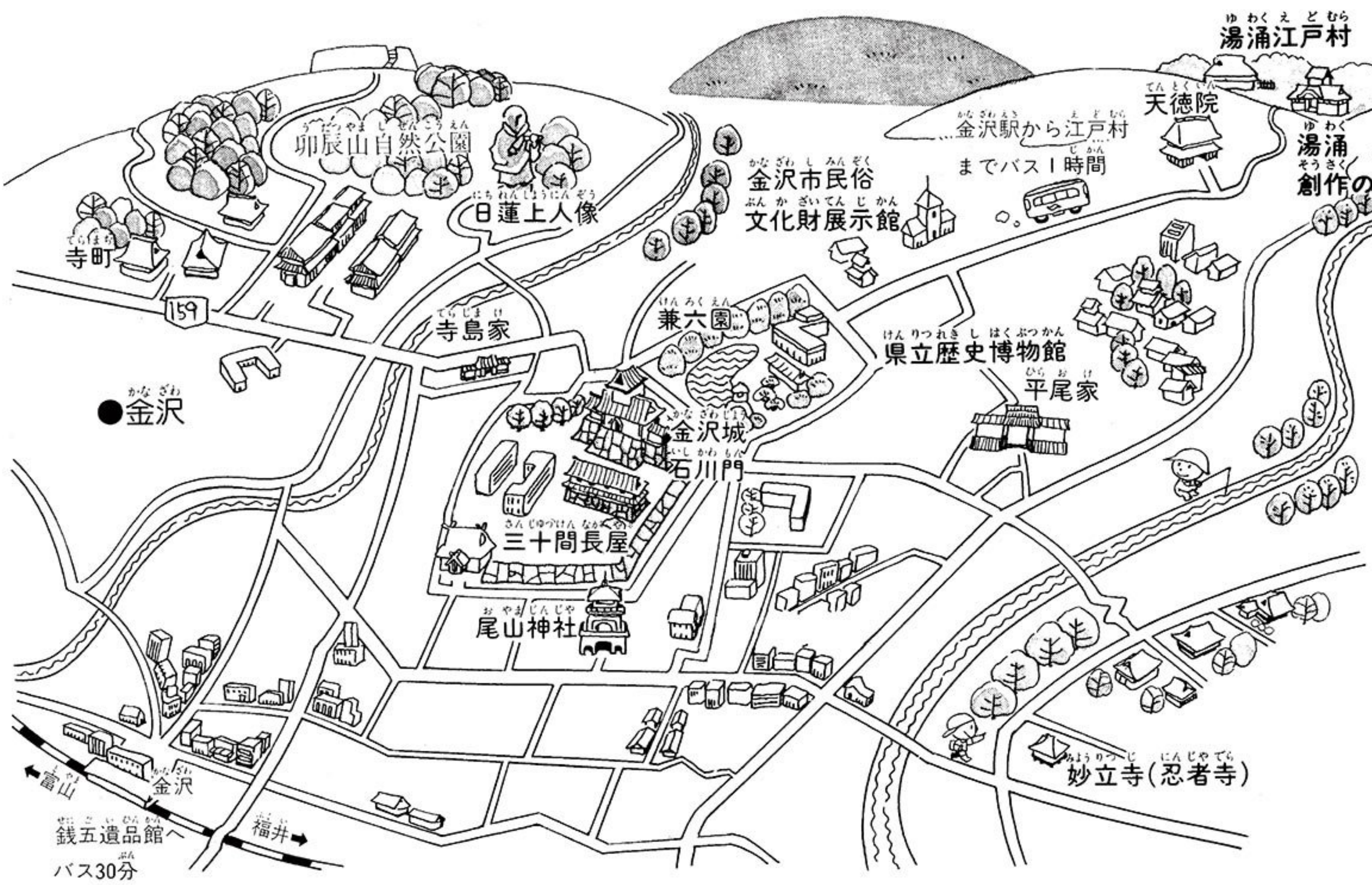
金沢城は、キリシタン大名として知られ、当時前田利家のもとに身をよせていた高山右近が指導してつくった城で、金沢大学のキャンパスになっていましたが、大学は、郊外に移転しています。大学の正門として利用されていた石川門と、火器庫であったといわれる三十間長屋がのこっています。石川門は、鉛の屋根瓦となまこかべに独特のあじわいがあり、門やかべに鉄砲狭間や石落としのしかけがかくされています。

●付近の史跡●

石川門から百間堀をへだてた南東に**兼六園**があります。兼六園は、前田家が代だいつくりそだててきた庭園で、日本三名園の一つに数えられています。兼六園から南東にすすむと旧金沢市立美術工芸大学の赤れんがの建物があります。これが**石川県立歴史博物館**で、郷土の遺跡の出土品などを豊富に展示しています。兼六園から県庁の前をすぎていくと中央公園があり、その一角に**近代文学館**があります。中央公園を少し北へ行くと、和洋折衷のふしぎな形をした門が見られます。これは、前田利家をまつった**尾山神社**の門で、明治初期にオランダ人が指導してつくられました。

このほか、金沢の町には、武家屋敷跡や

▲尾山神社



寺町が数多くのこされています。瓦をおいた土塀のつづく武家屋敷跡は、城下町ならではのものです。町を歩いていると、思いがけないところで、古い看板や格子戸のある家を見つけることができるでしょう。

■金沢湯涌江戸村■

㊫石川県金沢市湯涌荒野町
㊫JR北陸本線金沢駅よりバス、湯涌温泉下車

江戸時代に北陸地方にあったさまざまな建物を移築して、展示公開しています。江戸時代のはじめに建てられた農家の住居、武家屋敷の表門、足軽が暮らした家、商家や問屋の建物などが、石川県各地や福井県から集められました。

これらの建物には家具調度品も展示されていて、加賀百万石を中心とした北陸の武士と農民、町民の歴史を知ることができる貴重な歴史建築博物館です。

●付近の史跡● 湯涌温泉入り口にある**金沢湯涌創作の森**は、明治から大正時代に建てられた古民家5棟を保存しながら、染めものや版画の工房として活用しています。体験教室も行われています。

また付近の薬師寺には、冬にできた氷を夏まで保存する氷室があります。江戸時代には、徳川将軍に献上するため、江戸まで運ばれていました。

中部地方のおもな資料館と博物館

中部地方にあるおもな資料館と博物館をとりあげました。休館日は、各館ごとにことなりますので、事前にしらべておきましょう。

新潟県

相川郷土博物館

所 佐渡市相川坂下町
交 両津港よりバス、相川下車

江戸幕府は、佐渡を天領として、佐渡の金山・銀山を独占していた。佐渡（相川）金山・銀山にのこる鉱石・鉱具などを展示。建物は、幕府の役所にあたる旧御料局の建物を利用している。

長岡市立科学博物館

所 長岡市柳原町
交 JR信越本線長岡駅下車、徒歩15分

鳥獣・昆虫・植物・考古・歴史・民俗・地学の7部門に分かれ、標本や資料が系統的に展示されている。東京オリンピックの聖火台のモデルにつかわれた、馬高遺跡出土の縄文中期の火焔形土器もある。

新潟市歴史博物館

所 新潟市中央区柳島町
交 JR信越本線新潟駅よりバス、歴史博物館前下車

愛称は「みなとぴあ」。敷地内には旧新潟税関庁舎や船着き場の石段や倉庫が復元され、江戸時代には北前船、明治はじめには国際港として開かれた新潟港の、当時の姿を今につたえる。

北方文化博物館

所 新潟市江南区沢海
交 JR信越本線新津駅よりバス、上沢海博物館前下車

越後平野の千町歩地主伊藤家の大邸宅と敷地を博物館にした。城を思わせる本邸、回遊式大庭園、茶室など栄華をきわめた大地主の生活がしのばれる。敷地にはこの地方の古い民家があつめられている。

富山県

魚津歴史民俗博物館

所 魚津市小川寺
交 JR北陸本線魚津駅よりバス、魚津歴史民俗博物館口下車

考古・歴史・民俗の各分野の資料を展示。富山湾沿岸で用いられたブリ定置網と用具、漆器やろうそく製造用具もある。隣接の吉田記念郷土館には、縄文の土器のほか、松倉城関係の資料が展示されている。

五箇山民俗館

所 南砺市菅沼

交 JR城端線城端駅よりバス、菅沼下車

富山市郷土博物館

所 富山市本丸城址公園内

交 JR北陸本線富山駅下車、徒歩10分

石川県

石川県立歴史博物館

所 金沢市出羽町

交 JR北陸本線金沢駅よりバス、出羽町下車

北前船の里資料館

所 加賀市橋立町

交 JR北陸本線大聖寺駅よりバス、橋立下車

銭屋五兵衛記念館

所 金沢市金石本町

交 JR北陸本線金沢駅よりバス、西警察署前下車

伝統産業工芸館

所 金沢市兼六町

交 JR金沢駅よりバス、兼六園下車

金沢湯涌江戸村

所 金沢市湯涌荒野町

交 JR北陸本線金沢駅よりバス、湯涌温泉下車

五箇山地方では合掌造の民家がまだのこっており、菅沼集落は、集落ぐるみでユネスコの世界遺産となっている。民俗館は合掌造の民家を改造したもので、五箇山地方の民具や民俗資料を展示している。

富山藩関係の資料をはじめ、県内の動植物の標本や美術品を展示。越中富山の売薬の製造用具や行商道具類は、富山市売薬資料館にうつされ、歴史資料として展示されている。

旧金沢市立美術工芸大学の赤れんが造の建物。石川県の古代から現代にいたる歴史・考古・民俗資料を総合的に展示。加賀藩十村文書、北前船関係の史料なども豊富にある。

加賀市は江戸時代には北前船の船主が多く出た所で、資料館にも北前船模型・船だんす・船絵馬などが展示されている。建物は、北前船の船主だった酒谷家の家を改修したもの。

海運業によって〝海の百万石〟の豪商として知られるようになった銭屋五兵衛のドラマチックな一生を、遺品や資料で学ぶことができる。

「加賀百万石」ともよばれた前田氏の居城、金沢城。伝統産業工芸館は日本三名園のひとつ兼六園の中にあり、輪島塗ほかの漆器や加賀友禅に金箔など、当時の繁栄をしのばせる伝統産業36種を展示紹介する。

加賀国（石川県）を中心とした江戸時代の北陸地方の建物が保存されている。豪商・下級武士・農民の家など、じっさいに中に入って見ることができ、生活用具も展示されていて興味深い。

福井県

朝倉氏遺跡資料館
㊫福井市安波賀町
㊫JR越美北線一乗谷駅下車、徒歩30分

越前大野城・大野市郷土歴史館
㊫大野市城町
㊫JR越美北線越前大野駅下車、徒歩12分

敦賀郷土博物館
㊫敦賀市三島町
㊫JR北陸本線敦賀駅下車、徒歩15分

福井市立郷土歴史博物館
㊫福井市宝永
㊫JR北陸本線福井駅下車、徒歩15分

丸岡城
㊫坂井市丸岡町
㊫JR北陸本線丸岡駅よりバス、本丸岡下車

山梨県

坂井考古館
㊫韮崎市藤井町
㊫JR中央本線新府駅下車、徒歩20分

信玄公宝物館

戦国大名朝倉氏の城下町一乗谷からの出土品や、朝倉館復元模型などを展示。鬼瓦、茶壺、陶器類、文房具、将棋のこまなどもあり、戦国時代の生活がよくわかる。

一九六八年(昭和43)に再建された天守閣の中に、展示物がおかれている。歴代大野城主の甲冑・武具類や、衣・食・住にわたる民俗資料、市内の古墳からの出土品などが見られる。ことに雪国の生活資料は見もの。

石井左近・初代館長が収集した、越前を中心とする歴史・芸能にかんする資料を展示。市内の古墳や経塚からの出土品、北前船の絵馬なども見ることができる。

福井県の歴史・産業発展にかんする資料、先覚者・偉人の遺品などを展示。なかでも馬おどし屏風はすばらしい。また、原目山古墳の出土品、足羽山古墳出土の人骨・鏡・武器類も見られる。

柴田勝家のおい、勝豊がきずいた平山城で、天守閣は、国指定の重要文化財。天守閣の1・2階に丸岡城の古い遺物が展示されている。

志村滝蔵氏が全生涯をかけて発掘・調査した坂井遺跡の出土品を展示。縄文中期の土偶、顔面把手の土器、石斧、石鏃などめずらしいものが多い。また、復元された住居跡も見ることができる。

武田信玄の遺骨をほうむった恵林寺境内にある。信玄の遺品や恵林寺

㊫甲州市塩山小屋敷
㊥JR中央本線塩山駅よりバス、恵林寺前下車

身延山宝物館

㊫南巨摩郡身延町
㊥JR身延線身延駅よりバス、身延山下車

山梨県立考古博物館

㊫甲府市下曽根
㊥JR中央本線甲府駅よりバス、県立考古博物館下車

の寺宝など、400点以上を展示。恵林寺検地帳や、武具・甲冑も見られる。

日蓮宗総本山久遠寺境内にある。日蓮上人ゆかりの品じな、寺宝、書画が展示されている。中国北宋時代の夏景山水図、宋版礼記正義、本朝文粋など多数の文化財がある。

銚子塚古墳、丸山古墳などの古墳群をふくむ「甲斐風土記の丘」の拠点ともいえる施設。先土器・縄文・弥生・古墳・歴史の各時代ごとに考古資料がわかりやすく展示されている。

長野県

一茶記念館

㊫上水内郡信濃町
㊥JR信越本線黒姫駅下車、徒歩5分

井戸尻考古館

㊫諏訪郡富士見町
㊥JR中央本線信濃境駅下車、徒歩15分

奥谷郷土館

㊫木曽郡南木曽町吾妻
㊥JR中央本線南木曽駅よりバス、妻籠下車、徒歩5分

真田宝物館

㊫長野市松代町
㊥長野電鉄松代駅下車、徒歩5分

俳人小林一茶の遺墨、句碑の拓本、一茶にかんする出版物が展示されている。公園内には「ここがまあ終の栖か雪五尺」の句碑がたてられ、近くには、一茶の菩提寺明専寺がある。

井戸尻遺跡、曽利遺跡など縄文中期の遺跡からの出土品を展示。ふちにごうかなかざりのついた土器はみごと。屋外には炉跡のうつりかわりがよくわかるように展示されている。食用植物の栽培試験場もある。

中山道木曽11宿の妻籠宿にある脇本陣「奥谷」の敷地内にあり、中山道と妻籠宿にかんする資料を展示。和宮降嫁のときに拝領の長持もある。木造3階建ての建物は、一八七七年（明治10）改築のもの。

松代藩主真田家伝来の甲冑や刀剣、書画、絵図などを展示。隣接した松代藩文武学校は、一八五三年にたてられた藩校で、重要文化財に指定されている貴重な建物。

象山記念館

所 長野市松代町
交 長野電鉄松代駅下車、徒歩10分

茅野市尖石縄文考古館

所 茅野市豊平
交 JR中央本線茅野駅よりバス、尖石縄文考古館前下車

長野市立博物館

所 長野市小島田町八幡原史跡公園内
交 JR信越本線長野駅よりバス、川中島古戦場下車

野尻湖ナウマンゾウ博物館

所 上水内郡信濃町
交 JR信越本線黒姫駅よりバス、野尻湖下車

岐阜県

藤村記念館

所 中津川市馬籠
交 JR中央本線中津川駅よりバス、馬籠下車

岐阜県博物館

所 関市小屋名岐阜県百年公園内
交 JR東海道本線岐阜駅よりバス、小屋名下車

岐阜城資料館

所 岐阜市金華山天守閣
交 JR東海道本線岐阜駅よりバス、岐阜公園前下車、ロープウェー3分

幕末の兵学者佐久間象山を記念してたてられたもの。望遠鏡や砲術書、フランス製医療機械、電気治療器などが展示され、象山のはば広い活やくがしのばれる。

縄文中期の尖石・与助尾根遺跡の出土品をはじめ、先土器・縄文・弥生・古墳の各時代の考古資料を展示。なかでもヘビの姿をかたどった把手付土器などごうかな縄文土器は見ものである。

「長野盆地の歴史と生活」を主題とする博物館。模型・パネル・ジオラマなどが豊富で、楽しみながら長野県の歴史・民俗を学ぶことができる。また、地震体験室、天体学習室などの設備もととのっている。

野尻湖から出土したナウマンゾウ・オオツノジカの骨、石器などを展示。湖畔に住んだ人びとの生活、野尻湖の歴史が分かりやすく説明してある。

島崎藤村の生誕地、旧馬籠宿本陣跡にある。父正樹の隠居所と、『夜明け前』の伏見屋のモデル大黒屋の土蔵を改築した文庫があり、遺稿や手紙などが展示されている。

岐阜県の自然・美術・歴史をつたえる総合博物館。歴史の展示は、「郷土のあゆみ」をテーマに、岐阜県の原始時代から現代までのあゆみを時代別に展示している。

金華山の山頂につくられた岐阜城の模擬天守閣を、郷土資料館にしている。斎藤道三、織田信長、明智光秀らの肖像画・武具、宣教師ルイス＝フロイスの書簡、岐阜市周辺の遺跡からの出土品など、考古資料、民俗資料を収蔵・展示している。

関ケ原町歴史民俗資料館

所 不破郡関ケ原町
交 JR東海道本線関ケ原駅下車、徒歩10分

飛騨高山まちの博物館

所 高山市上一之町
交 JR高山本線高山駅下車、徒歩15分

飛騨民俗村

所 高山市上岡本町
交 JR高山本線高山駅よりバス、飛騨の里下車

縄文中期の中野遺跡出土品にはじまる関ケ原を中心にした考古・民俗資料を展示。とくに関ケ原の合戦のパネルは、ランプの点滅によって両軍の様子が手にとるようにわかり、おもしろい。

飛騨屈指の財産家矢嶋家と永田家の土蔵を改造した博物館。藩主金森氏関係の資料、考古・民俗資料を展示、円空仏も見られる。近くには高山陣屋跡や町人の家があり、当時の人びとのくらしぶりがしのばれる。

飛騨地方の代表的な民家を移築し、展示。単に見学するだけでなく、実際に火のついたいろりに腰かけたり、本当に動いている水車にふれたりでき、昔の人の生活を肌で感じることができる。

静岡県

新居関所史料館

所 湖西市新居町
交 JR東海道本線新居町駅、徒歩8分

久能山東照宮博物館

所 静岡市根古屋久能山東照宮境内
交 JR東海道本線静岡駅よりバス、久能山下下車

登呂博物館

所 静岡市駿河区登呂
交 JR東海道本線静岡駅よりバス、登呂遺跡下車

戸田造船郷土資料博物館

所 沼津市戸田
交 伊豆箱根鉄道駿豆線修善寺駅より

新居関所跡の建物は、全国の関所でもただ一つ現存しているもので、国の特別史跡に指定されている。隣接する史料館には、鉄砲通行手形、女通行手形、刺股などの関所と街道にかんする豊富な資料を展示。

徳川家康の遺品と歴代将軍ゆかりのよろい・かぶと・書画などを展示。なかでも家康愛用のメガネや鉛筆、スペイン製置時計などは興味深い。また、家康着用の歯朶具足など歴代将軍の甲冑も見ものである。

弥生時代後期の米づくりの様子がよくわかる、登呂遺跡出土の遺物を展示。木製鍬や田げた、しゃくし、土器などが展示されている。隣接して、人間国宝芹沢銈介氏の染色作品を展示する美術館がある。

一八五五年（安政2）に、船が難破してしまったロシア人たちのために、戸田の船大工が力を貸して、日本で初めてつくられた本格的洋式帆船「ヘダ号」。館内には、その設計図や大工道具、また、日本とロシアの

バス、戸田港下車

浜松市博物館

所 浜松市中区蜆塚
交 JR東海道本線浜松駅よりバス、博物館前下車

ハリス記念館（玉泉寺）

所 下田市柿崎玉泉寺境内
交 伊豆急行下田駅下車、徒歩25分

愛知県

熱田神宮宝物館

所 名古屋市熱田区神宮
交 JR東海道本線熱田駅下車、徒歩5分

三菱東京UFJ銀行貨幣資料館

所 名古屋市東区赤塚町
交 JR東海道本線名古屋駅より地下鉄東山線伏見駅下車、徒歩5分

名古屋城天守閣

所 名古屋市中区本丸
交 JR東海道本線名古屋駅より地下鉄名城線市役所前駅下車

博物館明治村

所 犬山市内山
交 名鉄犬山線犬山駅よりバス、明治村下車

友好の歴史が紹介されている。

原始から近代まで浜松周辺の歴史資料がある。特別展で埴輪など貴重な資料を展示。遊歩道で蜆塚遺跡とむすばれており、復元家屋、貝層保存施設などを見学できる。

玉泉寺には、わが国ではじめて米国領事館がおかれた。現在玉泉寺には、領事として着任したハリスの遺品や、開国にかんする資料などが展示されており、当時をしのぶことができる。

三種の神器の一つ「草薙剣」をまつる古い神社の宝物館には、刀剣類がたくさん展示されている。木製舞楽面や、天皇の手紙、日本書紀古写本などもある。

貨幣専門の博物館。大判・小判など、日本の古代から近代にいたる貨幣はもちろんのこと、中国・南洋ヤップ島・ギリシア・ローマ・欧米諸国などの貨幣まで展示されている。

本丸御殿の障壁画類をはじめ、多数の絵画、二の丸出土品、武器、古文書などを展示。空襲にそなえて美術品を疎開させていたため、城内の貴重な美術品が今にのこっている。

明治時代の代表的な建築物を一か所にあつめてあり、明治時代の文化や、その発展がひと目で見られる。教会、灯台、灯台付属官舎、県庁舎、監獄をはじめ、森鷗外・夏目漱石の住宅などがある。

近畿地方

姫路城
比叡山延暦寺
安土城跡
田能遺跡
清盛塚
大阪城
南宗寺
上野城跡
大王の古墳群
芳徳寺
金峯山寺
高野山金剛峯寺
伊勢神宮
京都は117ページ、飛鳥と奈良は131ページを見てね。
近畿地方は、早くから文化がさかえたところじゃ。

近畿地方の原始時代の遺跡と古墳

弥生時代に稲作が広まると、けものを追ったり、魚や貝をとったり、木の実をあつめたりしていた時代にくらべれば、生活は安定してきます。近畿地方の平野部にすみつく人もふえ、多くのムラがつくられました。

大和政権によって日本の統一がすすむと、近畿地方を中心として各地に古墳がつくられました。古墳は大和政権やその支配下の豪族たちの墓で、大山（「仁徳陵」）古墳などの広大さは、当時の大和政権の勢力の大きさをしめしているといえるでしょう。

ここでは、近畿地方の弥生時代の遺跡と各地の古墳をたずねてみましょう。

田能遺跡

所 兵庫県尼崎市田能
交 阪急神戸線園田駅よりバス、田能口下車

田能遺跡は、大阪国際空港の南約1キロメートル、猪名川の北岸にせっしたところにあります。水道の配水場の建設がきっかけとなって発掘調査が行われ、弥生時代の竪穴住居跡や遺骸を木棺におさめてほうむった墓などが見つかりました。墓の中には、遺骸の首から胸へかけて多数の管玉がのこっているものや左腕に白銅製の腕輪をしたままでほうむられた遺骸もありました。

田能遺跡の出土品は、現地にたてられた資料館で見ることができます。資料館の庭は公園になっており、調査で見つかった円形の平地式住居のほか、参考として方形の竪穴式住居や高床倉庫などが復元されています。また、墓のあった位置も、その場所を花壇にしてしめしてあります。田能遺跡の周辺では、猪名川を6キロメートルほどさかのぼった西岸に、多量の石器が見つかったことで有名な**加茂遺跡**があります。現地の宮川石器館には、加茂遺跡の出土品が展示されています。

山の辺の道

所 奈良県桜井市・天理市
交 JR桜井線桜井駅・天理駅下車

奈良盆地の東につらなる山なみのふもとに、古くから飛鳥と奈良をむすぶ道の一つであった「山の辺の道」があります。この道は、集落と集落をつないで自然にできた道のため、丘を横切ったり、低地におりたりしてつづいていきます。

桜井市から天理市にかけてこの道を歩くと、数多くの前方後円墳が見えます。山の辺の道からは少しはずれますが、JR桜井線の西側で巻向川がJR線と交差するすぐ西にある**箸墓古墳**は、奈良県でも、もっとも古い古墳の一つとされています。崇神天皇の祖父の

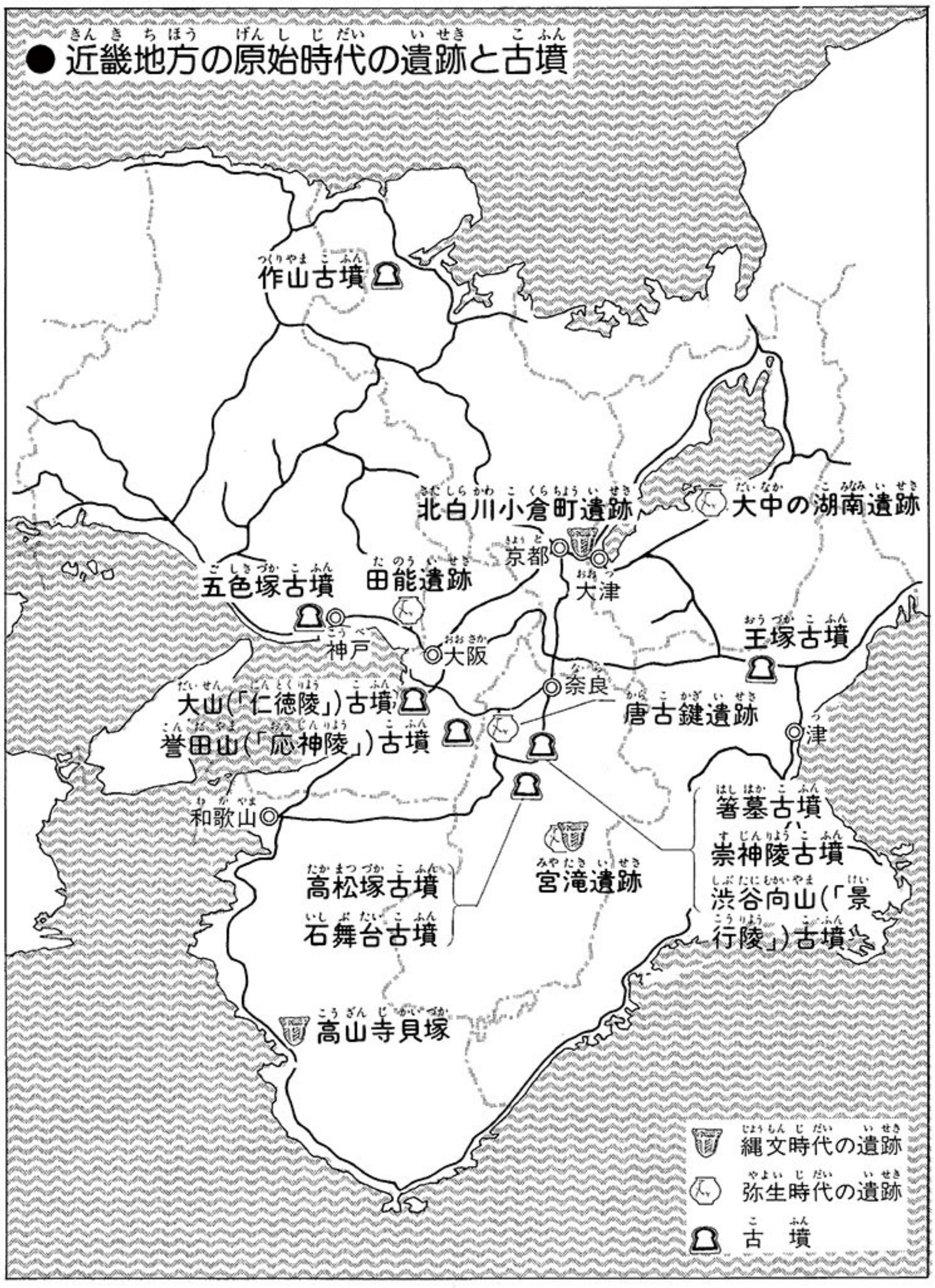
妹の墓とつたえられていますが、『日本書記』には、この古墳は、昼間は人がつくり、夜は神がつくったという話があります。また、古墳につかわれた石は、二上山からリレー式に手ではこばれたといういい伝えものこされています。箸墓古墳は、六七二年の壬申の乱のとき大海人軍と近江軍が、この古墳近くではげしくたたかったことでも知られています。箸墓古墳から北へ20分ほど歩くと**渋谷向山**（「景行陵」）**古墳**、さらに10分たらずで**崇神陵古墳**につきます。崇神陵古墳の東側にある**櫛山古墳**は、双方中円墳というめずらしい形をしています。

▲大山（「仁徳陵」）古墳

■大王の古墳群■

大山（「仁徳陵」）古墳㊫大阪府堺市堺区大山町
㊫JR阪和線百舌鳥駅下車、徒歩5分
誉田山（「応神陵」）古墳㊫大阪府羽曳野市誉田
㊫近鉄南大阪線道明寺駅下車、徒歩10分

5世紀になると、大阪平野に大型の前方後円墳があいついでつくられます。なかでも、堺市大仙町にある前方後円墳は、全長（486メートル）が世界一の墓です。この古墳は、『日本書紀』によると仁徳天皇の墓とつたえられています。『日本書紀』には、生前から古墳づくりに着手し、埋葬するまでに20年かかったとあります。しかし、古墳づくりに20年間もかかったというわけではありません。古墳は、1年ぐらいでつくられた



のではないかと考えられています。大山古墳はJR阪和線の西側にあり、三国ケ丘駅から歩けば、すぐに古墳の北東に出てきます。3重に堀がめぐっており、まわりには、小さな古墳が10ほどのこっています。大山古墳の南に見えるのが、**上石津ミサンザイ**（「履中陵」）**古墳**です。

これらの大古墳が中心となって、百舌鳥古墳群をつくっています。ここから東方約10キロメートルのところには、日本で2番目に大きい**誉田山**（「応神陵」）**古墳**を中心とした古市古墳群があります。近鉄南大阪線の藤井寺駅と古市駅の間、奈良にむかって右手の方向に数多くの古墳がならんでいます。

この古市古墳群では、先年、土師ノ里駅に近い**三ツ塚古墳**の堀から、古墳をつくるときにつかったと考えられる大小2つの修羅（大石や大木をはこぶもの）が出土しました。

なお、百舌鳥古墳群の南方、泉北ニュータウンのある丘陵の一帯には、千か所以上の**須恵器の窯跡**が広がっています。5世紀以来、須恵器をやく窯がたくさんつくられました。出土品は、現地の**堺市立泉北すえむら資料館**に収納、展示されています。

■唐古・鍵遺跡■

㊫奈良県磯城郡田原本町
㊋近鉄橿原線石見駅下車、徒歩30分

奈良盆地の中央部にある唐古・鍵遺跡は、近畿地方を代表する弥生時代の遺跡です。一九三六年（昭和11）に唐古池が発掘され、多くの弥生土器や木製の農具、炭化した籾などが出土し、弥生時代が稲作の時代であることを明らかにしました。現在も発掘調査が進められており、弥生時代の始まりから終わりまで全期間にわたって生活の跡が見つかっています。また、ムラのまわりには、大きな濠をめぐらせていることがわかってきました。この濠は、大水のときにはムラの中に水を逃がしたり、外敵からムラを守るために利用されていたようで、時代によって、何度も掘りなおされていたようです。また、遺跡は、唐古池からさらに南に200メートルある鍵地区にまで広がっており、その規模は25万平方メートルを超えるともいわれています。全国的にみても、弥生時代では指折りの大きなムラの跡といえるでしょう。

出土品には、銅鐸をつくるときに用いられる鋳型や、銅を溶かすのに使ったルツボやフイゴの一部、ガラス製の玉、楼閣や高床の建物を描いた土器をはじめ、農具や容器などさまざまな木でつくった道具など、弥生時代を考えるうえで注目すべきものが数多くあります。

唐古・鍵遺跡の出土品は、近鉄橿原線畝傍御陵前にある**橿原考古学研究所附属博物館**でみることができます。

南朝の夢・吉野山

第2巻第4章、第8巻第3章を見よう。

奈良の南端、和歌山県にまたがる吉野山は、桜の名所として、また、修験者たちが山を歩き岩場で苦行をする聖地として知られています。

歴史の舞台としての吉野山は、中央の権力からしりぞけられた主人公たちが再起をはかる場所でもありました。古くは、大化の改新のあと天皇の位をあらそった大海人皇子（後の天武天皇）が飛鳥の都から吉野へのがれ、鎌倉時代には、北条氏に追われた後醍醐天皇がのがれてきて、ここに南朝の皇居をかまえました。

ここでは、奈良県の吉野町をたずね、大海人皇子や後醍醐天皇の夢のあとを追ってみることにしましょう。

（後醍醐天皇）

■金峯山寺（蔵王堂）■

所 奈良県吉野郡吉野町吉野山

交 近鉄吉野線吉野駅よりロープウエー、吉野山下車

吉野山は、奈良時代から修験者たちの霊山となり、平安時代の中ごろには京都の貴族の間で吉野金峯山まいりが流行しました。当時の金峯山寺は蔵王堂を中心とした吉野山全山のあちこちにたっていた諸堂の総称でしたが、現在はおもに蔵王堂のことをいいます。

蔵王堂は、高さ30メートル近くもあり、東大寺大仏殿につぐ大きな木造建築です。創建以来、何度かの火事で焼失し、現在の建物は豊臣秀吉によって補修され、大正時代に大修理されたものです。堂内には仏像などたくさんの寺宝が陳列されています。

●付近の史跡●

吉野皇居跡は、蔵王堂から歩いて数分のところにあります。最初に皇居となった吉水院からうつったもので、以後、北朝との和議が成立し、京都にもどるまでの皇居だったところです。当時は金輪王寺という寺でしたが、徳川家康によって実城寺とあらためられ、明治時代には廃寺となっています。現在は、「吉野朝宮址」

という碑と、三重塔がたっています。

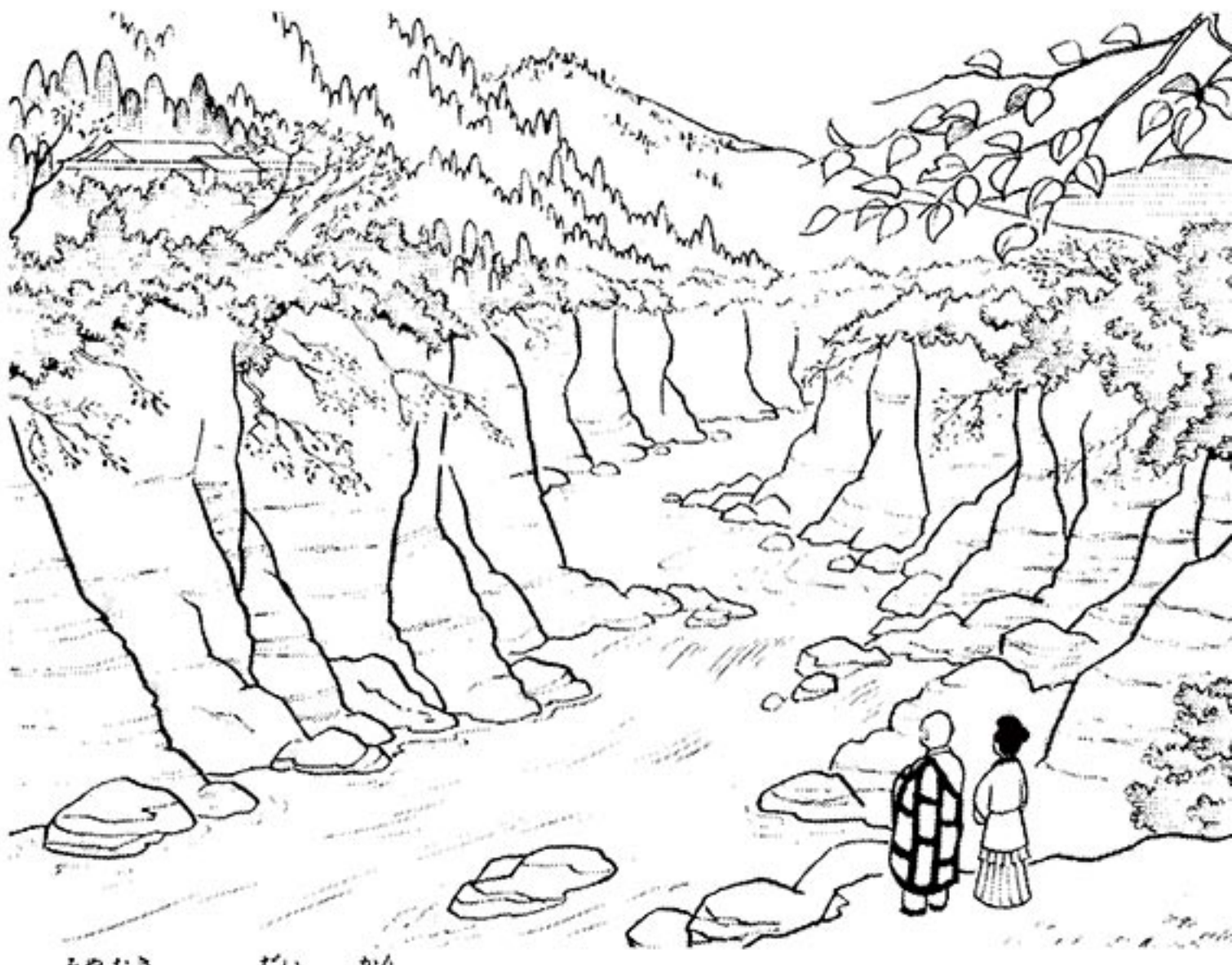
後醍醐天皇が吉野山にのがれ、最初に皇居としたのが吉水院という金峯山寺の一寺院だったところでした。現在は、**吉水神社**になっていて、蔵王堂からしばらく南にすみ、道標にしたがって左へくだったところにあります。鎌倉時代には源義経も、ここにかくれすんでいたといわれます。

後醍醐天皇は、不運のうちに吉野山でなくなりました。**後醍醐天皇陵**は、蔵王堂の南を左手の谷川へおり、さらに急な坂をのぼったところにある**如意輪寺**の裏手にあります。

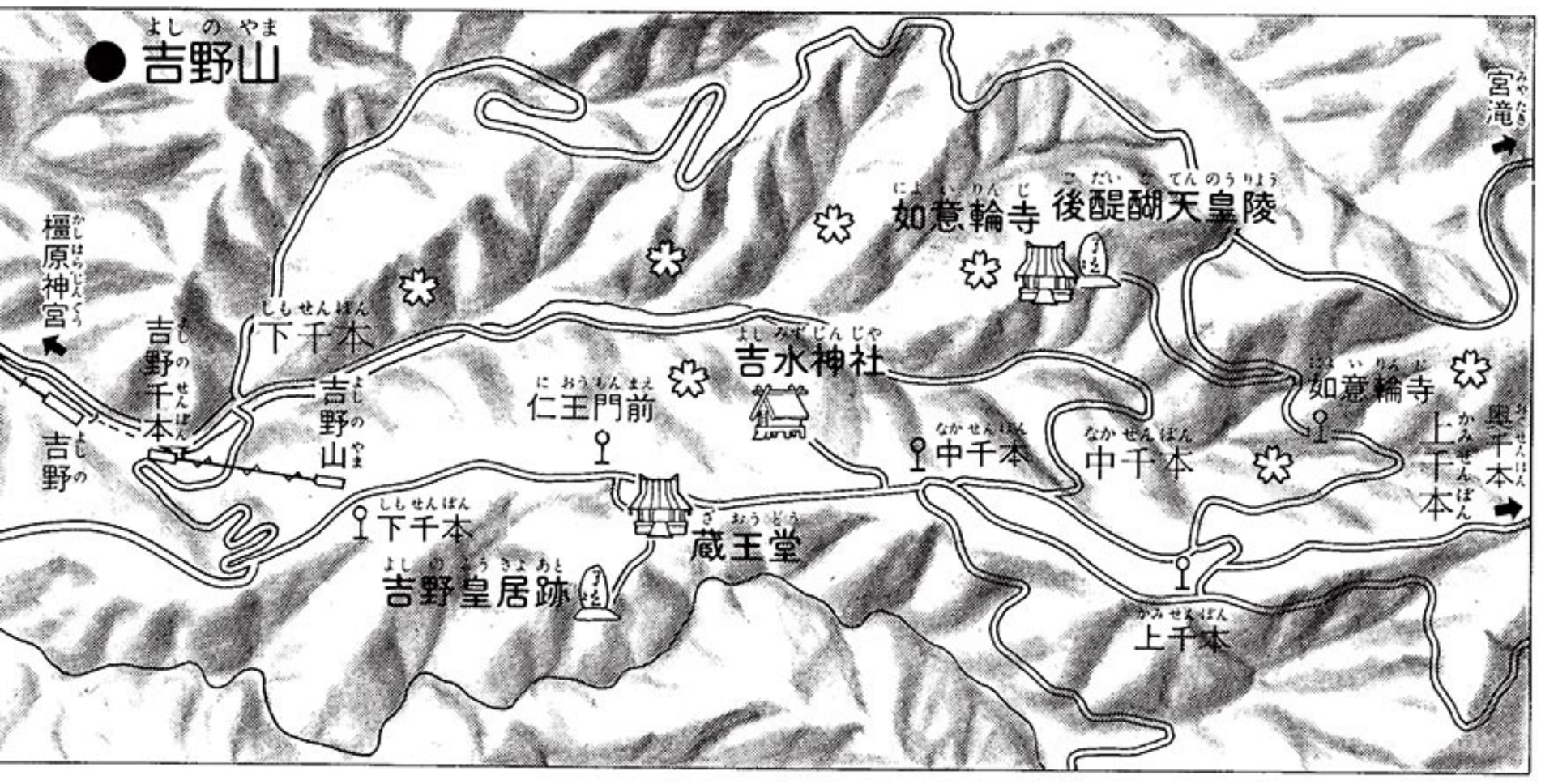
■宮滝遺跡■

㊫奈良県吉野郡吉野町宮滝
㊫近鉄吉野線大和上市駅よりバス、宮滝下車

吉野川の上流が東へ蛇行する宮滝付近は、巨大な岩の合い間をぬって清流がながれる景勝の地です。宮滝遺跡は、縄文時代から奈良時代にかけての遺跡で、飛鳥時代の建物や、飛鳥の宮殿跡にあるような川の石をしいた建物のあと、飛鳥時代の土器など多数の遺物が見つかっています。この遺跡は、大海人皇子や、後に持統天皇となった鸕野皇女がくらした吉野離宮であったと考えられています。出土品は近くの吉野歴史資料館で見ることができます。陳列されている縄文時代の土器は独特なものが多く、宮滝式土器とよばれています。



▲宮滝　⇨第2巻108ページ



比叡山と高野山

第4巻 第2章を見よう。

平安時代初期の遣唐使船に、2人の偉大な天才が留学僧としてのっていました。最澄と空海です。帰国後、最澄は天台宗を、空海は真言密教（後に真言宗となる）をひらきました。

天台宗は、比叡山を総本山として発展し、仏教を学ぼうとするおおぜいの僧侶たちがあつまりました。後の鎌倉時代に活やくした法然・親鸞・道元・日蓮などもここで学んでいます。一方、空海は、世俗をはなれた密教の修行の地をもとめて高野山に金剛峯寺を建立しました。

千年以上たった今日も、比叡山と高野山はその伝統をまもりつづけています。

（最澄）

■比叡山延暦寺■

㊫滋賀県大津市坂本本町
㊫京阪電鉄石坂線坂本駅下車、ケーブルカーで15分、または京都駅よりバス1時間

滋賀県と京都府の境にある海抜848メートルの美しい山なみが比叡山です。延暦寺は、琵琶湖の見える比叡山の東側の山腹にあります。いく度もの火災や織田信長による焼き討ちによって創建当時の建物はのこっていません。現在の建物は豊臣秀吉や徳川幕府によって再建されたものです。

延暦寺は、東塔・西塔・横川の3つの地区からできており、その中心の東塔には、根本中堂、戒壇院、大講堂などがたっています。西塔には、釈迦堂・法華堂・常行堂などがあります。釈迦堂は鎌倉時代の建物で、秀吉が園城寺から移築したものです。西塔のはずれにある瑠璃堂は、信長の焼き討ちをまぬがれた唯一のものとつたえられています。西塔の北東約3キロメートルのところにある横川には、四季講堂などがあります。

▲比叡山延暦寺の根本中堂

●見どころ●

東塔の法華総持院付近からは、坂本や琵琶湖が一望できます。また、大講堂の近くにある国宝殿には、国宝や重要文化財が多数おさめられており、公開されています。

●付近の史跡●

比叡山頂にあたる四明ケ岳付近は公園になっていて、展望台や植物園があります。公園内の**将門岩**は、平将門と藤原純友がこの岩の上で天下をとる話をしたという伝説をつたえるものです。

比叡山の滋賀県側のふもとには、延暦寺

●比叡山

宝が池
八瀬遊園
比叡山頂展望台
東塔
西塔
奥比叡ドライブウエイ
横川
根本中堂
近江神宮
比叡山ドライブウエイ
園城寺(三井寺)
近江神宮前
坂本
日吉大社
唐崎
叡山
西大津
三井寺
琵琶湖

の守護神とされる**日吉大社**があります。鳥居をくぐったところに秀吉が寄進した3つの石橋があり、どれも構造がちがっています。国宝の本殿は、日吉造といわれる様式でたてられたものです。天智天皇が、六六七年にうつした都の**大津宮跡**は、近江神宮の南にあたる錦織付近の市街地の中にあったと考えられています。また、天智天皇をまつる近江神宮には、いろいろな古い時計を展示した**近江神宮時計博物館**があります。

近江神宮の南にある**園城寺**は、三井寺の名で親しまれていて、近江八景のひとつ、「三井の晩鐘」でもよく知られているお寺です。

▲将門岩の上の将門と純友

⇨第5巻47ページ

■高野山金剛峯寺■

(所)和歌山県伊都郡高野町
(交)南海電鉄高野線高野山駅よりバス、千手院橋下車

高野山は、紀伊山地の峰みねにかこまれた奥深い山中にあります。空海は、密教の修行地として高野山にのぼって金堂や大塔をきずき、一山を総称して金剛峯寺と名づけました。弟子たちによって伽藍は拡大され、江戸時代には200あまりの堂塔伽藍がたちならび、隆盛をきわめていました。火災や内紛、明治時代の改革などで現在の寺院は120あまりにへっていますが、今も密教の伝統をうけついでいます。

▲高野山の大塔

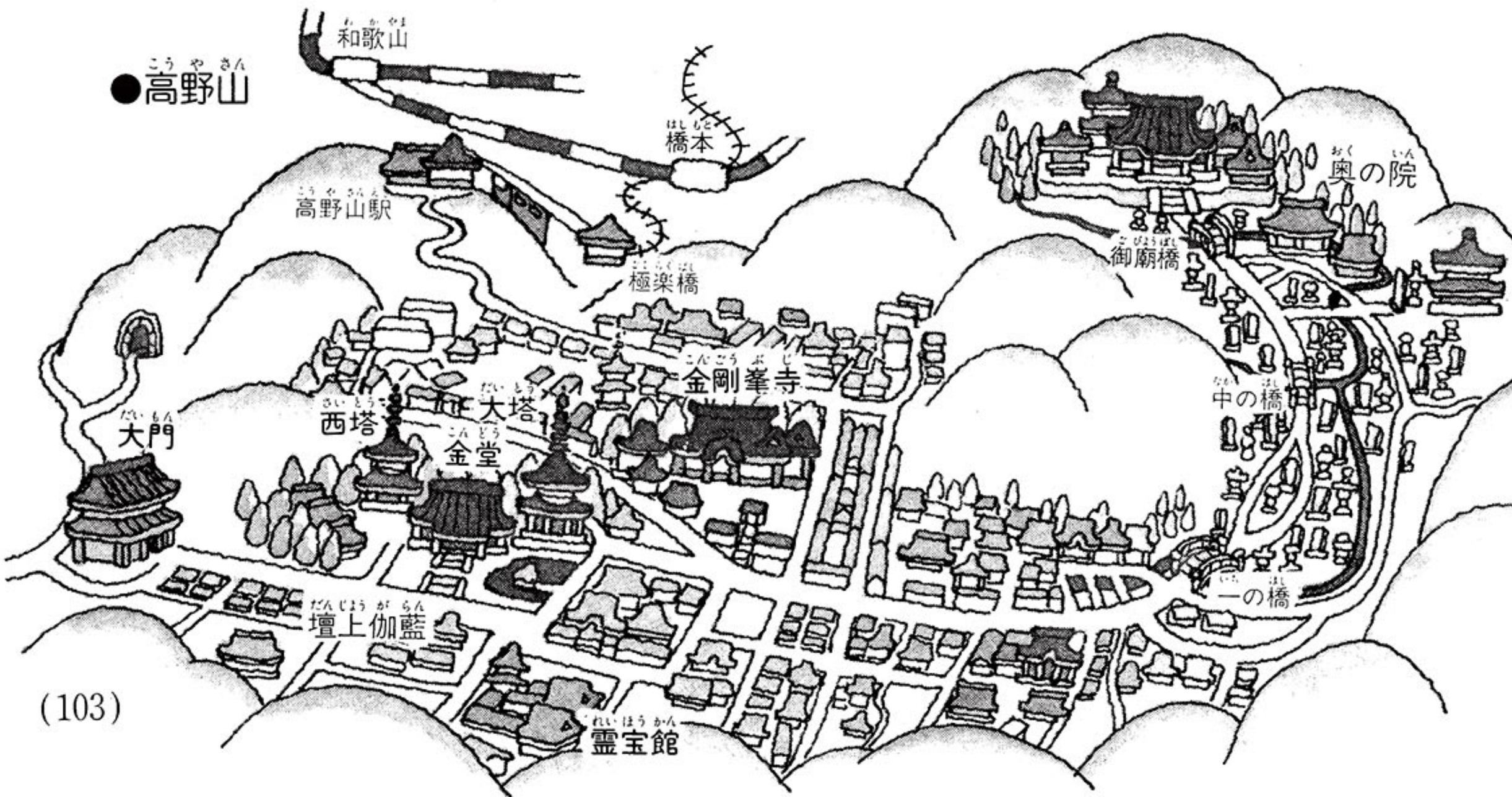
▲高野山奥の院

金剛峯寺は、創建当時は一山の総称でしたが、現在は一伽藍のみの名称になりました。境内には南北63メートル、東西45メートルにおよぶ主殿や経蔵・鐘楼・奥殿などがあり、周囲をとりまく高野檜の巨木がおりなす陰影によって荘厳な空気がただよっています。

◆**壇上伽藍**　金剛峯寺の西側にあります。鎌倉時代のはじめに建立された高野山最古の建物である不動堂や、大塔・金堂・西塔・御影堂などの多数の堂塔があり、奥の院とともに高野山の二大聖地といわれています。大塔は、高さ48メートルの朱塗、多宝塔形式の壮大な建物で、高野山のシンボルともいえます。

◆**奥の院**　杉の巨木がうっそうとしげる、昼なお暗い広大な墓所で、一帯に無数の墓や塔がたちならんでいます。一の橋から中の橋、御廟橋にいたる2キロメートルの参道を歩いて行くと、気づかぬうちにおごそかな気持ちになることでしょう。御廟橋をわたった参道のもっとも奥に、空海の墓所である大師御廟があります。

●**足をのばして**●　和歌山県の県庁所在地和歌山市には、**和歌山城**があります。江戸幕府の御三家のひとつ紀伊徳川氏の居城だったところです。紀伊藩主から八代将軍になった徳川吉宗も、この城にいました。築城は、一五八五年の豊臣秀吉による紀州統一のときですが、現在の天守閣は鉄筋で復元されたものです。



琵琶湖をめぐる古戦場

第11巻第1章を見よう。

京都の東の入口にあたる近江は、古代からいくたびかの戦場となりました。東国や北陸から京都をめざす軍隊は、琵琶湖の東岸を南進し、大津から京都に侵入しようとしたのです。戦国時代末期には、天下統一をめざす織田信長や羽柴秀吉が、京都をまもるために近江国に城をきずき、東国や北陸にたいする攻防の拠点としました。

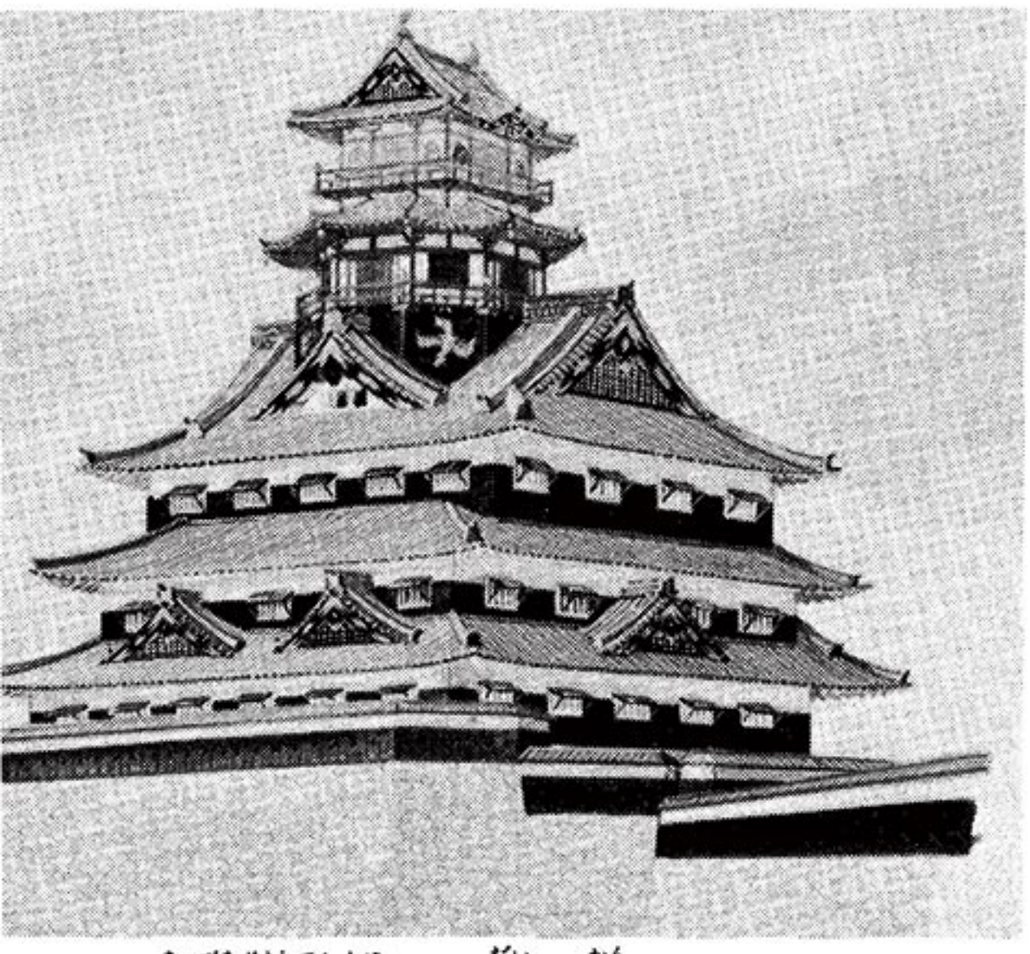
ここでは、湖東と湖北にのこる古戦場や城跡をたずねてみましょう。

（織田信長）

■安土城跡■

所 滋賀県近江八幡市安土町

交 JR東海道本線安土駅下車、徒歩30分



▲安土城天主　⇨第11巻48ページ

織田信長が、天下統一のため琵琶湖東岸の安土山にきずいた城のあとです。築城当時は、四方を湖や沼地でかこまれ、日本で最初の本格的な天主閣があったとつたえられています。しかし、天主閣は落城のさい焼失し、今は礎石と石垣をのこすだけです。また、安土城の近くにある**安土城考古博物館**には、安土城から発掘された金ぱくのついた瓦などが展示されています。

●付近の史跡●　彦根市には**彦根城**があります。ここは江戸幕府の大名井伊氏の居城で、天守閣などが江戸時代初期の創建当時のままのこっています。また、表御殿を復元して建設された**彦根城博物館**が開館しています。

長浜市の**長浜城跡**は、小谷城攻略で活やくした秀吉が、信長から浅井氏の所領をあたえられきずいた城のあとです。天守閣が復元され、内部は歴史博物館になっており、秀吉の遺品や鉄砲鍛冶国友の資料などが展示されています。湖北には、織田・徳川連合軍と浅井・朝倉連合軍とがたたかった**姉川古戦場**や、浅井氏の居城であった**小谷城跡**、柴田勝家と秀吉がたたかった**賤ケ岳古戦場**などがあります。いずれも、石碑や礎石・石垣がのこっているだけですが、賤ケ岳の山頂からのながめがよく、伊吹山や小谷山、琵琶湖や余呉湖が一望できます。

商人の町、大阪と堺

第11巻 第2章を見よう。

古代の難波の地には、一時都がおかれ、大陸との交易の重要な港でした。しかし中世になると難波はさびれましたが、摂津と和泉の境に堺の町ができ、やがて南蛮貿易の港としてにぎわいました。難波には石山本願寺がたてられ、戦国時代には堺の町人と本願寺の力は織田信長と対抗するほどの勢力となります。そして、この本願寺のあとに大坂城をきずき、堺や伏見の商人をあつめて城下町をつくり、商業都市の基礎をきずいたのが豊臣秀吉でした。

ここでは、室町時代や江戸時代にはなやかな町人文化が発達した、堺と大阪をたずねてみましょう。

（豊臣秀吉）

1 大阪

■大阪城■

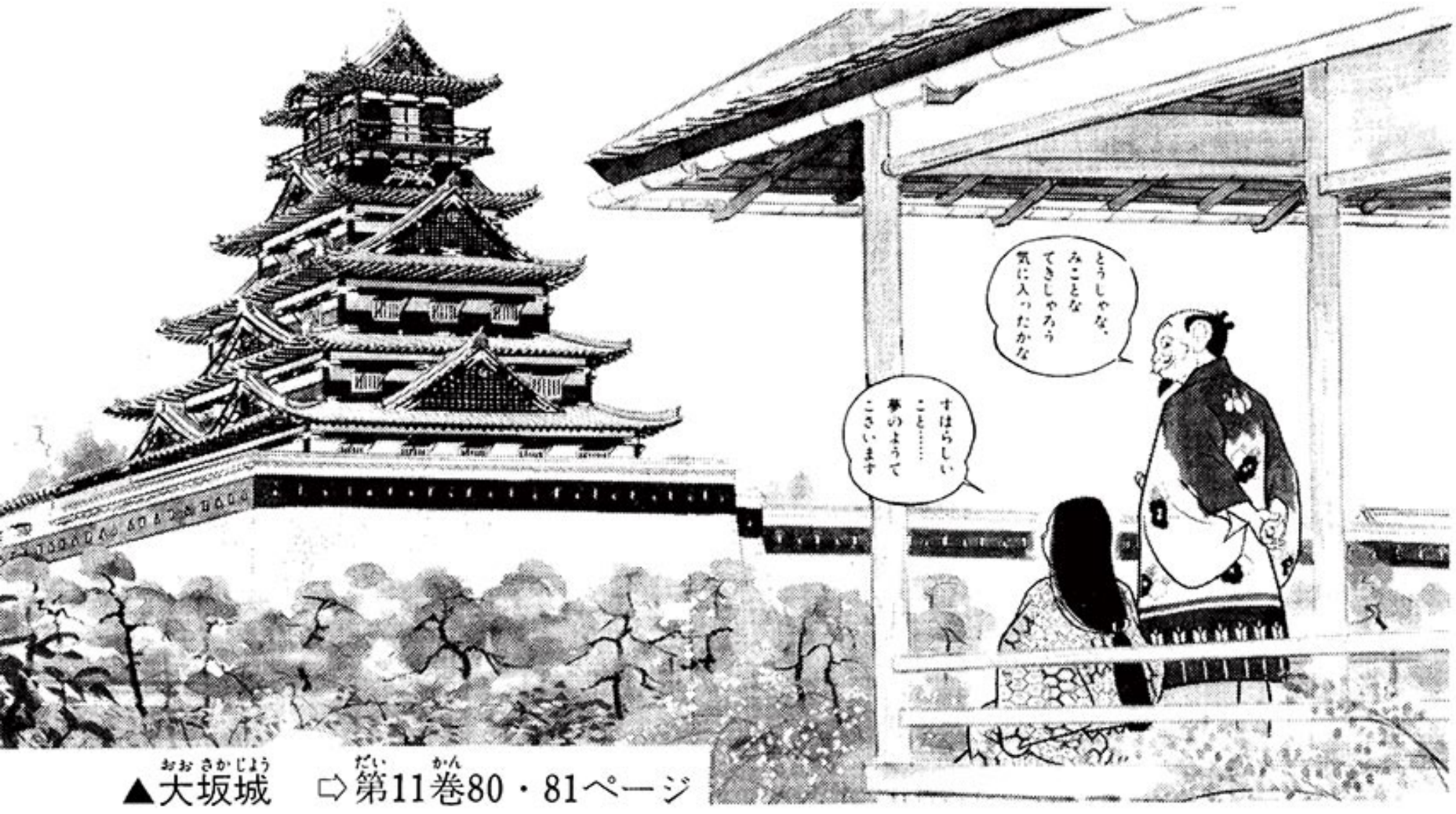
所 大阪府大阪市中央区大阪城
交 JR大阪環状線大阪城公園駅下車、徒歩10分

一四九六年、天満川と大和川にはさまれ海に面した石山の地に、蓮如が浄土真宗の拠点となる石山本願寺をたてました。石山本願寺の焼失後、豊臣秀吉はそこに築城をはじめ、3年の歳月をかけて大城郭をきずき、堺や伏見から商人をあつめて城下町を建設しました。

一六一五年の大坂の陣で、城も町もてっていに破壊されましたが、徳川氏は、一六二〇年から10年の間に多くの大名に命じて、以前の城をおおいかくして巨大な大坂城を再建しました。

現在見られる大阪城の天守閣は、昭和に入ってから「大坂夏の陣図屏風」などを参考にたてられたもので、内部は歴史・郷土館となっています。

また、天守閣の南西側には大阪歴史博物館があります。博物館には、難波宮大極殿の復元や古代の体験発掘コーナーもあり、江戸時代の大阪の町の様子をつたえる模型、絵図や小判など、「天下の台所」といわれた商業都市大阪のにぎわいぶりがしのばれます。



▲大坂城　⇨第11巻80・81ページ

●付近の史跡●

博物館の東側、中央大通にまたがる一帯は、7世紀後半から8世紀前半に都のあった**難波宮跡**です。一九一三年（大正2）にはじめて古瓦が発掘されて以来、大極殿跡、大安殿跡、朱雀門跡などがつぎつぎと発見され、古代の都の全容が明らかになりつつあります。

上本町筋にそってさらに南へ行くと、井原西鶴の墓のある**誓願寺**があります。西鶴は、大坂で生まれ、生涯のほとんどを大坂ですごした人で、生き生きとした町人の生活をえがいた『好色一代男』をはじめとする浮世草子の作者として有名です。

誓願寺のすぐ近くに、西鶴とほぼ同時代に活やくした浄瑠璃作家**近松門左衛門の墓**があります。門左衛門は、『曽根崎心中』や『心中天網島』などの名作を発表し、浄瑠璃の全盛時代をきずきました。2人の墓のあたりから西へ行けば、江戸時代の大坂の繁華街だった日本橋や心斎橋方面に出られます。江戸の町人になったつもりで、散策するのもいいでしょう。

2 堺

■南宗寺■

㊫大阪府堺市堺区南旅篭町東
㊫阪堺電軌阪堺線御陵前駅下車、徒歩8分

土居川ぞいの木にかこまれた静かなところに南宗寺があります。一五五六年に建立されましたが、大坂夏の陣のときに全焼し、沢庵和尚によって再建されました。茶道の歴史をたどるうえで重要な寺で、千利休はわかいころ、この寺で禅の精神にふれ、後年、わび茶を大成することになります。

現在は、利休のわび茶の精神が生みだした茶室である実相庵や仏殿・鐘楼・山門などをはじめ、桃山様式の庭園も見られ、時の権力者秀吉と対立して切腹した利休の墓もあります。

●付近の史跡●

南宗寺から北へ約1キロメートルのところには、鉄砲伝来記念碑のある**ザビエル公園**、**鉄砲屋敷**や**糸割符会所跡**、**妙国寺**があり、堺の繁栄をしのばせています。また、仁徳陵古墳のそばの**堺市博物館**には、当時の堺の町なみの復元模型があるので、見ておくとよいでしょう。

播州の城下町・姫路

兵庫県の南西部をしめていた播磨国は、京都・大坂と西国の接点です。江戸幕府が、関ケ原の戦いのあと、その播磨国に外様大名へのそなえとしてきずかせたのが姫路城です。播磨国には、龍野・明石・赤穂などの諸藩がおかれ、姫路藩主の一族をそれぞれの藩主にしました。江戸時代の播磨国には、これらの藩の城下がさかえ、今でも姫路城をはじめ、多くの城跡を見学することができます。

（浅野内匠頭長矩）

■姫路城■

所 兵庫県姫路市本町
交 JR山陽本線姫路駅下車、徒歩10分

14世紀に赤松一族が城をきずいたこの姫山に、3層の天守閣をたてたのは羽柴秀吉でした。しかし、今の城は関ケ原の戦いの後に江戸幕府の命令できずかれたものです。「西国将軍」とよばれた池田輝政が幕府の命令で建設に着手し、5層6階の天守閣や二の丸をきずき、さらに大坂の陣の後に城主となった本多忠政が、姫山のとなりの峰の鷺山に西の丸をつくって、この城を完成させました。

▲姫路城

白鷺城として親しまれる姫路城は、変化にとむ天守や櫓の純白な美しい姿だけでなく、内堀にはじまってらせん状につづく中堀、外堀が本丸や二の丸をかこむすぐれた配置、塀と石垣とにはさまれた細い通路と門の組み合わせなど、どれを見てもすばらしく、城郭建築の代表といわれています。また、一九九三年（平成5）に、世界遺産（文化遺産）に登録されました。

●足をのばして●

赤穂市には**赤穂城跡**があります。JR赤穂駅から城下町のなごりをのこす町を南へ10分ほど歩くと、赤穂城大手門と隅櫓がのこる赤穂城跡につきます。有名な「忠臣蔵」で知られている浅野内匠頭長矩は、この城の三代目城主です。主人のかたきをとった大石良雄はじめ四十七士をまつる**大石神社**や**大石良雄屋敷跡**が、大手門の近くにあります。また、城下町の北部には、浪士たちの菩提寺**花岳寺**があるのでたずねてみるとよいでしょう。

また、赤穂は塩づくりがさかんで、藩の財政をうるおしていました。城跡の南に、塩づくりの歴史が学べる**赤穂市立歴史博物館**があります。

忍者の里・伊賀上野

伊賀といえば「忍者」を思いうかべる人も多いでしょう。山にかこまれたこの地方では古くから豪族が山岳での戦いに合った兵法を身につけ、戦国時代には伊賀流忍術として天下に知られるようになったのです。

伊賀国上野は、豊臣秀吉の時代に城がきずかれ、城下町がつくられました。江戸時代の中ごろに、松尾芭蕉がこの城下町で生まれています。

ここでは、上野市に忍者や芭蕉の史跡をたずねてみましょう。

■上野城跡■

㊫三重県伊賀市上野丸之内
㊫近鉄伊賀線上野市駅下車、徒歩8分

上野城は、安土桃山時代にたてられた城です。江戸時代のはじめに5層の天守閣がたてられましたが、完成直前に暴風雨によってたおれ、以後、天守閣は再建されませんでした。現在の3層の天守閣は、一九三五年（昭和10）に、復興されたものです。

石垣や内堀は当時のままのこされ、30メートルにおよぶ石垣は、日本一高い石垣として有名です。

内堀の北側、もとは二の丸があったところに、忍者屋敷や芭蕉翁記念館があります。芭蕉翁記念館には、松尾芭蕉の遺品が展示されています。忍者屋敷は、伊賀国の土豪の住居だったところといわれ、屋敷内にはいろいろなしかけがほどこされています。

●付近の史跡●

上野市駅から東にしばらく歩いた赤坂町には、芭蕉翁生家があります。また、市街の南部の上野西日南町には、芭蕉の弟子服部土芳がすんだ蓑虫庵があります。伊賀は、奈良と伊勢をむすぶ交通の要所でした。市街の西のはずれが鍵屋の辻で、石の道標がたてられています。

●足をのばして●

伊賀とならんで、忍者の里として知られるのが甲賀です。JR伊賀上野駅から関西本線と草津線をのりついで行けば、1時間ほどで甲南駅につきます。甲南町には、忍術屋敷があります。甲賀武士の館跡で、外から見ると平屋の農家のようですが、内部は3階建てで、つりばしごや回転戸などのからくりがほどこされています。また、甲賀町には、甲賀忍者ゆかりの大鳥神社・櫟野寺・油日神社などの古い神社があります。

▲上野城跡

柳生の里

石仏や道しるべをたどりながらすむ柳生街道。かつては柳生十兵衛のような剣豪も、柳生道場をめざして歩いた道です。この道をすすむと、柳生の里につきます。

柳生の名が知られるようになったのは、江戸時代初期に柳生十兵衛の父宗矩が、徳川家の兵法指南役となってからです。宗矩は、柳生の里に、父石舟斎の菩提をとむらうための寺や陣屋をたて、柳生の里は、柳生陣屋の門前町としてさかえてきました。

芳徳寺

所 奈良県奈良市柳生下町
交 近鉄奈良駅よりバス、柳生下車、徒歩15分

柳生宗矩がたてた寺で、柳生家代だいの菩提寺です。柳生家の城があった所といわれ、石段、掘り割りなどの城のなごりをとどめています。北の裏山には、柳生一族の墓がならんでいます。また、お寺の史料室には、宗矩の木像のほか兵法の文献など柳生一族ゆかりの品がおさめられています。

芳徳寺の西には、もともと柳生藩の財政をあずかっていた家老小山田氏の屋敷跡があり、石垣に尾張の石工の名前がきざまれています。この家老屋敷跡から北へ10分ほど行くと、柳生十兵衛がうえたといわれている十兵衛杉がありますが、落雷のため今はかれてしまい、二代目の十兵衛杉がたっています。

付近の史跡

家老屋敷跡から南へ15分ほど歩くと、ほうそう(天然痘)よけの地蔵がほられた石があります。その石の右下には、「借金を棒引きにしろ」という意味のことがきざまれていますが、これは室町時代におこった正長の土一揆の貴重な資料です。

また、芳徳寺の南方にはまっ二つにわれた巨大な岩があります。一刀石とよばれており、柳生石舟斎が天狗を一刀のもとに切りすてたという伝説がのこっています。

神宮の町・伊勢

東国遠征から大和への帰途、病気になった日本武尊が「わたしの足は三重にまがりつかれた」といったことから、三重という地名がおこったと『古事記』に書いてあります。

三重県の伊勢神宮は、皇室の祖といわれる天照大神をまつる内宮と、穀物の神、豊受大神をまつる外宮を中心にした古い神社です。古代から皇室がまつり、鎌倉時代以後は庶民の信仰もあつめ、江戸時代にはお伊勢参りでにぎわいました。

■伊勢神宮■

㊫三重県伊勢市宇治館町
㊫JR参宮線伊勢市駅より バス、内宮前下車
外宮は伊勢市駅下車、徒歩5分

伊勢神宮の正確なおこりは不明ですが、垂仁天皇のころに三種の神器の一つ「八咫鏡」をこの地にまつったとつたえられます。じっさいは、大和政権が東国に進出しようとしたとき、この地にまつられていた神を皇祖神としたのでしょう。

内宮と外宮を中心に、数多くのお宮からなっています。内宮は、五十鈴川にかかる宇治橋をわたり、杉木立の中をすすむと5重の垣の中に正殿があります。正殿は唯一神明造で、7世紀から20年ごとにたてかえつづけられてきました。外宮は、雄略天皇のころにたてられたとつたえられています。静かな森の中に4重の垣にかこまれて正殿があります。

●足をのばして●

伊勢市駅から近鉄大阪・山田線急行で20分ぐらいのところに松阪市があります。松阪駅から西方へ城下町の古い街なみを歩き、松阪城跡に行くと、**本居宣長記念館**がたっています。本居宣長は、松阪に生まれ、賀茂真淵との出会いによって古典研究をつづけ、『古事記伝』をあらわした江戸時代の国学の大成者です。記念館のとなりには、宣長の旧宅「**鈴屋**」が移築され、公開されています。

松阪駅近くの**樹敬寺**に、宣長の墓があり、また伊勢商人の代表三井家も松阪の出身で、越後屋をはじめた三井高利の屋敷が本町にあります。

▲鈴屋

（本居宣長）

港の町・神戸

古湊川の河口にあった大輪田泊は、奈良時代から瀬戸内の重要な港として利用されはじめます。平安時代末期に平清盛が港を大修理し、鎌倉時代には兵庫の津とよばれるようになり、室町時代まで中国との貿易の拠点としてさかえました。江戸時代には、商業都市大坂のとなりにある港としてにぎわいました。

幕末、江戸幕府は兵庫の郊外の神戸村を開港場としました。貿易がはじまり、明治時代以後は、この神戸が東の横浜とならぶ国際港として発展し、今では神戸港の一画に兵庫港を吸収してしまいました。

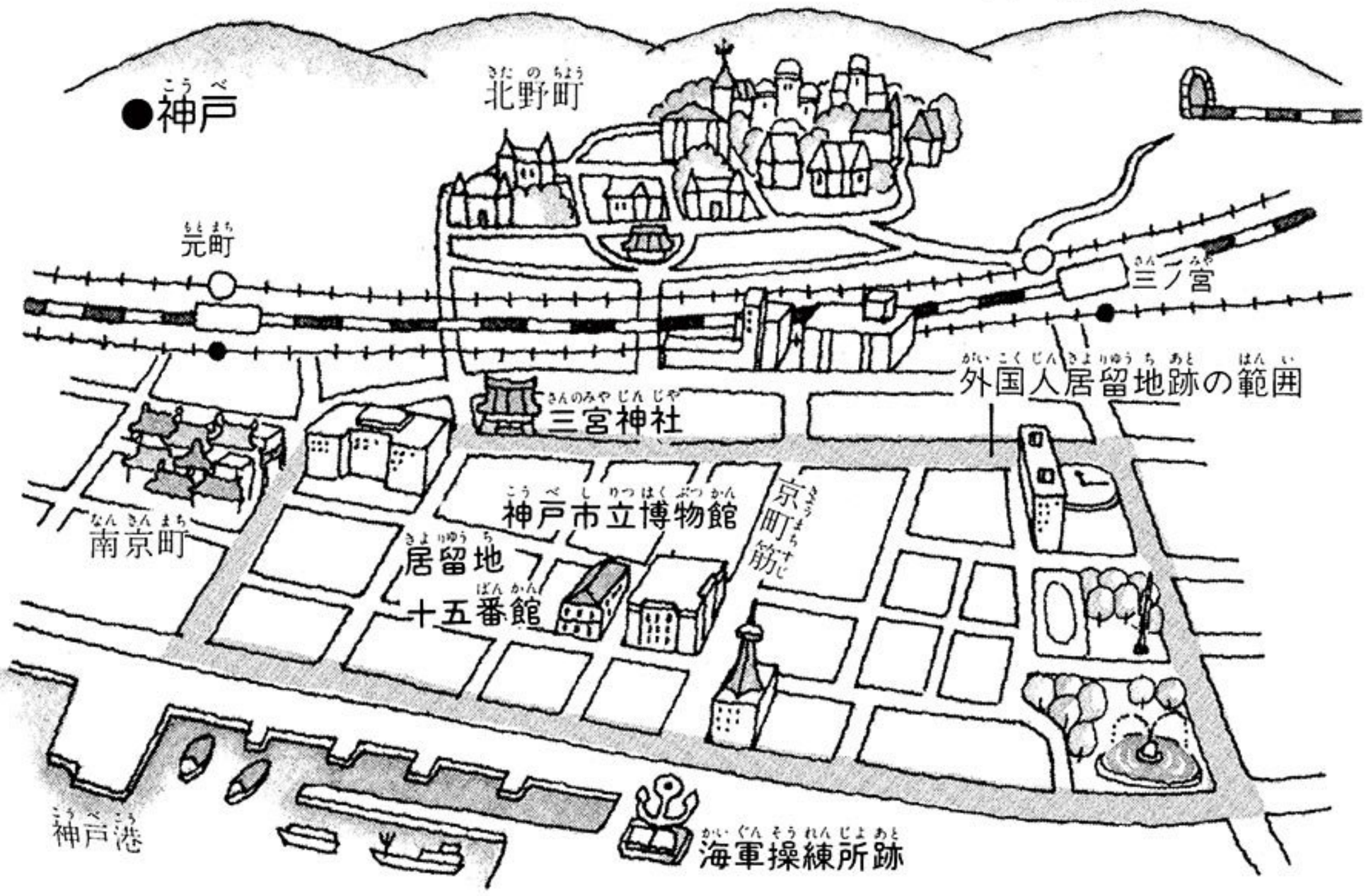
（平清盛）

■清盛塚■

㊫兵庫県神戸市兵庫区切戸町
㊫JR山陽本線兵庫駅下車、徒歩10分

平清盛は、現在の神戸駅の北西にあった福原荘という土地がすきでした。福原荘の南の大輪田泊を中国の宋との貿易のため大修理し、防波堤として築島を建設し、後の兵庫港の基礎をきずきました。一一八〇年には、福原の地に都もうつしました。しかし、都は半年で京都にもどされます。

清盛塚は、一二八六年にたてられた高さ8.5メートルの13重の石塔です。そのそばの清盛の銅像は、昭和につくられました。清盛塚の西が江戸時代の兵庫の中心街だったところで、塚の東のあたりが築島のあとではないかと考えられています。また、清盛塚の横の琵琶塚は、琵琶の名手平経正の塚とつたえられていますが、もとは前方後円墳があったようです。



■神戸外国人居留地跡■

㊫兵庫県神戸市中央区海岸通
㊫JR東海道本線三ノ宮駅下車、徒歩10分

江戸幕府は、神戸港を開港後、諸外国に領事館や住居をたてることをゆるした外国人居留地をもうけました。多くの異人館がたちならび、夕暮れになるとガス灯がともるエキゾチックな街となりました。

現在、三ノ宮駅からまっすぐ南にのびるフラワーロードが居留地の東のはしで、西のはしは鯉川筋。北の境界は旧西国街道、南は海までの間が居留地で、海岸から北にのびた京町筋がメインストリートでした。

京町筋中央部の**神戸市立博物館**の西どなりに、居留地時代から今にのこる唯一の異人館があります。一八八一年（明治14）ごろたてられたもので**居留地十五番館**とよばれていました。また、鯉川筋に面した大丸（デパート）の北側の歩道には、居留地記念碑と当時のガス灯がたっています。

●見どころ●

神戸市立博物館には、旧居留地の復元模型があり、当時の様子がよくわかります。

●付近の史跡●

京町筋の南はしに、**神戸海軍操練所跡**の記念碑があります。海軍操練所は、一八六四年に勝海舟の提案で開設されたもので、ここで坂本龍馬や陸奥宗光らが学んでいましたが、幕末の混乱の中で、1年で閉鎖されてしまいました。

開港後しばらくは、外国人をきらう日本人が外国人を殺傷する事件が何度かおこりました。神戸では、備前藩士が外国人水夫を傷つけた事件がおこっています。大丸の筋むかいにある**三宮神社**には、神戸事件発祥地の碑と、当時の大砲がおいてあります。

大丸の西側にある東西の筋が南京町で、中国人街だったところです。南京町の西のはずれを南に行った、海岸通りの角にたつKCCビルの2階には、**神戸華僑歴史博物館**があります。

一八九九年（明治32）に居留地が廃止されると、外国人は北の山手に移住しました。三ノ宮駅から北へ徒歩約15分の北野町には今も、「風見鶏の館」、「白い異人館」、「ライオンの館」などの愛称でよばれる異人館があり、公開されています。

▲北野町の異人館の1つ旧ハッサム邸

近畿地方のおもな資料館と博物館

近畿地方にあるおもな資料館と博物館をとりあげました。休館日は、各館ごとにことなりますので、事前にしらべておきましょう。

三重県

神宮徴古館・農業館

所 伊勢市神田久志本町
交 近鉄鳥羽線宇治山田駅よりバス、徴古館前下車

徴古館には、伊勢神宮の20年ごとにたてかえられる式年遷宮に奉納する御装束神宝、祭典にかんする資料や美術工芸品が展示してある。農業館には、農産物、木材などが、実物や模型・模造品をつかって、わかりやすく展示してある。ほかに貝類、サメ類のコレクションもある。

芭蕉翁記念館

所 伊賀市上野丸之内
交 近鉄伊賀線上野市駅下車、徒歩5分

松尾芭蕉の俳句を中心に、冊子、掛軸および俳句にかんする文献類が展示してある。また、上野市内の芭蕉ゆかりの寺、神社、庭園などがパネルに表示してあり、芭蕉翁遺跡めぐりができる。

斎宮歴史博物館

所 多気郡明和町
交 近鉄斎宮駅下車、徒歩15分

伊勢の大神につかえた斎王の生活や、その宮殿の全体像を模型や出土品で解説している。また、三重県の歴史風土を「まつりといのり」という側面から展示している。近くの斎宮跡は、史跡公園として整備されている。

本居宣長記念館

所 松阪市殿町
交 JR・近鉄松阪駅よりバス、市役所前下車

本居宣長の著書、記録類、遺品などが展示してある。記念館の東側に旧宅（鈴屋）が移築してあり、中に入って見ることができる。

滋賀県

近江神宮時計博物館

所 大津市神宮町
交 JR湖西線大津京駅下車、徒歩15分

近江神宮境内の朱塗の建物。1階には、和時計を中心に時計資料約3千500点、2階には、大津京に関係する考古資料を展示。時計発達の歴史が一目でわかるようにくふうされている。

大津市歴史博物館

所 大津市御陵町
交 京阪電鉄別所駅下車、徒歩5分

滋賀県立安土城考古博物館

所 近江八幡市安土町
交 JR東海道本線安土駅下車、徒歩25分

日本の東西を結ぶ交通の要地として発展してきた大津の歴史を、原始から現在まで時代をおって展示してある。また、大津市内を港町、城下町、門前町など地域やテーマに分けて、ジオラマなどで紹介している。

織田信長と安土城が主なテーマで、安土城の発掘調査の成果や、信長に関連する実物資料を展示。戦国時代の城郭の変遷を探る模型などもある。敷地内には、江戸時代の農家や明治初期の洋館の学校などが移築されている。

滋賀県立琵琶湖博物館

所 草津市下物町
交 JR草津駅よりバス、琵琶湖博物館前下車

日本最大の琵琶湖は、魚や貝を採るだけでなく、縄文時代から水路として利用され、古事記にも登場し、戦国時代にはいくつも城がきずかれた。琵琶湖と人びとの暮らしを出土品や模型などで解説している。

井伊家の美術・歴史資料をはじめ、市内の文化遺産を保存活用するため、彦根城表御殿の復元をかねて建設した博物館で、能舞台や茶室、大名の居間などが復元されている。

彦根城博物館

所 彦根市金亀町
交 JR東海道本線彦根駅下車、徒歩15分

大阪府

大阪歴史博物館

所 大阪府大阪市中央区大手前
交 地下鉄谷町線・中央線谷町4丁目駅下車

エレベーターで上がった10階のフロアには、大極殿のようすが復元されており、窓から史跡難波宮を望むことができる。発掘現場体験コーナー、本願寺や堺の町の復元、大正から昭和にかけての心斎橋筋・道頓堀など、1500年にわたる大阪の歴史がわかりやすく展示されている。

大阪府立弥生文化博物館

所 和泉市池上町
交 JR阪和線信太山駅下車、徒歩7分

弥生文化に関する総合的な博物館。大阪府下の遺跡から出土した土器や石器、木器だけでなく、全国の著名な資料もレプリカで展示してある。当時の米つくりのありさまや、卑弥呼の館のリアルな復元模型がすばらしい。

大阪城天守閣

一九三一年（昭和6）に復元された鉄筋コンクリートの城。2階は城

㊫大阪市中央区大阪城
㊥JR大阪環状線森ノ宮駅下車、徒歩15分

堺市博物館

㊫堺市堺区百舌鳥夕雲町
㊥JR阪和線百舌鳥駅下車、徒歩7分

日本民家集落博物館

㊫豊中市服部緑地
㊥北大阪急行電鉄新御堂筋線緑地公園駅下車、徒歩15分

郭資料、3～4階は秀吉ゆかりの品々や戦国時代の資料、5階は大坂夏の陣図屏風の世界、7階は秀吉の生涯に関する資料をそれぞれ展示。

仁徳陵古墳に隣接している博物館。泉州地方の歴史を中心に展示されとくに考古資料は豊富。当時の町防衛のためにほられた環濠からの出土品も見のがせない。

服部緑地公園内にあり、日本各地の代表的民家11棟が約3.3万平方メートルの敷地に移築されている。なかには入母屋造妻入り型の摂津能勢の民家、中門造の信濃秋山の民家、山村民家の典型ともいえる日向椎葉の民家などの重要文化財もふくまれている。各民家内には民俗資料が展示され、ふつうの博物館ではあじわうことのできない民衆の生活の歴史を体で感じられる。

兵庫県

赤穂市立歴史博物館

㊫赤穂市上仮屋
㊥JR赤穂線播州赤穂駅下車、徒歩15分

古代から製塩のさかんだった赤穂での千年以上の塩づくりの歴史がわかる。昔の製塩道具・塩田関係の古文書などおもだった資料は国の重要文化財である。

生野鉱物館

㊫朝来市生野町
㊥JR播但線生野駅よりバス、奥銀谷下車

生野銀山にかんする古文書、絵図、鉱山用具などを展示。とくに鉱石のコレクションは有名。付近では生野銀山の旧坑道が見学でき、昔の地底でのくらしがよくわかる。

日本玩具博物館

㊫姫路市香寺町
㊥JR播但線香呂駅下車、徒歩10分

おもちゃの博物館で、全国の郷土玩具や手づくりおもちゃのほか、世界のおもちゃも展示されている。西へ徒歩7分のところには香寺民俗資料館があり、2万点の民具が昔の生活の様子を教えてくれる。

神戸市立博物館

㊫神戸市中央区京町

神戸を中心とした通史の常設展示室には、市内桜ケ丘出土の銅鐸・銅戈などがある。2階の一部は南蛮美術館で、聖フランシスコ＝ザビエル

交 JR東海道本線三ノ宮駅下車、徒歩7分

沢の鶴資料館

所 神戸市灘区大石南町
交 阪神電鉄大石駅下車、徒歩7分

兵庫県立歴史博物館

所 姫路市本町
交 JR山陽本線姫路駅よりバス、博物館前下車

和歌山県

紀伊風土記の丘資料館

所 和歌山市岩橋
交 JR紀勢本線和歌山駅よりバス、紀伊風土記の丘下車

高野山霊宝館

所 伊都郡高野町
交 南海電鉄高野線高野山駅よりバス、霊宝館前下車

太地町立くじらの博物館

所 東牟婁郡太地町
交 JR紀勢本線太地駅よりバス、くじら館前下車

像や南蛮屏風が収蔵されている。見るコーナー、さわるコーナー、考えるコーナーなど楽しい学習室もある。

一九九五年の阪神・淡路大震災で旧館が全壊し、九九年3月に再建オープンした。日本初の木造免震構造の建物で、昔の酒造りの工程や、用具類、酒器のほか、樽廻船などの模型もある。

世界文化遺産である国宝姫路城の北隣、総御影石張りの建物。常設展のテーマは、県内の通史「兵庫の歴史」、城郭史をあつかった「城と城下町」。それぞれの時代に生きた人びとの暮らしに視点をおいた親しみやすい内容である。ビデオライブラリーや体験学習室もある。

岩橋千塚古墳群とともに紀伊風土記の丘の敷地内にある。弥生時代の高床式倉庫をモデルにした建物で、県内で出土した考古資料や、民俗資料を展示。周囲には、県内の古い民家が移築されていて、中には、民俗資料が、使用されている状態で展示してある。

高野山の文化財約3万点を収蔵。五大力菩薩図、八大童子立像、阿弥陀聖衆来迎図などの国宝をはじめ、彫刻・絵画を中心に密教文化を理解するうえで重要な文化財を展示している。

全国にのこるクジラの資料を収集・展示している。いろいろなクジラの模型や、日本に古くからのこる捕鯨の方法をしめした展示もある。クジラを飼育したプールも併設。

京都

京都は、平安時代から約千年も都だったのですね。
上賀茂神社
金閣寺
大徳寺
下鴨神社
千本釈迦堂
京都御所
銀閣寺
二条城
六角堂
京都の街路
西本願寺
三十三間堂
山科
京都
醍醐寺
そう、町全体が史跡といってもよいじゃろう。

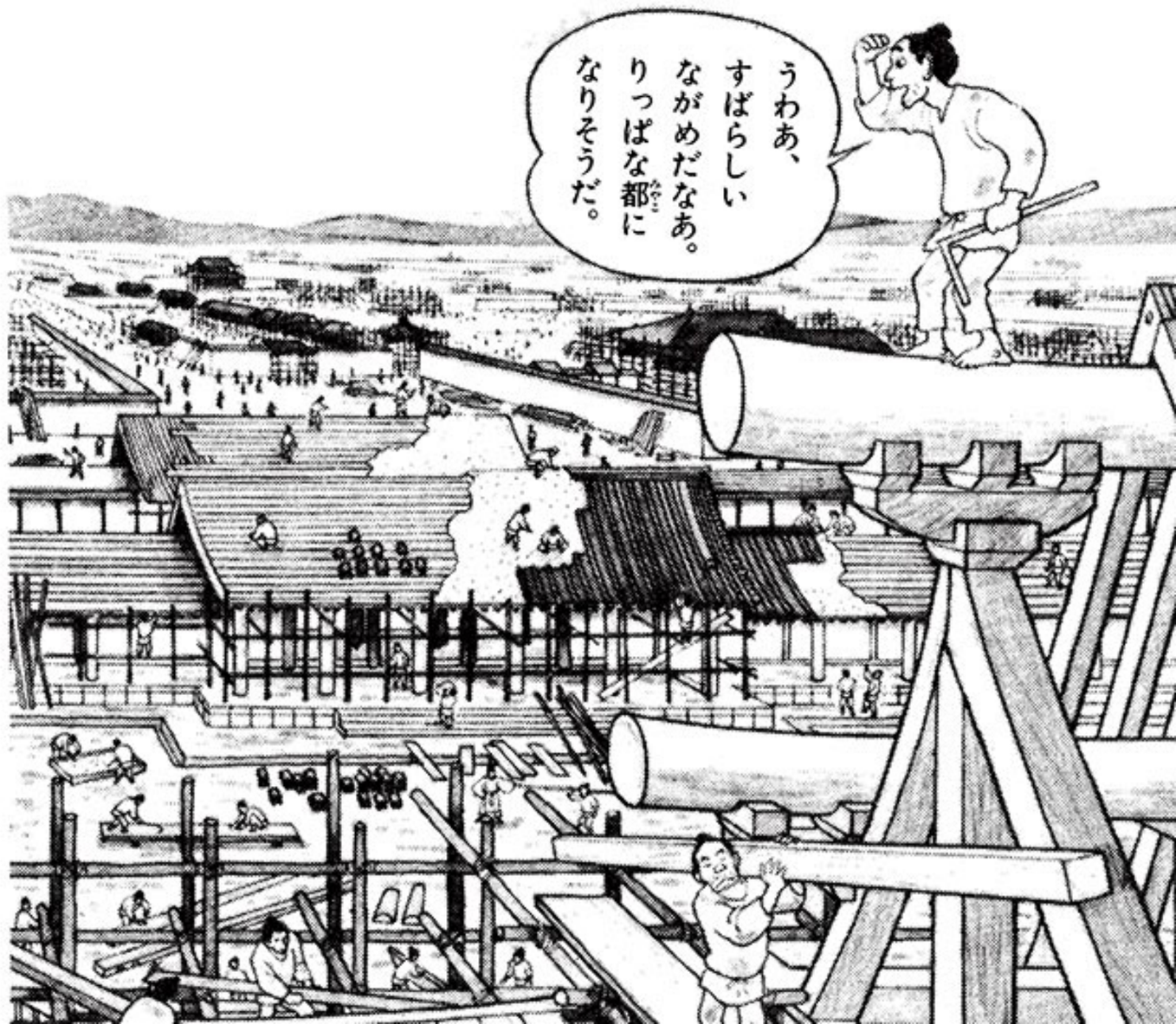
平安京のおもかげ

京都は、桓武天皇が七九四年に都をうつしてから明治天皇が一八六九年に東京にうつりすむまでの約千年の間、日本の都だったところです。その間、政治の中心は鎌倉や江戸にうつりましたが、京都は、天皇のすんでいる場所として、また文化の中心地として、つねに注視されつづけました。京都の人たちは、平安京以来の王朝文化の上に、つぎつぎと新しい時代の文化をつみかさねてきたのです。

ここでは、京都の市街地に平安京のおもかげをたずね、京都の人たちが、そうした文化をどのようにまもりそだててきたかを見てみましょう。

（桓武天皇）

▼平安京の建設　⇨第4巻30・31ページ



■京都の街路■

地図を見てみると、京都の市街はちょうど碁盤の目のように、縦と横の通りが整然とまじわってならんでいることがわかります。これは桓武天皇が平安京を造営するのに、中国の都長安の町なみを見本にして都市計画をたてた、そのなごりです。通りの名前や町なみの様子は、その当時とはずいぶんとかわっていますが、たとえば横の通りでいうと、北から一条・二条・三条……九条というのが平安京以来の通り名で、縦の通りでは、堀川・西洞院・烏丸・東洞院といったのがそれです。ただし、縦の通りで見ると、現在の千本通が平安京の中央を通っていた朱雀大路にあたるため、現在の京都市街は平安京の中心よりもかなり東にずれていることがわかります。

京都では、住所をしめすのに縦と横の通りのまじわりであらわし、それよりも北にあるときは「上ル」、南のときは「下ル」、東と西の場合は、それぞれ「東入ル」、「西入ル」とよびます。ですから、京都の市街地の史跡を見てまわるときは、この縦と横の通り名をおぼえておくと、たいへん便利でしょう。

■京都御所■

㊫京都市上京区京都御苑内
㊫京都駅より地下鉄今出川駅下車、徒歩10分

明治時代のはじめまで代だいの天皇がすんだ場所で、広大な京都御苑の中、中央北よりにあります。もともと平安京のときの御所（内裏）は、これより西1.5キロメートルほどの千本出水付近にありましたが、南北

朝のころに光厳天皇が即位してから、現在の場所（京都御所）が天皇の正式の住まいとなりました。現在の建物は、平安時代の様式を復元して江戸時代に再建されたものです。

●見どころ●　正面の回廊にかこまれた大きな建物が紫宸殿で、即位式などの重要な儀式が行われました。その北西にある清涼殿は、天皇が日常生活をされたところです。ふだんここを見るには宮内庁の許可が必要ですが、春と秋の二回、一般公開されます。

●関係する史跡●　平安京のときの大内裏の中心であった大極殿の碑は、千本通丸太町上ル西側にあります。また、左京区岡崎の平安神宮の拝殿は、一八九五年（明治28）にこの大極殿を8分の5に縮小して復元したものです。京都文化博物館には、平安京の正門である羅城門の復元模型が展示されています。

■六角堂■

㊫京都市中京区六角通烏丸東入ル
㊫市営地下鉄烏丸御池駅下車、徒歩5分

奈良の都では、寺院の力が大きくなりすぎたので、その反省から平安京の中には私寺の建立がみとめられませんでした。しかし、やがて一般庶民の観音信仰を対象としたいくつかの寺（堂）が建立されるようになりました。六角堂（正式名は頂法寺）はその代表的なものです。そして平安時代を通じて、聖徳太子信仰とむすびついて大いに発展しました。鎌倉時代には親鸞がこの寺にこもり、夢のお告げにしたがって法然上人の弟子となりました。室町時代には、町人が町の運営について話し合う場所にもなっています。

●見どころ●　今の本堂は、一八八五年（明治18）の再建で、本尊は如意輪観音です。本堂にむかって左側に親鸞堂、右側奥には聖徳太子をまつった太子堂があります。

●付近の史跡●　烏丸通をどんどん下って（南へ行くこと）松原通とまじわったところに、因幡堂（正式名は平等寺）があります。六角堂と同じように町人の信仰をあつめました。四条通をまっすぐに東へ行くと、鴨川をこえて八坂神社につきあたります。毎年7月に行われる祇園祭は平安時代にはじまったこの神社の祭りです。

■上賀茂神社■

㊫京都市北区上賀茂本山
㊫京都駅よりバス、上賀茂神社前下車

市街の北、賀茂川ぞいにあります。祭神の賀茂別雷神は、下鴨神社にまつられている玉依姫の子どもにあたり、平安遷都以前からこの地にすんでいた賀茂氏がまつった

ものです。下鴨神社とともに平安時代には朝廷のあつい信仰をうけました。5月に行われる葵祭（賀茂祭）は京都三大祭の一つとして有名ですが、当時も多くの公家たちがはなやかな装束で参加し、『源氏物語』など数多くの文学の舞台になりました。また5月5日の競馬も古くから有名です。

●見どころ●　広大な境内にたてられた20棟の建物は、いずれも江戸時代の再建ですが、重要文化財に指定されています。とくに本殿とそのとなりの権殿（仮社殿）は、平安時代の流造の様式をつたえるものとして、国宝になっています。

▲上賀茂神社

■下鴨神社■

㊫左京区下鴨泉川町
㊫京都駅よりバス、下鴨神社下車

賀茂川と高野川の合流するところにあり、上賀茂神社の母神である玉依姫をまつっているので、正式には賀茂御祖神社といいます。上賀茂神社と同じように、朝廷のあつい信仰をうけました。境内一帯は糺の森という深い森で、昼でもうっそうとしています。この中に江戸時代に再建された、国宝・重要文化財の建物が32棟もたっています。

■三十三間堂■

㊫京都市東山区三十三間堂廻町
㊫京都駅よりバス、三十三間堂前下車

京都盆地の東、鴨川にそってつらなる山地を東山といいますが、この東山のふもとにはたくさんの寺社があります。三十三間堂もそうした寺のひとつで、正しくは蓮華王院といいます。院政期に、後白河上皇は勅願寺をあちこちに創建しました。そしてその費用は有力な武士や公家に負担させ、そのかわりにかれらは受領に任命してもらいました。この寺も平清盛の寄進によるものでは、かれは、そのおかげで備前守になりました。その当時の建物は焼失し、現在のものは鎌倉時代に再建されたものです。

●見どころ●　本堂は横に長い巨大な建物で、その中に千一体の観音像が安置されています。その前面に並んでいる二十八部衆立像や風神雷神も、鎌倉時代の代表的な彫像として見逃せません。中央の十一面観音像は、運慶の子の湛慶作といわれています。

●付近の史跡●　七条通をへだてた北どなりは、**京都国立博物館**です。さらにその北どなりには豊臣秀吉をまつる**豊国神社**、大坂の陣をひきおこす原因をつくったといわれる「国家安康」の鐘で有名な**方広寺**などがあります。三十三間堂の東どなりには、俵屋宗達の絵で有名な**養源院**があり、その東の方の**智積院**には、安土桃山時代の代表的な障壁画「楓図・桜図」がのこされています。東山にそってもう少し北へ上ると、坂上田村麻呂が建立したという、舞台造で名高い**清水寺**、浄土教を人びとに布教して市聖とよばれた空也が創建し、その像がのこされている**六波羅蜜寺**など、数多くの史跡があります。

●京都

上賀茂神社
上賀茂神社前
今宮神社
今宮神社前
大徳寺
大徳寺前
北大路
北大路通
下鴨神社
下鴨神社前
金閣寺
金閣寺前
千本閻魔堂
船岡山
石像寺
銀閣寺
龍安寺
仁和寺
御室
仁和寺
竜安寺前
等持院
等持院前
北野神社
千本釈迦堂
京都市考古資料館
堀川今出川
相国寺
今出川通
妙心寺
北野神社前
千本今出川
西大路通
千本通
大極殿跡
今出川
堀川通
烏丸通
京都御所
河原町通
東山通
法然院
仙洞御所
丸太町
丸太町通
花園
広隆寺
二条城
二条
二条城前
平安神宮
永観堂
南禅寺
太秦
神泉苑
御池通
京都文化博物館
三条口
三条通
六角堂
京阪三条
四条通
烏丸
四条
八坂神社
(祇園)
壬生寺
四条大宮
大宮通
五条通
五条
六波羅蜜寺
清水寺
西本願寺
東本願寺
丹波口
方広寺
七条通
京都国立博物館
妙法院
智積院
三十三間堂
京都
東寺
東福寺
羅城門跡
九条通
大阪
山科

●京都の街路

下ル
上ル
御池通
イ
ア
西入ル
堀川通
烏丸通
東入ル
三条通

アの地点は、「烏丸通三条上ル」としめします。烏丸通と三条通の交差点を北へ行くということです。
また、イの地点は、「御池通堀川東入ル」としめします。

極楽の世界

平安時代の貴族にとって、仏教は生活と密接にむすびついていました。空海のはじめた真言宗や最澄の天台宗では、病気や災害をのぞこうとする密教の修法が行われ、貴族たちは自分たちの利益のためにさかんにこれを行わせました。また、平安中期になると、浄土教の信仰がさかんになり、多くの仏像や阿弥陀堂がたてられました。

ここでは、京都の南、宇治の平等院と醍醐寺を見ることによって、その信仰のあとをたどってみたいと思います。

（藤原道長）

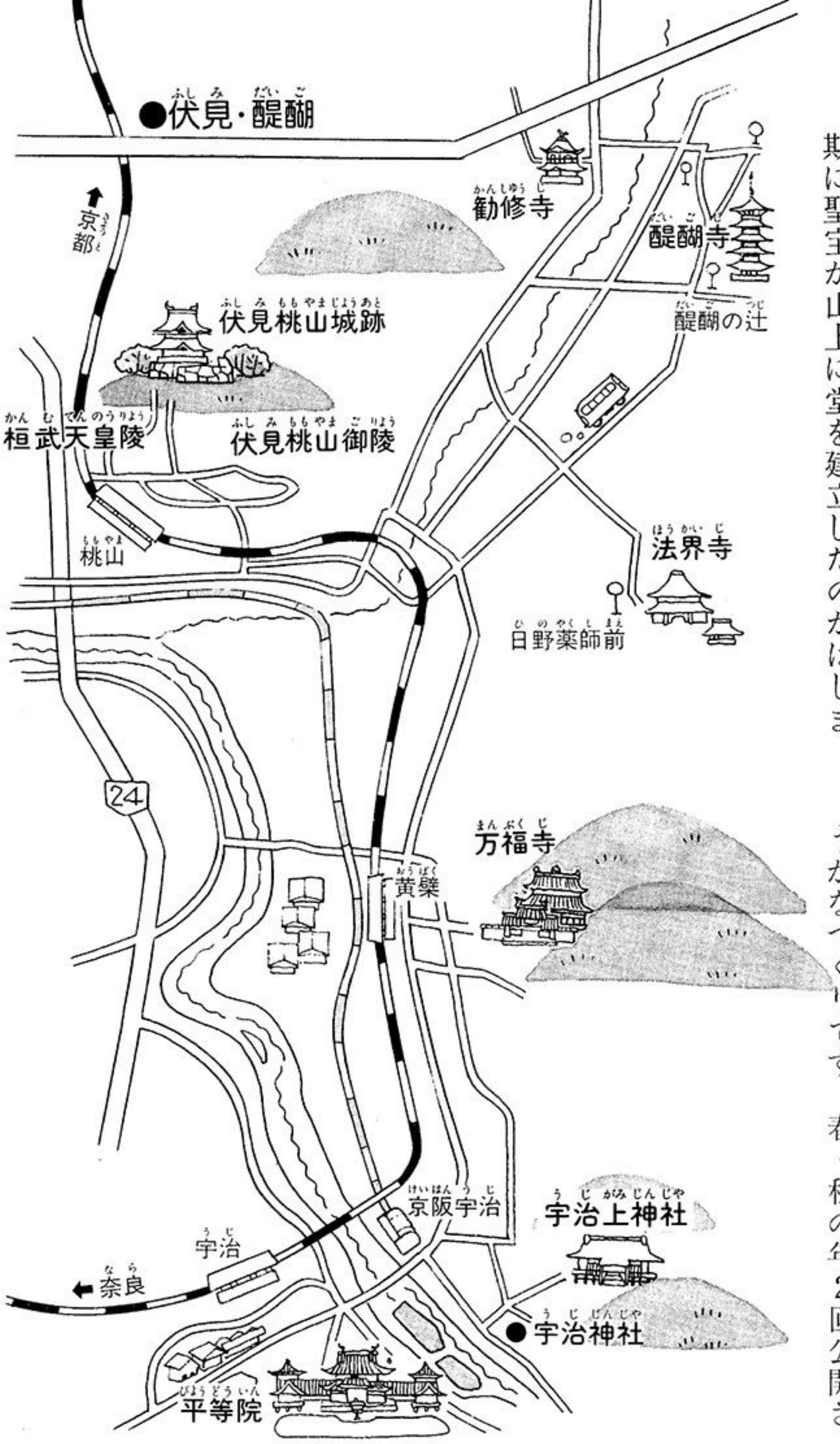
■平等院■

所 宇治市宇治蓮華町
交 京阪三条より京阪電車宇治駅下車、徒歩10分

宇治川の西岸、松林にかこまれた一画にある朱塗の建物が平等院鳳凰堂です。一〇五二年は、釈迦の教えが効力をうしなって末法に入った年と考えられましたが、それにしたがって阿弥陀如来のすくいにすがろうという浄土教がますますさかんになりました。平等院は、その翌年に藤原道長の子頼通が自分の別荘を寺院にして完成させたものです。阿弥陀堂は極楽のさまをうつしてつくられたとつたえられ、池を前にしたその美しさは、「極楽を疑問に思う者は宇治の平等院を見よ」といわれたほどです。

●見どころ● 池の正面の左右対称の建物が阿弥陀堂で、十円硬貨の図柄として有名です。その形が鳳凰という架空の鳥がつばさを広げた形にているところから、鳳凰堂ともいいます。内部の阿弥陀如来像は仏師定朝の作で、その円満な体つきは和様彫刻の特徴をよくあらわしています。周囲のかべには、雲にのって音楽をかなでる、体あまりの菩薩像がかけられています。また堂内の板かべやとびらにえがかれた絵も、平安時代の絵画の遺品として貴重なものです。

●付近の史跡● **宇治橋**は古い歴史をもち、近くの放生院（橋寺）には六四六年に橋がつくられたときの石碑の一部がのこっています。近くの宇治川の中州の浮島には、鎌倉時代の**十三重石塔**や、『平家物語』に出てくる梶原景季と佐々木高綱との宇治川の先陣



争いの碑などがあります。平等院の対岸にある**宇治上神社**の本殿は、日本にのこる最古の神社建築（平安時代後期）で、その前にたつ拝殿（鎌倉時代）とともに国宝に指定されています。

■醍醐寺■

㊫京都市伏見区醍醐東大路町
㊫京阪三条から市バス、醍醐三宝院下車

京都の南西部にある醍醐寺は、真言宗の密教寺院として有名な寺です。平安時代初期に聖宝が山上に堂を建立したのがはじまりで、その後、醍醐天皇がふもとに伽藍を整備しました。また豊臣秀吉は寺内の三宝院門跡をとくに保護し、一五九八年には、ここで盛大な花見の会をもよおしました。

境内には多くの建物がのこされていますが、なかでも九五二年につくられた雄大な五重塔は今にのこる平安時代唯一の五重塔で、一六〇〇年に和歌山からうつした平安後期の金堂とともに知られています。また三宝院の唐門・表書院は安土桃山時代のごうかなつくりです。春・秋の年2回公開される**霊宝館**には、密教による多くの仏画、道具類が保存されています。時間と足に自信のある人は、上醍醐までのぼって国宝の薬師堂（平安時代）や清滝権現（拝殿・室町時代）の建物を見るとよいでしょう。

●付近の史跡●

醍醐寺から少し南に行った日野には、平安時代の阿弥陀堂建築として有名な**法界寺**があります。堂内の阿弥陀如来像も平安後期のりっぱなもので、かべにえがかれた飛天とともに国宝に指定されています。醍醐寺から北へ山科の方に行くと、広大で美しい庭のある**勧修寺**、小野小町にゆかりのある**随心院**などがあります。

北山から東山へ

第8巻第4章、第9巻第4章を見よう。

平安時代のかがやかしい王朝文化は、ごくかぎられた貴族によって独占された文化でしたが、鎌倉時代になって武士が政権をにぎり、また庶民の力が強くなるにしたがって、しだいに武家や庶民による文化が広まりました。とくに室町時代には、幕府が京都におかれたので、伝統的な公家文化と禅宗文化などの新しい文化との融合がはかられ、現在の茶・花・能といった多くの伝統文化の基礎となりました。

ここでは、鎌倉時代の史跡として千本釈迦堂、室町時代の北山文化を代表する金閣寺、東山文化を代表する銀閣寺をまわってみましょう。

（足利義満）

■千本釈迦堂■

㊫京都市上京区五辻通七本松東入ル
㊫京都駅からバス上七軒下車、徒歩5分

堀川通より西側、一条通より北側の一帯を西陣といいます。昔、応仁の乱のとき、細川勝元の東軍にたいする山名宗全の西軍の陣がこの付近にあったことによる地名で、現在は西陣織の機屋がたくさんあります。その機屋の中にかこまれるようにたっているのが千本釈迦堂で、正しくは大報恩寺といいます。寺伝によると、鎌倉初期に求法上人義空の創建にはじまり、摂津尼が崎の材木商の寄進をうけて完成しました。以後、この寺の念仏会（みんなで念仏をとなえる法会）は千本の釈迦念仏としてとくに庶民の信仰をあつめました。

本堂は鎌倉時代の建築で、応仁の乱にもやけのこり、京都の中心部で現存する最古の建物（国宝）です。堂内に安置されている本尊釈迦如来像は、鎌倉時代の仏師の行快がつくったものです。宝物館の十大弟子像（快慶作）、六観音像（定慶作）は、いずれも鎌倉時代の名品で、重要文化財に指定されています。また境内の観音堂は、足利義満が、明徳の乱で死んだ山名氏清をとむらって建立したものです。

▲北野大茶会　⇨第11巻90ページ

●付近の史跡●

千本釈迦堂を西へ行くと、菅原道真をまつった**北野神社**があります。平安時代に創建されましたが、現在の社殿は安土桃山時代のごうかな建築です。豊臣秀吉の北野大茶会はここでもよおされました。千本釈迦堂を北へ行くと、釘抜を奉納することで知られた**石像寺**（釘抜地蔵）、さらに盆の精霊迎えや大念仏で有名な**千本閻魔堂**などがあります。

■金閣寺■

所 京都市北区金閣寺町
交 京都駅よりバス、金閣寺下車

市街の西北の方に目をやると、山腹に、「大」の字の形に火床の見える山があります。これが左大文字山で、毎年8月16日の夜には東山の大文字山と同じく、こに火がつけられます（送り火）。金閣寺は、正式名を鹿苑寺といい、この左大文字山のふもとにあります。室町幕府の三代目の将軍、足利義満が、その権力と財力にまかせてつくった山荘のあとを寺にしたものです。かれはここに、伝統的な公家文化と新しい禅宗文化とを総合し、理想の世界をつくろうとしました。

●見どころ●　中央の鏡湖池にうかぶようにしてたてられた金閣は、1・2層が寝殿造風和様建築、3層が唐様の仏間という構成で、2層と3層には金ぱくがはられています。一九五〇年（昭和25）、放火でやけ、現在の建物は一九五五年に再建されたものです。庭園は回遊式になっていて、山にかこまれた池にうつる金閣の姿は、足利義満が愛した世阿弥の能にも通じる美しさです。

●付近の史跡●　山ぞいを西へ歩くと、石庭で有名な**龍安寺**、その南には回遊式庭園で知られる足利家代だいの菩提寺**等持院**があります。その西方には、禅宗の**妙心寺**の大伽藍、安土桃山時代の金堂（国宝）や江戸時代の五重塔などがある**仁和寺**、秦氏の氏寺で、国宝第1号の弥勒菩薩像で知られている**広隆寺**などがあります。また、その道をさらに西へすすむと嵯峨になりますが、ここには**大覚寺**や**天龍寺**などの寺院、嵐山や、藤原定家ゆかりの**小倉山**などがあって、王朝のふんいきをのこしています。

▼能　⇨第8巻 135ページ

▲仁和寺

■銀閣寺■

所 京都市左京区銀閣寺町
交 京都駅からバス、銀閣寺道下車

金閣寺が北山の左大文字山のふもとにあったのにたいして、銀閣寺は、東山の大文字山のふもとにあります。正式の名称を慈照寺といい、将軍足利義政の山荘をその死後、寺にしたものです。かれは、応仁の乱のすぐあとに政治から身を引き、この地に隠居して茶の湯や和歌、連歌などの風流に

明けくれました。この時代のそうした文化を、銀閣寺のあるこのあたり一帯の地名をとって東山文化といいます。

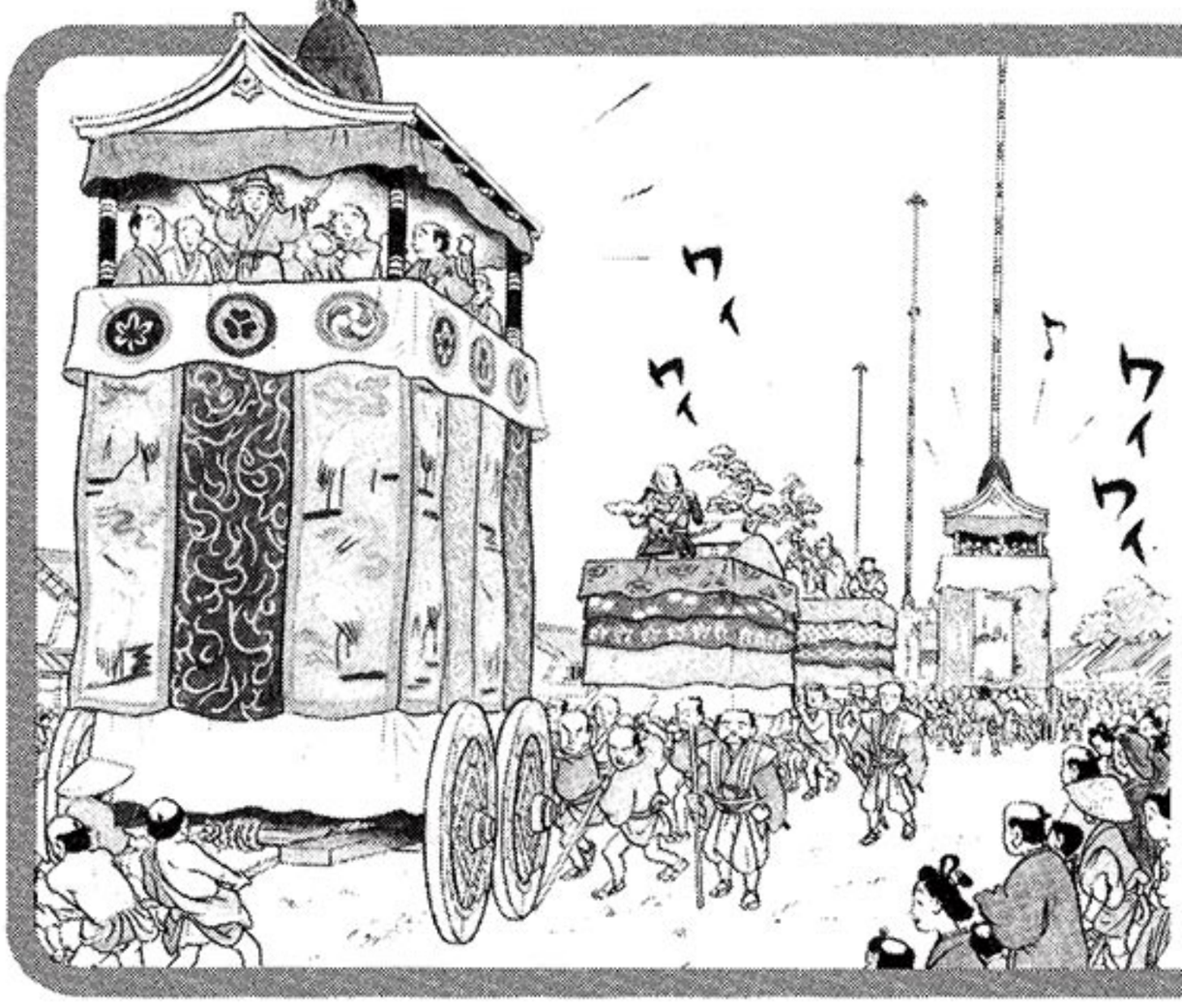
▲銀閣寺　⇨第9巻136ページ

●見どころ●　池のみぎわにある2階楼閣風の建物が銀閣（観音殿）で、名前の由来は、義政が建物に銀ぱくをはったのだとも、はろうとして完成する前に死んでしまったのだともつたえられていますが、じっさいにはったあとはなく、足利義満のたてた金閣にならって後の人が名づけたのだろうと考えられています。東求堂は義政の持仏堂と書斎をかねてたてられたもので、とくに東北すみの同仁斎とよばれる部屋は、違い棚や付書院をもうけたいわゆる書院造の初期の遺構として重要なものです。

▲南禅寺

●付近の史跡●　南へ少し歩くと**法然院**へ出ます。ここは、法然上人の庵のあった所です。さらに南の若王子神社までの間の疎水べりの道は、**哲学の道**とよばれ、散策にてきしています。春は、両側の桜並木がとてもきれいな所です。またさらに南へ行くと、見返り阿弥陀で知られた**永観堂**、五山之上という禅宗の最高の地位にあって、多くの禅僧をそだてた**南禅寺**などもあります。

▼祇園祭　⇨第13巻124ページ



京都の三大祭

●葵祭（賀茂祭）　5月15日。平安朝の服装をした人や牛車が、御所から下鴨・上賀茂両社までねり歩く。

●祇園祭　7月17日。四条通など、京都の中心部を33の山鉾がにぎやかに通る。京都の町の悪疫ばらい。

●時代祭　10月22日。一八九五年にはじまった祭。平安～明治時代の姿をした行列が、御所から平安神宮までねり歩く。

安土桃山の文化

百年にもおよぶ戦国の乱世も織田信長の入京、豊臣秀吉の天下統一によってようやくしずまり、京都の町にも平和がおとずれるようになると、時代にふさわしいごうかな文化が生まれました。その代表ともいうべき、秀吉がつくった聚楽第や伏見城は現存していませんが、そのおもかげをのこす建物の遺構や障壁画は、今も市内のあちこちにのこっています。それとは対照的に、茶道を完成した千利休は、地味で深くおちついた美を追求しました。

千利休ゆかりの大徳寺をたずね、また、はなやかな文化の遺構を西本願寺と二条城に見てみましょう。

（豊臣秀吉）

■大徳寺■

㊫京都市北区紫野大徳寺町
㊫京都駅からバス、大徳寺前下車

大徳寺は宗峰妙超（大燈国師）が、おじで守護大名の赤松則村の援助をうけて、室町時代初期に創建した寺です。後醍醐天皇のときには保護をうけましたが、室町幕府のもとでは冷遇されていました。ところが応仁の乱後、一休宗純は堺の豪商らの力をかりて寺院を復興し、村田珠光、千利休などの茶人が帰依したので、茶の湯の発展とともに大徳寺の力も大きくなりました。また、豊臣秀吉が保護をくわえたので、多くの諸大名の信仰もうけました。

山門は金毛閣といい千利休がたてたものです。利休の木像をこの山門の上においたので、秀吉は、その下を通る自分をふみつけるものだとおこったことは有名です。本坊の唐門は、聚楽第の遺構とつたえられるごうかなものです。塔頭（寺内にある小さな寺）が多く、石庭で知られた大仙院、狩野永徳の襖絵で有名な聚光院（ふだんは非公開）、細川忠興が建立し、利休の邸宅をうつしたという高桐院など、21院がのこされています。

●付近の史跡●

大徳寺の北西には、今宮神社があります。平安時代、疫病をしずめるためにはじめられた「やすらい祭」は、こ

▲今宮神社のやすらい祭

の神社の祭礼で、京都三大奇祭の一つに数えられています。今宮神社を南へ行くと小高い丘があります。これが**船岡山**で、平安京の中心をきめる目印になったといわれています。また応仁の乱のときには、ここで大きな戦いがありました。

■西本願寺■

㊫京都市下京区堀川花屋町下ル
㊫京都駅からバス、七条堀川下車

親鸞がひらいた浄土真宗の本願寺派本山で、京都駅の北にある東本願寺を「お東」というのにたいして、「お西」ということもあります。本願寺は戦国時代には大坂の石山（現在の大阪城の地だといわれています）にありましたが、織田信長の攻撃をうけて、寺地を明けわたしました。その後、豊臣秀吉によって、あたえられた土地に堂舎を建立したのが、現在の西本願寺の寺地で、やがて東西両本願寺に分かれました。広大な寺地には、多くの信者があつまることを目的とした浄土真宗独特の大伽藍が造営されています。

●見どころ●　門を入って右側の大きい建物が親鸞上人をまつっている御影堂で、左側の少し小さい建物が阿弥陀堂です。寺域の南の一画には、秀吉の聚楽第からうつしたという飛雲閣（ふだんは非公開）があります。また南に面して彫刻と金具で装飾された唐門がたっており、これは、白書院の対面の間（鴻の間）と同様、伏見城からはこばれたものといわれ、その華麗さを今につたえています。また白書院の北の能舞台は現存最古のもので、東の虎渓の庭は安土桃山風のごうかいな石庭です。

■二条城■

㊫京都市中京区二条通堀川西
㊫京都駅からバス、二条城前下車

西本願寺の門前を通る広い道路が堀川通です。この堀川通をバスで北に行くと、やがて西側に見えるのが徳川家康が造営した二条城で、代だいの将軍の京都宿所となりました。

城内の二の丸御殿は、城の中に書院造をとり入れた江戸初期の大規模な建築で、内部の障壁画は狩野探幽をはじめとする狩野派の人びとの手になるものです。また御殿に面する庭は、江戸初期の造園家である小堀遠州の作です。二条城の地は、平安京内にあった池、神泉苑のあとといわれていますが、その一部は二条城の南に今ものこっています。

京都府のおもな資料館と博物館

京都府にあるおもな資料館と博物館をとりあげました。休館日は、各館ごとにことなりますので、事前にしらべておきましょう。

京都国立博物館

所 京都市東山区茶屋町
交 京都駅よりバス、三十三間堂前下車

京都市考古資料館

所 京都市上京区今出川通大宮東入ル
交 京都駅よりバス、堀川今出川下車

京都市歴史資料館

所 京都市上京区寺町通丸太町上ル
交 京都駅よりバス、河原町丸太町下車

京都府立総合資料館

所 京都市左京区下鴨半木町
交 京都駅より地下鉄、北山駅下車

広隆寺霊宝殿

所 京都市右京区太秦蜂岡町
交 京都駅よりバス、太秦広隆寺下車

金比羅絵馬館

所 京都市東山区東大路松原上ル
交 京都駅よりバス、東山安井下車

全国に4か所ある国立博物館のひとつ。特別展示館（旧・本館）は、一八九五年（明治28）の建物で、表門とともに重要文化財。館自体の収蔵品は多くないが、京都近郊の社寺から寄託された美術品を中心に充実している。（二〇一三年秋までは、特別展のみの開催）

京都市街地から発掘された、原始から近世にいたる資料を無料で公開している。土器のうつりかわりをならべた展示や、直接土器にふれるコーナーがあるユニークな資料館である。

京都の歴史に関する資料の保存と、活用を目的とした資料館。京都の町並み、町と人びとのかかわりを中心に展示してある。

京都府の歴史、文化、産業、風俗などにかんする資料を展示している。資料室、展示室、図書室などがあって、京都のことを専門的にしらべるのによい。

秦河勝がたてた広隆寺の中にある宝物館。国宝第1号で飛鳥時代の弥勒菩薩像、平安時代初期の阿弥陀如来像など、寺内の仏像・仏画・工芸品・書籍など国宝・重要文化財70点を収蔵、展示している。

安井金比羅宮として親しまれる金比羅宮に奉納された絵馬を中心に、江戸時代から現代までの絵馬約700点が展示されている。「意馬心猿の図」は、絵馬の代表作。

茶道資料館

㊫京都市上京区堀川寺ノ内
㊫京都駅よりバス、堀川寺ノ内下車

醍醐寺霊宝館宝聚院

㊫京都市伏見区醍醐東大路町
㊫京阪電鉄京阪三条駅よりバス、醍醐三宝院前下車

智積院収蔵庫

㊫京都市東山区東大路七条東
㊫京都駅からバス、東山七条下車

東寺宝物館

㊫京都市南区九条町
㊫京都駅からバス、東寺前下車

仁和寺霊宝館

㊫京都市右京区御室大内
㊫京都駅からバス、御室仁和寺下車

風俗博物館

㊫京都市下京区新花屋町通堀川
㊫京都駅からバス、西本願寺前下車

京都文化博物館

㊫京都市中京区三条通高倉角
㊫京都駅から地下鉄、烏丸御池駅下車

千利休の流れをひく茶道の家元、裏千家の資料館で、代だいつたえられてきた茶道関係の美術品を中心に展示している。

鎌倉時代を中心とする多数の密教仏画をはじめ、天平から江戸にわたる工芸、彫刻などの国宝、重要文化財を展示している。俵屋宗達の舞楽図屏風、扇面散図屏風などの秀品がおさめられている。

智積院は、豊臣秀吉が、長男棄丸の死をとむらってたてたのにはじまる。長谷川等伯らの障壁画は、もと大書院にあったもので、安土桃山時代の代表的な濃彩画である。

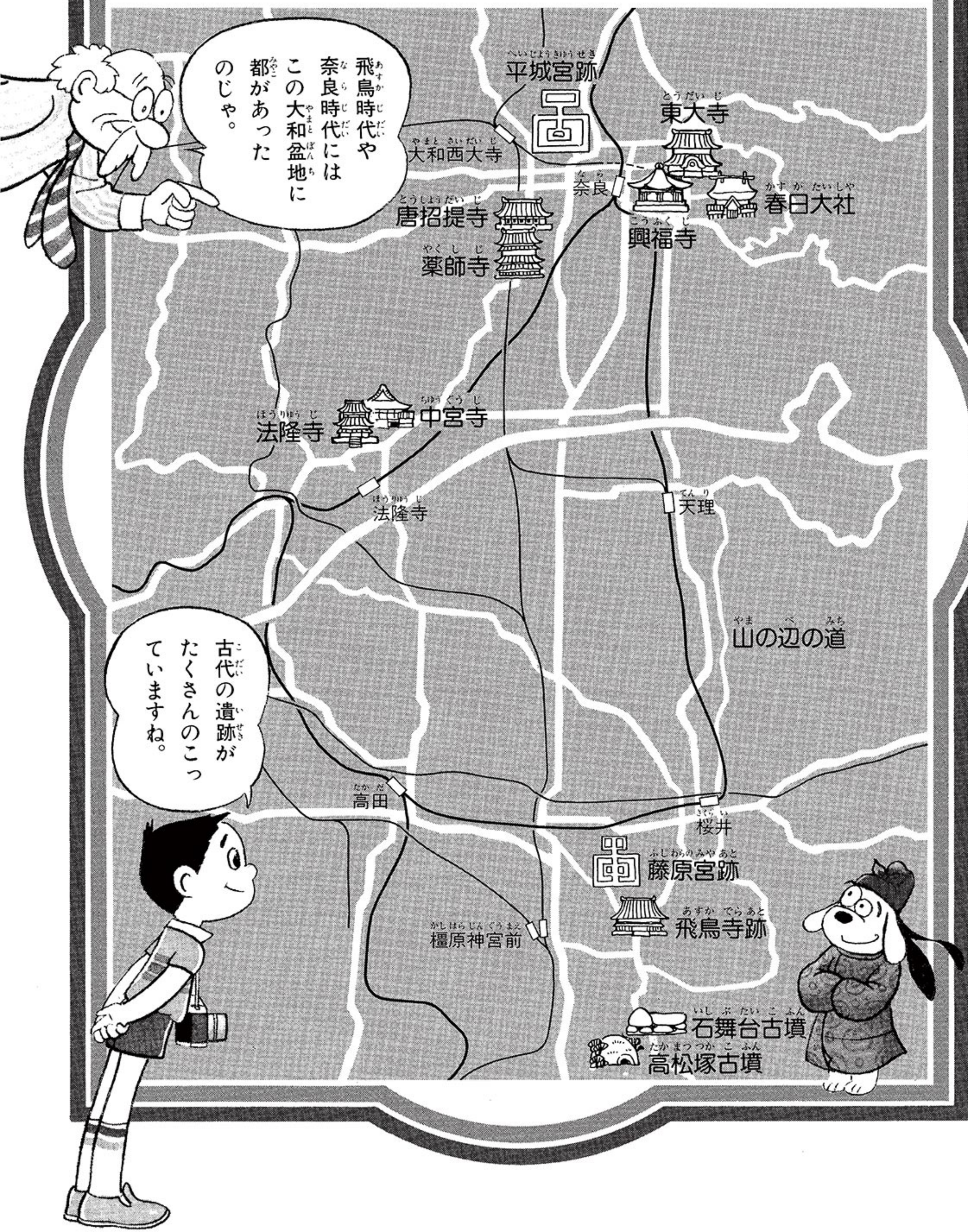
東寺は、平安京造営のとき、西寺とならんでたてられた寺院で、後に空海によって真言密教の寺となった。春秋の2回公開され、兜跋毘沙門天像、真言七祖像、密教法具類が有名。

仁和寺は宇多天皇が出家してすんだ寺で、御室御所ともいう。霊宝館には、平安時代の阿弥陀三尊像(国宝)、三十帖冊子、孔雀明王像など数多くの文化財をおさめている。毎年10月1～15日に開館。

等身大の人形に時代ごとの衣装を着せて展示し、生活・風俗の変化がわかるようになっている。年に2回の衣がえの時期に衣装の入れかえがある。(二〇一二年まで休館中)

京都の歴史、文化が通覧できるように、歴史、考古、民俗、映像資料、現代美術作品、伝統工芸作品などを展示している。国の重要文化財の旧日本銀行京都支店(元平安博物館)を完全に復元して別館とし、京都府が所蔵する文化財などを展示している。

飛鳥と奈良


飛鳥時代や奈良時代にはこの大和盆地に都があったのじゃ。
古代の遺跡がたくさんのこっていますね。
平城宮跡
東大寺
大和西大寺
奈良
春日大社
唐招提寺
興福寺
薬師寺
中宮寺
法隆寺
法隆寺
天理
山の辺の道
高田
桜井
藤原宮跡
飛鳥寺跡
橿原神宮前
石舞台古墳
高松塚古墳

飛鳥の里にねむる歴史の舞台

日本に仏教がつたえられたのは五三八年のことです。当時、豪族のなかの二大勢力であった蘇我氏と物部氏は、仏教をめぐって争いをおこし、仏教を支持していた蘇我氏が物部氏をたおしました。その蘇我氏も六四五年、中大兄皇子らによってたおされます。いわゆる大化の改新です。

その後、壬申の乱をへて、六九四年には律令国家の首都として藤原宮がつくられました。

この2世紀にわたる歴史の舞台となったのが飛鳥の里です。ここでは蘇我氏の創建した飛鳥寺や中国風の本格的な宮だった藤原宮のあとをたずねてみましょう。

（中臣鎌足）

■飛鳥寺跡■

所 奈良県高市郡明日香村
交 近鉄橿原線橿原神宮前駅よりバス、飛鳥大仏前下車

飛鳥寺は、五九八年、蘇我馬子によってたてられた日本で最初の本格的な寺院で正式には法興寺といいました。現在は安居院というお寺になっていますが、その本尊の飛鳥大仏は鳥（止利）仏師作だともいわれています。鳥仏師は法隆寺の本尊釈迦三尊像をつくったことで知られている人です。

飛鳥大仏は高さ3メートルほどの釈迦如来像で、飛鳥時代の代表的な仏像です。

●付近の史跡●

飛鳥寺跡の南には、中大兄皇子らが蘇我入鹿をたおした**飛鳥板蓋宮跡**があり、柱や井戸などを復元してあります。その南東には、蘇我馬子の墓といわれている**石舞台古墳**があります。また、飛鳥寺跡の北西、飛鳥川をわたったところにある丘が**甘橿丘**です。ここに蘇我蝦夷・蘇我入鹿親子の邸宅があったといわれています。丘の頂上からは、飛鳥を一望のもとに見わたすことができます。

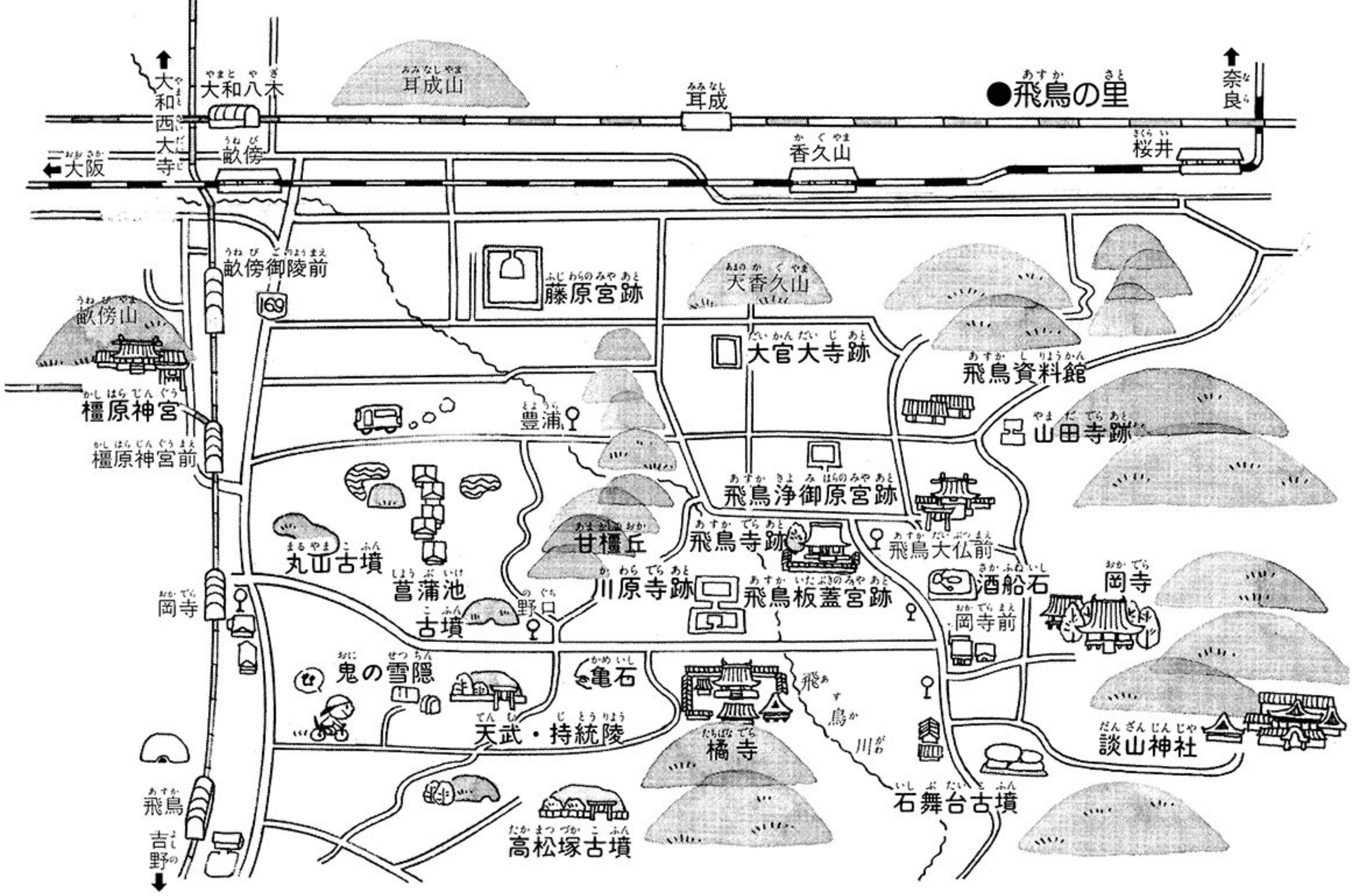
■飛鳥の王家の谷■

所 奈良県橿原市・高市郡明日香村
交 近鉄吉野線飛鳥駅下車ほか

飛鳥周辺の山や丘は、飛鳥時代の皇族や高級官人（役人）、有力豪族の墓地となりました。このような古墳群のあるところを「王家の谷」とよんでいます。

飛鳥時代の初期には、**欽明陵古墳**や**丸山古墳**など伝統的な大型の前方後円墳がつくられました。岡寺駅の前にある丸山古墳は、後円部だけ木がしげっているため円墳のように見えます。中に横穴式石室がありますが、見学できません。横穴式石室の様子が見られるのは**石舞台古墳**です。もり土がなくなって巨大な石をつみあげた石室が露出しており、石室の中に入ることもできます。石舞台古墳は上円下方墳だったと考えられています。

7世紀後半から、飛鳥西南部にりっぱな古墳がつくられました。古墳の形が八角形の**天武・持統陵**などです。そのほか、壁画古墳として有名な**高松塚古墳**など、皇子などをほうむった直径20メートル前後の円墳ものこっています。



■藤原宮跡■

㊫橿原市高殿町
㊫近鉄大阪線耳成駅下車、徒歩15分

六九四年から平城宮にうつる七一〇年までの短い間の都ですが、中国の都をまねてつくった日本で最初の本格的な都です。香久山、耳成山、畝傍山の大和三山にかこまれた、約1キロメートル四方の宮で、その中心には大極殿がたてられていました。大極殿のあとは、現在も周囲より一段高くなっています。藤原京の道路は、碁盤の目のようになっていました。また、宮殿の建物の屋根に瓦がつかわれるようになるのも藤原宮からです。藤原宮跡では、今も発掘調査がつづけられていますが、その一方で大極殿周辺などの整備がすすめられています。藤原宮跡に立つと、大和三山が見わたせます。

●付近の史跡●

藤原京の南のはしにある甘橿丘の東側の石神というところからは、庭園の噴水施設としてつかわれた**石人像**（道祖神）や**須弥山石**がみつかっています。また、その南西では、水時計が発見された**水落遺跡**の整備がすすめられています。東に行けば、大化の改新で中大兄皇子に協力した蘇我倉山田石川麻呂がたてた**山田寺跡**があります。近年、土の中から連子窓が当時の姿のまま発掘されて有名になりました。

甘橿丘と山田寺跡との間には国立の**飛鳥資料館**があります。資料館では、飛鳥の遺跡がわかりやすく解説されており、また、高松塚古墳などの出土品や猿石の複製品などが展示されています。

斑鳩の里の太子のおもかげ

蘇我馬子とむすんで物部氏をたおした聖徳太子は、推古天皇のとき摂政となりました。しかし、蘇我氏の力が大きくなるにつれ、馬子の力をおさえ、太子自身が理想とする天皇を中心とした国家づくりをめざして、冠位十二階、憲法十七条と、つぎつぎに新しい政治を行いました。

一方、太子は外国文化を学ぶことにも熱心でした。そして、大陸からつたわった仏教を深くうやまい、飛鳥からうつりすんだ斑鳩宮の近くに法隆寺（斑鳩寺）をたてました。

「法隆寺地域の仏教建造物」は、一九九三年に世界遺産登録されています。

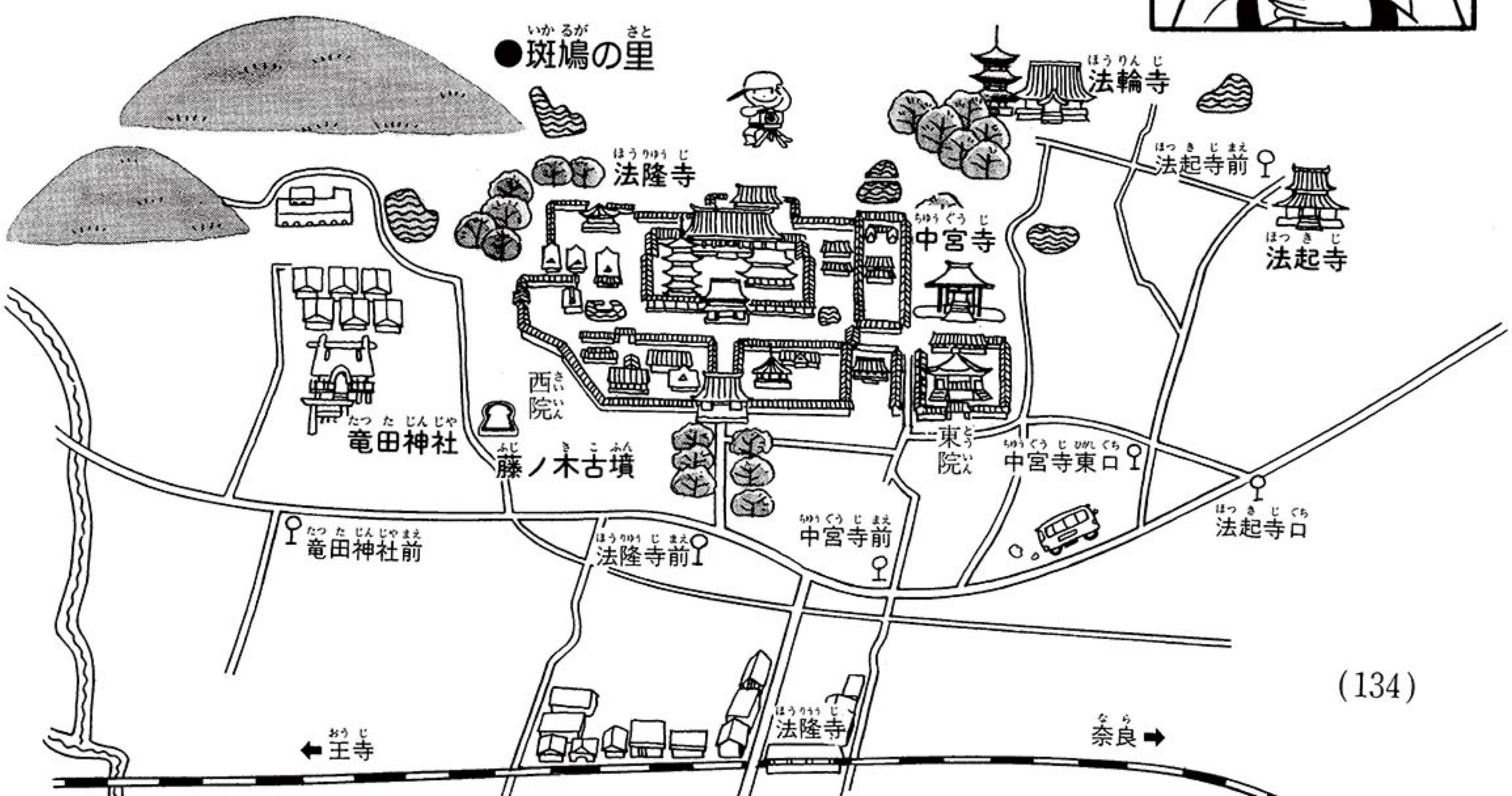
（聖徳太子）

■法隆寺■

所 奈良県生駒郡斑鳩町
交 JR関西本線法隆寺駅よりバス、法隆寺前下車

法隆寺は、金堂・五重塔などがある西院と、夢殿などがある東院とに分けられます。西院の金堂、五重塔などは世界最古の木造建築物ですが、発掘調査によって、聖徳太子創建のものでなく7世紀後半にたてなおされたことがわかりました。太子創建の寺は、東院と西院の中間、やや南よりのところにある若草伽藍で、今も、その塔の中心の礎石がのこっています。また、東院は、太子の斑鳩宮のあとにつくられたもので、その中心にある八角円堂が、奈良時代につくられた夢殿です。

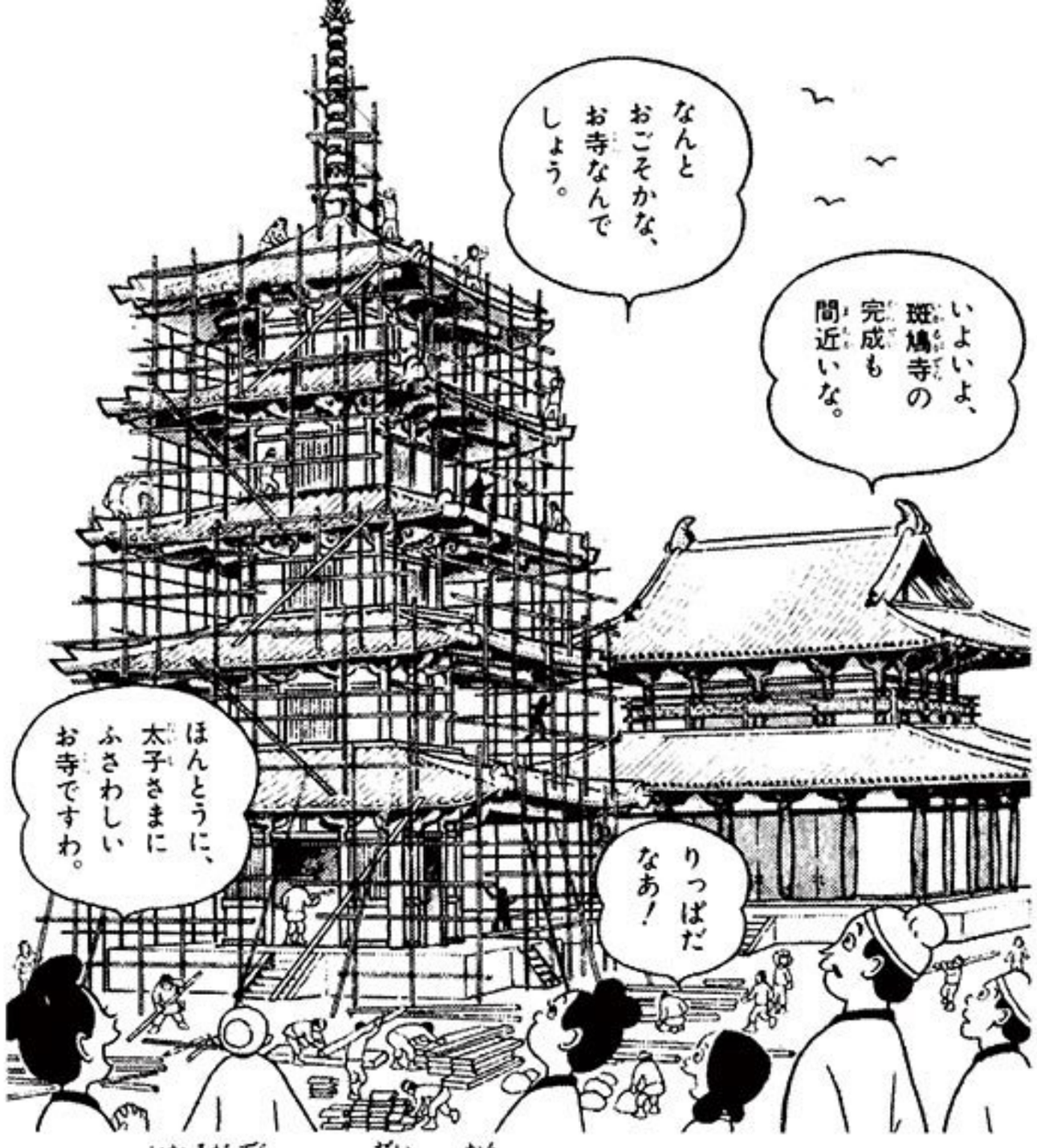
法隆寺の南大門をくぐると、正面に中門が見えます。中門から両側に回廊がのび、回廊にかこまれた中に金堂、五重塔があります。金堂の中のかべには壁画があり、一度やけましたが復元されています。また、堂内には、六二三年に、鳥仏師によってつくられた本尊釈迦三尊像などが安置されて



います。回廊南東の角から東にむかうと、左手に東室、妻室、食堂、細殿などを見ながら大宝蔵殿につきます。ここでは、有名な玉虫厨子をはじめ百済観音、夢違観音などの法隆寺につたわる宝物が展示されています。

大宝蔵殿の南を通り東大門をぬけ、まっすぐ東へ行くと、夢殿のある東院につきます。夢殿の本尊は救世観音で、年2回、春と秋に公開されています。

なお、西院回廊の南東にある鏡池のほとりには、「柿くへば 鐘が鳴るなり 法隆寺」という正岡子規の有名な俳句の碑がたっています。



▲斑鳩寺　⇨第2巻50ページ

●付近の史跡●

法隆寺東院の北東の角にせっするようにあるのが**中宮寺**です。創建以来の尼寺で、もとは夢殿の東約400メートルのところにありましたが、江戸時代に現在の位置にうつされました。ここには、有名な弥勒菩薩像が安置されています。また、太子をしのんで仏の世界をししゅうであらわした天寿国曼荼羅繡帳の一部がのこっており、国宝になっています。夢殿の前から北へむかうと**法輪寺**があります。聖徳太子の子の山背大兄皇子がたてたとつたえられる太子ゆかりの寺です。法隆寺と同じく西に塔、東に金堂がありましたが、江戸時代にたおれ、のこった三重塔も雷でやけました。最近、三重塔が再建され、往時のおもかげをしのぶことができます。法輪寺の東には**法起寺**があります。この寺も山背大兄皇子が創建したとつたえられる太子ゆかりの寺です。法起寺の三重塔は、8世紀のはじめに建立されたもので、三重塔としては最大です。

法隆寺西院から西へわずか350メートルほどの田畑の中に、他の古墳から孤立して所在する直径約48メートルの**藤ノ木古墳**があります。大きな石棺が発見され、金銀豪華な馬具類が出土しました。

また南西にある**竜田神社**は、聖徳太子が法隆寺をたてたとき、法隆寺の完成をいのったといういい伝えがのこっています。

いにしえの奈良の都

七一〇年、奈良盆地の南から北へと都がうつされました。全国からたくさんの農民がかり出され、唐の都長安をまねてつくられたのが平城京です。以後70年間、平城京は全国支配の中心都市としてさかえました。

平城京の周辺部には、東大寺・興福寺・唐招提寺などがたてられ、町は碁盤の目のように区画され、役人や貴族の屋敷がたちならびました。都づくりがすすめられる一方で、留学生や留学僧が遣唐使船で中国にわたり、大陸文化をもたらしました。

ここでは、奈良市にのこる寺院などをたずね、奈良の都をしのぶことにしましょう。

（聖武天皇）

■東大寺■

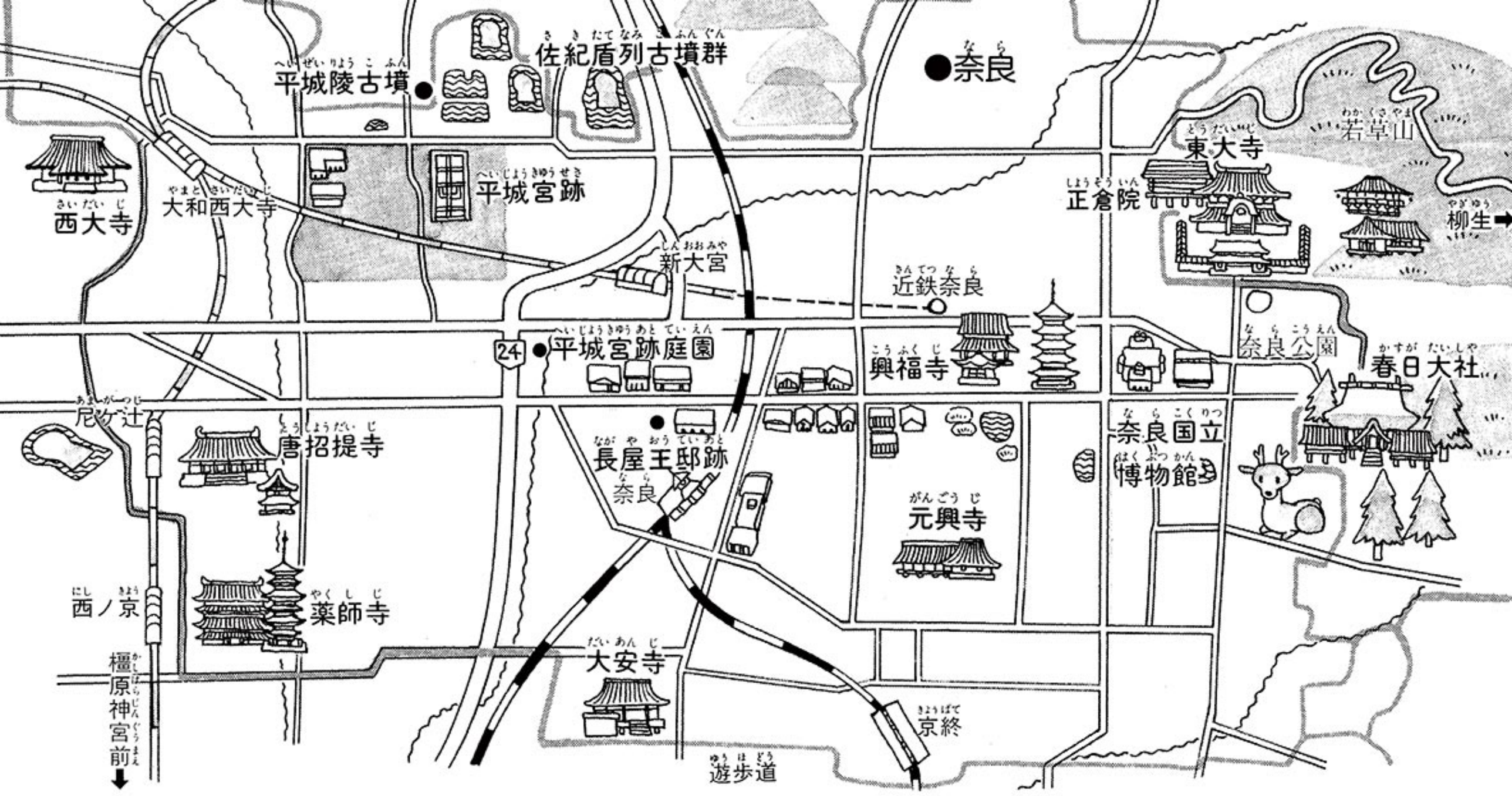
㊫奈良市雑司町
㊫近鉄奈良線奈良駅下車、徒歩15分

▲東大寺大仏　⇨第3巻81ページ

東大寺は、毎年1月15日に山焼きが行われる若草山のふもとにあります。聖武天皇が国家の安泰をいのって大仏づくりを決意してから9年後の七五二年に完成しました。そして、各地につくられた国分寺の中心とされました。

本尊の大仏を安置している大仏殿は、世界最大の木造建築です。ただし、大仏・大仏殿ともに何度かの火事や戦災にあい、再建されたものです。大仏殿の北には、聖武天皇の愛用の品や大仏開眼供養会につかわれた品をおさめた校倉造の倉庫**正倉院**があります。それらの品には、唐の文化だけでなく、遠くインドやペルシアの文化のえいきょうも見られます。また、大仏殿の東にある二月堂は、毎年3月にお水取りの行事が行われることで知られています。

●付近の史跡●　東大寺の南には、鹿のいる奈良公園が広がり、その北東の一角には、藤原氏の氏神をまつったといわれる**春日大社**があります。また、奈良公園から西へ行くと、藤原氏の氏寺**興福寺**があります。東大寺



のお堂や興福寺の国宝館には、天平文化を代表する彫刻が数多く安置してあります。

なお、**奈良国立博物館**では、毎年10月下旬から11月上旬にかけて東大寺正倉院の宝物が展示されます。

■唐招提寺■

㊫奈良市五条町
㊋近鉄橿原線西ノ京駅下車、徒歩10分

唐からわたってきた僧、鑑真が七五九年にたてた寺です。金堂、講堂、御影堂などがあり、講堂は、平城宮の建物を移築したものです。また弟子たちが鑑真をしたってつくった鑑真和上像は、天平文化を代表する彫刻で、御影堂に安置されています。境内にある戒壇院は、インドからはこばれてきた大理石で復元されたものです。

●付近の史跡●　唐招提寺の南には、藤原京から移して建てられた**薬師寺**があります。ここも、近年、金堂、西塔があいついで再建されました。奈良市内には、薬師寺のほかにも飛鳥とつながりのある寺があります。**元興寺**は法興寺（飛鳥寺）の、南の大寺とよばれた**大安寺**は、藤原京にあった大官大寺にあたります。

▶唐招提寺講堂と弟子たちによってつくられる鑑真和上像。⇨第3巻113ページ

平城宮跡

所 奈良市佐紀町
交 近鉄奈良線大和西大寺駅下車、徒歩10分

平城宮は、東西約1.3キロメートル、南北約1キロメートルの広さで、羅城門から朱雀大路をまっすぐにすすんだ平城京の北端にありました。周囲には築地がめぐらされており、ほぼ250メートルおきに門がつくられていました。築地にかこまれた中には、天皇の住まいである内裏、国家の政治や儀式を行った大極殿、朝堂院、朝集殿などの建物があります。周囲には役人がつとめる役所の建物がならび、いわゆる官庁街をつくっていました。

平城宮の造営は、全国から農民がかりだされた大土木工事でした。土地をならすために古墳をつぶしたりもしています。現在、大型の円墳として平城宮跡の北にせっしてのこっている**平城陵古墳**も、もとは前方後円墳でしたが、宮のはんいにかかる前方部がけずりとられてしまったものです。またいったん宮が完成してからも何回かの大改修が行われています。

平城宮跡では、現在も発掘調査が行われていますが、全体の30%の調査がすすみ、内裏跡などでは朱雀門などの建物や井戸を復元したり、柱のあったところに木をうえたりして、将来、史跡公園として保存するための整備がすすめられています。

平城宮跡からの出土品には、土器、瓦、銅銭、柱、はし、げた、木簡などがあります。木簡とは、木の板に墨書きしたもので、役人の勤務成績が書かれたものや、役所の伝票、各地からはこばれてきた品物の荷札などがあります。木簡は当時の政治のしくみや人びとの生活を知るうえで貴重な資料となっています。これらの出土品は、平城宮の北西にある**平城宮跡資料館**に展示されています。資料館には、ほかにも写真や遺構模型、建物の復元模型などの展示もあり、平城宮のことがたいへんよくわかります。

また、同調査では、平城宮跡の東南から**長屋王邸**の跡が発見されました。邸宅跡は6万平方メートルにもおよび、畳220枚にもなる巨大な建物跡、当時は貴重だった瓦葺きの建物跡などが見つかっています。

なお、平城宮跡の北には、松林宮があり、神功陵古墳、ウワナベ古墳をはじめとする**佐紀盾列古墳群**が広がっています。

▼平城京の市場 ⇨第3巻36・37ページ

奈良県のおもな資料館と博物館

奈良県にあるおもな資料館と博物館をとりあげました。休館日は、各館ごとにことなりますので、事前にしらべておきましょう。

飛鳥資料館
所 高市郡明日香村奥山
交 近鉄橿原線橿原神宮前駅よりバス、飛鳥資料館前下車

橿原考古学研究所附属博物館
所 橿原市畝傍町
交 近鉄橿原線畝傍御陵前駅下車、徒歩5分

橿原市千塚資料館
所 橿原市川西町
交 近鉄橿原線橿原神宮前駅よりバス、川西下車

春日大社宝物殿
所 奈良市春日野町
交 近鉄奈良線奈良駅よりバス、春日大社前下車

興福寺国宝館
所 奈良市登大路町
交 近鉄奈良線奈良駅下車、徒歩5分

飛鳥寺、高松塚古墳など、飛鳥で発掘された出土品を中心に、写真パネル、図表、模型、模造をくわえて展示。万葉、宮殿、石造物、古墳、寺院の5つのコーナーに分かれており、飛鳥全体の知識をえることができる。

奈良県内で出土した考古資料を中心に、旧石器時代から江戸時代まで時代順に展示。とくに古墳時代については、数多くの出土品があり、充実している。また、弥生時代の復元銅鐸の音を聞くこともできる。

新沢千塚など橿原市内の古墳で出土した、縄文から古墳時代の考古資料や、民俗・歴史資料などを保管・展示。また、資料館は新沢千塚古墳群の中心部にあたり、周辺には約800の古墳がある。

春日大社につたわる絵画、工芸、彫刻などを収蔵。平安時代のものが中心。源義家・義経着用とつたえる赤糸縅鎧、金地螺鈿毛抜形太刀、蒔絵弓、銅造狛犬、素文鏡、春日権現霊験記絵巻など、国宝・重要文化財をふくめた宝物が多数あります。

建物は、かつて細殿・食堂があったところに、これらの堂の外観を復元してたてられている。興福寺につたわる仏像彫刻・絵画・工芸品のような仏教美術品のほか、瓦など考古資料、文書類を展示。

高松塚壁画館

所 高市郡明日香村平田
交 近鉄吉野線飛鳥駅下車、徒歩15分

高松塚古墳が壁画の保存上、一般には公開されていないため、それにかわるものとして古墳の西側にたてられた。石室の原寸模型、壁画の模写のほか、出土品の鏡、刀の金具などのレプリカ（複製品）を展示。

奈良国立博物館

所 奈良市登大路町
交 近鉄奈良線奈良駅下車、徒歩15分

奈良公園にあり、旧館と新館とからなる。旧館は重要文化財に指定されている。近畿地方を中心にした寺院や神社の美術品を、日本の仏教美術の流れにそって展示。毎年秋には、正倉院展がひらかれる。

如意輪寺宝物殿

所 吉野郡吉野町
交 近鉄吉野線吉野駅よりロープウエー、吉野山下車

如意輪寺につたわる寺宝を収蔵。後醍醐天皇の自作の木像や遺品、楠木正行公辞世の歌やかぶとなど、南北朝時代の歴史をしのばせる遺物、関係品が見られる。

平城宮跡資料館

所 奈良市佐紀町
交 近鉄奈良線大和西大寺駅下車、徒歩10分

平城宮跡の北西、馬寮のあとにたてられている。平城宮跡から出土した瓦、土器、木簡などの遺物に、模型、写真パネルもくわえて展示。資料館の東約800メートルのところにある遺構展示館では、発掘された柱穴がそのまま見られる。

法隆寺大宝蔵殿

所 生駒郡斑鳩町法隆寺
交 JR関西本線法隆寺駅よりバス、法隆寺前下車

西院と東院の中間にあり、南・中・北の3棟からなる。法隆寺所蔵の考古資料、美術工芸品を収蔵展示。百済観音、玉虫厨子、夢違観音をはじめとする飛鳥時代から江戸時代にいたる宝物が数多くあり、貴重な資料となっている。

中国・四国地方

瀬戸内海は、源平の戦いの戦場だったのですね。
八雲立つ風土記の丘
出雲大社
岡山城
屋島
帝釈峡遺跡群
倉敷の町なみ
広島平和記念公園
大山祇神社
厳島神社
高知城
松山城
萩城跡
松下村塾
山口藩庁跡
東行庵
壇ノ浦
宿毛貝塚
江戸幕府末期に活やくした志士たちも出ているよ。

中国・四国地方の原始時代の遺跡と古墳

中国・四国地方は、大陸文化の窓口である北九州地方と、先進地帯の近畿地方にはさまれた位置にあり、瀬戸内海は両方をつなぐ大きな通路の役割をはたしました。このため、中国・四国地方は両方の文化の刺激をうけて発展した地方といえるでしょう。

たとえば、縄文時代の貝塚は瀬戸内海沿岸に多く分布し、弥生時代は北九州のえいきょうをうけてはじまったようです。また、古墳は近畿地方に近い岡山などに大きなものがつくられています。

ここでは、中国・四国地方の貝塚や古墳をたずねてみましょう。

■帝釈峡遺跡群■

帝釈郷土館の所在地と交通

所 広島県庄原市東城町

交 JR芸備線東城駅よりバス、帝釈下車

名勝地として知られる帝釈峡は、神石高原町と東城町とにまたがる帝釈川ぞいの峡谷です。峡谷の長さは15キロメートルで、各地に石灰岩が侵食されてできた岩陰や洞窟があります。この岩陰や洞窟は、旧石器時代や縄文時代の人びとの住居でした。人骨や貝がら・土器などが発見され、中国地方の旧石器・縄文時代の遺跡の宝庫となっています。

人骨が発見されたのは、帝釈峡のなかでもっとも南にある岩屋谷川ぞいの**帝釈観音堂洞窟遺跡**です。旧石器時代の人骨のほかにも、縄文時代から弥生時代にかけての遺物や人骨が発見されています。

ほかにも、帝釈峡のもっとも北の**帝釈馬渡岩陰遺跡**、少し南の**帝釈寄倉岩陰遺跡**など、遺跡がたくさんあります。

●見どころ●

自然の岩陰や洞窟を利用した原始時代の住居の様子を、よく見てみましょう。また、帝釈峡ダム近くの**神石高原町立歴史民俗資料館**や、東城町帝釈の**帝釈郷土館**には、各遺跡の出土資料が展示されています。

■宿毛貝塚■

所 高知県宿毛市宿毛

交 土佐くろしお鉄道宿毛駅下車、徒歩10分

旧石器・縄文時代の遺跡は、前の帝釈峡遺跡群のほかにも、愛媛県の上黒岩岩陰遺跡などが有名です。一方、貝塚は瀬戸内海沿岸を中心に広く分布しています。岡山県の津雲貝塚、愛媛県の平城貝塚などが知られています。

ここ高知県の宿毛貝塚も縄文時代後期の貝塚として有名です。この貝塚からは25種類もの貝がらが出土しました。また、約3千年前の女性の人骨が完全な形で発見されました。貝塚は道路をはさんで2か所あり、西側の貝塚は、囲いの外から見学することもできます。また出土品は**宿毛市立宿毛歴史館**に展示されています。

●付近の史跡●

前述の愛媛県**平城貝塚**は、

宿毛市からバスで45分ぐらいのところです。貝塚は住宅地になっていて見学できませんが、出土品が、平城交流センターに展示されています。

■造山古墳■

㊫岡山県岡山市新庄下
㊫JR備中高松駅、総社駅などで下車

中国・四国地方の弥生時代の遺跡は各地で数多く発見されていますが、ここでは次の古墳時代の代表として、造山古墳をたずねてみましょう。

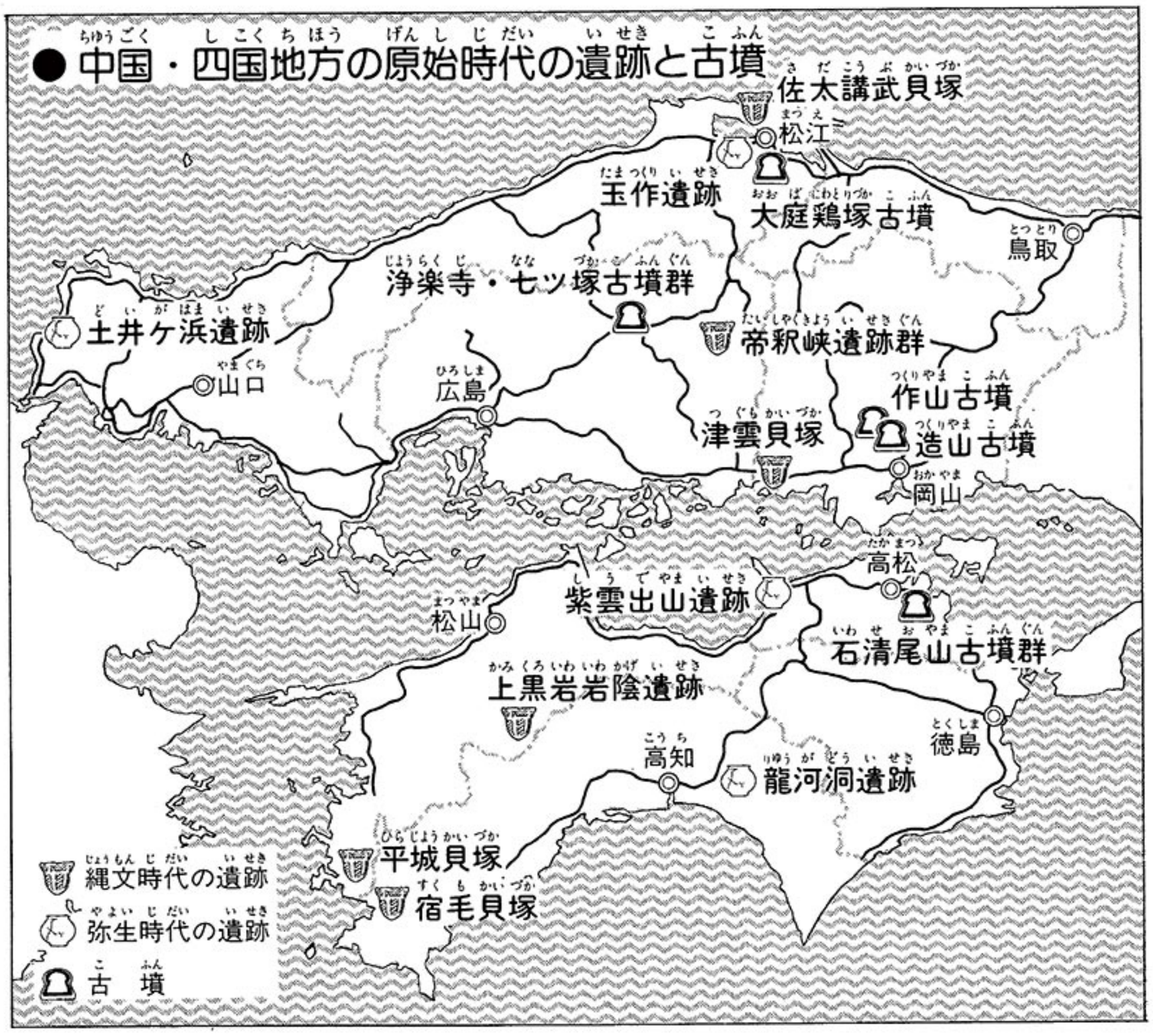
造山古墳は、中国・四国地方でもっとも大きい古墳です。全長350メートル、高さ24メートルの前方後円墳で、全国でも4番目の大きさです。周囲には6基の小さな古墳をしたがえています。前方部の頂上には、小さな神社がまつられていて、境内には近くの古墳から出土した石棺がおいてあります。また、後円部には中世に城があったとつたえられています。

●付近の史跡●

造山古墳周囲の小さな古墳のなかの一つの千塚古墳は、内部の石室に入ることができます。石室には数種類の文様も見られます。

▲帝釈峡

◀造山古墳



神話の国・出雲

出雲国は、島根県の東半分をしめる国でした。『古事記』・『日本書紀』・『出雲国風土記』など、古代の書物には、出雲国を舞台にした神話がたくさんのっています。スサノオノミコトの「ヤマタノオロチ退治」やオオクニヌシノミコトの「国譲り」などの話もそのなかのひとつです。

このことは、古代の出雲地方に、大きな勢力の豪族がいたこと、そしてこの地方独特の文化がそだっていたことを物語っています。

ここでは、島根県の出雲地方をたずねて、出雲につたわる古代文化のおもかげをたどってみることにしましょう。

■八雲立つ風土記の丘■

㊫島根県松江市大庭町
㊫JR山陰本線松江駅よりバス、風土記の丘入口下車

松江市南部の丘陵地に、たくさんの古代遺跡が密集しています。大小の古墳が点在し、古い神社や国庁跡・国分寺跡などもあって、古代にそうとう大きな豪族がこの地方を支配し、その政治の中心地がこのあたりであったことがわかります。現在、付近一帯は風土記の丘として整備されています。

◆**風土記の丘センター**　入口の右手に中世の豪族の館跡が移築されています。正面には、風土記の丘展示学習館があります。前方後方墳の形をまね、神社建築の方式をとり入れた建物で、展示室では原始時代から古墳時代までの出土品をならべ、出雲地方の歴史をわかりやすく解説しています。展示学習館の裏手に行くと、竪穴住居と古墳の復元したものも見学できます。

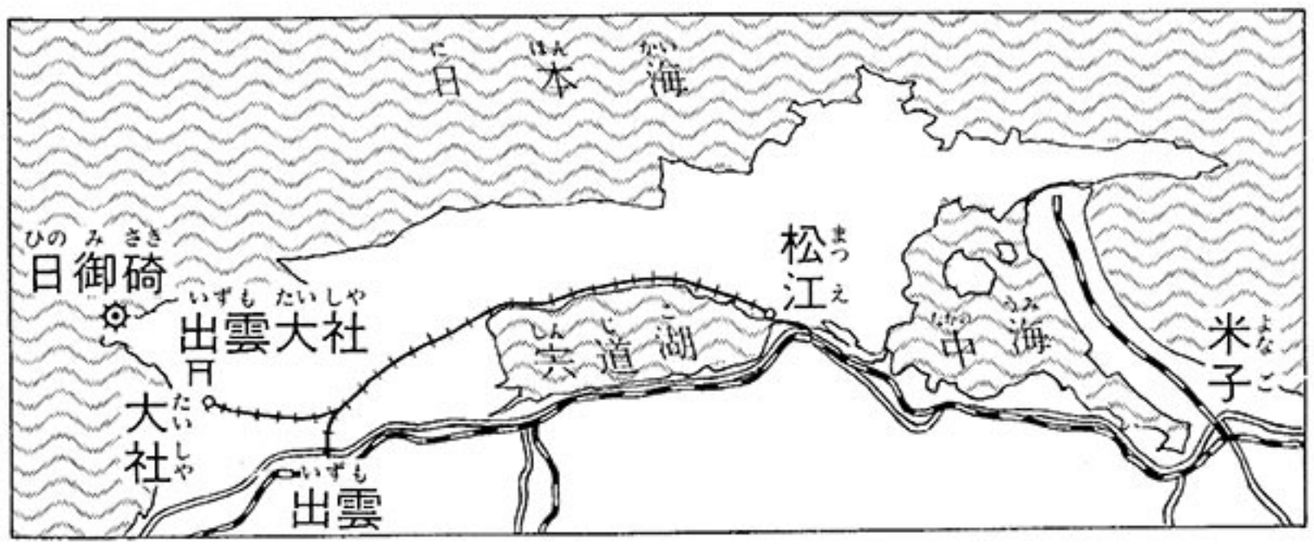
◆**神魂神社**　古代のふんいきをそのままのこしたような、静かな山の中にある神社です。本殿は出雲大社と同じ大社造の建物で、国宝に指定されています。大社造としては日本最古のものです。

◆**出雲国庁跡**　奈良時代に出雲地方を統治していた政庁跡と考えられています。建物のあったことをしめす柱の穴が発掘され、数棟の建物が整然とならんでいたことがわかっています。

◆**出雲国分寺跡**　国分寺は、聖武天皇のとき、国ごとにたてられた寺です。建物の礎石がのこっていて、金堂・講堂・塔などがあったことがわかっています。

◆**古墳群**　付近の古墳群のなかには、大庭鶏塚古墳などたいへん古い古墳が多く、展示学習館のモデルになった前方後方墳という、かわった形の古墳も見られます。

●**付近の史跡**●　**松江城**は、大橋川の北側の小高い丘の上にあります。松江藩松平氏の居城だったところで、天守閣は、安土桃山時代の城の特徴をのこす貴重なものです。天守閣の中には籠城用の大井戸や兵糧倉があり、藩主の遺品も陳列されています。外装は黒い板におおわれた質素な姿で、実戦的な感じのする城です。松江城の北東側の



堀にそった道に、小泉八雲記念館や小泉八雲旧居、武家屋敷などがとなりあってならんでいますので、よってみましょう。

■出雲大社■

㊫島根県出雲市大社町
㊫JR山陰本線出雲市駅よりバス、正門前下車

「国譲り」や「因幡の白兎」の神話の主人公として親しまれている大国主命をまつっています。本殿は高さ24メートルのどうどうたる大社造で、国宝に指定されています。国譲りの神話によると、大国主命は国をゆずるかわりに、天つ神と同じくらいりっぱな宮殿をたててもらうのですが、これが出雲大社のはじまりとつたえられています。もちろん伝説にすぎません。しかし、七三三年につくられた出雲国風土記に、出雲大社と書かれていますから、すでに奈良時代には大きな社殿がたてられていたことがわかります。平安時代には日本一高い建築物だったといわれ、高さは現在の2倍の48メートルと考えられています。古くから庶民の信仰をうけ、近年はとくに縁結びの神さまとして知られています。

●見どころ●

国宝の本殿の壮大さはもちろんですが、拝殿のしめ縄の大きさにもびっくりすることでしょう。拝殿の左側にある宝物館には、出雲大社の信仰を広めた御師の資料などもあります。

◀八雲立つ風土記の丘

◀松江城

◀出雲大社

源平の古戦場・瀬戸内海

平氏追討の兵をあげた源頼朝の命令で、弟義経は、各地で平氏とたたかいました。都をすてて西におちのびた平氏は一ノ谷でやぶれたあと、四国の屋島へのがれます。しかし、またも義経にやぶれ、ついに壇ノ浦へとおち、一一八五年に滅亡します。瀬戸内海の海上や海ぞいで、東から西へと源平の戦いはくりひろげられたのです。

また、源平の戦いの後の中世とよばれる時代は、瀬戸内海の水軍の活やくした時代です。

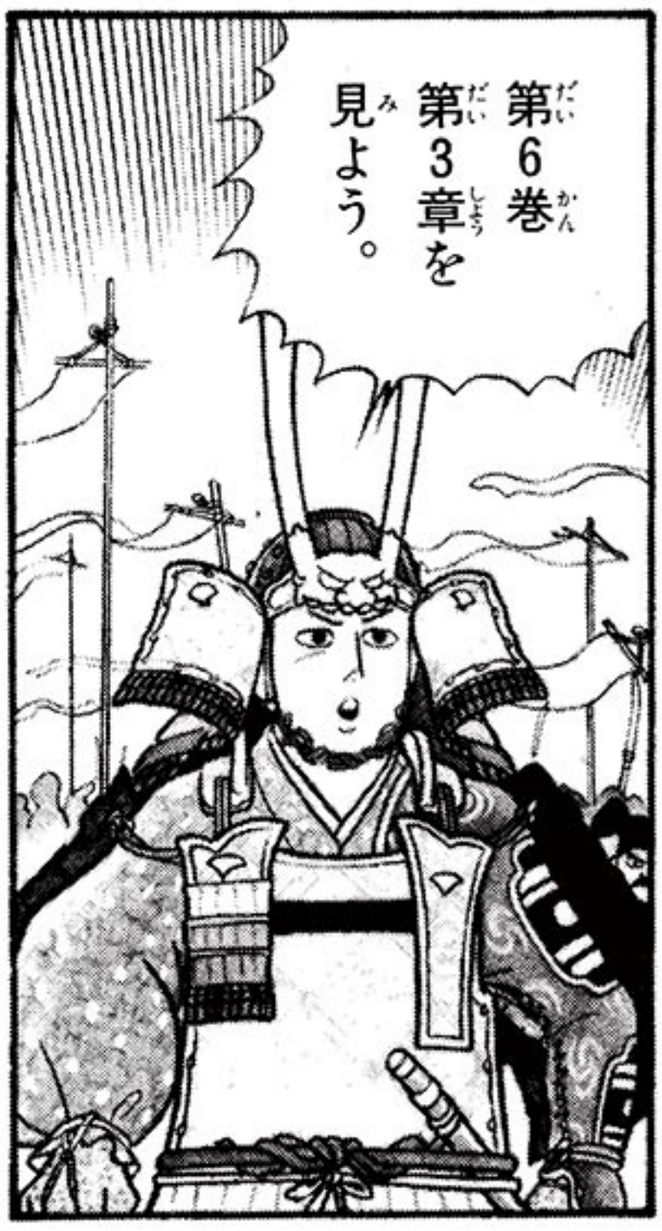
ここでは、源平の戦いの舞台となった古戦場と、水軍の拠点となった瀬戸内海の島をたずねてみましょう。

1 源平の戦い

■一ノ谷■

所 兵庫県神戸市須磨区一ノ谷町
交 山陽電鉄須磨浦公園駅下車

須磨浦公園の東のはずれにある一ノ谷は、一ノ谷の合戦の古戦場で、源義経の鵯越の坂落としで有名です。松林の中の「戦の浜」の碑がたっているあたりに平氏の陣地があり、その後ろのがけの上から義経軍の奇襲をうけ、平氏は海にのがれて屋島へわたっていきました。近くの須磨寺には、この合戦で熊谷直実にうたれた平敦盛の「青葉の笛」などの遺品が展示されています。



（源義経）

■屋島■

所 香川県高松市屋島
交 JR屋島駅、高松琴平電鉄琴電屋島駅よりシャトルバス

高松市の東方に、屋根の形をした小高い山が海につき出したように見えています。これが源平合戦の舞台となった屋島です。屋島の東の壇ノ浦とよばれる入江をはさみ、東側の八栗山麓にかけての地域で戦いがくりひろげられました。あたりには、有名な那須与一の扇の的の伝説になった場所や、義経弓流し跡など、戦いにまつわる史跡が多く点在しています。

▲那須与一 ⇨第6巻130ページ

●見どころ● 屋島山頂の談古嶺展望台からは、眼下に源平古戦場跡をのぞめます。

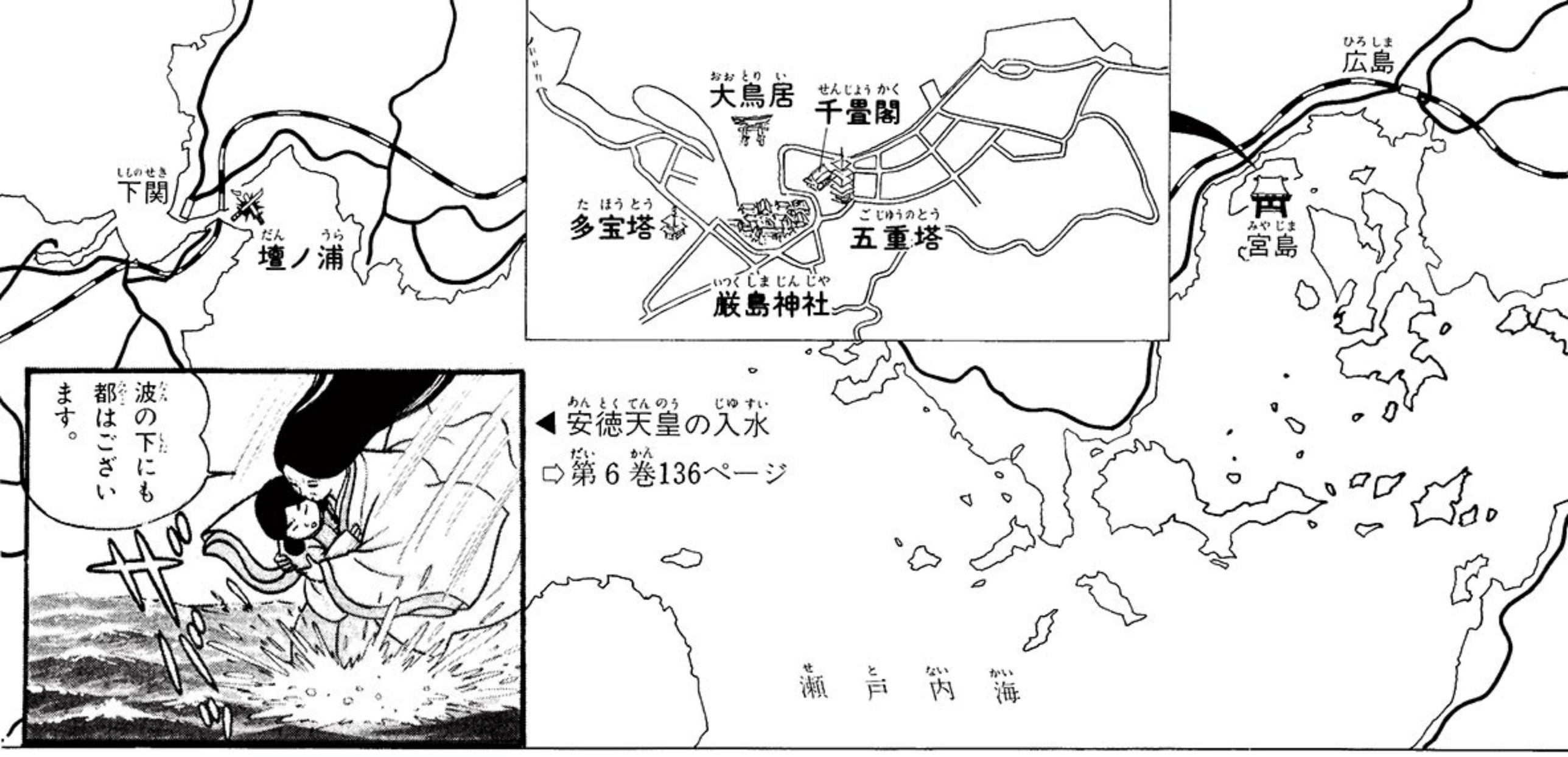
●付近の史跡● 屋島の山頂にある**屋島寺**は、四国八十八か所第八十四番札所で、本堂は鎌倉時代の創建です。琴電屋島駅のそばに、四国各地の民家を移築した**四国民家博物館**（四国村）があります。四国村の中には、かずら橋といわれる橋や、地方色ゆたかな民家があつめられています。屋島の東にあるさぬき市志度には**平賀源内旧邸**があり、邸内には銅像がたち、また遺品陳列館にはエレキテルをはじめとする遺品が展示されています。高松市には、港のそばに**高松城跡**があります。城跡は現在、玉藻公園になっています。

▲四国村のかずら橋

■厳島神社■

㊫広島県廿日市市宮島町
㊋JR山陽本線宮島口駅より連絡船、宮島桟橋下船後徒歩15分

松島・天の橋立とともに日本三景の一つに数えられる宮島にある神社です。国宝の大社殿は、平安末期の平清盛の造営です。その後戦国時代に毛利元就が改築し、現在にいたっています。寝殿造を神社建築にした様式です。海中にうかんだように見える大鳥居は、重要文化財に指定されており、高さは約17メートルもあります。厳島神社は、平氏一門の氏神としてさかえました。宝物館には平家納経・檜扇など、平安文化



◀安徳天皇の入水
⇨第6巻136ページ

をつたえる宝物が多く展示されています。

●見どころ● 潮の干満によって社殿が海にうかぶように見える神社は、あまり例がありません。時間をかけて見てみましょう。

●付近の史跡● 塔の岡にある**五重塔**は、室町時代の創建です。となりの**千畳閣**は豊臣秀吉の命令で着手されましたが、秀吉の死により未完成のままのこっています。神社の裏手の天竺様式の**多宝塔**は戦国時代のものです。また、桟橋近くの丘陵は、毛利氏がきずいた**宮の尾城跡**です。戦国時代に毛利氏と陶氏がたたかった舞台です。神社の西の方には**宮島歴史民俗資料館**があります。

■壇ノ浦■

㊫山口県下関市壇ノ浦
㊫JR山陽本線下関駅よりバス、御裳川下車

源平最後の戦いが、この壇ノ浦で行われました。両軍とも船にのって海上でたたかい、義経軍の勝利におわりました。幼少の安徳天皇は海中に身を投げて、栄華をほこった平氏は滅亡したのです。この内海には、今は関門橋がかけられ、本州と九州をむすんでいます。

▼厳島神社

●見どころ● すぐ近くの火の山へはロープウェーでのぼれ、そこから壇ノ浦古戦場が一望できます。平氏滅亡の様子を思いうかべてみましょう。

●付近の史跡● 火の山のふもとに**壇ノ浦砲台跡**があります。幕末に長州藩がきずいたものです。阿弥陀寺町には、4層建築の**春帆楼**があります。ここで日清戦争の講和談判が行われました。記念館には伊藤博文や陸奥宗光らが使用した道具があります。そのとなりにある**赤間神宮**には、壇ノ浦で入水した安徳天皇をまつっています。また**七盛塚**とよばれる平氏一門の墓もあります。

▲関門橋

◀壇ノ浦

▲大山祇神社

2 瀬戸内水軍の舞台

■大山祇神社■

㊫愛媛県今治市大三島町
㊫JR予讃線今治駅よりバス、大山祇神社前下車

大山祇神社は、芸予諸島最大の島である大三島にあり、大三島神社ともよばれています。大鳥居をくぐり、天然記念物の大楠を右手にして石段をのぼると、目前に拝殿があります。その奥が本殿です。ともに創建は応永年間（15世紀はじめ）といわれています。中世に瀬戸内海の島じまを拠点に水軍が活やくします。かれらは海上の守り神として、大三島をうやまいました。そこで武士たちは多くの武具・甲冑を奉納しました。現在この神社に武具・甲冑が多いのはこのためで、国宝・重要文化財の8割がここにあります。境内の国宝館にこれらの甲冑が展示されています。また紫陽殿・海事博物館にも多数の文化財が展示されています。

●見どころ●

武具・甲冑のみごとさには目をみはるでしょう。たとえば、河野通信奉納の日本三大鎧の一つである紺糸威鎧兜、源義経奉納の赤糸威胴丸鎧、源頼朝奉納の紫綾威鎧などがあります。よく観察しましょう。

●付近の史跡●

境内南門より出て国宝館へ行くとちゅうに三基の**宝筐印塔**があります。一遍上人建立とつたわる鎌倉時代のものです。芸予諸島の一つ**能島**は、能島村上水軍の拠点となった島で、**能島城跡**がのこっています。また今治市郊外の浜止浜の沖にある**来島**も来島水軍の拠点で、高い石垣がのこっています。松山市の沖あいの**忽那七島**とよばれる島じまも、忽那水軍の拠点となった島です。北条市にある**善応寺**は、中世の豪族河野通盛によって建てられた寺で、当時の古文書がのこっています。

城下町岡山と商人の町倉敷

中国地方の瀬戸内海沿岸は、山陽地方とよばれ、岡山市はその東部の中心地です。戦国時代には、金光氏・小早川氏・宇喜多氏などがあいついで城をかまえ、江戸時代になると池田氏の城下としてさかえました。

岡山市の西方には倉敷市があります。江戸時代の倉敷は、山陽路を代表する商業の町として発展し、豪商たちが活やくしました。徳川幕府もここを直接支配していました。今にのこる倉敷の町なみは、当時の繁栄をしのばせてくれます。

ここでは、城下町岡山と商人の町倉敷と、周辺の史跡をたずねてみましょう。

■岡山城■

㊫岡山県岡山市丸ノ内
㊫JR山陽本線岡山駅よりバス、県庁前下車

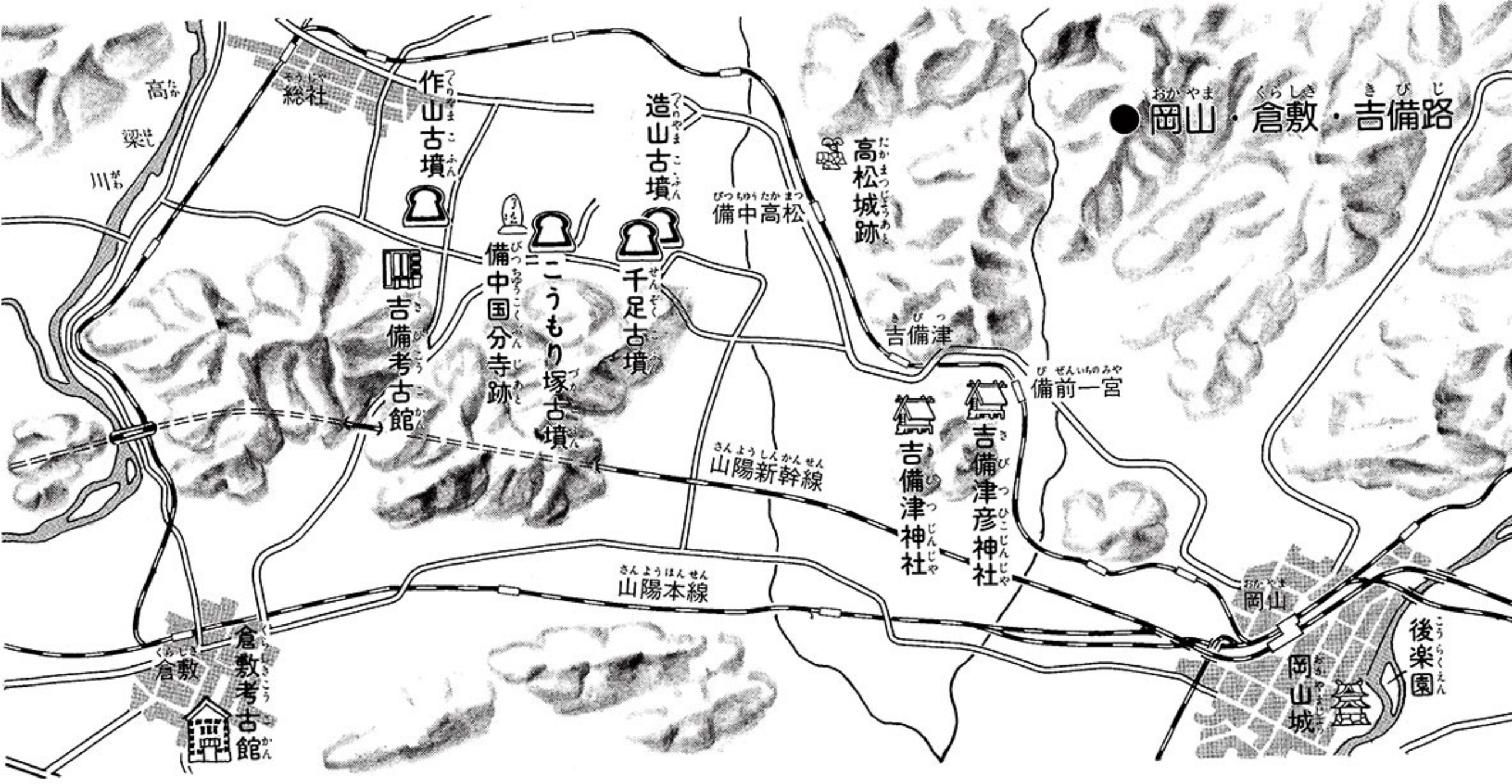
岡山市街の中心に岡山城があります。一五九七年に宇喜多秀家が築城したもので、姫路城とならぶ名城といわれていました。3層6階の天守閣は、第二次世界大戦のとき焼失しましたが、戦後に再建されました。焼失をまぬがれた建物は、天守閣の西にある月見櫓と、城門の西側にある西の丸西手櫓だけです。これらは、江戸時代初期の建築として貴重なものです。

天守閣の内部は、岡山城にかんする資料の展示館になっています。また、本丸の石垣にそって城跡を歩くと、江戸時代の岡山城の様子がよくわかります。

●付近の史跡● 岡山城の前には、**林原美術館**があり、池田家ゆかりの美術工芸品が展示されています。ここは、岡山藩の迎賓館のあったところで、わずかに長屋門と蔵がのこっています。また、岡山城から旭川にかかる月見橋をわたると、日本三名園の一つの**後楽園**があります。池田綱政が14年間かけてつくった庭園で、現在は公園として公開されています。園内には茶室や庵がところどころにたち、正門前には**岡山県立博物館**があります。

岡山の西部から総社にかけての地域は、「吉備路」とよばれていました。岡山から、バスかJR吉備線で総社方面にむかうと、とちゅうに古い神社や古墳が点在しています。付近は、古代にさかえた吉備国の中心地でした。史跡のおもなものをあげると、**吉備津彦神社・吉備津神社・備中国分寺跡・造山古墳**（143ページ参照）・**こうもり塚古墳**などです。国分寺跡周辺は**吉備路風土記の丘**として整備され、出土品は**吉備考古館**で

▲備中国分寺跡



見られます。レンタサイクルで風景を楽しむこともできます。またJR吉備線の備中高松駅から徒歩10分ほどのところに、羽柴秀吉の水ぜめで有名な**高松城跡**があります。

■倉敷の町なみ■

㊫岡山県倉敷市中央
㊫JR山陽本線倉敷駅下車、徒歩10分

倉敷は、北前船の寄港地・下津井と製塩業のさかんな児島地方に近いため、山陽路の物産の集散地としてさかえた商人の町です。白壁の土蔵と掘り割りがつづく江戸時代の町なみがのこっているのは、倉敷駅から南へむかったところにある倉敷川のほとりです。

▲掘り割りがのこる倉敷の町

江戸時代には、この倉敷川が児島湾までつづき、瀬戸内海から船で物資をはこび、川のほとりでつみおろしをしていました。町なみのなかに、**大原美術館**や**倉敷民芸館**とともに**倉敷考古館**がたっています。倉敷考古館は、白壁の土蔵造の建物で、内部には、岡山県下で発掘された原始時代から古代までのさまざまな出土品が展示されています。

●足をのばして●

倉敷から西へ、JR山陽本線でおよそ45分行くと、広島県の福山市へ出ます。この福山市の西方をながれる芦田川の河口付近が、**草戸千軒町遺跡**です。草戸千軒町は、明王院の門前町として、また芦田川河口の市場町・港町としてさかえたまり、一六七三年の大洪水で完全にうまってしまいました。近年、この発掘がさかんに行われるようになり、町なみはもちろん、舟だまりや運河までが確認され、中世の庶民の町の様子がよくわかる遺跡として全国的に注目されました。この遺跡の出土遺物や復元模型などは、福山市の**広島県立歴史博物館**で見ることができます。

毛利氏と長州の志士たち

戦国大名毛利氏は、中国地方の大部分を支配する大きな勢力でした。毛利氏は関ケ原の戦いでやぶれ、現在の山口県にあたる周防国と長門国を支配する大名になりました。

この長州藩は、江戸幕府後期に尊王攘夷運動の中心となります。尊王攘夷とは、天皇をうやまい外国人を追いはらうという意味で、この運動の有力な指導者が長州藩の吉田松陰だったのです。松陰の弟子のなかから高杉晋作・久坂玄瑞・木戸孝允・伊藤博文などの志士たちがそだち、やがてかれらが討幕をなしとげ、明治近代国家をつくりあげる原動力となりました。

（高杉晋作）

1 萩

松下村塾

所 山口県萩市椿東
交 JR山陰本線東萩駅下車、徒歩20分

吉田松陰の塾で、松陰神社の境内にあります。松下村塾の建物は、8畳と10畳半の2部屋からなる小さなものです。松陰がこの塾で教えたのは、わずか2年10か月だけでしたが、かれをしたって多くの若者があつまりました。松陰は塾生を身分や階級で区別することなく、しかも、ひとりひとりの人格を尊重し、尊王攘夷の立場にたって幅広い学問を情熱的に教えました。その門下から、高杉晋作・久坂玄瑞・伊藤博文・山縣有朋・木戸孝允・品川弥二郎など、明治維新の原動力となって活やくした多くの人材が生まれました。

松陰神社は一八九〇年、松陰をたたえてたてられた神社です。境内には、**吉田松陰遺墨展示館**と、松陰が海外にわたろうとして失敗しとらえられたときの**松陰幽囚旧宅**もあります。

付近の史跡

松下村塾から徒歩5分ぐらいのところに、**伊藤博文旧宅**があります。草ぶき平屋のそまつな家です。伊藤博文は松下村塾で松陰に学び、長州藩の討幕運動に参加し、後には明治政府の初代内閣総理大臣にまでなった人です。伊藤は少年のころ、この家から松下村塾に通ったのでしょう。さらに北の方へ10分ほど歩くと、萩の藩主毛利家の菩提寺であった**東光寺**があります。

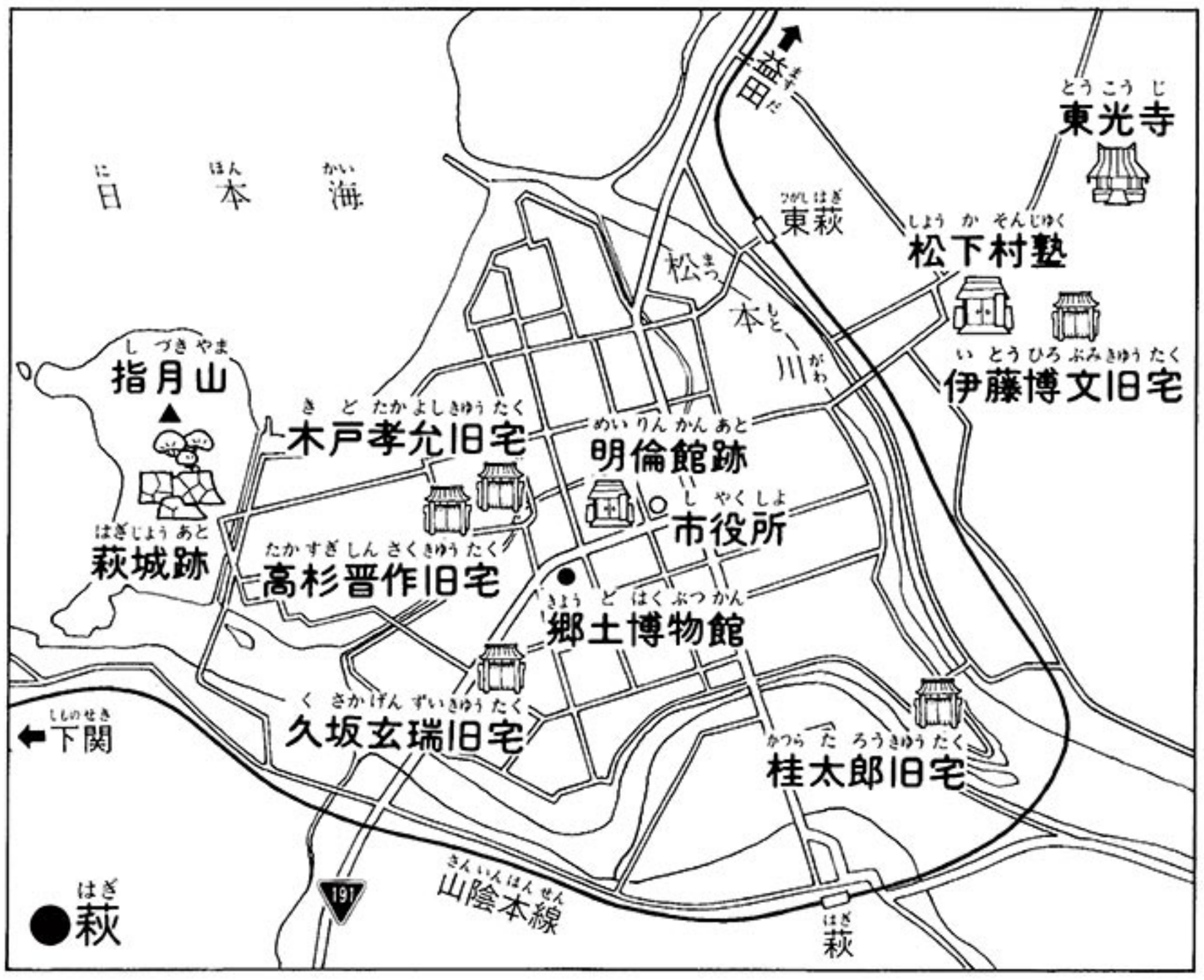
▼松下村塾

■萩城跡■

所 山口県萩市堀内
交 JR山陰本線玉江駅下車、徒歩15分

萩の市街地の西側をながれる橋本川の河口に、日本海につき出た指月山がありますが。関ケ原の戦いにやぶれ、領地をへらされた毛利輝元が、一六〇八年に指月山の山麓一帯にきずいたのが萩城です。萩城は、一八六三年に藩庁が山口にうつされるまで藩政の中心地となり、幕末には尊王攘夷運動の拠点でもありました。現在は、石垣と土塁だけがのこっており、付近一帯は指月公園になっています。

▲萩城跡



2 山口

■山口藩庁跡■

所 山口県山口市滝町
交 JR山口線山口駅よりバス、県庁前下車

毛利氏は、幕末に藩庁（現在の県庁にあたる）を萩から山口にうつしました。以後、山口は討幕運動の中心となります。現在の県庁の一角に藩庁の表門がのこり、その前に堀ものこっています。

また、県庁から北へ5分ぐらい歩くと、香山園という公園の中に**香山墓所**があります。幕末に長州藩を指導した藩主毛利敬親、元徳親子のもり土状の墓です。この墓へのぼる石段は歩くと反響音がするところから、「うぐいす張りの石段」といわれています。

●付近の史跡●

山口は、中世には大内氏

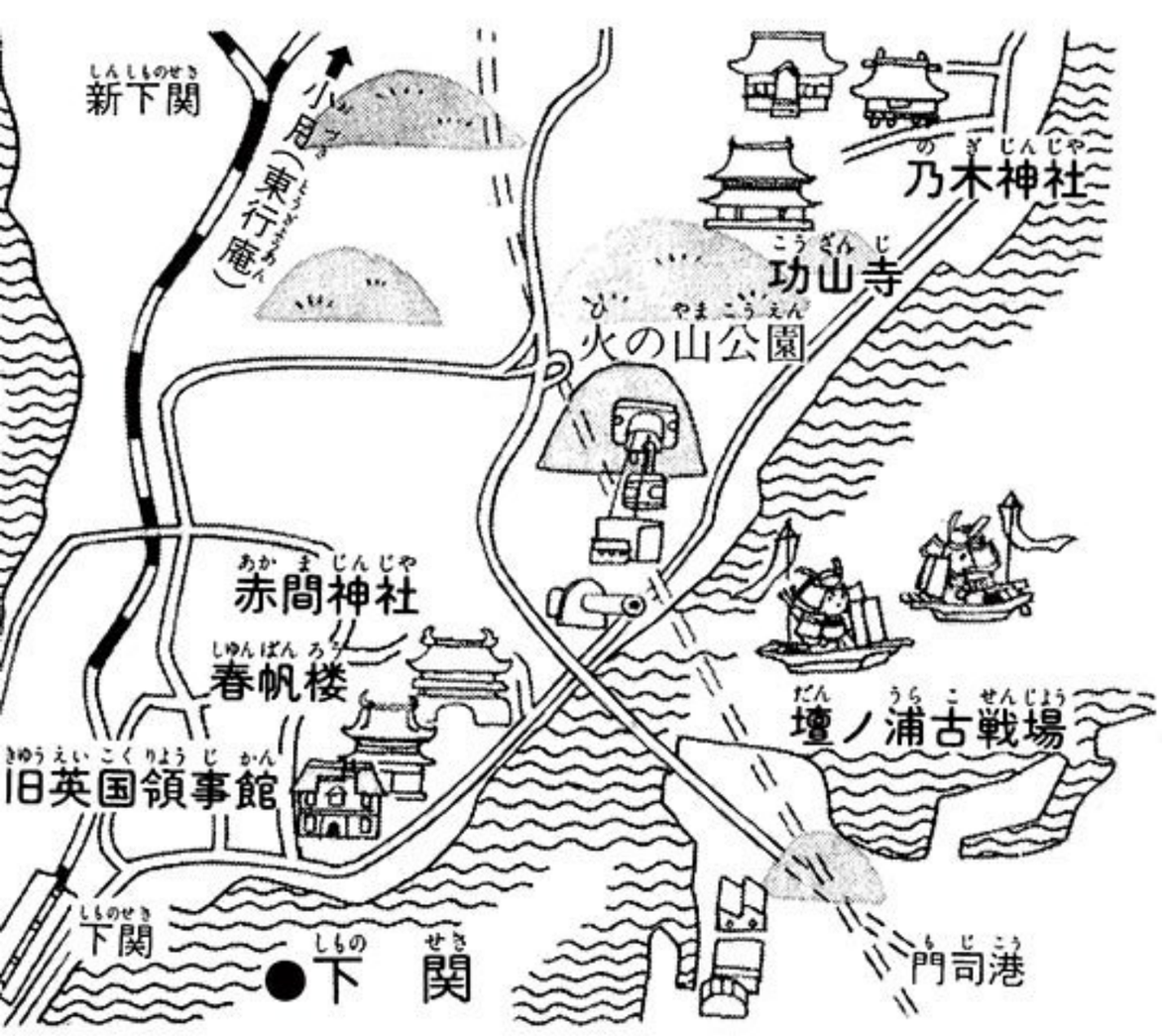
が館をかまえ、「小京都」とよばれるほどに繁栄していた時代があります。当時のおもかげをのこす遺構はわずかですが、駅から10分ほど歩いたところに**大内館跡**があります。雪舟もこの館をおとずれたといわれています。また、山口は、キリスト教の宣教師ザビエルがおとずれたことでも知られています。当時の守護大名大内義隆は、ザビエルに布教をゆるし、廃寺を教会堂としてあたえました。駅から北側がその地で、付近は**サビエル記念公園**となっています。また、市内の亀山町には、再建された新しい**サビエル記念聖堂**もあります。

3 下関

■東行庵■

㊫山口県下関市吉田
㊋JR山陽本線小月駅よりバス、東行庵入口下車

高杉晋作は、一八六七年4月、数え年29歳の波乱にとんだ短い一生をおえました。遺骨は晋作が結成した奇兵隊にゆかりの深い吉田町の清水山にほうむられました。後の一八八四年、ふもとに晋作の菩提をとむらう東行庵がたてられました。また、東行庵のそばには東行記念館が建設されています。館内には、晋作愛用のかぶとや衣服などのほか、自筆の手紙・日記・詩歌などが展示されています。



記念館の裏手にあたる清水山には、高杉晋作の小さな墓もあります。

●付近の史跡●

下関市の市街の中心部に赤れんがの**旧英国領事館**がのこされています。明治時代のおわりにたてられたもので、現在は、市立の考古館として市内の遺跡から出土した考古資料を展示しています。また、付近には、日清戦争の講和会議の会場となった**春帆楼**も見られます。源平最後の戦場となった壇ノ浦古戦場もすぐ近くの海上です。148ページを見てください。

龍馬のふるさと・高知

土佐藩の下級武士の出身であった坂本龍馬は、薩長同盟を成立させ、大政奉還をすすめるなどの活動をします。しかし、中岡慎太郎とともに京都で暗殺されました。明治時代になると、同じ土佐から板垣退助・中江兆民など自由民権運動の指導者があらわれてきます。

ここでは、高知市をたずね、幕末から明治維新にかけて活やくした人びとの足跡をたどってみることにしましょう。

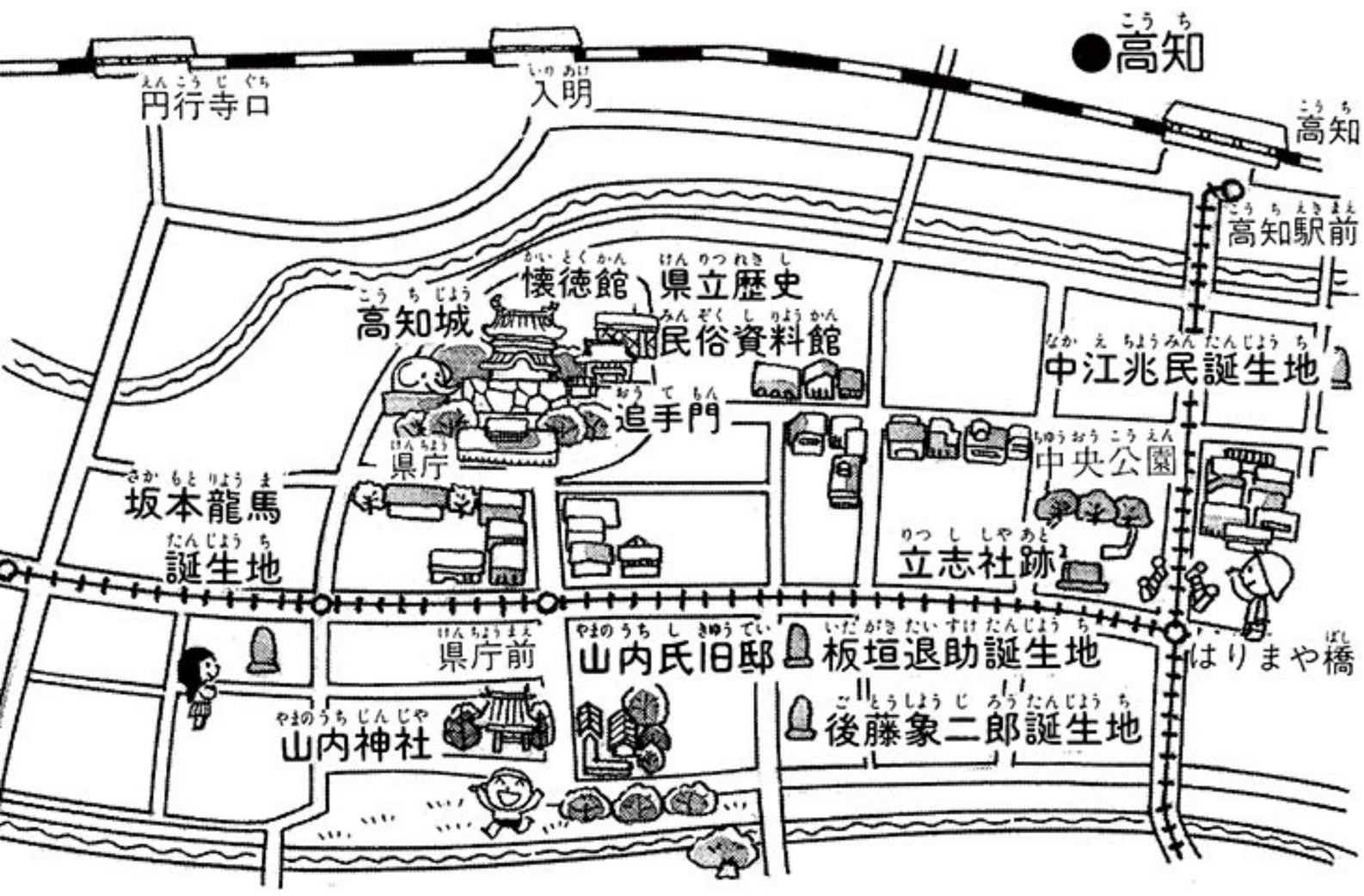
（坂本龍馬）

高知城

所 高知県高知市丸の内
交 JR土讃線高知駅より土佐電鉄はりまや橋のりかえ、公園通下車

高知城は、江戸時代のはじめ山内一豊によって築城されました。今は天守閣・本丸書院・追手門などがのこっており、重要文化財に指定されています。一帯は公園になって市民に親しまれています。追手門を入ると、正面に板垣退助の銅像があり、石段を少しのぼると山内一豊の妻の像があります。天守閣のそばの本丸書院は、**懐徳館**と名づけられ、郷土の史料を展示しています。

付近の史跡 高知城前の電車通りを西へ少し行くと**坂本龍馬誕生地**があります。通りを逆に行くと**板垣退助誕生地**が、ここから南へ行くと**後藤象二郎誕生地**があります。「東洋のルソー」とよばれた**中江兆民誕生地**は江の口川にかかる山田橋の近くにあります。また中央公園入口には**立志社跡**の碑がたっており、県庁前を南へ行くと、**山内氏旧邸**があります。裏手に容堂・豊範をまつる**山内神社**があり、西どなりには宝物資料館があります。また月の名所で有名な桂浜には、**坂本龍馬記念館**と海を見つめている龍馬の銅像がたてられています。



▼坂本龍馬像

『坊ちゃん』の城下町・松山

第18巻
第4章を
見よう。

（夏目漱石）

夏目漱石の『坊っちゃん』の舞台となっている町、それが松山です。一八九五年（明治28）漱石は松山中学校に赴任しました。この中学校を舞台として『坊っちゃん』が書かれたのです。道後温泉をはじめ、さまざまな町の様子が書かれています。この町は、江戸時代松平氏の居城松山城がきずかれた城下町です。

また松山は、明治時代の代表的な俳人正岡子規の誕生地です。今でも俳句のさかんな町として知られ、句碑が多くのこっています。

ここでは、『坊っちゃん』にえがかれた城下町松山と、道後温泉の史跡をたずねてみましょう。

■松山城■

所 愛媛県松山市丸之内
交 JR予讃線松山駅より伊予鉄道大街道下車、ロープウェイ3分

JR松山駅前に「春や昔十五万石の城下哉」ときざまれた正岡子規の句碑があります。その句のように、松山市は、松山城を中心に形づくられた典型的な城下町です。

松山城は、一六〇三年、加藤嘉明により築城が開始され、加藤嘉明が会津にうつったあとをついだ蒲生忠知のとき完成しました。その後松平氏の居城として明治維新までつづきます。勝山とよばれる小山にきずかれた3層の天守閣を中心とした城です。天守閣からのながめがすばらしく、道後温泉をはじめ松山市内の史跡が数多く見わたせ、遠く瀬戸内海ものぞめます。

●付近の史跡●　松山城のふもとには、松山出身の正岡子規らが主人公の小説にちなんだ**坂の上の雲ミュージアム**があります。また夏目漱石ゆかりの松山中学校跡には、文学碑がたてられています。松山中学校跡

◀松山城

▼子規堂

●松山城と道後温泉

にあった松山藩の藩校明教館は、現在県立松山東高校の校内にその構堂が移築されています。市駅前から地下道をくぐり少し歩くと**正宗禅寺**につきます。その境内に正岡子規の住居であった**子規堂**があり、子規の遺品が多く陳列されています。松山駅西方の**古照遺跡**は、4世紀ごろの遺跡で、考古学上貴重なものです。

▲道後温泉本館

■道後温泉■

㊫愛媛県松山市道後湯之町
㊫JR予讃線松山駅より伊予鉄道道後温泉駅下車

夏目漱石の『坊っちゃん』に登場する道後温泉は、江戸時代には湯治客や四国遍路の人びとでにぎわいました。現在は四国最大の温泉として知られています。約100軒もの旅館がありますが、なかでも道後温泉本館は、一八九四年（明治27）にたてられた3層楼の古い建物です。1階は神之湯という浴場で、3階の個室には、漱石ゆかりの「坊っちゃんの間」があります。

●付近の史跡●

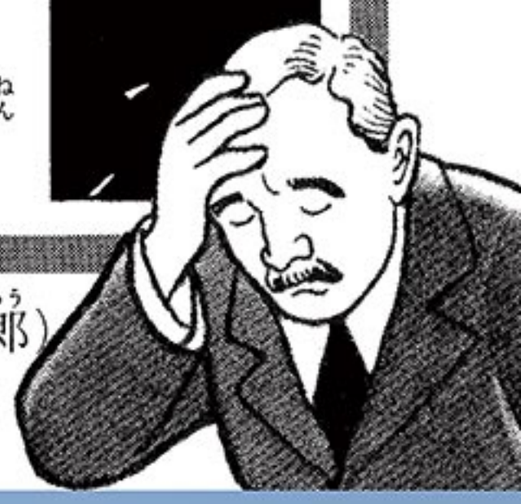
道後温泉本館横の坂道をのぼりきったつきあたりに、一遍聖人の誕生地といわれる**宝厳寺**があります。温泉近くの道後公園は、14世紀に、河野氏によってきずかれた**湯築城跡**です。公園の中には小林一茶の句碑がたち、その後方に奈良時代につくられたという**湯釜**がおかれています。すぐそばには**市立子規記念博物館**があります。正岡子規にかんする多くの資料が展示されています。また館内には、漱石の下宿愚陀仏庵が復元されています。

ノー・モア広島

第20巻 第3章を見よう。

広島市は、瀬戸内海の広島湾をのぞむ、中国地方有数の大都市です。昔は漁村でしたが、一五八九年、毛利輝元が広島城をきずいて発展しました。江戸時代のはじめ、福島正則が居城し、その後は浅野氏が広島藩（安芸藩）主として明治維新までこの地をおさめました。

第二次世界大戦中の一九四五年八月六日、この広島に原子爆弾が投下されました。歴史の町は一瞬にして全滅し、廃虚となってしまいました。戦後、広島は世界平和のシンボル都市としてたちなおり、市内には、原爆の悲さんさをうったえる多くの施設がつくられました。



（鈴木貫太郎）

■広島平和記念公園■

所 広島県広島市中区中島町
交 JR山陽本線広島駅よりバス、平和公園前下車

広島市のほぼ中心部、本川と元安川にはさまれた約12万平方メートルの公園です。ここは爆心地から川ひとつへだてたところで、原爆によって全滅した地域です。入口に大噴水があり、その後ろに長方形の広島平和記念資料館、公園中央部には2、3万人は入れる芝生が広がり、たくさんのハトがあそんでいます。芝生のはしに馬蹄形の埴輪をかたどった原爆慰霊碑があり、そのむこうに平和の灯が、この地上から核兵器がきえるまではと、もえつづけています。公園内には、原爆の子の像など40近くの碑や像がたちならんでいます。

◆**広島平和記念資料館**　資料館は一九五五年（昭和30）平和記念施設の一つとして完成しました。ここには約3千点の被爆資料や当時の様子をつたえる写真、その他さまざまな関係物品が展示され、年間120万以上の人びとがおとずれています。

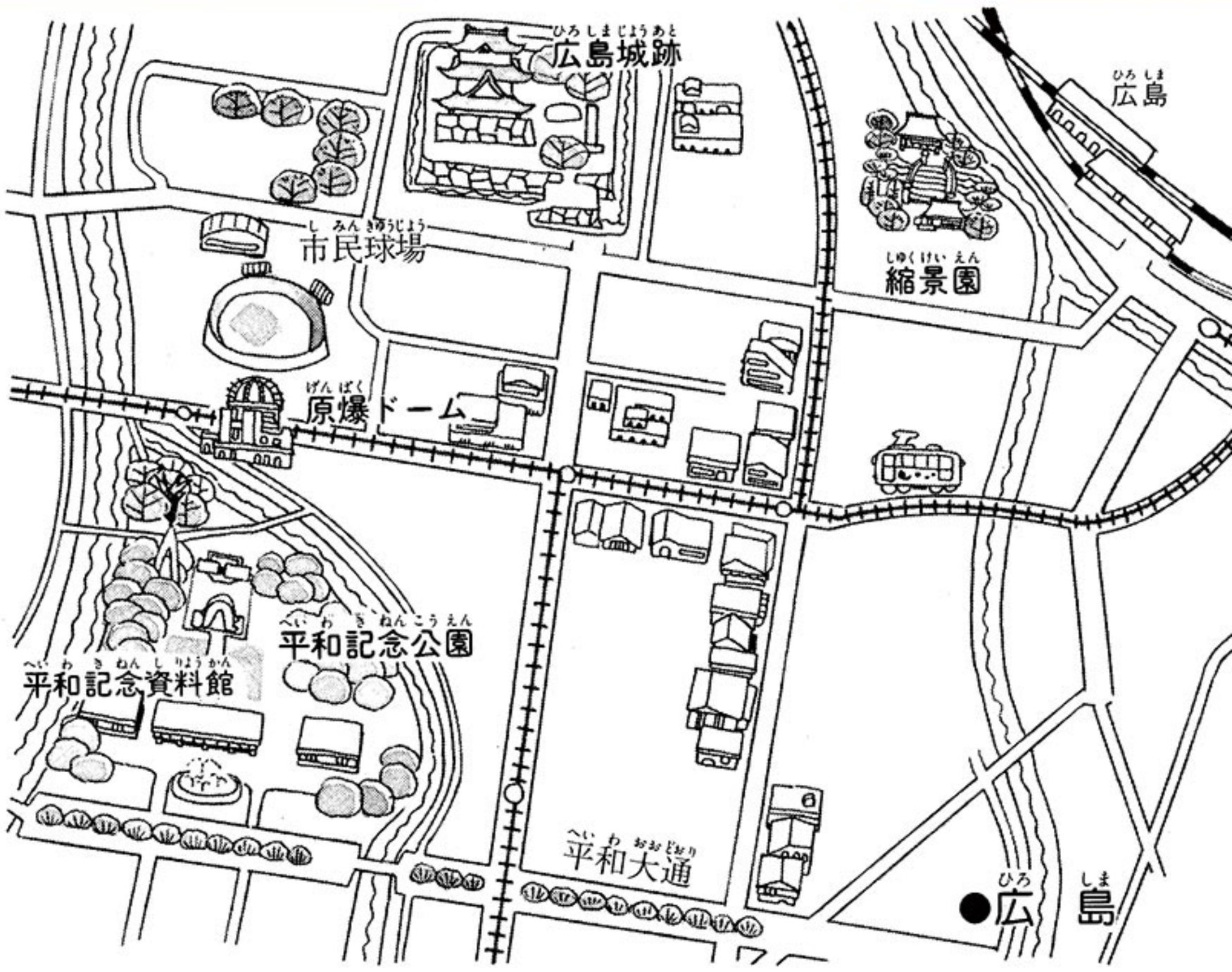
▼原爆慰霊碑

資料館のとなりには、平和記念館があり、遺品や資料の展示のほか、当時の様子をつたえる記録映画が上映されています。

◆**原爆の子の像**　別名千羽鶴の塔ともよばれるこの像がつくられたのは、戦争がおわって10年もしてからです。原爆後遺症の中学生佐々木禎子さんは、「鶴を千羽おれば元気になれる」と、病床で鶴をおりつづけたかいもなく、なくなりました。級友たちからもちあがった像をつくろうという話が全国的な運動となり、実現したものです。

▲広島平和記念公園

▼広島城跡



◈**原爆慰霊碑**　毎年八月六日、この慰霊碑の前で平和記念式典が行われます。名簿を入れる黒御影の箱には、「安らかに眠って下さい／過ちは繰返しませぬから」とほられています。

■原爆ドーム■

㊫広島県広島市中区大手町
㊋JR山陽本線広島駅より市内電車、原爆ドーム前下車

元広島県産業奨励館の建物です。原爆がこの建物のほぼ上空で爆発したことと、丸い屋根の骨組がのこったことから原爆ドームとよばれるようになり、広島の原爆被災を象徴する遺跡となりました。世界の平和をうったえるシンボルとして、永久に保存することになりました。現在では、世界遺産にも選ばれています。

●**付近の史跡**●　原爆ドームから県庁前を通って北へ行くと、**広島城跡**があります。現在は内堀と本丸・二の丸の石垣がのこっているだけですが、本丸には天守閣が復元されています。城跡の東の方には、広島城主浅野家の別邸だった回遊式庭園の**縮景園**があり、市民に親しまれています。

中国・四国地方のおもな資料館と博物館

中国・四国地方にあるおもな資料館と博物館をとりあげました。なりますので、事前にしらべておきましょう。休館日は、各館ごとにこと

鳥取県

倉吉市立倉吉博物館

所 倉吉市仲ノ町
交 JR倉吉駅よりバス、赤瓦・白壁土蔵下車

鳥取県立博物館

所 鳥取市東町
交 JR山陰本線鳥取駅よりバス、西町下車

鳥取県中央部における、縄文時代から平安時代にいたる代表的遺物、および伯耆国分寺出土品を展示。ほかに、郷土の生んだ近代美術家の作品も展示している。

一九七二年（昭和47）につくられた総合博物館。自然、人文各分野の資料を収蔵している。鳥取県の地形をしめす資料、動植物生態図をはじめ、考古資料、古地図などを展示している。

島根県

出雲大社宝物殿

所 出雲市大社町
交 JR出雲市駅よりバス、正門前下車

出雲大社の境内にある神枯殿の1階部分が宝物殿。庁舎（社務所）は出雲地方特有のハデバ（稲架）をかたどったユニークな姿をしている。展示品は神社につたわる貴重な美術品、古文書と考古資料で、おもなものは、秋野鹿蒔絵手箱、後醍醐天皇直筆の文書など。

八雲立つ風土記の丘展示学習館

所 松江市大庭町
交 JR山陰本線松江駅よりバス、風土記の丘入口下車

建物は、上から見ると出雲地方に特徴的な前方後方墳の形に見え、横から見ると神社建築の形をしている。内部には、出雲地方を中心とした先土器時代から中世にいたる考古資料が豊富に展示してある。おもな展示物は、平所埴輪窯跡出土の見返りの鹿、国分寺の瓦など。

和鋼博物館

所 安来市安来町
交 JR山陰本線安来駅下車、徒歩15分

中国地方では、古くからタタラによる日本独特の製鉄が行われ、とくに奥出雲では、良質の和鋼を生産していた。日本刀はこの和鋼によって作られる。輪入された鉄鋼におされ、大正末期には姿をけしてしまった

岡山県

吉備路風土記の丘

所 総社市上林
交 JR伯備線総社駅よりバス、国分寺前下車

岡山県立博物館

所 岡山市後楽園
交 JR山陽本線岡山駅下車、徒歩20分

倉敷考古館

所 倉敷市中央
交 JR山陽本線倉敷駅下車、徒歩15分

広島県

厳島神社宝物館

所 廿日市市宮島町
交 JR山陽本線宮島口駅より連絡船で宮島桟橋下船後徒歩15分

広島県立歴史博物館

所 福山市西町
交 JR山陽本線福山駅下車、徒歩5分

広島平和記念資料館

が、ここではタタラ製鉄の製品や加工法の資料が見られる。

県立公園として整備されているが、古代にさかえた吉備国の遺跡や建造物がたくさんある。歩行者・自転車専用道を走れば、**備中国分寺**、**造山古墳**、**作山古墳**、**吉備津神社**などをめぐることもできる。

吉備文化をしめす諸資料を収集、展示している。とくに、備前地方の特産、備前焼と備前刀の展示はユニークである。

白い壁の土蔵造で、いかにも倉敷らしい建物。主として県内出土の考古学的な資料を、先土器時代から中世にいたるまで豊富に展示。また、古代ペルーの土器、織物なども見られる。ほかに、陶器・木工品・ガラスなどを展示した民芸館も近くにある。

平安時代以降この神社に寄進された物品を中心に、多数の美術工芸品・武具・古文書などを収蔵、展示。これらの中には、国宝12点、重要文化財50点あまりがふくまれており、まさに文化財の宝庫である。平清盛の寄進した平家納経はとくに有名である。

川底に埋もれた中世の港町・市場町として有名な草戸千軒町遺跡を中心に、瀬戸内の民衆の歴史と文化に視点をあてた博物館。特に草戸千軒の一角を実物大で復原した中世の町の様子は絵巻物さながらである。

一般には原爆資料館とよばれ、ピロティー形式のユニークな建物。原

㊫広島市中区中島町
㊥JR山陽本線広島駅よりバス、平和公園下車

山口県

赤間神宮宝物殿

㊫下関市阿弥陀寺町
㊥JR山陽本線下関駅よりバス、赤間神宮前下車

毛利博物館

㊫防府市多々良
㊥JR山陽本線防府駅よりバス、毛利邸前下車

爆にかんする資料を公開、展示することにより、悲さんな大量殺戮の実態を世界につたえ、平和の尊さをうったえるためにたてられた。

考古・民俗資料、工芸品など約2千点を収蔵。赤間神宮文書、安徳天皇縁起絵図をはじめ、絵画、屏風、軸物など、源平合戦にかんする資料が多い。

毛利邸は、一九一六年（大正5）に明治・大正期の造園・建築の粋をあつめて完成されたもので、その一部を改造して展示物をおいている。毛利家に所蔵されている古文書、美術工芸品、衣服調度、武具などが見られるが、雪舟の四季山水図、毛利元就画像などが有名である。

土井ケ浜遺跡人類学ミュージアム

㊫下関市豊北町
㊥JR山陰本線長門二見駅よりバス土井ケ浜下車

土井ケ浜遺跡からの出土品を中心に、発掘現場の復原模型、人骨のレプリカなどを展示。さらに、弥生時代の生活が体験できるスペースがおかれ、〝弥生人〟を味わうことができる。

徳島県

徳島県立博物館

㊫徳島市八万町
㊥JR徳島駅よりバス

「徳島の自然と歴史」をテーマとした歴史・考古・地学・生物などの資料を総合的に展示している。とくに阿波人形浄瑠璃で使用した人形頭の収集に精力的に取り組んでいる。

鳥居龍蔵記念博物館

㊫徳島市八万町
㊥JR徳島駅よりバス

徳島県出身の世界的考古学者および人類学者である、鳥居龍蔵博士を記念してたてられた。日本国内や千島列島、東アジア各地をまわって集めた資料や写真などが展示されている。

香川県

金刀比羅宮博物館

所 仲多度郡琴平町
交 JR土讃線琴平駅下車、徒歩20分

金刀比羅宮所蔵の宝物を展示。什器、よろい、かぶと、刀剣、絵巻物などがある。学芸参考館では、金刀比羅宮に奉納された絵馬や、船の模型が見られる。

四国民家博物館（四国村）

所 高松市屋島中町
交 琴平電鉄琴電屋島駅下車、徒歩5分

四国の古い民家を各地より移転、復元して展示。小豆島の農村歌舞伎舞台、土佐こうぞ蒸小屋、砂糖締め小屋、祖谷の民家などがあり、中へ入って見ることができる。

瀬戸内海歴史民俗資料館

所 高松市亀水町
交 JR予讃線高松駅下車

考古、歴史、民俗の3部門に分かれて、瀬戸内海周辺の資料が展示されている。とくに民俗では漁業関係の資料が多く、大小漁船や、漁労用具の実物を展示。また江戸時代の和船模型も多数ある。

香川県埋蔵文化財センター

所 坂出市府中町
交 JR予讃線讃岐府中駅下車、徒歩15分

香川県の考古学資料、とくに瀬戸大橋架橋や高速道路建設にともない発掘された遺物を数多く展示している。館内には川津遺跡の土地断面や製塩土器がある。また中庭には復元された竪穴住居がある。

愛媛県

宇和島市立伊達博物館

所 宇和島市御殿町
交 JR予讃線宇和島駅下車、徒歩25分

伊達家屋敷跡偕楽園の敷地内にある。宇和島藩主伊達家所蔵の什器、武具、美術工芸品、古文書などを展示。とくに古文書は、幕末の様子を知るうえで貴重なものが多い。

大山祇神社宝物館

所 今治市大三島町
交 JR予讃線今治駅よりバス、大山祇神社前下車

大山祇神社に奉納された宝物を展示。甲冑、武具、刀剣類が多く、とくによろい・かぶとは、全国の国宝・重要文化財のうちの8割を所蔵している。中世水軍にかんする古文書もある。

別子銅山記念館

別子銅山の意義をつたえるためにたてられた博物館。銅山開坑以来の

㊫新居浜市角野新田町
㊥JR予讃線新居浜駅よりバス、生子橋下車

松山市立子規記念博物館

㊫松山市道後公園
㊥JR予讃線松山駅よりバス、道後公園前下車

松山のうんだ俳人正岡子規を主題とした博物館。子規の生誕から没年までの足跡と周辺の人びとをとりあげ、実物資料、写真、図表などでわかりやすく展示説明している。視聴覚室では、約20分で子規の生涯がわかる短編映画が上映されている。

高知県

高知城懐徳館

㊫高知市丸の内
㊥JR土讃線高知駅より土佐電鉄、公園通下車

高知城本丸書院を利用した資料館。土佐藩主山内氏の衣類や調度品を展示。また、原始時代から幕末までの考古資料、民俗資料も展示してあり、土佐の歴史が一目でわかる。

高知市立自由民権記念館

㊫高知市桟橋通四丁目
㊥JR土讃線高知駅より土佐電鉄、桟橋車庫前下車

自由民権運動の歩みを文書資料・文献・写真・風刺画などを使って紹介。また、自由と書かれた旗をかかげた民衆の人形で、当時の雰囲気を表わしている。映像展示室では自由民権運動の様子を上映している。

龍馬歴史館

㊫香南市野市町
㊥土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線のいち駅下車、徒歩15分

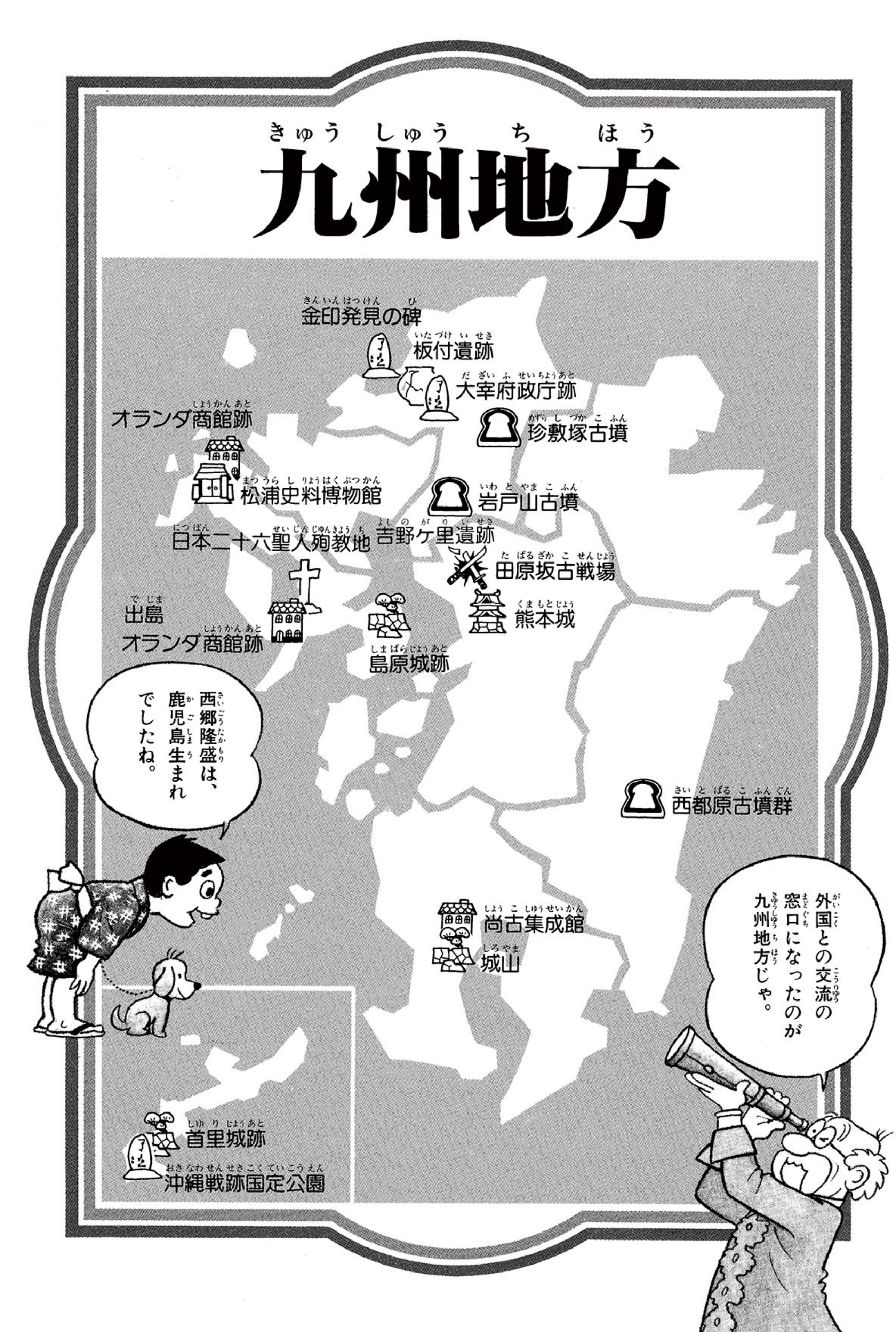
坂本龍馬の生誕から没年までの歩みを、25の場面に分け、130体のろう人形で表わしている。いまにも龍馬が飛び出してくるような錯覚におちいるようなリアリズムいっぱいの資料館である。

龍河洞博物館

㊫香美市土佐山田町
㊥JR土讃線土佐山田駅よりバス、龍河洞下車

日本三大洞の一つ龍河洞より出土した、弥生式土器、装飾具、鉄鏃などを展示。龍河洞は弥生時代後期の洞窟遺跡で、洞窟内には住居跡や炊事場跡などが見られる。

九州地方


金印発見の碑
板付遺跡
大宰府政庁跡
オランダ商館跡
珍敷塚古墳
松浦史料博物館
岩戸山古墳
日本二十六聖人殉教地
吉野ヶ里遺跡
田原坂古戦場
出島
オランダ商館跡
熊本城
島原城跡
西郷隆盛は、鹿児島生まれでしたね。
西都原古墳群
外国との交流の窓口になったのが九州地方じゃ。
尚古集成館
城山
首里城跡
沖縄戦跡国定公園

九州地方の原始時代の遺跡と古墳

九州地方は、およそ1万年前に日本列島が大陸から切りはなされてから、つねに大陸のすすんだ文化をとり入れ、新しい文化をつくり出してきたところです。数万年もの間つづいた狩りと採集にたよる不安定な生活を、より安定した稲作を中心とする生活にかえたのは、大陸から稲作をとり入れた北九州の人びとでした。

また、青銅器の分布や装飾古墳の分布などを見ると、九州地方は、海をへだてた本州との間に文化の大きなちがいがあったことがわかります。

ここでは、いくつかの遺跡をたずね、九州地方の原始時代の文化をさぐってみましょう。

■板付遺跡■

㊫福岡県福岡市博多区板付
㊫JR博多駅よりバス、板付団地第二下車

市の中心部から国道3号を南にくだり、御笠川をわたったところが、日本でもっとも早く稲作が行われたといわれるところです。発掘調査の結果、農耕のためにつくられたみぞ、木器やもみのあとのついた弥生式土器などが出土し、紀元前3世紀ごろの農耕の様子が明らかになりました。最近では、縄文時代のおわりごろの水田跡も発見され、農耕のはじまりは、縄文時代末期から注目されています。

出土品や遺溝などは、近くの**板付遺跡弥生館**に保存、展示されています。

●付近の史跡●　福岡市の南につづく春日市の**岡本遺跡**からは、たくさんの青銅器の入った甕棺が発見され、これが弥生時代の小国家「奴国」王の墓ではないかと考えられています。現在は**奴国の丘歴史公園**として整備され、出土品は公園内の**奴国の丘歴史資料館**で見ることができます。

■金印発見の碑■

㊫福岡県福岡市東区志賀島
㊫博多港より船約45分、志賀島下船

志賀島の渡船場から、西海岸に沿って1.5キロほど歩いた叶崎に、「漢委奴国王印発光之処」と刻まれた碑がたっています。西暦五七年、漢の光武帝から倭の奴国王がたまわったという金印が発見された場所です。この丘の下の方で、江戸時代に甚兵衛という農民が畑の土をほっているとき偶然発見したのでした。しかし、「奴国」は現在の福岡平野を流れる那珂川流域にあったとされていますから、金印がなぜ、こんなはなれた島にうめられていたか、まだ、結論が出ていません。なお、金印は**福岡市博物館**に展示されています。

▲金印発見の碑

■吉野ケ里遺跡■

所 佐賀県神埼市、吉野ケ里町
交 JR長崎本線吉野ケ里公園駅下車、徒歩約20分

北に脊振山地、南は有明海まで続く佐賀平野ののどかな田園地帯のまん中にあります。一九八六年から三年におよぶ発掘で明らかになった弥生時代の大規模な環濠集落跡です。

環濠とよばれる推定2.5キロの濠でかこまれ、その内側から2000基以上の甕棺、高床倉庫、そして王の墓と思われる大きな盛土の墓（墳丘墓）が見つかりました。また発掘された有柄細形銅剣やガラス製管玉、そして日本で初めての巴形銅器（楯につけた飾り）の鋳型などの模型は、**吉野ケ里遺跡展示室**で見ることができます（実物は佐賀県立博物館）。

また小高い集落跡には濠、柵や物見櫓、高床倉庫群、竪穴住居などを復元した建物が並ぶ野外博物館となっています。

この要塞のような村は、「魏志倭人伝」に記された楼観があり、城柵にかこまれているという卑弥呼の住んだ邪馬台国の様子によく似ているので、たいへん注目されています。

■西都原古墳群■

所 宮崎県西都市三宅
交 宮崎空港よりバス、西都バスセンター下車

東西2.6キロ、南北4.2キロの台地にあり、約350基の大小さまざまな古墳がつらなって

いて壮観です。前方後円墳・方墳・円墳、さらに南九州独特のもり土のない地下式古墳などがあり、つくられた年代も4世紀ごろから7世紀ごろまでのものがそろっています。代表的な古墳は、台地の中心部にある男狭穂塚と女狭穂塚です。男狭穂塚は全長219メートル、後円部だけでも直径128メートルで、2重の堀があった跡があり、九州第一の大きさです。大和の天皇に負けないほど勢力をもっていた豪族の墓なのでしょう。近くに**西都原考古博物館**があり、古墳からの出土品を展示しています。

■岩戸山古墳■

㊫福岡県八女市吉田
㊫JR久留米駅から西鉄バス、福島高校前下車、徒歩5分

古代の九州で注目される事件に、五二七年の磐井戦争があります。

磐井は翌年討ばつされましたが、その大きな勢力を今につたえているのが、岩戸山古墳です。岩戸山古墳は、200基におよぶ八女古墳群の中にあるひときわ大きな古墳です。東西176メートル、後円の幅110メートル、前方の幅130メートルという福岡県最大の古墳で、奈良時代に書かれた「筑後国風土記」にも磐井の墓と記してあります。

墓の周囲にならべられていた、人や馬をきざんだ石造の彫刻は、北九州独特のもので、「石人」「石馬」とよばれています。これらの資料は、この古墳に隣接した**岩戸山歴史資料館**に保存されています。岩戸山歴史資料館にある石馬には、当時の北方騎馬民族などが用いていた馬具と同じ形の装飾が見られ、朝鮮半島と密接なつながりがあったことを物語っています。

■珍敷塚古墳■

㊫福岡県うきは市吉井町
㊫JR久大本線筑後吉井駅下車、徒歩30分

石室の内側のかべに絵や模様をきざんである古墳を装飾古墳といいます。装飾古墳は本州などではほとんど見られない九州独特の古墳で、しかも、福岡県の筑後地方と熊本県の北部に集中しています。装飾古墳のなかでも、4世紀ごろの竪穴式石室には、幾何学的な直線や曲線の模様で朱色にいろどられたものが多く、6世紀ごろからの横穴式石室のかべには、戦いや生活の姿を思わせる絵が美しい色どりでえがかれているものが発見されています。

珍敷塚古墳の壁画は古墳時代後期のものと思われ、その図柄は装飾古墳のけっ作といわれています。大きな船に「靫」という弓矢を入れる道具を3つのせ、まん中に大きなわらび手文が屋根のようにえがかれ、船の右手の方にヒキガエル、盾をもつ人物、そしてまるい月のようなものがえがかれています。さらに画面の左手には別のゴンドラのような舟がえがかれ、その上には舟をこぐ人、道案内をつとめるような鳥がへさきの上にとまっています。そして大きな太陽のような同心円がその上にえがかれているのです。珍敷塚古墳の壁画は、ガラスの窓ごしに見学することができます。

▲珍敷塚古墳の壁画

防衛と外交の拠点・大宰府

奈良盆地を中心に、日本各地に勢力を広げていった大和朝廷は、中国や朝鮮の国ぐにと交流をもって、大陸の文化を積極的にとり入れようとしました。しかし一方で、朝鮮半島にまで勢力をのばそうとしたため、朝鮮・中国との対立もおこりました。大陸に近い北九州は、つねに、外敵がせめてくる危険にさらされていました。その防衛と外交の拠点として7世紀につくられたのが大宰府です。また、鎌倉時代の元寇のときには、海岸線に石塁をもうけて、蒙古(元)軍の襲来にそなえました。これらの地をたずねてみることにしましょう。

第2巻第3章、第4巻第4章、第7巻第4章を見よう。

(菅原道真)

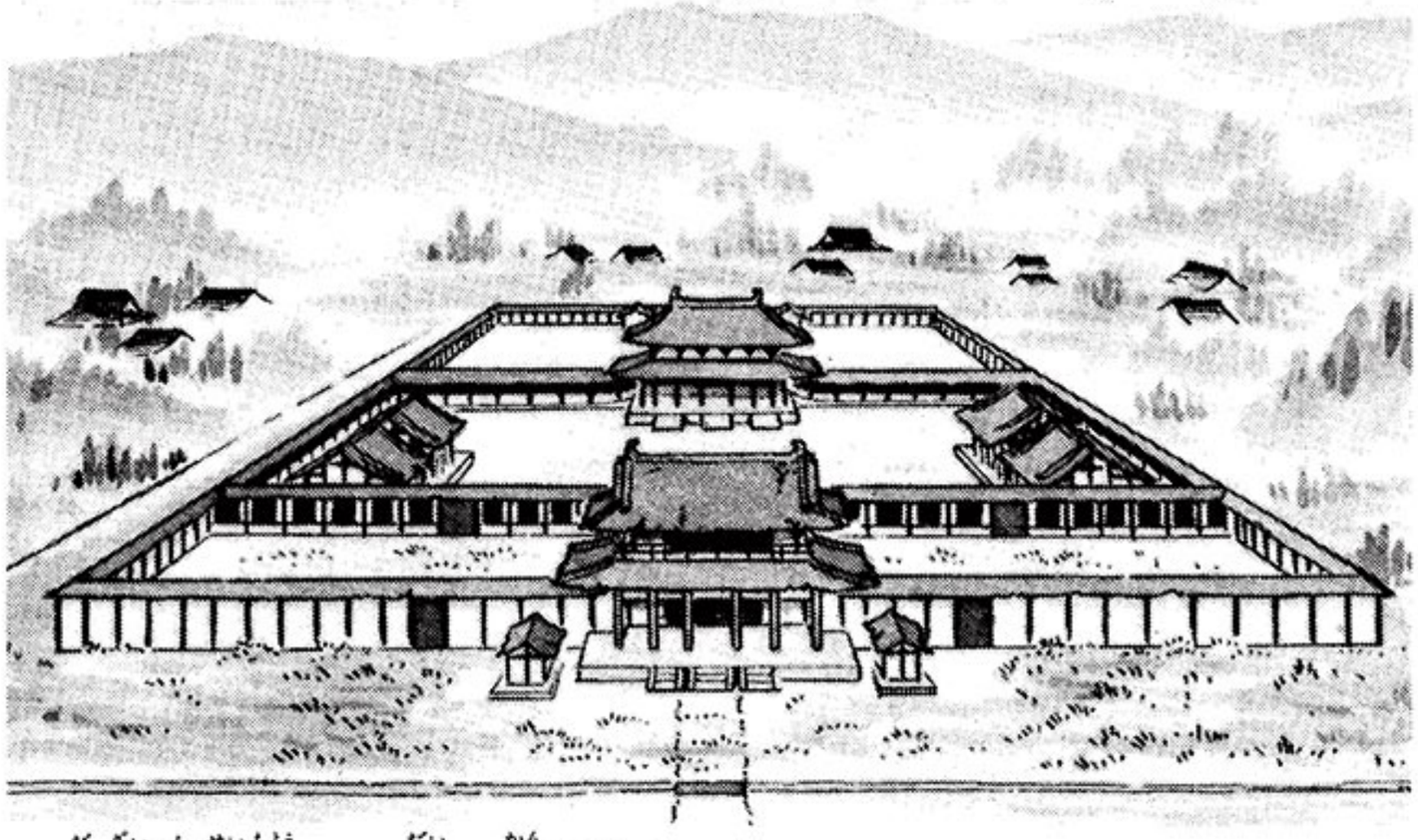
大宰府政庁跡

所 福岡県太宰府市大字観世音寺
交 西鉄大牟田線都府楼前駅下車、徒歩10分

大宰府は、天智天皇のときに大陸にむけての防衛・外交の中心地としてきずかれ、以後300年の間、西日本最大の都市として繁栄しました。

六六三年、朝鮮半島南西部の白村江(今の錦江)で、日本の水軍が唐と新羅の連合軍とたたかい、負けました。唐と新羅が日本にせめこんでくるかもしれないという不安にかられた天智天皇は、水城をきずき、博多の南側の山にかこまれたところを防衛の拠点とすることにしました。これが大宰府です。

大宰府政庁は、大宰府の長官のいたところで、そのあとは発掘調査によってたいへんりっぱなものであったことがわかっています。当時の様子が理解できるように、礎石や土もりで建物の配置をしめしてあります。政庁の東どなりには、大宰府展示館があるのでよってみましょう。



▲大宰府政庁　⇨第4巻128ページ

また、近くの**九州歴史資料館**には、大宰府政庁跡の出土品や、大宰府政庁の復元模型などが展示してあります。

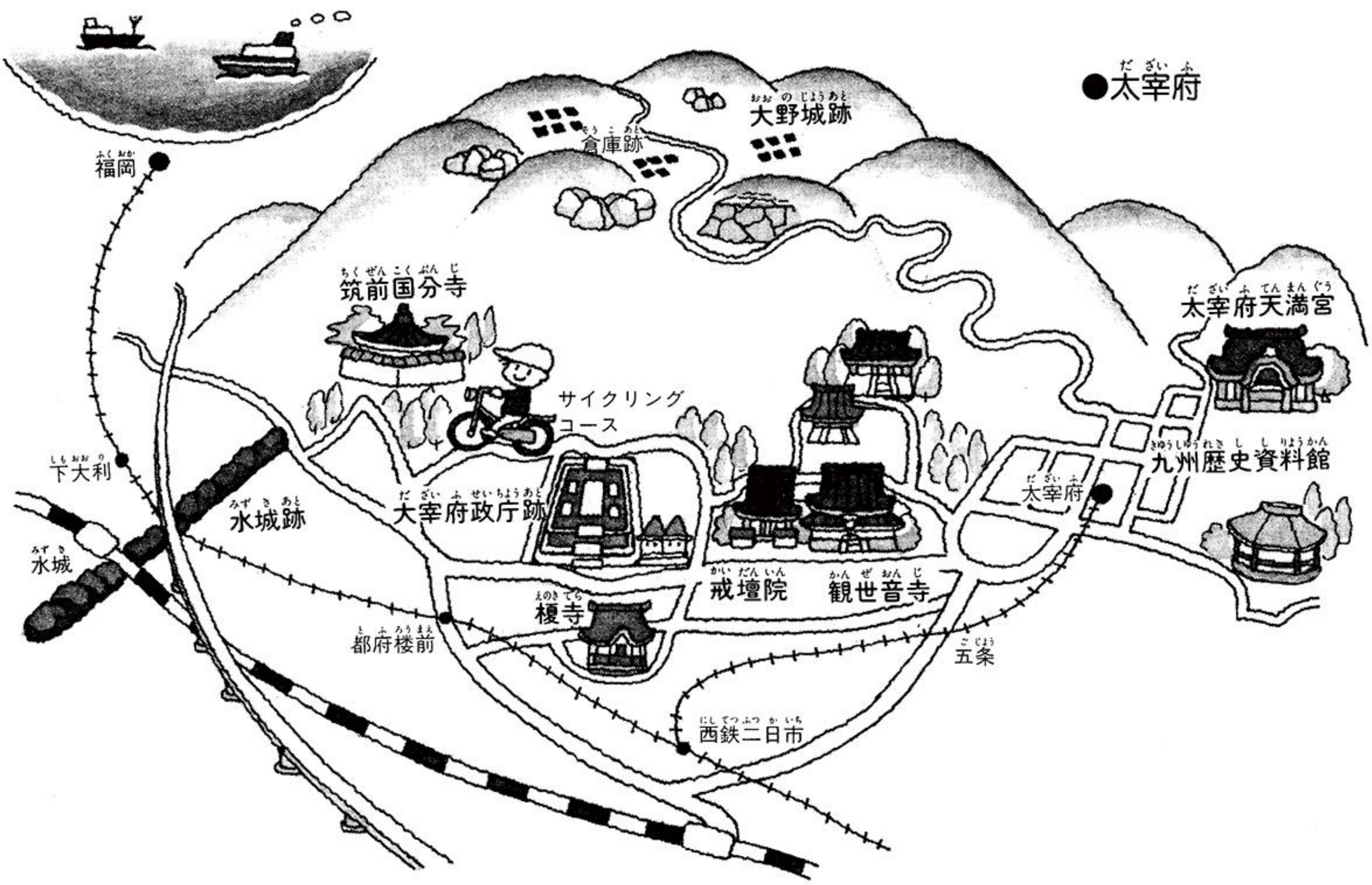
▲大野城
⇨第2巻99ページ

●付近の史跡●　大宰府は、政庁を中心に水城や大野城などの要さいをきずくという、たいへんスケールの大きな考えでつくられたものです。水城跡や大野城跡もたずねてみましょう。

◆水城跡　水城は、政庁の前をながれ博多湾にそそぐ御笠川の河原から西側の山にかけて、高さ10メートルにおよぶ堤をきずいたものです。堤の外側に堀がつくられ、いざというときには川の水を流しこんで、文字通り「水城」として外敵をふせぐ準備をとのえました。現在くずれてしまったところもありますが、河原の堤は当時の姿をたもっています。国道3号が水城の堤を横切る地点に、城門の礎石と思われる石があります。また、道路の反対側の太宰府よりには「水門の跡」があります。注意して見てみましょう。

◆大野城跡　政庁の北側の大原山は、頂上がくぼみ、すりばちのように峰がまるくつらなっています。その峰の部分に土塁や石塁がきずかれ、山全体を城としたわけです。政庁があぶなくなったとき、この山にたてこもって敵とたたかう作戦だったと考えられています。

城内には、約60棟の倉庫のあとがあり、非常時のための食糧や兵器を収納したものと思われます。山



上まで歩くと、登山口から1時間50分ほどです。車で頂上まで行くこともできます。

◆**太宰府天満宮**　10世紀のはじめ、菅原道真は大宰府にながされ、2年間の余生をすごしました。道真は、後世になって学問や書道の神としてあがめられるようになります。道真が埋葬された場所には太宰府天満宮がたてられ、全国の天満宮の総本社になっています。境内には本殿のほかに、宝物殿・歴史館があり、道真の遺品などが展示されています。

■元寇防塁跡■

㊫福岡県福岡市西区下山門・今津
㊫JR鹿児島本線博多駅よりバス、緑町下車

鎌倉時代、わが国にとって最大の危機であった元寇は、一二七四年の文永の役と、一二八一年の弘安の役の2度にわたり、日本中を不安におとし入れました。文永の役後、幕府がきずいた防塁は、高さ2～3メートル、長さは約20キロメートルもありました。現在は、今津長浜、百道、生の松原などに部分的にのこされているだけです。

▲防塁と武士たち ⇨第7巻129ページ

今津長浜の防塁跡は残存状態が良く、つみあげられた石塁をよく見ると、石の種類のちがいでその境目がよくわかるところや、石のつみ方が大まかだったり細かかったりするところがあります。御家人たちがそれぞれ分担してつくったことがわかり、苦心のあとがしのばれます。

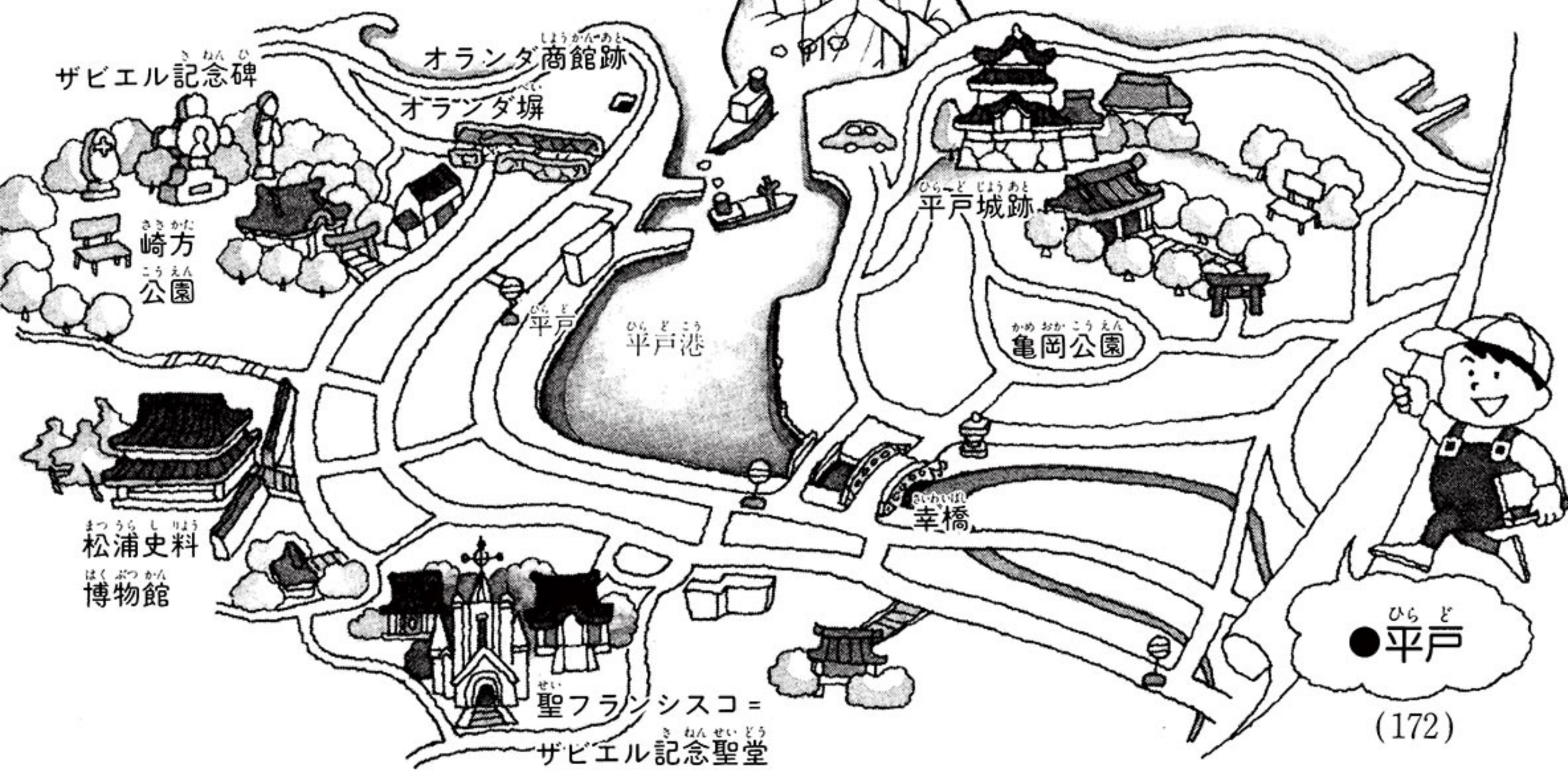
●**付近の史跡**●　福岡市内には、文永の役の激戦地となった**東公園**や**筥崎八幡宮**があります。東公園のそばには**元寇史料館**があり、元軍の遺品や絵などを展示しています。筥崎八幡宮では、亀山上皇の書をもとにした「敵国降伏」の額や、元軍の船が用いた石のいかりを見ることができます。

▲元寇防塁跡

ヨーロッパとの貿易港、平戸・長崎

一五四三年、ポルトガル人が種子島に漂着し、鉄砲をつたえたのを機に南蛮貿易がはじまりました。その数年後には、鹿児島・平戸にザビエルが来てキリスト教をつたえます。こうして日本は、ヨーロッパの国ぐにと直接交流をもつようになります。

平戸はやがて南蛮貿易の中心地となり、17世紀のはじめには外国の商館がたてられ、日本各地の商人たちもあつまってにぎわいました。また、江戸時代になると長崎が平戸にかわって唯一の貿易港として繁栄しました。



1 平戸

■松浦史料博物館■

㊫長崎県平戸市鏡川町
㊫松浦鉄道たびら平戸口駅よりバス、平戸桟橋下車

平戸は遣唐使の昔から、大陸と日本とをむすぶ航路の寄港地でした。室町時代には、中国や朝鮮の沿岸をあらした倭寇の基地のひとつになっていたところです。古くから平戸を支配していた松浦氏は、江戸時代になると、平戸の藩主として幕府にみとめら

▲松浦史料博物館

れました。

松浦史料博物館は、松浦氏の邸宅を利用してつくられたものです。建物は明治初年にたてられたものですが、内部が展示場になっており、倭寇やオランダ貿易の興味深い資料がたくさん展示されています。

付近の史跡　松浦史料博物館から海岸にむかう道をおりて右手へまがって行くと、石造の**幸橋**があります。オランダの技術をつかってつくったため、オランダ橋ともよばれています。幸橋をわたり、石段をのぼって行ったところが亀岡公園で、ここに松浦氏の居城であった平戸城（亀岡城）がありました。この**平戸城跡**の天守閣は再建されたものですが、北虎口門や狸櫓などは当時のままのこっています。

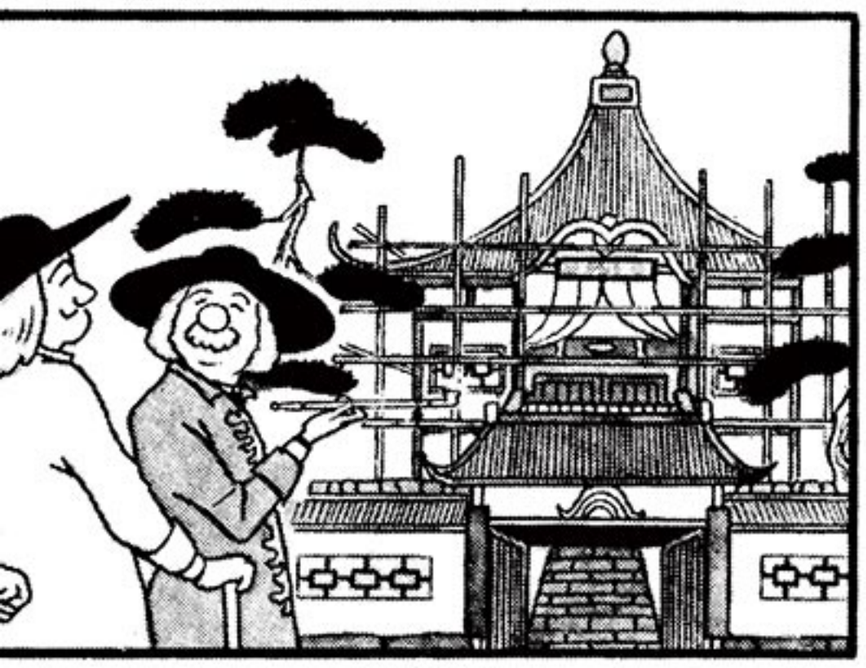
▲平戸城跡

オランダ商館跡

所 長崎県平戸市大久保町
交 松浦鉄道たびら平戸口駅よりバス、平戸桟橋下車

キリスト教の弾圧が強まるなかで、オランダとイギリスはキリスト教の布教はしないという条件で貿易を活発に行いました。とくにオランダとの貿易は、平戸の松浦氏がひとりじめにしていました。オランダ商館は島でもっとも便利な場所にたてられ、京都や堺からの商人や諸大名の家臣があつまり、はなやかな取引が行われました。

オランダ商館のあった一角には、オランダ埠頭のあとをしめす石段、商館の調理場のあとにのこった井戸、商館をかこんでいたオランダ塀や石畳の道などがあって、当時のおもかげをつたえています。



▲オランダ商館
⇨第12巻88ページ

見どころ　オランダ塀は、石材をセメントでかためた、石灰や貝がらの粉を油、海草の汁などでねりかためたものです。

付近の史跡　ザビエルたちが熱心に伝道をつづけたため、ザビエルが来日して数年後には、平戸島と付近の島じまの半分以上の人がキリスト教信者になったといわれます。豊臣秀吉や江戸幕府による禁教令で、信者はきびしい弾圧をうけましたが、その一部は「かくれキリシタン」となって明治時代になるまで信仰をうけついできました。平戸の人びとに大きなえいきょうをあたえたザビエルを記念して、**ザビエル記念碑**が崎方公園の中にたっています。十字架にきざまれたザビエルの像は、遠くキリスト教の聖地エルサレムの方をむいています。

▲ザビエル記念碑

2 長崎

■日本二十六聖人殉教地■

㊫長崎県長崎市西坂町
㊫JR長崎本線長崎駅下車、徒歩5分

豊臣秀吉は、一五八七年に九州を平定すると、キリスト教の布教を禁止し、また、長崎を直轄地として貿易の独占をはかりました。このときはキリスト教の禁令はてっていしませんでしたが、一五九六年には、京都や大坂などで活やくしていたスペイン（イスパニア）の宣教師や日本人の信者26人をつかまえ、長崎までつれてきて、全員を処刑しました。

現在、長崎駅前の小高い丘の上に二十六聖人のブロンズ像がたっています。

●見どころ● 二十六聖人の像は、「昇天のいのり」ともよばれ、ひとりひとりの表情まできざまれています。

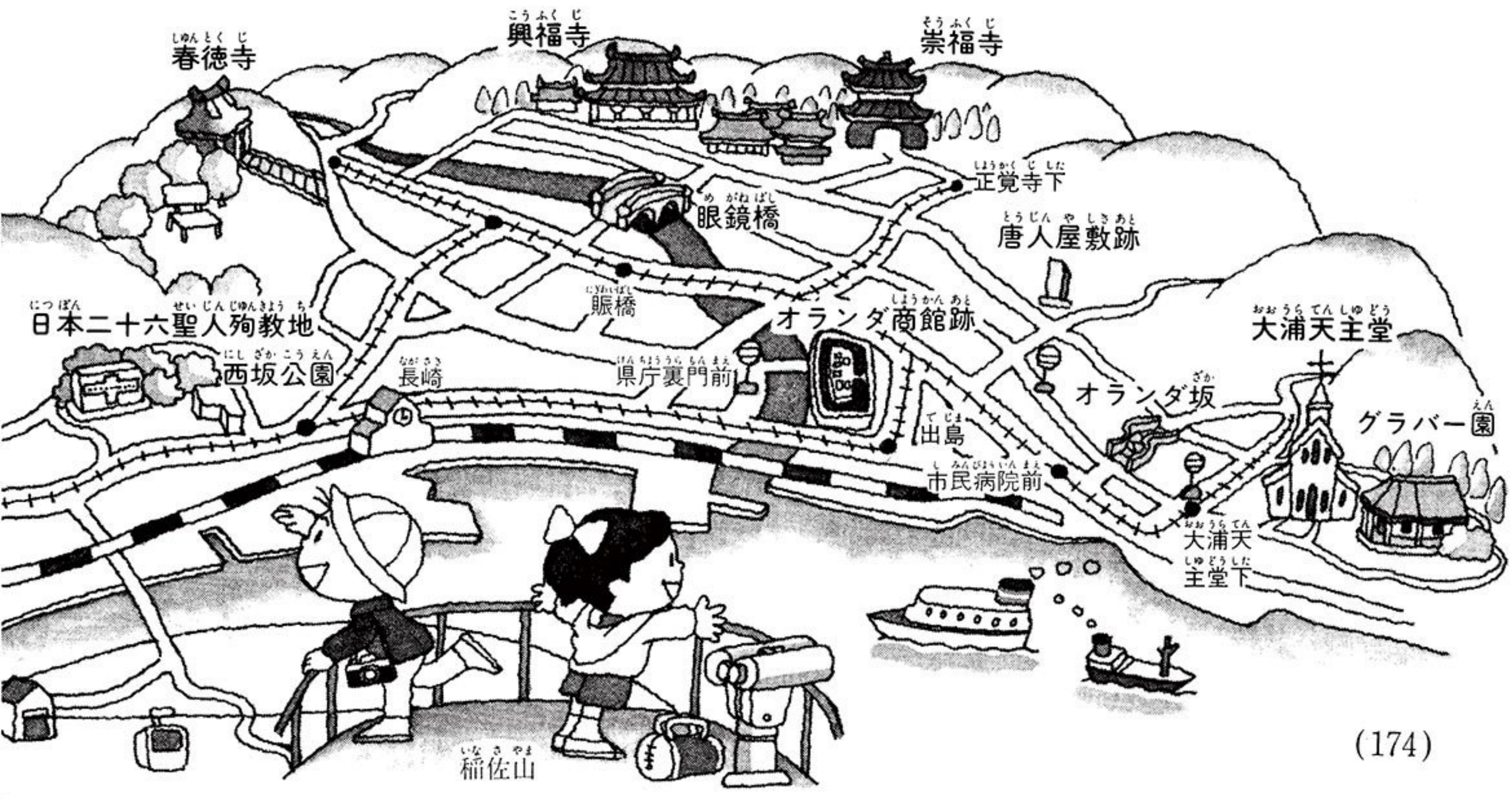
●付近の史跡● ブロンズ像の裏手には、**二十六聖人記念館**があります。また、市内にある**大浦天主堂**は、日本二十六聖殉教者天主堂が正式名で、現存する日本最古のキリスト教建築物です。

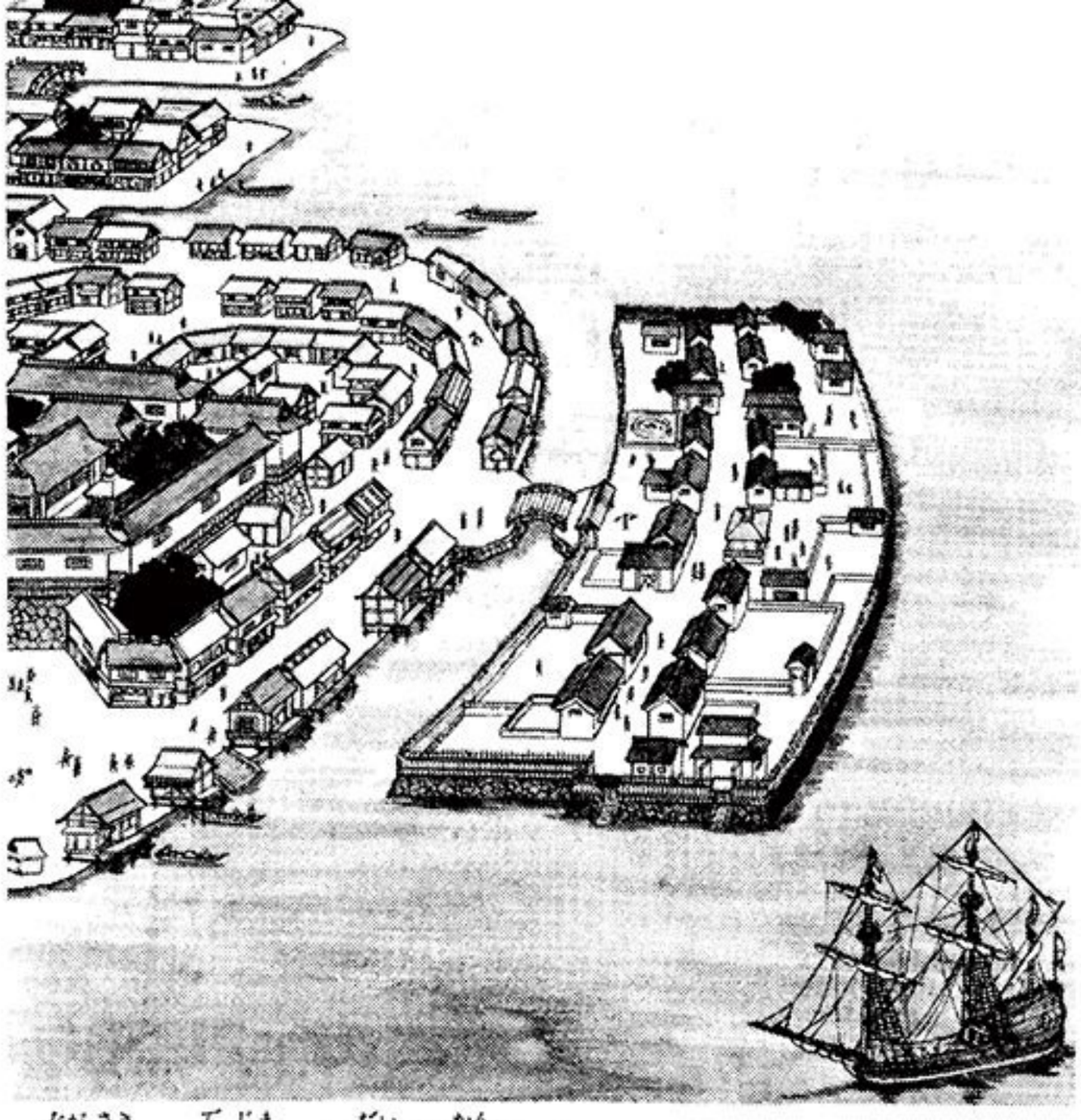
■出島オランダ商館跡■

㊫長崎県長崎市出島町
㊫JR長崎本線長崎駅より市電、出島下車

江戸時代の長崎地図を見ると、港につき出た扇形の出島がめだっています。ところが明治時代の工事で、すっかりそのまわりがうめたてられて地つづきになってしまいました。貴重な歴史的遺産である出島を当時の姿にもどそうと、平成8年より復元工事がすすめられています。

幕府が鎖国の方針をとるや、ポルトガル人を一か所にあつめるため、25人の商人に





▲長崎の出島 ⇨第12巻136ページ

命じて資金を出させ、人工島をつくったのです。そして、一六四一年にオランダ商館を平戸からうつし、幕府が直接、貿易統制とキリシタン禁制を監督することになりました。

現在は、復元の一部が完成。土地の形だけでなく、料理部屋やオランダ人の住まいなど、当時の建物や室内の様子も再現されていて、見学することができます。

●付近の史跡● 長崎市内には、幕府から貿易をゆるされた中国人約5千人がすんでいた**唐人屋敷跡**や、**オランダ坂**、**グラバー邸**などがのこっています。また、一九四五年の原爆投下の中心地浦上地区には**平和公園**がつくられ、**長崎原爆資料館**には悲さんな被爆関係の資料が展示されています。

■島原城跡■

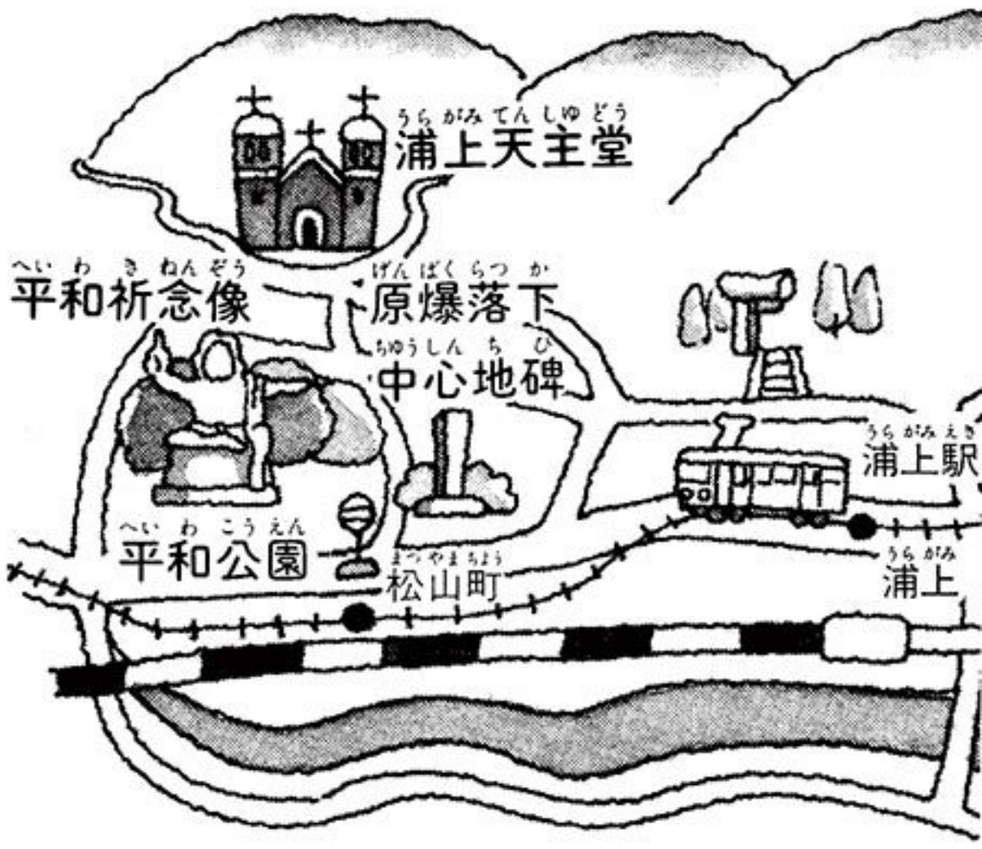
㊫長崎県島原市城内
㊫島原鉄道島原駅下車、徒歩10分

島原の一揆で知られる島原市は、諫早駅から島原鉄道で1時間ほど行ったところにあります。天守閣内部がキリシタン関係の資料館になっていて、島原城内や付近の様子をあらわした模型も見られます。

▲島原城跡

●付近の史跡● 島原半島には、天草四郎たちが幕府軍にはげしく抵抗した**原城跡**や、**キリシタン墓碑**など、江戸時代のキリスト教信者にまつわる史跡が今ものこっています。熊本県天草市には、**天草キリシタン館**があります。

●長崎



西南戦争の舞台、鹿児島・熊本

明治維新に活やくした西郷隆盛や大久保利通は、薩摩藩の藩士だった人たちです。薩摩藩は、幕末の開国とともに西洋の知識や技術をとり入れて、いちはやく藩内の産業や軍事の改革をすすめ、幕府と対抗する力をたくわえました。

しかし維新後は、西郷隆盛と大久保利通の間に考え方のちがいが生まれ、西郷は大久保の指導する政府に反対して、ついに西南戦争をおこします。

ここでは、鹿児島・熊本・佐賀などをおとずれ、幕末の薩摩藩の様子や西南戦争のあとをたどってみましょう。

1 鹿児島

■尚古集成館■

㊫鹿児島県鹿児島市吉野町
㊫JR鹿児島本線西鹿児島駅よりバス、仙厳園前下車

尚古集成館は、幕末の薩摩藩主島津斉彬がつくった工場のあとを利用した歴史資料館です。斉彬は名藩主といわれた人で、みずから蘭学を学び、西洋の技術をとり入れていちはやく藩独自の軍事改革をしようとして、この工場をつくりました。工場では、反射炉・溶鉱炉などをつかって武器をつくったほか、ガラス・陶磁器・ガス灯・農具・パンなどもつくっていました。

現在の石造の尚古集成館の建物は、一八六五年に島津忠義がたてたものです。中には、島津氏の歴史を物語る数多くの資料が保存されています。また、幕末にイギリスから輸入された紡績機も展示されています。付近一帯は国の史跡に指定されており、反射炉跡の土台石などもあります。

▲尚古集成館

●付近の史跡●

島津斉彬は、集成館工場が成功すると、造船事業にも関心をもち、洋式の帆船や軍艦をつくることにも成功しました。尚古集成館から市街地へ3分ほど歩いた磯海水浴場付近が**造船所跡**です。海水浴場のすぐ近くには、**異人館**があります。これは、薩摩藩が日本ではじめてつくった紡績工場ではたらいたイギリス人の技師たちの宿舎だったところです。木造2階建てで、わが国初期の西洋建築として貴重な重要文化財です。尚古集成館の北側に、**磯庭園**があります。旧島津家別邸だったところで、正門は、明治時代に完成したものです。

磯庭園・尚古集成館
南洲神社
西郷南洲顕彰館
南洲墓地
西郷隆盛洞窟
城山
照国神社
黎明館
西郷南洲終焉之地
私学校跡
清水町
鶴丸城跡
私学校前
西郷隆盛像
鹿児島
市役所前
鹿児島駅前
西鹿児島
●西郷生誕地
天文館
●鹿児島

■城山■

㊐鹿児島県鹿児島市城山町
㊋JR鹿児島本線西鹿児島駅より市電、天文館下車徒歩20分

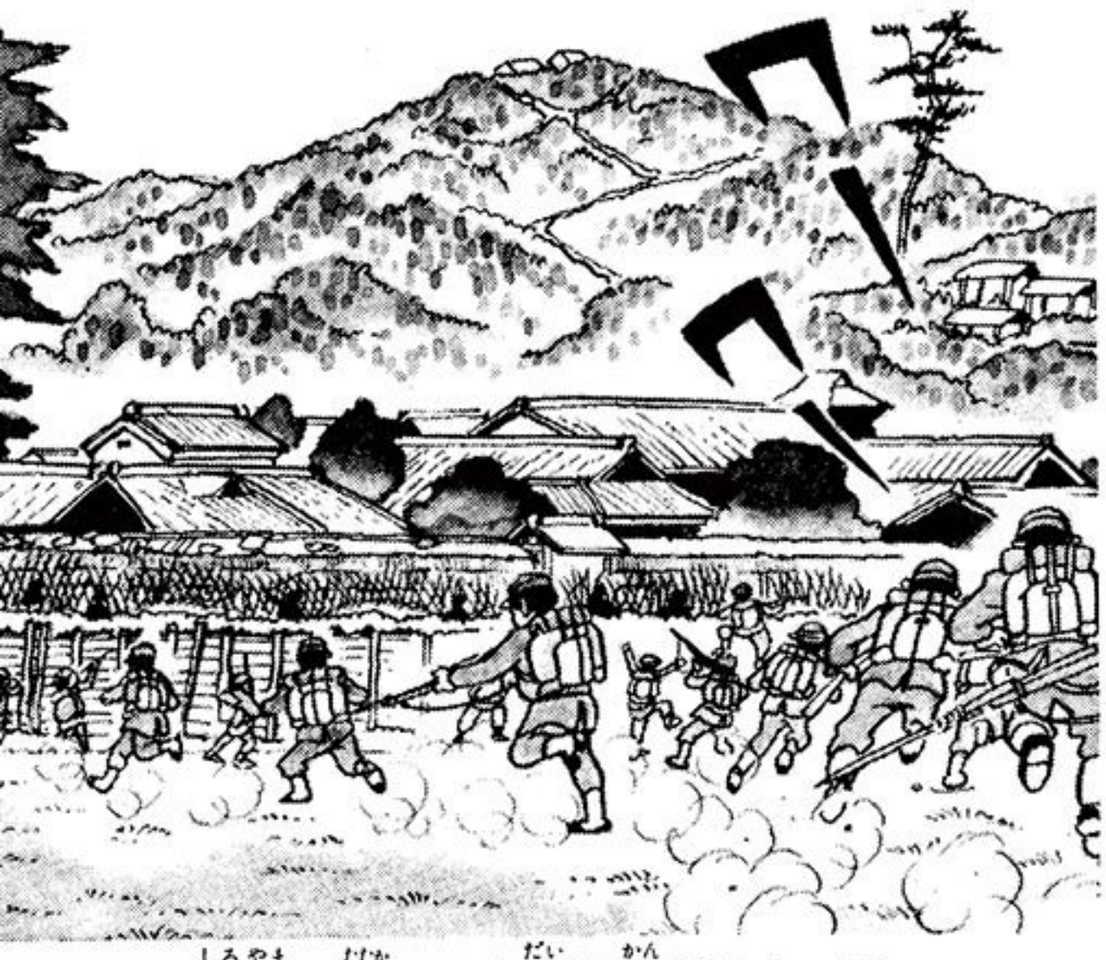
鹿児島市市街地のまん中にある海抜100メートルあまりの小高い丘が城山です。一八七七年（明治10）、西郷隆盛ら鹿児島の士族たち400人がこの丘にたてこもり、政府軍とはげしくたたかいました。西南戦争最後の戦いでした。城山へのぼる坂道のとちゅうに、西郷隆盛が死ぬまでの数日間をすごした洞窟があります。入口・奥行ともに2メートルほどしかない小さな洞窟です。

●見どころ●

城山の頂上付近にある展望台からは桜島や市街地がのぞめます。西郷軍の兵士たちも、政府軍の動きをここから見はっていたのでしょう。

●付近の史跡●

城山のふもとには、島津氏の居城だった**鶴丸城**（鹿児島城）**跡**があります。石垣がのこる城跡に、県立の総合博物館、**黎明館**がたっています。鶴丸城跡の北どなりは西郷が士族のためにたてた私学校の跡です。**私学校跡**の石垣には、西南戦争のときの弾こんがたくさんのこっています。また鶴丸城の南どなりは、西郷や西南戦争の遺品が陳列してある**鹿児島市立美術館**です。美術館のそばには陸軍大将の服を着た西郷の銅像があります。



▲城山の戦い ⇨第17巻134ページ

▲弾こんののこる私学校跡の石垣

■南洲墓地■

所 鹿児島県鹿児島市上竜尾町
交 JR鹿児島本線鹿児島駅下車、徒歩15分

西南戦争で戦死した西郷軍の兵士たちをほうむった墓地です。西南戦争の西郷軍の戦死者は6千200人あまりといわれていますが、その中の約2千人の人びとがここにねむっています。西郷隆盛の墓は、一段高いところにあり、桜島の方をむいてたっています。墓の名前を見ると、旧薩摩藩の兵士だけでなく、西郷隆盛をしたって西南戦争に従軍した旧会津藩や、庄内藩の人びともいたことがわかります。

墓地のすぐ北側に、隆盛をまつる**南洲神社**があり、境内には**西郷南洲顕彰館**がたてられています。西郷隆盛の一生がジオラマで見られ、西郷や西南戦争の遺品が展示してあるのでぜひよってみましょう。

2 熊本

■田原坂古戦場■

所 熊本県鹿本郡植木町
交 JR鹿児島本線熊本駅よりバス、鈴麦下車

一八七七年2月15日、鹿児島を出発した西郷軍は、熊本をめざして出発しました。このとき西郷軍は1万3千人、熊本城を包囲したときは、3万人にふえていたといわれます。熊本城をまもる政府軍と、これをおとそうとする西郷軍との間で、2か月に

▲田原坂の戦い ⇨第17巻132・133ページ

わたる死闘がくりかえされたのが、熊本市の北西にある田原坂です。

今、激戦のあった付近は、田原坂公園になっています。西郷軍の本陣だったという「弾痕の家」の中を見ると、小銃弾のめりこんだ柱がなまなましくのこっています。公園内には、西南戦争で使用された武器や兵士の遺品を陳列した記念館もあります。

■熊本城■

㊫熊本県熊本市本丸町
㊫JR鹿児島県本線熊本駅より市電、熊本城前下車徒歩5分

熊本城は、西南戦争では、西郷軍が包囲しながらも、けっきょくおとすことのできなかった堅固な城です。豊臣秀吉の家臣だった加藤清正が7年もかかってきずきあげた城で、そのみごとな天守閣は西南戦争でやけおちてしまいましたが、宇土櫓などの櫓は、創建当時のままのこっています。

●見どころ● 熊本城で見のがせないのは、数重にきずかれた石垣です。加藤清正の家臣の石垣造の名人が計画したものです。再建された天守閣には、熊本藩主の遺品や西南戦争にかんする歴史資料が展示され、ごうかな襖や壁画もみごとです。

▲熊本城

●付近の史跡● 熊本は、明治時代になって、内村鑑三や徳富蘇峰、徳富蘆花などの人物を輩出したところです。市内の大江町に蘇峰・蘆花兄弟がすんだ家があり、邸内の**徳富記念館**には、遺品などを展示しています。また、市内のはずれにある**水前寺公園**（水前寺成趣園）は、熊本藩主細川氏の別邸で、名園として有名なところです。公園の東側には、内村や蘆花が教師をしていた**熊本洋学校の教師館**（ジェーンズ邸）や、**夏目漱石の旧居**が移築してあります。

●足をのばして● 佐賀市は、江戸時代に鍋島藩の城下町としてさかえた町です。鍋島藩は、幕末に近代的な軍備をすすめ、倒幕雄藩に名をつらねていました。その象徴といえるのが、日本で最初につくられた反射炉です。現在、**反射炉跡**は日新小学校の敷地になっており、約3分の1の復元模型がたっています。倒幕に活やくした志士には、大隈重信・江藤新平らがいます。江藤新平は、西郷隆盛らと征韓論を主張して、参議をしりぞき、後に佐賀の乱をおこして死刑になりました。この乱で炎上した**佐賀城跡**は、鯱の門などがわずかにのこっています。城跡の近くには、後に総理大臣になった**大隈重信の旧宅**があります。

琉球から沖縄へ

沖縄県は、かつて琉球王国という独立国でした。琉球王国は、中国と日本という2つの大国のはざまで、たいへん苦しい立場にたたされていました。17世紀のはじめに薩摩の島津氏によって征服され、以後薩摩藩のきびしい支配をうけます。また、明治政府は、中国の反対をおしきって琉球を統合し、沖縄県を設置します。さらに、第二次世界大戦では、もっとも悲さんな戦闘だった沖縄戦の戦場となります。この戦禍で琉球王国ゆかりの首里城などは、ことごとく破壊されてしまいました。

ここでは、沖縄の苦難の歩みをたどってみましょう。

（学徒出陣の兵士）

■首里城跡■

㊐沖縄県那覇市首里
㊏沖縄都市モノレール首里駅下車、徒歩15分

首里城跡は、琉球王国の王宮だったところです。第二次世界大戦前には、正殿・守礼門・歓会門・瑞泉門・白銀門など国宝指定の建物がたちならんでいましたが、すべて第二次世界大戦で破壊されてしまいました。現在、首里城跡は整備されて**首里城公園**になるとともに、世界遺産に登録されています。多くの建物や石垣も復元されています。

沖縄の建築様式は、一見中国風ですが、中国のえいきょうをうけながらも沖縄独自の発達をしたものです。

●付近の史跡●

首里城の北側には**円覚寺跡**があります。琉球の王家尚氏をまつった寺だったところで、やはり第二次世界大戦ですべて破壊され、総門が復元されているだけです。円覚寺跡から道をへだてたところに円鑑池があります。この池の北側の林の中に、第二次世界大戦中の日本軍の司令部がおかれていました。今でも、**軍司令部壕跡**（全長約1キロメートルの洞窟）がのこっています。アメリカ軍が昼夜をとわず軍司令部を砲撃したため、近くの首里城まで破壊されてしまったのです。壕跡には、現在も遺骨がうまったままだといわれます。

琉球文化を代表する数かずの資料は、**沖縄県立博物館・美術館**で見ることができます。沖縄都市モノレールおもろまち駅から徒歩10分ほどです。

▲首里城跡の正殿

■沖縄戦跡国定公園■

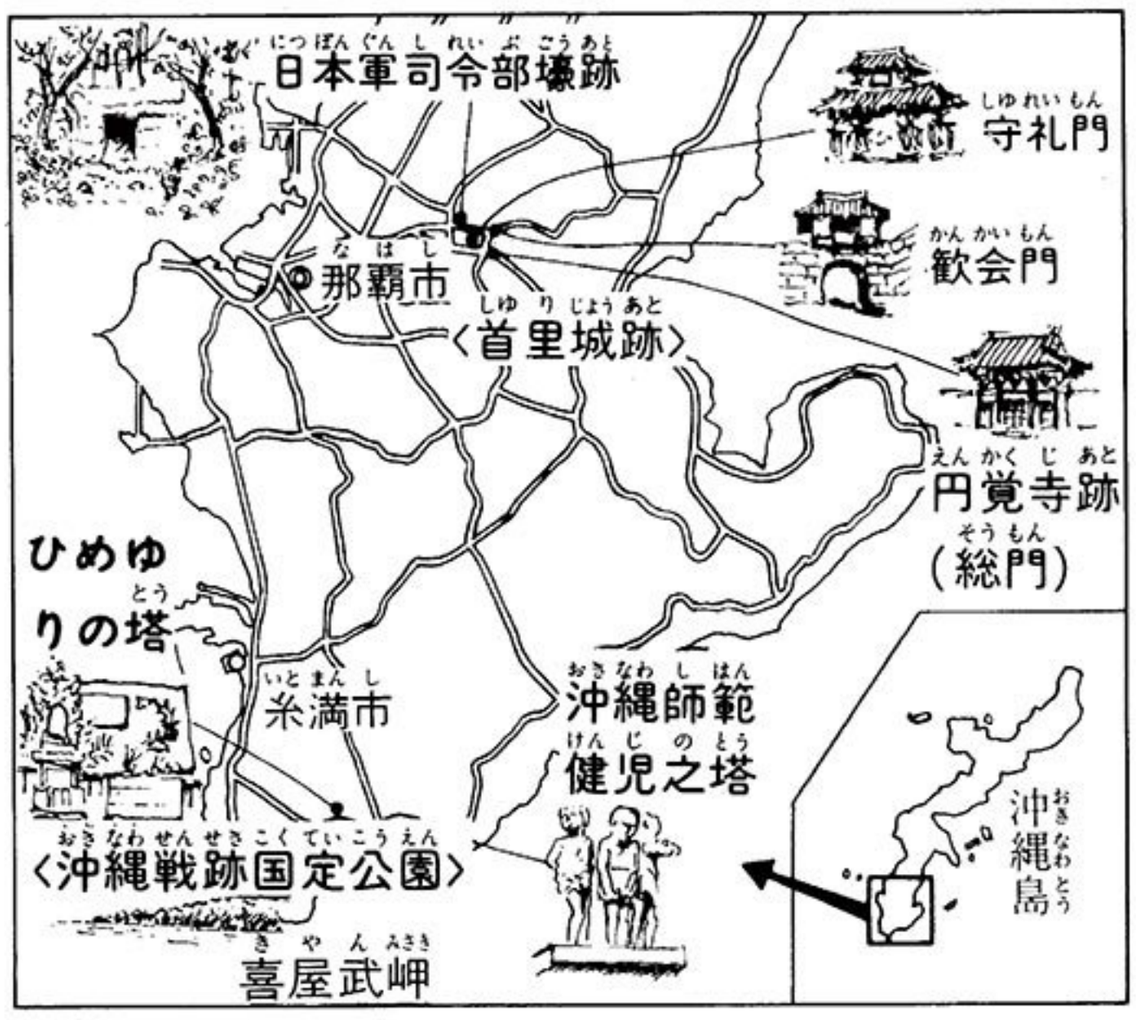
㊫沖縄県糸満市摩文仁
㊫糸満市よりバス、ひめゆりの塔前下車

沖縄戦の最後の激戦は、通称「島尻」といわれる沖縄島南端の喜屋武半島でした。その喜屋武岬は東中国海と太平洋との分かれ目で、南国の青い海に30メートルのけわしい白いがけがそそりたっています。3か月もの激戦に追いつめられた人びとは、この美しい岬から海に身をなげたり、岬の洞窟の中でやきころされたりしたのです。

この半島一帯は沖縄戦跡国定公園に指定されていて、ひめゆり部隊の少女たちの霊をまつったひめゆりの塔のほか、沖縄師範健児之塔、沖縄平和祈念公園など、戦争に散った命をいたむ塔や施設がたくさんつくられています。

沖縄では、ぎせい者約20万人のうち60パーセントが一般県民で、また、いまだに2万体もの遺体が山野にうもれたままになっているといわれています。沖縄をおとずれたら、美しい風景に見とれるだけでなく、戦争のためにおおぜいの罪のない人びとが死んでいったことについて、考えてみてください。

▲沖縄師範健児之塔



▲ひめゆり部隊　⇨第20巻129ページ

九州地方のおもな資料館と博物館

九州地方にあるおもな資料館と博物館をとりあげました。休館日は、各館ごとにことなりますので、事前にしらべておきましょう。

福岡県

九州国立博物館
所 太宰府市石坂
交 西鉄太宰府線太宰府駅下車、徒歩10分

北九州市立自然史・歴史博物館
所 北九州市八幡東区東田
交 JR鹿児島本線スペースワールド駅下車、徒歩5分

九州歴史資料館
所 小郡市三沢
交 西鉄三国が丘駅下車、徒歩10分

太宰府天満宮宝物殿
所 太宰府市太宰府
交 西鉄太宰府線太宰府駅下車、徒歩5分

福岡市博物館
所 福岡市早良区百道浜
交 地下鉄西新駅下車、徒歩15分

佐賀県

大隈記念館
所 佐賀市水ケ江

先土器時代から江戸時代まで、ずっと海外交流の玄関口だった九州の重要性をふまえて、展示している。「日本文化の形成をアジア史の視点から見る」がテーマだ。

原始時代から近現代までの北九州地方の歴史資料や民俗資料を展示。各時代の実物資料だけでなく、遣明船シアターや長野城再現ジオラマなど映像・音響を使った解説コーナーも多数用意されている。

太宰府政庁跡の遺物や出土品を展示しているほか、福岡県内の考古資料も多い。太宰府政庁の復元模型もある。

太宰府天満宮につたわる宝物、遺物を展示している。菅原道真関係の書画や遺物も多い。また、境内の文華殿の地下には、道真の生涯を人形でしめした観光歴史館がある。

奴国の時代から福岡の近代化までを7つのテーマに分け、おもに海外交流の歴史資料を中心に展示してある。有名な「漢委奴国王」の金印を見のがさないようにしたい。

早稲田大学の創設者で内閣総理大臣もつとめた大隈重信の遺品や写真を展示している。同じ敷地内に大隈重信が少年時代をすごした大隈重信

交 JR長崎本線佐賀駅よりバス、県立病院東門下車

名護屋城博物館

所 唐津市鎮西町
交 JR筑肥線唐津駅よりバス、名護屋城博物館入口下車

唐津城天守閣

所 唐津市東城内
交 JR筑肥線東唐津駅よりバス、唐津城下下車

佐賀県立博物館

所 佐賀市城内
交 JR長崎本線佐賀駅よりバス、博物館前下車

吉野ケ里遺跡展示室

所 神埼郡吉野ケ里町
交 JR長崎本線吉野ケ里公園駅下車、徒歩20分

長崎県

島原城

所 島原市城内
交 島原鉄道島原駅下車、徒歩10分

長崎歴史文化博物館

所 長崎市立山
交 JR長崎駅よりバス、桜町公園前下車

旧宅がある。

豊臣秀吉による文禄・慶長の役で、朝鮮出兵の基地「名護屋城跡および陣跡」の発掘資料、日本と朝鮮半島との交流史、歴史資料を展示し、日韓の友好交流を深めようとするユニークな博物館。

唐津城の天守閣を再建して、内部を資料館にしたもの。唐津地方の考古資料や唐津焼などを展示。歴史資料は少ないが、名護屋城関係の資料やかくれキリシタンの資料などがある。

佐賀県の自然、歴史、文化の総合博物館。名護屋城をえがいた屏風や、戊辰の役・佐賀の乱の資料なども展示している。博物館は、鍋島藩の本拠だった佐賀城跡の一角にある。

吉野ケ里遺跡から発掘された主な出土品や、外濠の断面模型、全体のジオラマ模型などが展示されている。復元された「ムラ」の物見やぐら、高床倉庫群、墳丘墓なども見落とさないようにしたい。

復元された島原城天守閣の内部を展示館にしたもの。島原の乱やキリシタンにまつわる遺品や島原藩の遺品が見られる。城内の一角は、北村西望記念館とう美術館になっている。

朝鮮・中国・オランダなどとの貿易の要だった長崎。長崎の古地図、シーボルトの手紙、オランダや中国のガラス工芸品をはじめ、長崎にかんする美術、工芸、書画などが約2万点収蔵、展示されている。

長崎市立歴史民俗資料館

㊫長崎市平野町
㊥JR長崎本線長崎駅より市電、浜口町下車、徒歩5分

松浦史料博物館

㊫平戸市鏡川町
㊥松浦鉄道たびら平戸口駅よりバス、平戸桟橋下車

中国やポルトガルなど海外文化の影響を受け、市民生活に溶け込んで今日まで伝わる風俗習慣や年中行事などの資料をはじめ、長崎くんちにかんする資料など、民芸品、市民の生活用具などを展示している。

旧藩主松浦氏の屋敷を利用した博物館。書院造の展示場には、かつての大名の生活をしのばせる調度品や、絵巻、武具、捕鯨銃などが展示されている。このほか、オランダ船首飾木像、オランダ製地球儀など、異国情緒あふれる品じなも見られる。

熊本県

熊本市立熊本博物館

㊫熊本市古京町
㊥JR鹿児島本線熊本駅よりバス、博物館下車

熊本県内の歴史・自然資料を展示する総合博物館。歴史資料としては、各時代の古文書、西南戦争にかんする記録や錦絵などのほか、明治時代の新聞各紙も常時展示されている。

徳富記念館

㊫熊本市大江
㊥JR鹿児島本線熊本駅よりバス、消防局下車

徳富蘇峰が大江義塾をひらいていた屋敷の敷地内にたてられた記念館。蘇峰、蘆花兄弟にかんする資料が展示されている。

天草市立天草キリシタン館

㊫天草市船之尾町
㊥JR鹿児島本線熊本駅よりバス、本渡バスセンター下車、徒歩20分

キリシタン館があるのは、天草島の本戸城跡で、現在公園になっている。館内には、天草郡全域からあつめられたキリシタン関係の遺物、文書などの資料が展示されている。

熊本県立装飾古墳館

㊫山鹿市鹿央町
㊥JR熊本駅よりバス、装飾古墳館入口下車

岩原古墳群の一角に建てられた前方後円型の資料館。チブサン古墳など12の古墳のレプリカや古墳から出土した埴輪や装身具などが見られる。菊池川流域の土器や遺跡分布模型なども展示している。

大分県

大分市歴史資料館

所 大分市大字国分
交 JR豊後国分駅下車、徒歩2分

豊後国分寺跡に建てられた博物館。第一展示室は、石器時代から国分寺建立で栄えた時代までがテーマ。第二展示室は、この地の大名だった大友氏についての資料が中心だ。

大分県立歴史博物館

所 宇佐市大字高森
交 JR日豊本線豊前長洲駅下車

川部、高森古墳群を中心とした宇佐風土記の丘にある博物館。宇佐、国東の地域文化について6つのテーマに分けて展示している。九州最古の木造建造物としてしられる富貴寺大堂の模型などがある。

別府市美術館

所 別府市上人ケ浜町
交 JR日豊本線別府大学駅下車、徒歩3分

考古資料、民俗資料合わせて約2千点を展示。ほかに、全国各地からあつめられたコマ約千点の展示や、藩札、貨幣などによる貨幣の歴史コーナーもある。

宮崎県

西都原考古博物館

所 西都市三宅
交 宮崎空港よりバス、西都バスセンター下車

日本最大級の古墳群である西都原古墳群は、日本で最初に本格的な調査が行われた古墳でもある。その出土品を展示するほか、ストーリーに沿って歩きながら考古学を学べる展示室もある。

都城歴史資料館

所 都城市都島町
交 JR日豊本線西都城駅下車、徒歩10分

都城の城跡にある。城跡にふさわしく城風の木材建築で建てられている。島津家のよろい・かぶと、西南の役にかんする資料などをはじめ、各時代の資料、古文書類が豊富に展示されている。

宮崎県総合博物館

所 宮崎市神宮
交 JR日豊本線宮崎駅よりバス、博物館前下車

一九七一年（昭和46）に開館した博物館で、考古、歴史、民俗、自然史、美術、芸術などの資料を総合的に展示している。文書類も充実しており、宮崎県の歴史を知るうえで見のがせない。

鹿児島県

黎明館

㊫鹿児島市城山町
㊥JR鹿児島本線鹿児島駅より市電、市役所前下車

西郷南洲顕彰館

㊫鹿児島市上竜尾町
㊥JR鹿児島本線鹿児島駅下車、徒歩15分

尚古集成館

㊫鹿児島市吉野町
㊥JR鹿児島本線西鹿児島駅よりバス、仙厳園前下車

種子島開発総合センター

㊫西之表市西之表
㊥鹿児島港よりフェリーで西之表港下船、徒歩10分

沖縄県

沖縄県立博物館・美術館

㊫那覇市おもろまち
㊥沖縄都市モノレールおもろまち下車

沖縄県立平和祈念資料館

㊫糸満市摩文仁
㊥那覇よりバス、糸満で乗りかえ平和祈念堂入口下車

鹿児島県立の総合博物館。鹿児島県の生い立ちから現在までの姿を、歴史・民俗・美術・工芸の分野にわけて展示している。西郷隆盛ほか明治維新に活躍した鹿児島県出身の人びとの資料や、鹿児島藩主島津家の資料も多い。

西郷隆盛をまつる南洲神社の近くにある。西郷隆盛にかんする資料を展示。隆盛の生涯のいくつかの場面をとらえたジオラマがあり、明治維新の激動の時代に生きた隆盛の生きざまがうかがわれる。

島津斉彬が創設した工場（集成館）の跡地にある。集成館でつくられた大砲や蒸気機械模型、写真機、薩摩切子のガラス器などのほか、島津家につたわる美術工芸品、軸物、武具などが展示されている。

はじめて日本に鉄砲が伝来したゆかりの地種子島にある博物館。館内には、ポルトガル伝来の銃をはじめ、ビデオやジオラマをつかって鉄砲伝来の話をわかりやすく解説している。

文化施設の少ない沖縄にあって重要な役割をはたしている総合博物館。重要文化財のおもろさうしをはじめ、沖縄各地から収集された歴史・民俗・考古資料や美術工芸品を展示している。

沖縄戦での戦没者慰霊塔がたちならぶ摩文仁の丘の下方にある。写真、模型、遺品など約2千点が展示され、戦争の悲さんさをまざまざと物語っている。

戸田造船郷土資料博物館（静岡）……93
碧血碑（北海道）……19
別子銅山記念館（愛媛）……163
別府市美術館（大分）……185

ほ
方広寺（京都）……120
宝厳寺（愛媛）……157
房総のむら（千葉）……65
芳徳寺（奈良）……109
法隆寺（奈良）……134・140
法輪寺（奈良）……135
ポー川史跡自然公園（北海道）……12
北網圏北見文化センター（北海道）……24・26
北海道開拓記念館（北海道）……20・27
北海道開拓の村（北海道）……20
北海道大学植物園（北海道）……27
法起寺（奈良）……135
北方文化博物館（新潟）……88

ま
将門岩（滋賀）……101
松浦史料博物館（長崎）……172・184
松江城（島根）……144
松島（宮城）……36
松前城（北海道）……16・28
松前町郷土資料館（北海道）……16・28
松山城（愛媛）……156
丸山古墳（奈良）……132

み
水落遺跡（奈良）……133
水城跡（福岡）……170
三太刀七太刀の碑（長野）……72
三ツ塚古墳（大阪）……98
三菱東京ＵＦＪ銀行貨幣資料館（愛知）……94
水戸城跡（茨城）……52
身延山宝物館（山梨）……91
蓑虫庵（三重）……108
都城歴史資料館（宮崎）……185
宮崎県総合博物館（宮崎）……185
宮島歴史民俗資料館（広島）……148
宮滝遺跡（奈良）……100
妙心寺（京都）……125

む
向島百花園（東京）……57
無量光院跡（岩手）……35

め
珍敷塚古墳（福岡）……168

も
毛越寺（岩手）……35
毛利博物館（山口）……162
本居宣長記念館（三重）……110・113
元町カトリック教会（北海道）……18
モヨロ貝塚（北海道）……15
モヨロ貝塚館（北海道）……15・25
盛岡城跡（岩手）……38

や
柳生地蔵石（奈良）……109
薬師寺（奈良）……137
八雲立つ風土記の丘（島根）……144・160
八坂神社（京都）……119
屋島（香川）……146
山形県立博物館（山形）……44
山口藩庁跡（山口）……153
山田寺跡（奈良）……133
山梨県立考古博物館（山梨）……91
山内氏旧邸（高知）……155
山内神社（高知）……155
山の辺の道（奈良）……96

ゆ
夕張市石炭の歴史村（北海道）……28
雪国民俗館（秋田）……43

よ
よいち水産博物館（北海道）……28
要害山（山梨）……71
横須賀市自然人文博物館（神奈川）……66
横浜港（神奈川）……60
横山家（北海道）……17
吉胡遺跡（愛知）……69
吉胡貝塚資料館（愛知）……69
吉田松陰遺墨展示館（山口）……152
義経神社（北海道）……14
義経堂（岩手）……35
吉野ケ里遺跡（佐賀）……167
吉野ケ里遺跡展示室（佐賀）……167・183
吉野皇居跡（奈良）……99

ら
雷神山古墳（宮城）……31
酪農と乳の歴史館（北海道）……28

り
立志社跡（高知）……155
立石寺（山形）……37
龍河洞博物館（高知）……164
龍安寺（京都）……125
龍馬歴史館（高知）……164
臨済寺（静岡）……82
林泉寺（新潟）……72
輪王寺（栃木）……53

れ
黎明館（鹿児島）……177

ろ
六波羅蜜寺（京都）……120
六角堂（京都）……119

わ
若松城跡（福島）……40・44
若松城天守閣郷土博物館（福島）……44
若宮幕府跡（神奈川）……49
和歌山城（和歌山）……103
和鋼博物館（島根）……160

登呂博物館(静岡)……69・93

な

中江兆民誕生地(高知)……155
長岡市立科学博物館(新潟)……88
長崎原爆資料館(長崎)……175
長崎歴史文化博物館(長崎)……183
長崎市立歴史民俗資料館(長崎)……184
長篠城跡(愛知)……79
長野市立博物館(長野)……73・92
長浜城跡(滋賀)……104
長屋王邸宅跡(奈良)……138
名古屋城跡(愛知)……74
名古屋城天守閣(愛知)……94
名護屋城博物館(佐賀)……183
夏目漱石の旧居(熊本)……179
難波宮跡(大阪)……106
奈良国立博物館(奈良)……137・140
南湖(福島)……36
南宗寺(大阪)……106
南洲神社(鹿児島)……178
南洲墓地(鹿児島)……178
南禅寺(京都)……126

に

新潟市歴史博物館(新潟)……88
西本願寺(京都)……128
二十六聖人記念館(長崎)……174
二条城(京都)……128
日本二十六聖人殉教地(長崎)……174
二風谷アイヌ文化博物館(北海道)……14・27
日本玩具博物館(兵庫)……115
日本橋(東京)……58
日本民家園(神奈川)……66
日本民家集落博物館(大阪)……115
如意輪寺(奈良)……100・140
忍者屋敷(三重)……108
忍術屋敷(滋賀)……108
仁和寺(京都)……125・130

の

野口英世記念館(福島)……41
野尻湖ナウマンゾウ博物館(長野)……68・92
野尻湖発掘地(長野)……68

は

萩城跡(山口)……153
博物館明治村(愛知)……94
筥崎八幡宮(福岡)……171
函館博物館(北海道)……27
函館博物館郷土資料館(北海道)……27
函館博物館五稜郭分館(北海道)……19
箱根旧街道(神奈川)……55
箱根旧街道資料館(神奈川)……55
箱根関所跡(神奈川)……54
箱根関所資料館(神奈川)……55・66
箸墓古墳(奈良)……96
芭蕉翁記念館(三重)……108・113
芭蕉翁生家(三重)……108
芭蕉記念館(東京)……58
長谷寺(神奈川)……50
八戸市博物館(青森)……42
花田家番屋(北海道)……27
浜松市博物館(静岡)……94
浜松城跡(静岡)……78
林原美術館(岡山)……150
原敬記念館(岩手)……39
原城跡(長崎)……175
ハリス記念館(静岡)……94
ハリストス正教会(北海道)……18
春採台地竪穴群(北海道)……13
反射炉跡(佐賀)……179

ひ

比叡山延暦寺(滋賀)……101
彦根城(滋賀)……104
彦根城博物館(滋賀)……114
飛騨高山まちの博物館(岐阜)……93
飛騨民俗村(岐阜)……84・93
備中国分寺跡(岡山)……150
美々貝塚(北海道)……12
姫路城(兵庫)……107
ひめゆりの塔(沖縄)……181
白虎隊記念館(福島)……41
兵庫県立歴史博物館(兵庫)……116
平等院(京都)……122
平泉文化史館(岩手)……35
平賀源内旧邸(香川)……147
平城貝塚(愛媛)……142
平戸城跡(長崎)……173
弘前市立博物館(青森)……38・42
弘前城跡(青森)……38
広島県立歴史博物館(広島)……151・161
広島城跡(広島)……159
広島平和記念公園(広島)……158
広島平和記念資料館(広島)……158・161
琵琶湖博物館(滋賀)……114

ふ

風俗博物館(京都)……130
深川江戸資料館(東京)……58・63
福井市立郷土歴史博物館(福井)……77・90
福岡市博物館(福岡)……166・182
藤ノ木古墳(奈良)……134・135
藤原宮跡(奈良)……133
二荒山神社(栃木)……53・63
物流博物館(東京)……65
不破関跡(岐阜)……81
墳丘墓展示館(佐賀)……163

へ

平安神宮(京都)……119
平城宮跡(奈良)……138・140
平城宮跡資料館(奈良)……140
平城陵古墳(奈良)……138

す

瑞巌寺（宮城）……36
水前寺公園（熊本）……179
須恵器の窯跡（大阪）……98
宿毛貝塚（高知）……142
崇神陵古墳（奈良）……97
鱸沼遺跡（宮城）……31
鈴屋（三重）……110
墨俣城跡（岐阜）……76
隅田公園（東京）……57
駿府城跡（静岡）……82

せ

誓願寺（大阪）……106
関ケ原古戦場（岐阜）……80
関ケ原町歴史民俗資料館（岐阜）……81・93
積翠寺（山梨）……70
瀬戸内海歴史民俗資料館（香川）……163
銭屋五兵衛記念館（石川）……89
浅間神社（静岡）……82
浅草寺（東京）……57
仙台市博物館（宮城）……39・43
仙台城跡（宮城）……39
泉北すえむら資料館（大阪）……98
千本閻魔堂（京都）……124
千本釈迦堂（京都）……124

そ

象山記念館（長野）……92

た

大安寺（奈良）……137
大覚寺（京都）……125
醍醐寺（京都）……123・130
太地町立くじらの博物館（和歌山）……116
帝釈峡遺跡群（広島）……142
帝釈郷土館（広島）……142
大山（「仁徳陵」）古墳（大阪）……97
大徳寺（京都）……127
高崎市歴史民俗資料館（群馬）……63
多賀城政庁跡（宮城）……32
多賀城廃寺跡（宮城）……33
高田屋嘉兵衛の銅像（北海道）……19
高野長英記念館（岩手）……33
高松城跡（岡山）……151
高松塚古墳（奈良）……132
高松塚壁画館（奈良）……140
高山陣屋跡（岐阜）……84
滝山東照宮（愛知）……78
武田氏館跡（山梨）……70
太宰府政庁跡（福岡）……169
太宰府展示館（福岡）……169
太宰府天満宮（福岡）……171・182
竜田神社（奈良）……135
伊達市開拓記念館（北海道）……26
種子島開発総合センター（鹿児島）……186
田能遺跡（兵庫）……96
田原坂古戦場（熊本）……178
壇上伽藍（和歌山）……103
壇ノ浦（山口）……148

ち

近松門左衛門の墓（大阪）……106
智積院（京都）……120・130
致道博物館（山形）……44
茅野市尖石縄文考古館（長野）……68・92
千葉県立中央博物館（千葉）……64
チャランケチャシ（北海道）……13
中宮寺（奈良）……135
中尊寺（岩手）……34・43

つ

月形樺戸博物館（北海道）……27
築地（東京）……58
造山古墳（岡山）……143・150
妻籠宿（長野）……85
鶴岡八幡宮（神奈川）……48
敦賀郷土博物館（福井）……90
鶴丸城跡（鹿児島）……177

て

逓信総合博物館（東京）……65
出島オランダ商館跡（長崎）……174
哲学の道（京都）……126
鉄道博物館（埼玉）……64
鉄道発祥記念碑（神奈川）……61
鉄砲屋敷（大阪）……106
手宮古代文字の遺跡（北海道）……22
出羽三山歴史博物館（山形）……44
典厩寺（長野）……73
伝統産業工芸館（石川）……89
天武・持統陵（奈良）……133
天龍寺（京都）……125

と

土井ケ浜遺跡人類学ミュージアム（山口）162
東行庵（山口）……154
東京国立博物館（東京）……66
道後温泉（愛媛）……157
東照宮（栃木）……53・62
東寺宝物館（京都）……130
唐招提寺（奈良）……137
唐人屋敷跡（長崎）……175
藤村記念館（長野）……85・91
東大寺（奈良）……136
東北歴史博物館（宮城）……32・43
尖石・与助尾根遺跡（長野）……68
常磐神社（茨城）……52
徳島県立博物館（徳島）……162
徳富記念館（熊本）……179・184
栃木県立博物館（栃木）……62
鳥取県立博物館（鳥取）……160
富山市郷土博物館（富山）……89
豊国神社（京都）……120
鳥居龍蔵記念博物館（徳島）……162
登呂遺跡（静岡）……69・83

熊本県立装飾古墳館（熊本）……184
熊本市立熊本博物館（熊本）……184
熊本城（熊本）……179
熊本洋学校教師館（熊本）……179
倉敷考古館（岡山）……151・161
倉敷民芸館（岡山）……151
蔵造り資料館（埼玉）……63
グラバー邸（長崎）……175
倉吉市立倉吉博物館（鳥取）……160
軍司令部壕跡（沖縄）……180
群馬県立歴史博物館（群馬）……46・63

け

元冦史料館（福岡）……171
元冦防塁跡（福岡）……171
建長寺（神奈川）……50
原爆慰霊碑（広島）……159
原爆ドーム（広島）……159
兼六園（石川）……86

こ

小泉八雲記念館（島根）……145
小泉八雲旧居（島根）……145
皇居（東京）……56
光則寺（神奈川）……50
高知市立自由民権記念館（高知）……164
高知城（高知）……155
弘道館（茨城）……52・62
興福寺（奈良）……136・139
神戸海軍操練所跡（兵庫）……112
神戸外国人居留地跡（兵庫）……112
神戸華僑歴史博物館（兵庫）……112
神戸市立博物館（兵庫）……112・115
こうもり塚古墳（岡山）……150
高野山金剛峯寺（和歌山）……102
高野山霊宝館（和歌山）……116
後楽園（岡山）……150
広隆寺（京都）……125・129
五箇山（富山）……84
極楽寺（神奈川）……50
国立歴史民俗博物館（千葉）……64
後醍醐天皇陵（奈良）……100
古照遺跡（愛媛）……157
後藤象二郎誕生地（高知）……155
金刀比羅宮博物館（香川）……163
小牧山城（岐阜）……76
五稜郭（北海道）……19
誉田山（「応神陵」）古墳（大阪）……98
金比羅絵馬館（京都）……129

さ

犀ケ崖（静岡）……79
斎宮歴史博物館（三重）……113
西郷南州顕彰館（鹿児島）……178・186
妻女山（長野）……73
埼玉県立博物館（埼玉）……63
西都原考古博物館（宮崎）……168・185
西都原古墳群（宮崎）……167
蔵王堂（奈良）……99
坂井考古館（山梨）……90
堺市博物館（大阪）……106・115
佐賀県立博物館（佐賀）……183
佐賀城跡（佐賀）……179
坂の上の雲ミュージアム（愛媛）……156
坂本龍馬記念館（高知）……155
坂本龍馬誕生地（高知）……155
佐紀盾列古墳群（奈良）……138
埼玉古墳群（埼玉）……47
さきたま古墳公園（埼玉）……47
さきたま資料館（埼玉）……47・64
茶道資料館（京都）……130
真田宝物館（長野）……92
サビエル記念聖堂（山口）……154
ザビエル記念碑（長崎）……173
沢の鶴資料館（兵庫）……116
三十三間堂（京都）……120
三内丸山遺跡（青森）……1・31
三宮神社（兵庫）……112

し

私学校跡（鹿児島）……177
子規記念博物館（愛媛）……157・164
子規堂（愛媛）……157
四国民家博物館（香川）……147・163
賤ケ岳古戦場（滋賀）……104
設楽原古戦場（愛知）……79
柴田神社（福井）……77
芝山古墳はにわ博物館（千葉）……64
渋谷向山（「景行陵」）古墳（大阪）……97
標津町歴史民俗資料館（北海道）……13
島原城跡（長崎）……175
島原城（長崎）……183
下鴨神社（京都）……120
斜里町立知床博物館（北海道）……26
囚人道路（北海道）……15
縮景園（広島）……159
須弥山石（奈良）……133
首里城跡（沖縄）……180
春帆楼（山口）……148・154
松陰幽囚旧宅（山口）……152
松下村塾（山口）……152
尚古集成館（鹿児島）……176・186
正倉院（奈良）……136
白河関跡（福島）……36
シルク博物館（神奈川）……61
城山（鹿児島）……177
神宮徴古館・農業館（三重）……113
信玄公宝物館（山梨）……90
信玄堤（山梨）……71

大湯環状列石（秋田）……30
岡崎城跡（愛知）……78
岡本遺跡（福岡）……166
岡山県立博物館（岡山）……150・161
岡山城（岡山）……150
沖縄県立博物館・美術館（沖縄）……180・186
沖縄県立平和祈念資料館（沖縄）……186
沖縄師範健児之塔（沖縄）……181
沖縄戦跡国定公園（沖縄）……181
奥会津の里（福島）……41
奥会津博物館（福島）……41・44
奥谷郷土館（長野）……91
桶狭間古戦場（愛知）……75
お札と切手の博物館（東京）……65
小樽運河（北海道）……22
小樽市総合博物館（北海道）……22・28
小樽市総合博物館・運河館（北海道）……22・26
小田原城（神奈川）……54
「帯広発祥の地」の碑（北海道）……23
帯広百年記念館（北海道）……23・26
オランダ坂（長崎）……175
オランダ商館跡（長崎）……173
園城寺（滋賀）……102

か

開拓記念碑（北海道）……21
海津城跡（長野）……73
懐徳館（高知）……155・164
偕楽園（常磐公園）（茨城）……52
加賀市歴史民俗資料館（石川）……89
香川県立埋蔵文化財センター（香川）……163
角田市郷土資料館（宮城）……31
角館町樺細工伝承館（秋田）……43
鹿児島市立美術館（鹿児島）……177・186
橿原考古学研究所附属博物館（奈良）98・139
橿原市千塚資料館（奈良）……139
春日大社（奈良）……136・139
春日山城跡（新潟）……71
加曽利貝塚（千葉）……46・64
神奈川運上所跡（神奈川）……61
神奈川県立歴史博物館（神奈川）……50・61・66
金沢城跡（石川）……86
金沢湯涌江戸村（石川）……87・89
金沢湯涌創作の森（石川）……87
鎌倉国宝館（神奈川）……49・66
鎌倉大仏（神奈川）……49
上石津ミサンザイ（「履中陵」）古墳（大阪）……98
上賀茂神社（京都）……119
亀ヶ岡遺跡（青森）……30
亀ヶ岡考古資料室（青森）……30
加茂遺跡（兵庫）……96
神魂神社（島根）……144
唐古・鍵遺跡（奈良）……98
唐津城天守閣（佐賀）……183
カリカリウス遺跡（北海道）……12
川中島合戦記念館（長野）……73
川中島古戦場（長野）……72
寛永寺（東京）……57
元興寺（奈良）……137
観自在王院跡（岩手）……35
神田明神（東京）……57
観音山古墳（群馬）……47
観瀾亭（宮城）……36

き

紀伊風土記の丘資料館（和歌山）……116
北上市立博物館（岩手）……42
北九州市立自然史・歴史博物館（福岡）……182
北野神社（京都）……124
北前船の里資料館（石川）……89
吉備考古館（岡山）……150
吉備路風土記の丘（岡山）……150・161
吉備津神社（岡山）……150
吉備津彦神社（岡山）……150
岐阜県博物館（岐阜）……92
岐阜城（岐阜）……76・92
旧英国領事館（山口）……154
旧金森洋物店（北海道）……18
旧札幌農学校演武場（北海道）……21
九州国立博物館（福岡）……182
九州歴史資料館（福岡）……170・182
旧滝沢本陣（福島）……41
旧遠山家住宅（岐阜）……84
旧函館区公会堂（北海道）……18
旧北海道庁舎（北海道）……21
旧マンロー邸（北海道）……14
旧ロシア領事館（北海道）……18
京都国立博物館（京都）……120・129
京都御所（京都）……118
京都市考古資料館（京都）……129
京都市歴史資料館（京都）……129
京都府立総合資料館（京都）……129
京都文化博物館（京都）……119・130
清洲城跡（愛知）……74
清水寺（京都）……120
清盛塚（兵庫）……111
居留地十五番館（兵庫）……112
切通し（神奈川）……48
義烈館（茨城）……62
金印発見の碑（福岡）……166
金閣寺（京都）……125
銀閣寺（京都）……125
銀座（東京）……58
金峯山寺（奈良）……99
欽明陵古墳（奈良）……132

く

草戸千軒町遺跡（広島）……151
櫛山古墳（奈良）……97
釧路市立博物館（北海道）……13・26
久能山東照宮（静岡）……83・93

さくいん

あ

相川郷土博物館（新潟）……88
会津武家屋敷（福島）……40・44
会津松平氏庭園（福島）……40
会津民俗館（福島）……41
アイヌ文化の森伝承のコタン（北海道）24・25
アイヌ民族博物館（北海道）……15
青葉城跡（宮城）……39
青森県立郷土館（青森）……30・42
赤間神宮（山口）……148・162
秋田県立博物館（秋田）……43
赤穂城跡（兵庫）……107
赤穂市立歴史博物館（兵庫）……107・115
朝倉氏遺跡資料館（福井）……77・90
旭川市博物館（北海道）……23・25
旭川兵村記念館（北海道）……25
飛鳥板蓋宮跡（奈良）……132
飛鳥資料館（奈良）……133・139
飛鳥寺跡（奈良）……132
熱田神宮（愛知）……74・94
安土城跡（滋賀）……104
安土城考古博物館（滋賀）……104・114
姉川古戦城（滋賀）……104
網走市立郷土博物館（北海道）……15・25
甘橿丘（奈良）……132
天草キリシタン館（熊本）……175・184
新居関所史料館（静岡）……93

い

飯塚市歴史資料館（福岡）……182
飯盛山（福島）……40
生野鉱物館（兵庫）……115
胆沢城跡（岩手）……33
石川県立歴史博物館（石川）……86・89
石川啄木記念館（岩手）……39
石舞台古墳（奈良）……132
異人館（鹿児島）……176
出雲国庁跡（島根）……144
出雲国分寺跡（島根）……144
出雲大社（島根）……145・160
伊勢神宮（三重）……110
磯庭園（鹿児島）……176
板垣退助誕生地（高知）……155
板付遺跡（福岡）……166
板付遺跡弥生館（福岡）……166
一乗谷朝倉館跡（福井）……77
一ノ谷（兵庫）……146
一夜城跡（神奈川）……54
厳島神社（広島）……147・161
一茶記念館（長野）……91
伊藤博文旧宅（山口）……152
井戸尻考古館（長野）……91
稲葉山城（岐阜）……76
伊能忠敬記念館（千葉）……64
茨城県立歴史館（茨城）……52・62
今宮神社（京都）……127
岩宿遺跡（群馬）……46
岩宿文化資料館（群馬）……46・63
岩手県立農業科学博物館（岩手）……42
岩手山古墳（福岡）……168
岩戸山歴史資料館（福岡）……168

う

上野城跡（三重）……108
魚津歴史民俗博物館（富山）……88
宇都宮辻子幕府跡（神奈川）……49
海の館・広尾町郷土文化保存伝習館（北海道）…25
浦幌町立博物館（北海道）……25
宇和島市立伊達博物館（愛媛）……163

え

永観堂（京都）……126
永平寺（福井）……77
回向院（東京）……58
江差町郷土資料館（北海道）……17・25
越前大野城・大野郷土歴史館（福井）……90
江戸城跡（東京）……56
江戸東京博物館（東京）……58・67
ＮＨＫ放送博物館（東京）……65
恵林寺（山梨）……71
円覚寺跡（沖縄）……180
円覚寺（神奈川）……50

お

近江神宮時計博物館（滋賀）……102・113
大石神社（兵庫）……107
大石良雄屋敷跡（兵庫）……107
大分県立歴史博物館（大分）……185
大分市歴史資料館（大分）……185
大内館跡（山口）……154
大浦天主堂（長崎）……174
大王の古墳群（大阪）……97
大隈記念館（佐賀）……183
大隈重信の旧宅（佐賀）……179
大阪歴史博物館（大阪）……105・114
大阪城（大阪）……105・114
大阪府立弥生文化博物館（大阪）……114
大津宮跡（滋賀）……102
大野城跡（福岡）……170
大山祇神社（愛媛）……149・163

●写真・資料協力者一覧

会津武家屋敷
青森県立郷土館
赤間神宮
秋田県立博物館
朝倉氏遺跡資料館
旭川兵村記念館
安土城考古博物館
網走市立郷土博物館
石川県立歴史博物館
出雲大社
厳島神社
茨城県立歴史館
岩宿博物館
魚津歴史民俗博物館
宇和島市立伊達博物館
江差町郷土資料館
江戸村
江戸東京博物館
近江神宮時計博物館
大山祇神社
沖縄県立博物館
小樽市教育委員会
小樽市総合博物館
小平町教育委員会
加曽利貝塚博物館
鹿角市役所
唐津城
北前船の里資料館
九州歴史資料館
京都国立博物館
京都文化博物館
釧路市立博物館
倉敷考古館
群馬県立歴史博物館
興福寺
神戸市立博物館
国立飛鳥資料館
国立歴史民俗博物館
安井金比羅宮
埼玉県立さきたま史跡の博物館
沢の鶴資料館
四国民家博物館
静岡市役所
標津町ポー川史跡自然公園
白河市役所
神宮徴古館・農業館
石炭の歴史村観光
銭屋五兵衛記念館
仙台市博物館
太地町立くじらの博物館
高松塚壁画館
種子島開発総合センター
千歳市教育委員会
茅野市尖石考古館
渚の駅たてやま
千葉県立房総のむら風土記の丘資料館
三菱東京UFJ銀行貨幣資料館
藤村記念館
東北歴史博物館
栃木県立博物館
鳥取県立博物館
鳥居龍蔵記念博物館
登呂博物館
長岡市役所
長崎原爆資料館
長崎市立歴史民俗資料館
長野市立博物館
南木曽町役場
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館
二風谷アイヌ文化博物館
日本民家集落博物館
箱根関所資料館
浜松市役所
原敬記念館
兵庫県立歴史博物館
広島県立歴史博物館
広島平和記念資料館
風俗博物館
福井市立郷土歴史博物館
福岡市博物館
(財)防府毛利報公会
北海道博物館
北海道開拓の村
北海道交通記念館
北方文化博物館
天草市立天草キリシタン館
松浦史料博物館
松前町教育委員会
松山市立子規記念博物館
三河武士のやかた家康館
島根県立八雲立つ風土記の丘
山形県立博物館
山梨県立考古博物館
うきは市教育委員会
横浜金沢観光協会
吉野ヶ里遺跡展示室
龍河洞保存会

児玉幸多
Kouta Kodama

歴史を漫画で説明しようというのはかなり冒険である。しかし、文字で読んでも、耳から聞いても、人それぞれに頭の中ではその光景を絵に描いているのである。それが子供たちの頭の中で全くの絵空事にならないように、今の歴史研究の段階では、このくらいのところまでは漫画にすることができるのではないかという試みがこの企画である。

それぞれの専門研究家の指導によって一巻ごとの構成を決め、作図や文章表現も考慮しているので、誤った知識を得る恐れはないと思う。そして、多分、大人が読んでも、あるいは見ても、十分に楽しみながら日本歴史の学習ができるのではないかとも考えている。遺跡の発掘、奈良の大仏の鋳造、天守閣の構築、それらの一つ一つにも、専門家の新しい研究成果が判りやすく盛りこまれているからである。楽しみながら正確な知識が得られることを願う次第である。

小学館 eBooks
少年少女　日本の歴史　別巻２　史跡・資料館事典

2016 年 3 月 4 日　電子書籍版発行
監　修　児玉幸多
まんが　あおむら純
発行人　柏原順太
発行所　株式会社　小学館
〒101-8001
東京都千代田区一ツ橋 2-3-1
s-ebook@shogakukan.co.jp

底　本　2016 年 2 月 24 日　増版第 22 刷発行

©SHOGAKUKAN 2016 ISBN4-09-298123-2

※ご注意
本作品の全部または一部を無断で複製、転載、改竄、公衆送信すること、および
有償無償にかかわらず、本データを第三者に譲渡することを禁じます。
個人利用の目的以外での複製など違法行為、もしくは第三者への譲渡をしますと
著作権法、その他関連法によって処罰されます。